

令和6年度

ジェネリック医薬品に関する  
アンケート調査結果

# 目次

はじめに	2
県民アンケート結果	3
病院アンケート結果	34
診療所アンケート結果	66
歯科診療所アンケート結果	97
薬局アンケート結果	126
二次医療圏比較	156
アンケート結果まとめ	164

## はじめに

日本の医療保険制度は、昭和36年に「国民皆保険」を達成して以来、一定の自己負担で必要な医療サービスが受けられる体制を整備することにより、世界最長の平均寿命や高い保険医療水準を達成しました。しかし、半世紀が経過し、国民の社会生活や医療を取り巻く環境は大きく変化し、医療技術の進歩とともに急速な少子高齢化は、医療費を年々増加させ、団塊の世代が75歳以上となる2025年には約60兆円とも予測されています。現役世代の急減という新たな局面に、国民皆保険を堅持しつつ、必要な医療を確保するための課題の抽出と解決のための総合的な改革を推進する必要があります。その1つとして、効率化を図ることができる部分の整理や課題抽出等が極めて重要となります。

このような中、国は、患者負担の軽減や医療保険財政の改善の観点から後発医薬品（ジェネリック医薬品）の使用促進の取り組みを進めており、平成19年からは「後発医薬品の安全使用促進アクションプログラム」による取り組みを進め、現在は令和6年3月の社会保障審議会において新目標である「後発医薬品の数量シェアを2029年度末までに全ての都道府県で80%以上を継続、副次的目標として2029年度末までにバイオシミラーが80%以上を占める成分数が全体の成分数の60%以上、後発医薬品の金額シェアを2029年度末までに65%以上」との基本的考え方が示されており、令和6年9月30日にはこれまでの国のロードマップを改訂し、「安定供給の確保を基本として、後発医薬品を適切に使用していくためのロードマップ」が策定され、安定供給、品質に対する信頼性の確保、情報提供の方策等の使用促進に係る取り組みについて、国、都道府県、メーカーが一体となって、さらに取り組みを進めていく必要があります。

本県においても、平成20年度から「長崎県ジェネリック医薬品使用促進協議会」を設置し、本協議会を中心にジェネリック医薬品の使用促進に係る方策を検討するとともに、各種イベントを活用した普及啓発活動、県民・医療従事者を対象とした研修会等を開催しております。また、平成20年度から2年毎に県民や医療機関等を対象としたアンケート調査を実施しており、県民の後発医薬品に関する認知度や使用実態及び医療機関等における後発医薬品の取扱い状況等を把握しています。この度、令和6年度の調査結果を取りまとめましたので、ここに報告します。

県民

# ジェネリック医薬品に関する県民アンケート調査結果

## 調査方法

- ・「ながさきWEB県政アンケート」による調査

## 調査時期

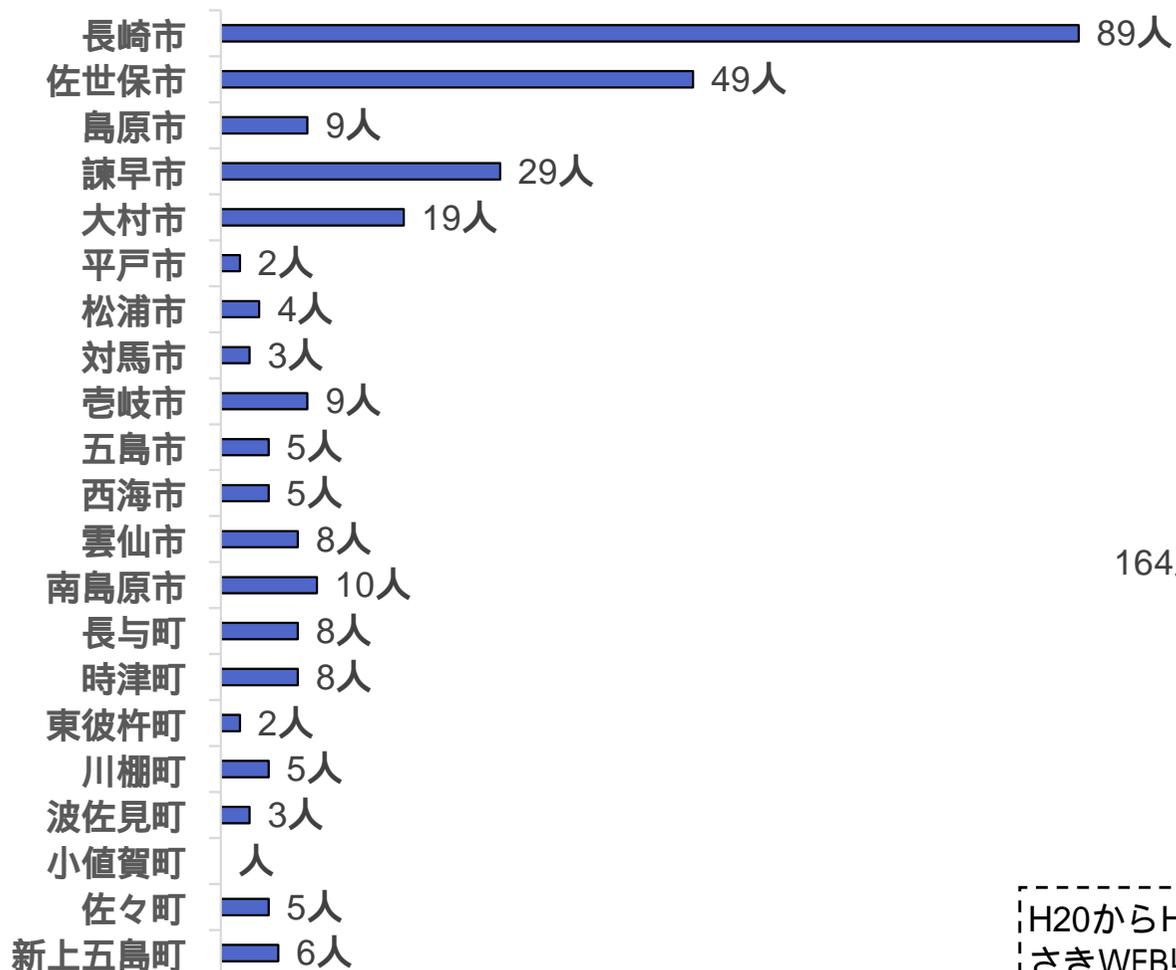
- ・令和6年9月2日から令和6年9月20日まで

## 調査対象

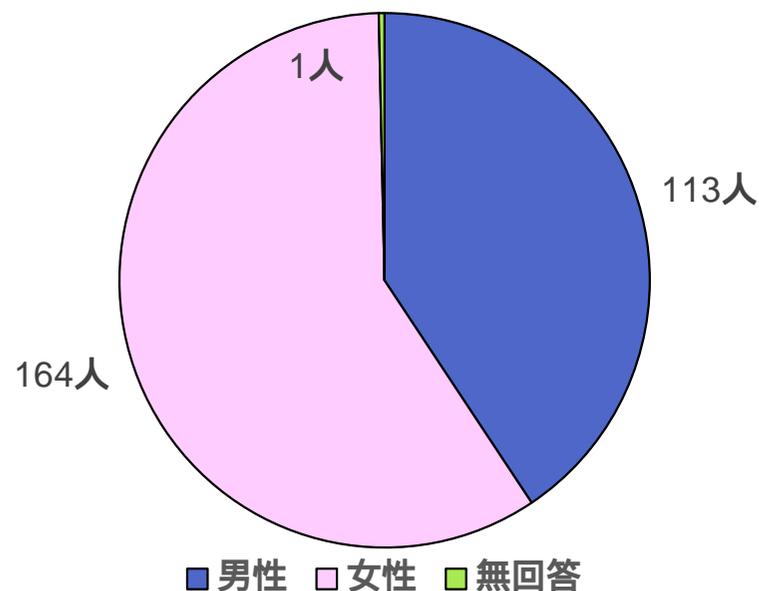
- ・「ながさきWEB県政アンケート」全モニター

## 対象者数、回答者数及び回収率

- ・対象者数：349人、回答者数：278人、回答率：79.7%



回答者の性別

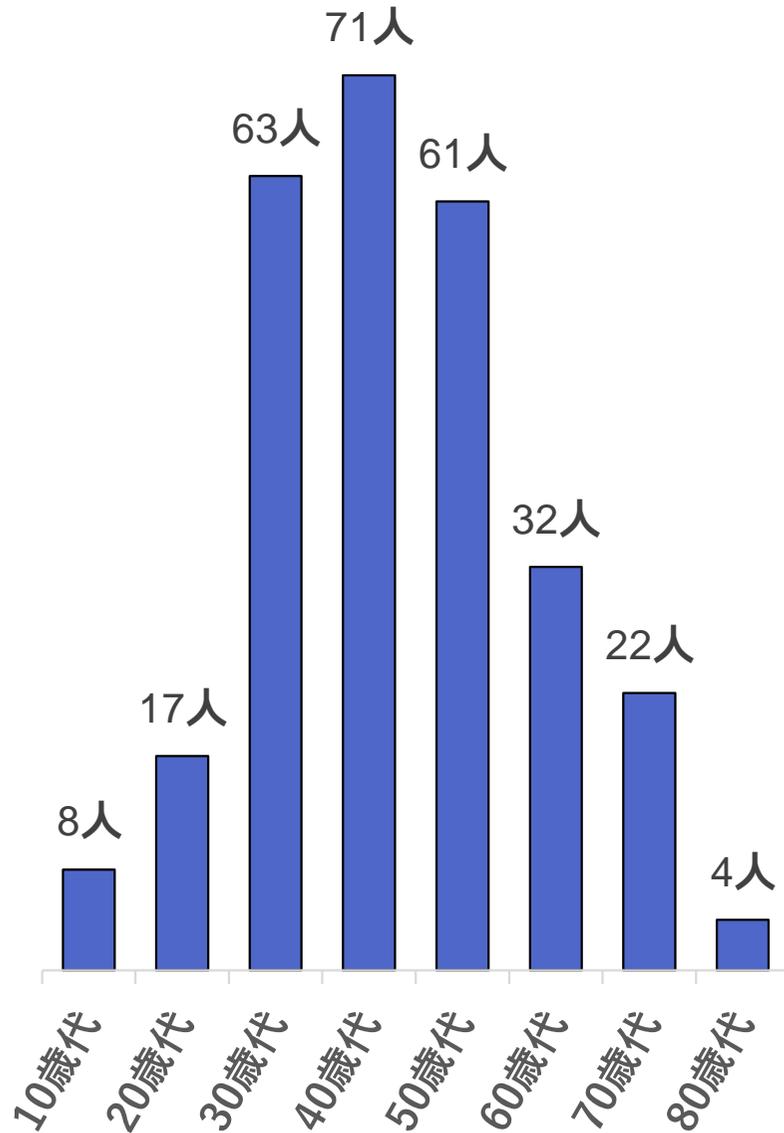


H20からH24までは、郵送による調査。H26からは「ながさきWEB県政アンケート」によるウェブ調査を実施。

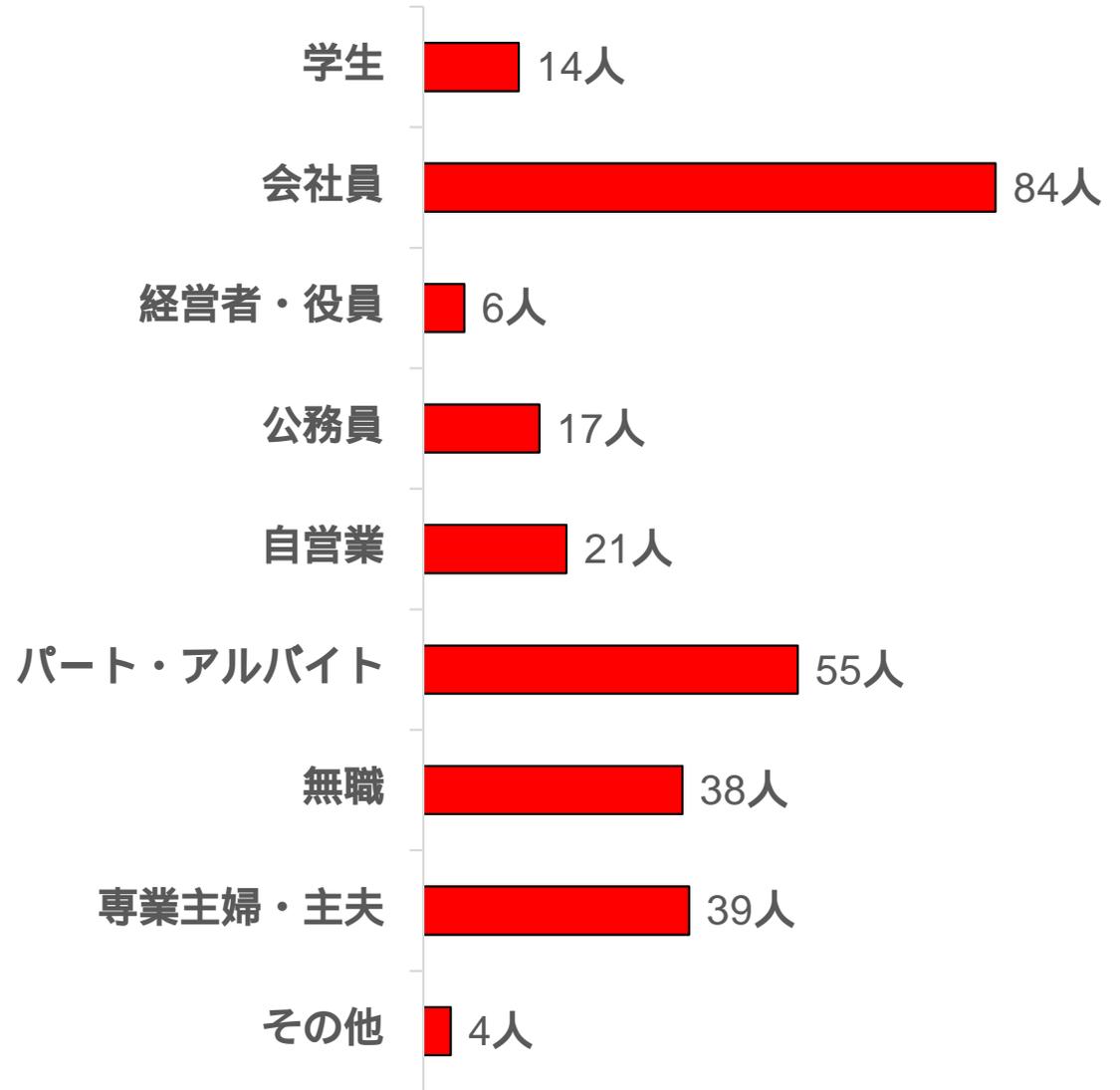
# ジェネリック医薬品に関する県民アンケート調査結果

県民

回答者の年齢層



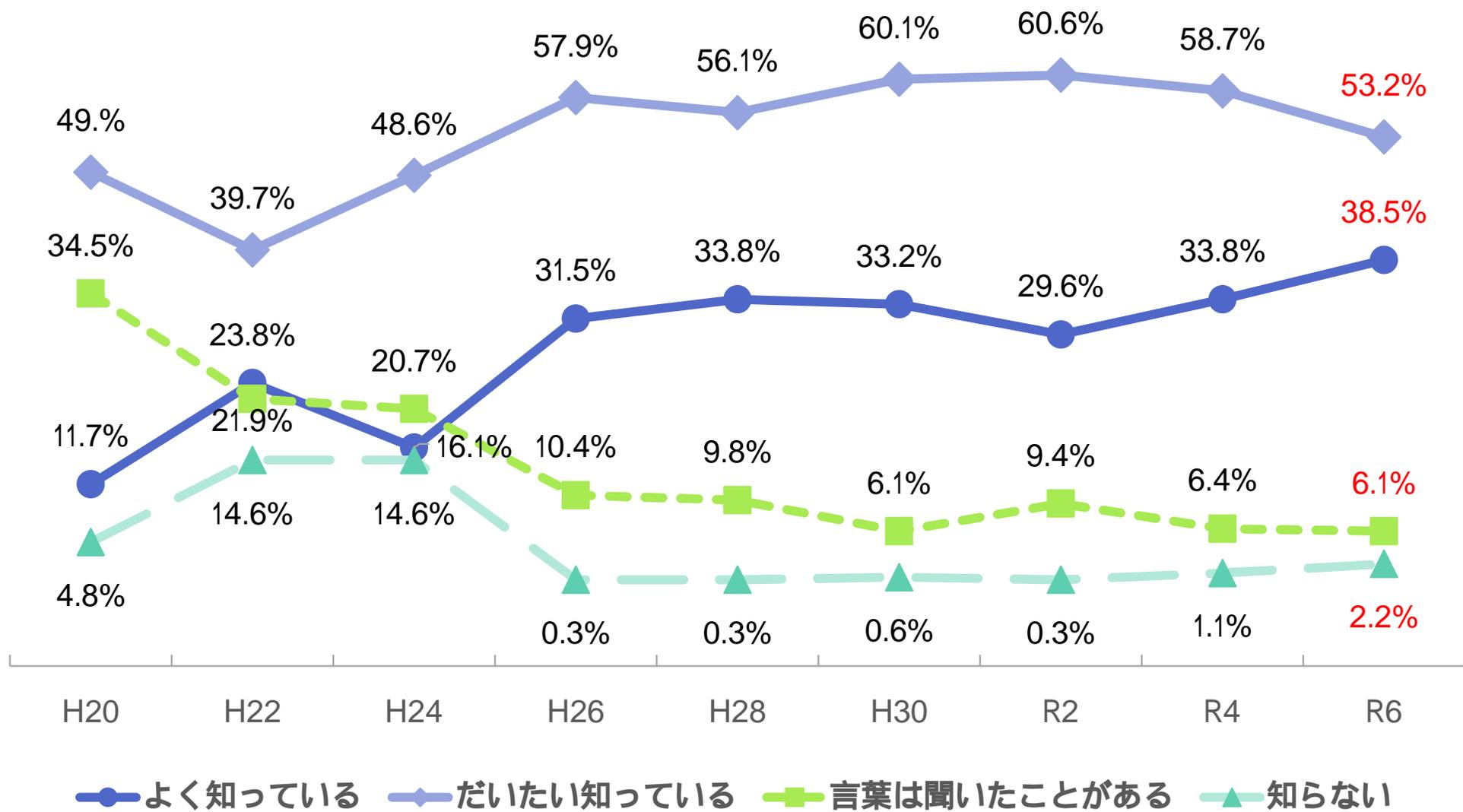
回答者の職業



問1.「ジェネリック医薬品」（後発医薬品）のことについてご存知ですか。（単一選択式）

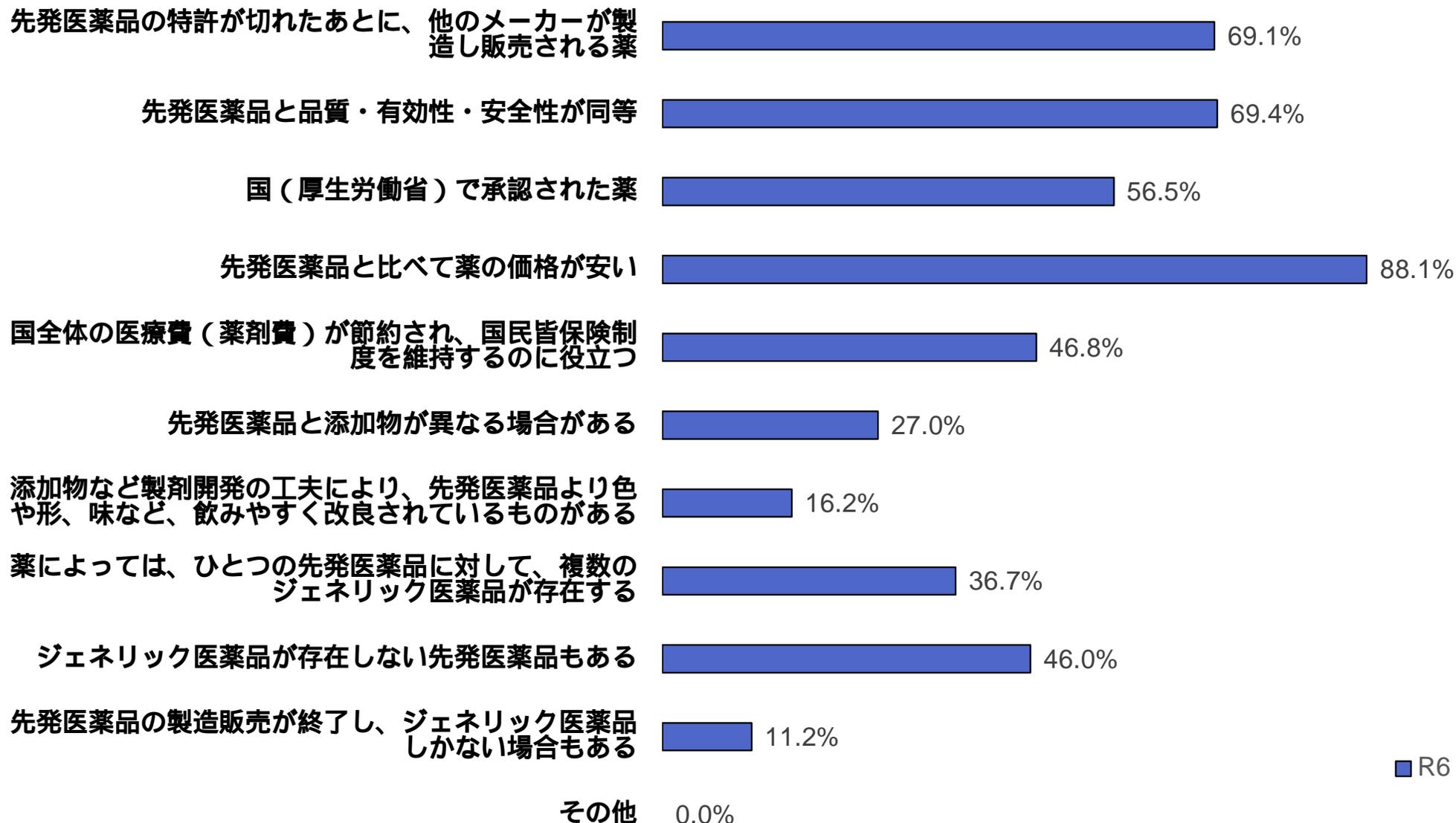
県民

- R6年度は「よく知っている」が38.5%でR4年度の33.8%より増加した。「だいたい知っている」と合わせると、今回の調査でも90%を超えている。
- H20年度と比較すると、「よく知っている」と「だいたい知っている」の合計が31.0ポイント増加した。



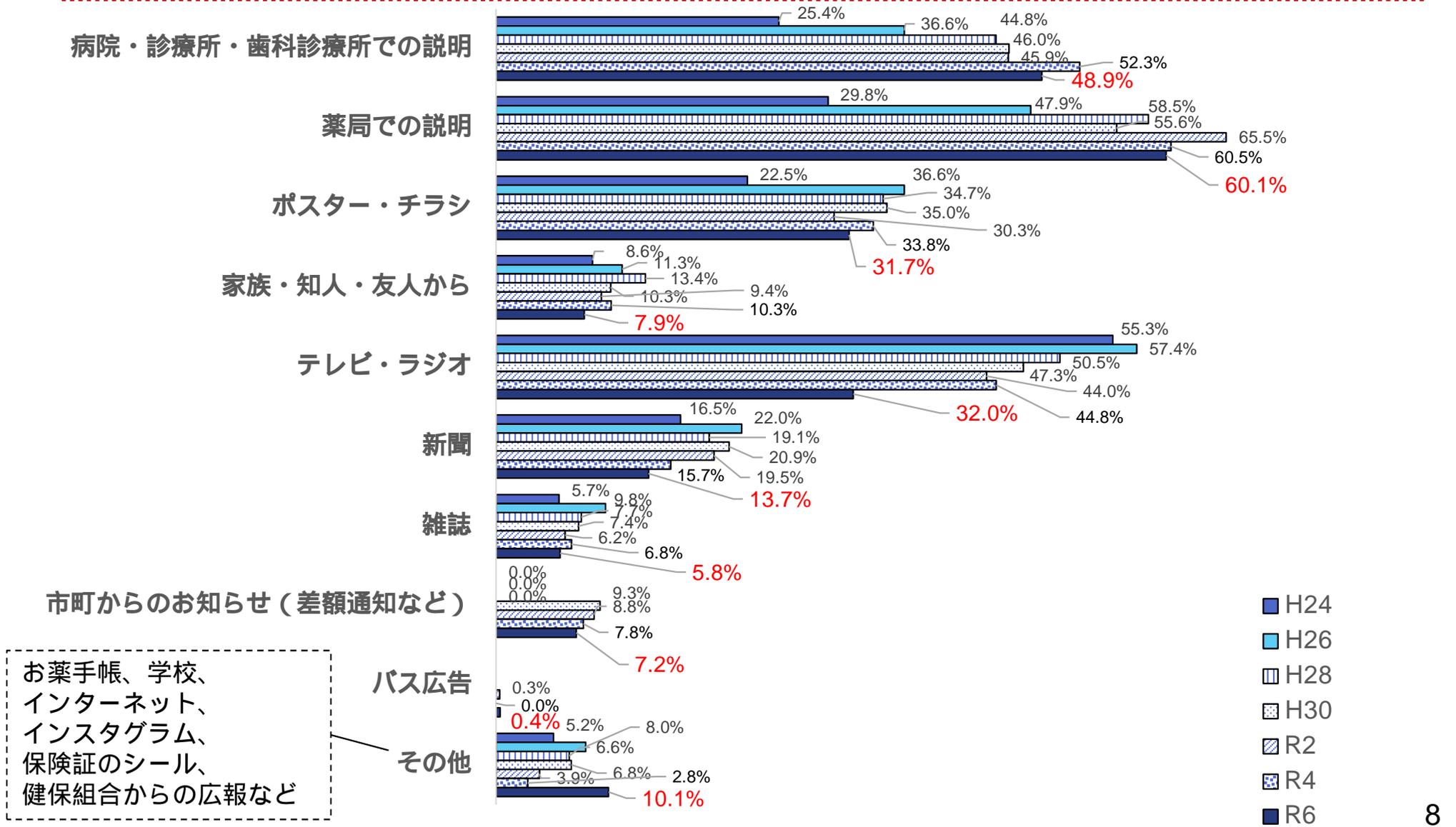
問2.「ジェネリック医薬品」について知っている内容は何ですか。（複数選択式）

- 「先発医薬品と比べて薬の価格が安い」が88.1%と最も高かった。一方、「先発医薬品の製造販売が終了し、ジェネリック医薬品しかない場合もある」が11.2%と最も低かった。



問3.「ジェネリック医薬品」のことについて、どのようにしてお知りになりましたか。（複数選択式）

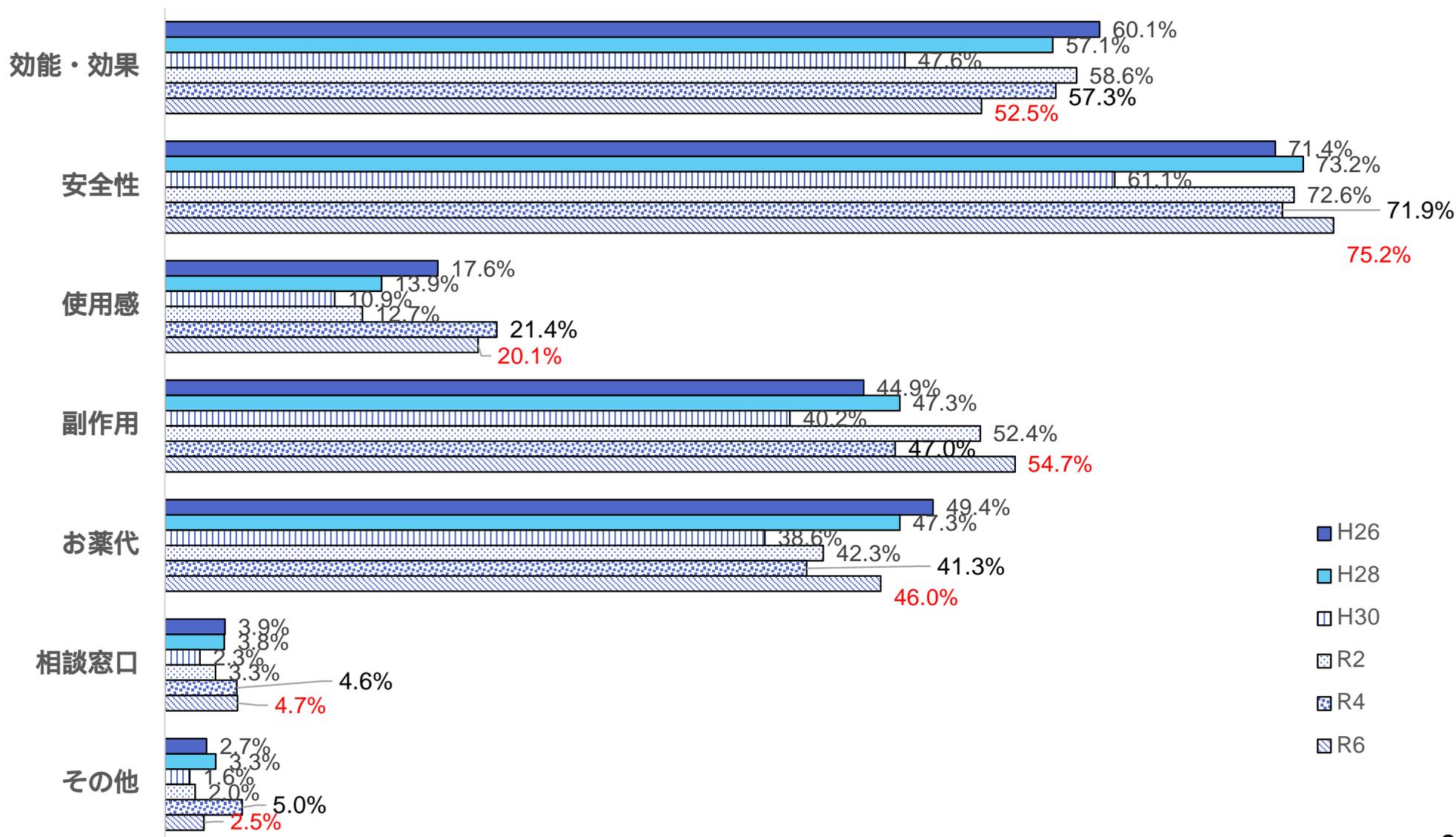
- R6年度は「薬局での説明」が60.1%と最も高く、続いて「病院・診療所・歯科診療所での説明」が48.9%、「テレビ・ラジオ」が32.0%であった。
- H24年度から「薬局での説明」が30.3ポイント、「病院・診療所・歯科診療所での説明」が23.5ポイント増加した。



お薬手帳、学校、インターネット、Instagram、保険証のシール、健保組合からの広報など

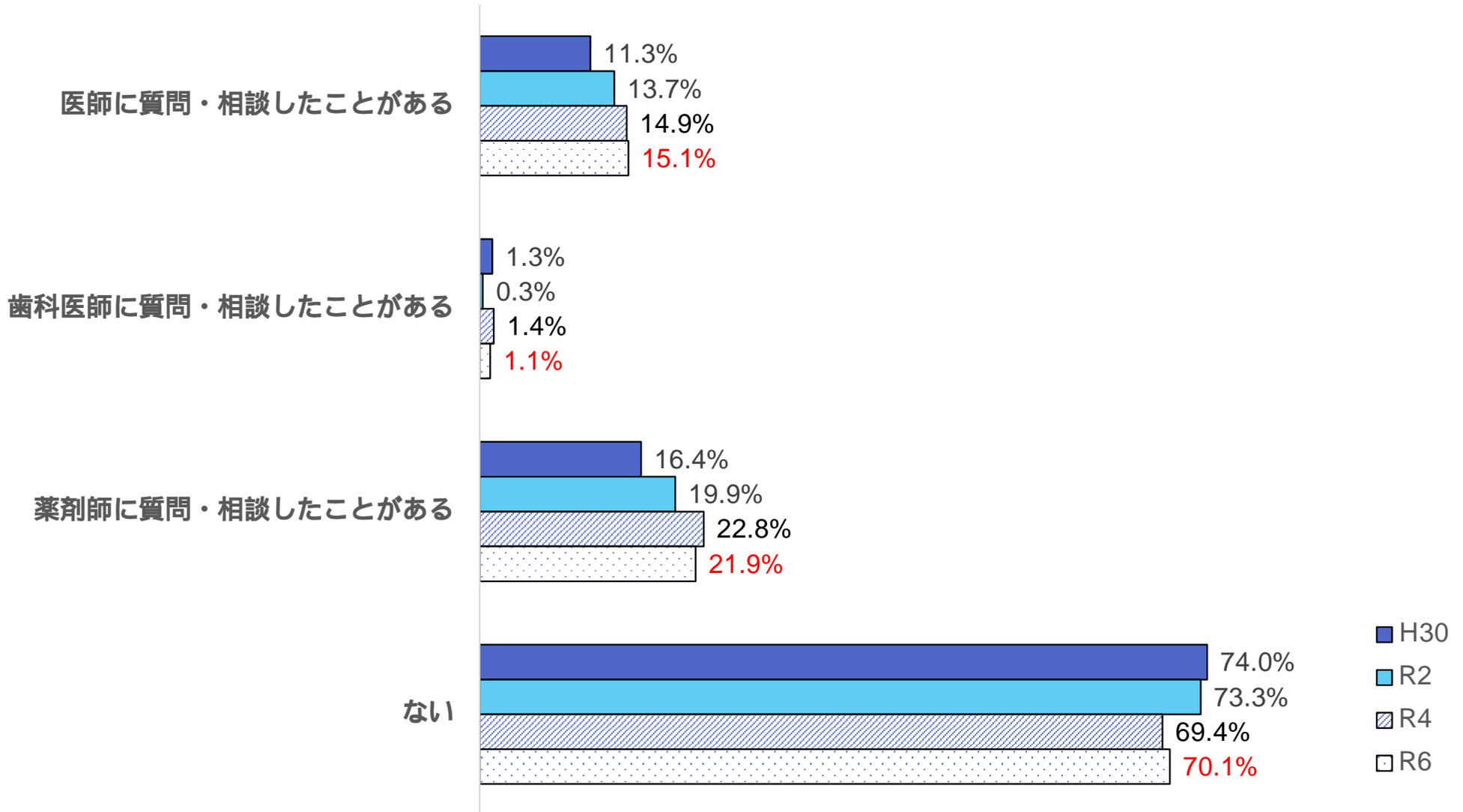
問4.「ジェネリック医薬品」について、知りたいことは何ですか？（複数選択式）

- R6年度は「安全性」が75.2%と最も高く、続いて「副作用」が54.7%、「効能・効果」が52.5%であった。
- H26年度から大きな変化はなかった。



問5.「ジェネリック医薬品」について、医療機関（病院・診療所・歯科診療所）や薬局で質問や相談をした経験はありますか。（複数選択・入力式）

- R6年度は約70%の方が医療機関や薬局で質問や相談をした経験がないと回答した。
- H30年度から医療機関や薬局で質問・相談した方が増加傾向にある。



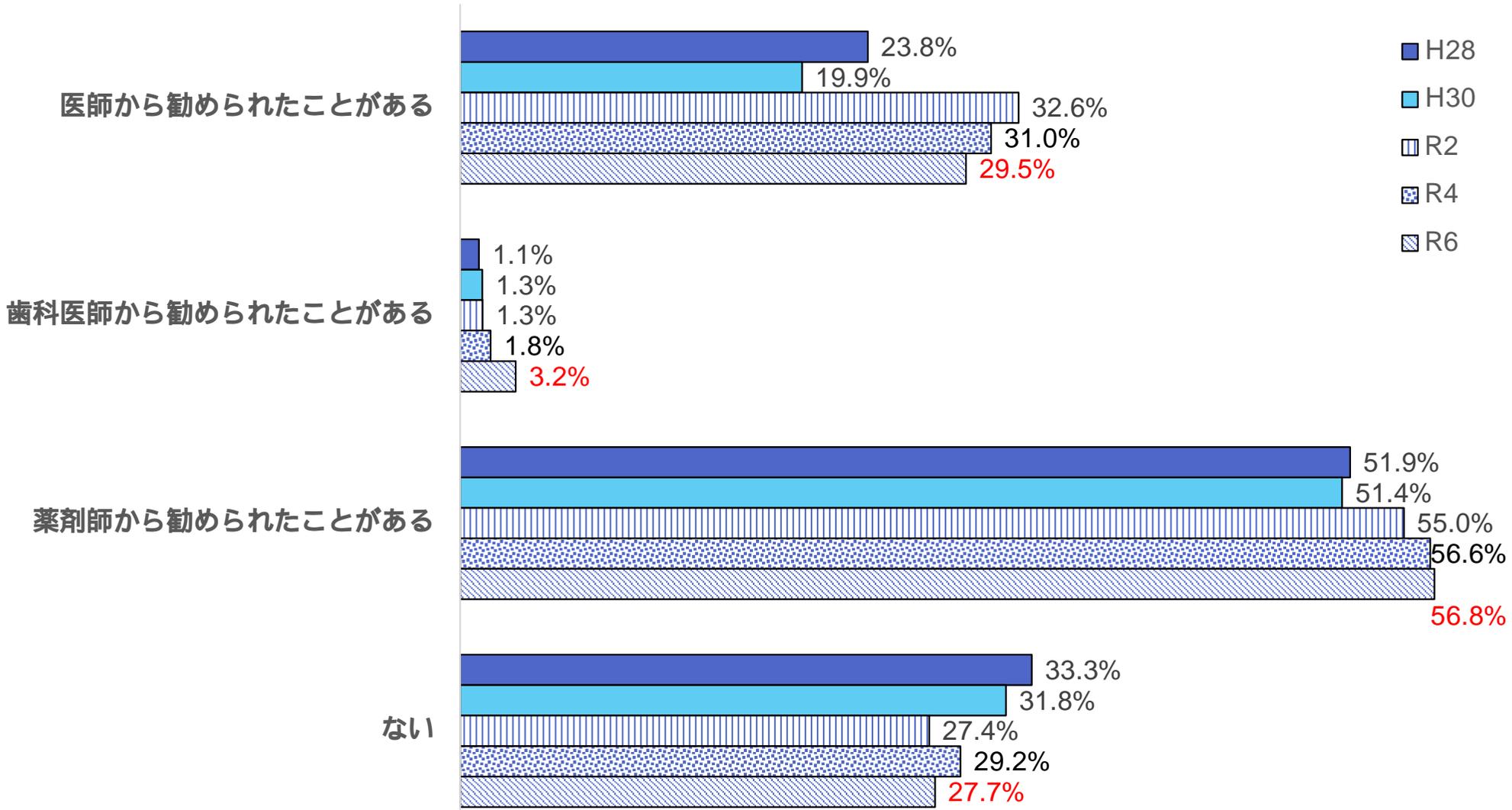
問6.《問5で「質問・相談したことがある」と回答した方》その質問・相談内容について、簡単にご記入ください。（記入式）

県民

- 質問・相談内容として、「効能・効果に関する質問・相談をした」が31件で最も多く、続いて「安全性に関する質問・相談をした」が11件、「ジェネリック医薬品を希望した」が10件となった。
- 効能・効果に関する質問・相談をした 31件  
（先発医薬品と効能・効果の差はないか、劣っていないか 等）
- 支払額に関する質問・相談をした 9件  
（お薬代の差額はどのくらいか、安くなるか 等）
- 安全性に関する質問・相談をした 11件  
（安全性に問題がないか 等）
- 副作用に関する質問・相談をした 7件  
（副作用のリスクは高くないか 等）
- ジェネリック医薬品を希望した 10件  
（医師・薬剤師にジェネリック医薬品を希望した 当）
- 添加物に関する質問・相談をした 3件  
（取りたくない添加物が入っている 等）
- その他 18件  
（先発医薬品を希望した、品質は問題ないか 等）

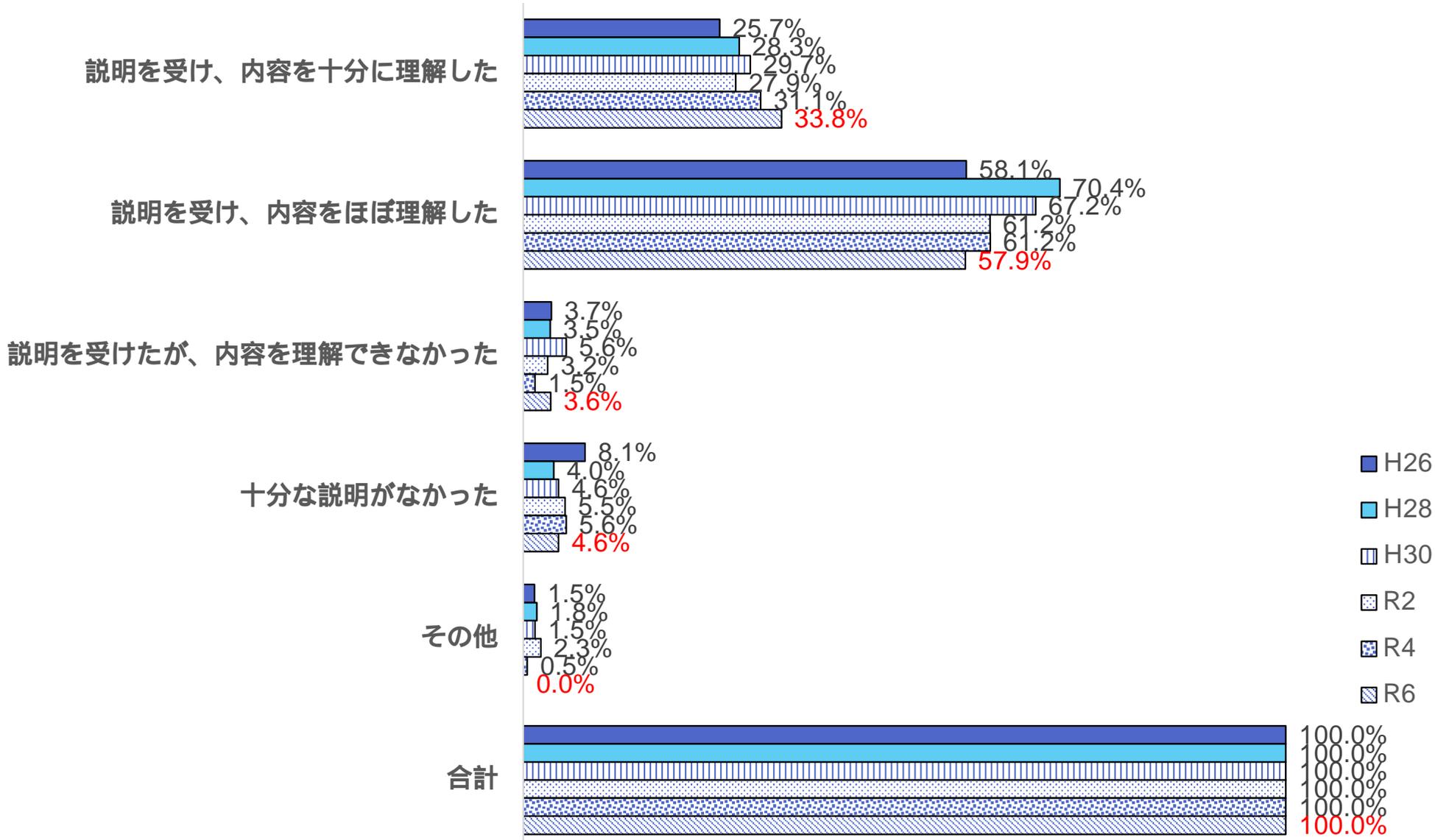
問7.「ジェネリック医薬品」について、医療機関（病院・診療所・歯科診療所）や薬局で勧められた経験はありますか。（複数選択式）

- R6年度は「薬剤師から勧められたことがある」が56.8%と最も高かった。
- 「ない」が依然として27.7%ある。
- 「医師から勧められたことがある」がR2年度から減少したが、H28年度からは5.7ポイント増加した。



問8. 《問7で「勧められた経験がある」と回答した方》医療機関や薬局で勧められた際、「ジェネリック医薬品」についての十分理解できましたか。（単一選択式）

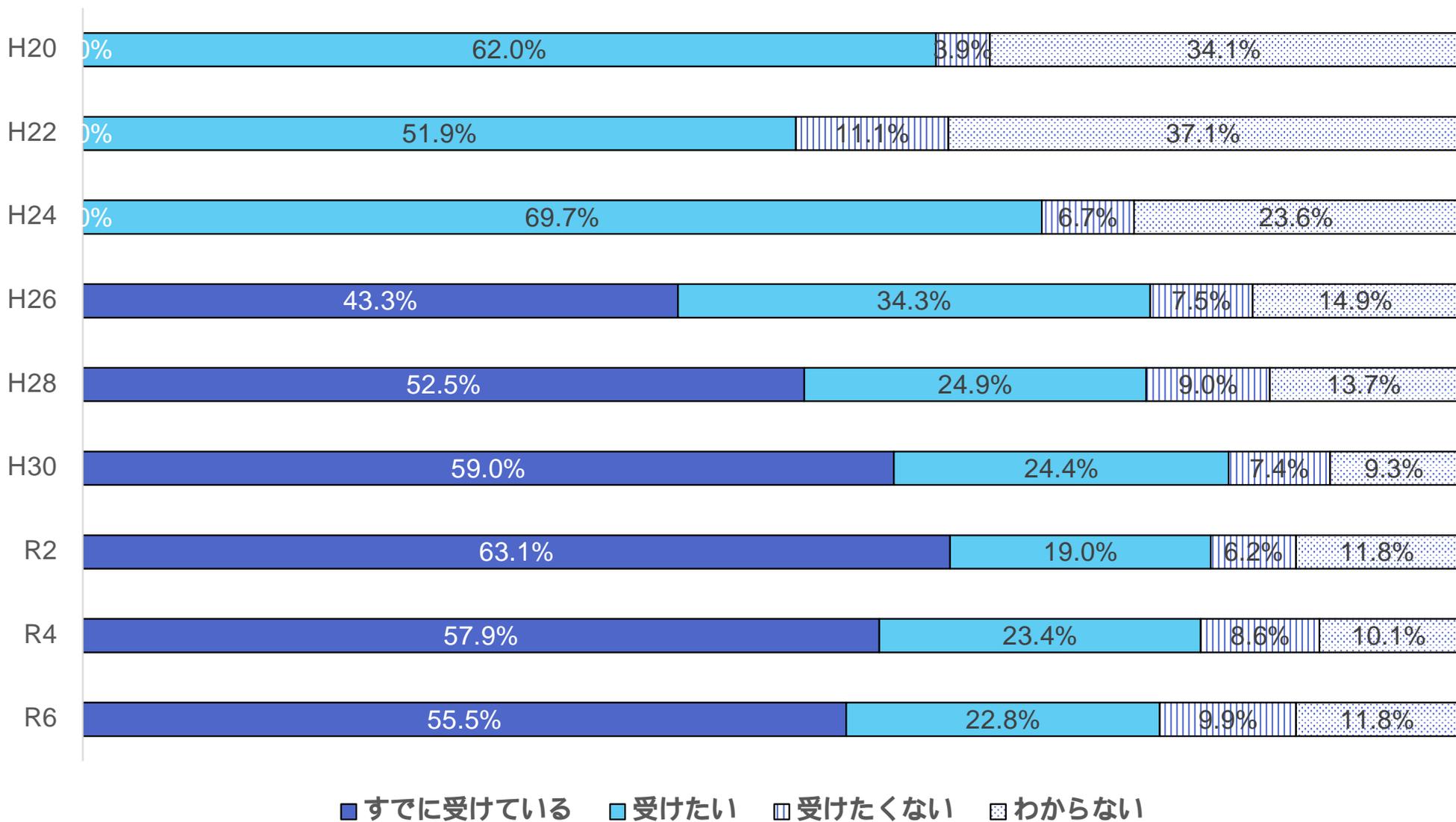
- R6年度は「説明を受け、内容を十分に理解した」と「説明を受け、内容をほぼ理解した」の合計91.7%であった。
- H26年度から大きな変化は見られなかった。



問9.医療機関や薬局で、「ジェネリック医薬品」の交付を受けたいと思われませんか。（単一選択式）

県民

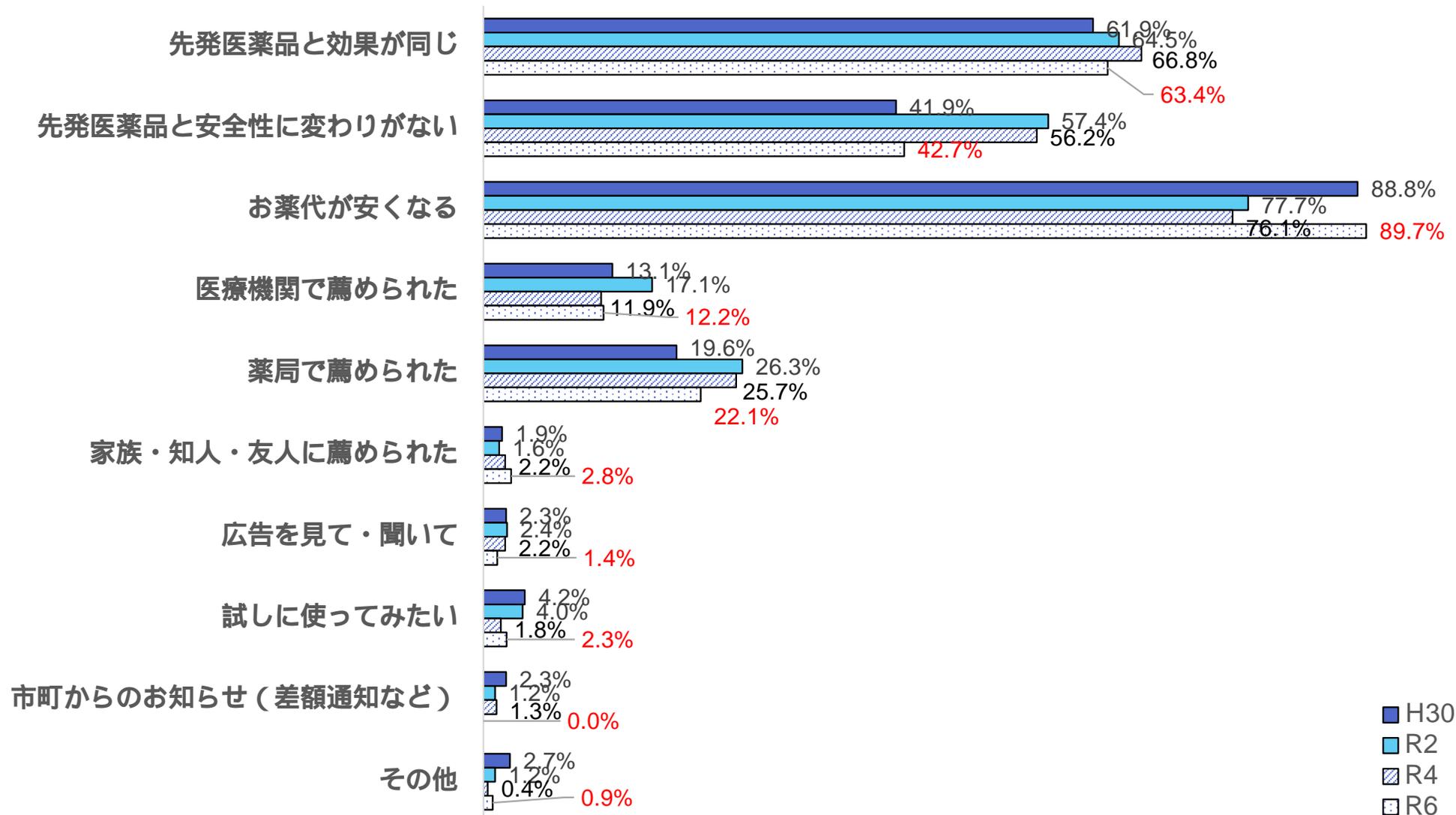
- R6年度は「すでに受けている」が55.5%であり、R2年度からはやや減少している。
- 「すでに受けている」と「受けたい」の合計及び「受けたくない」は大きな変化はなかった。



問10.《問9で「1.すでに受けている」「2.受けたい」と回答した方》「ジェネリック医薬品」の交付を受けた又は受けたい理由は何ですか。（複数選択式）

県民

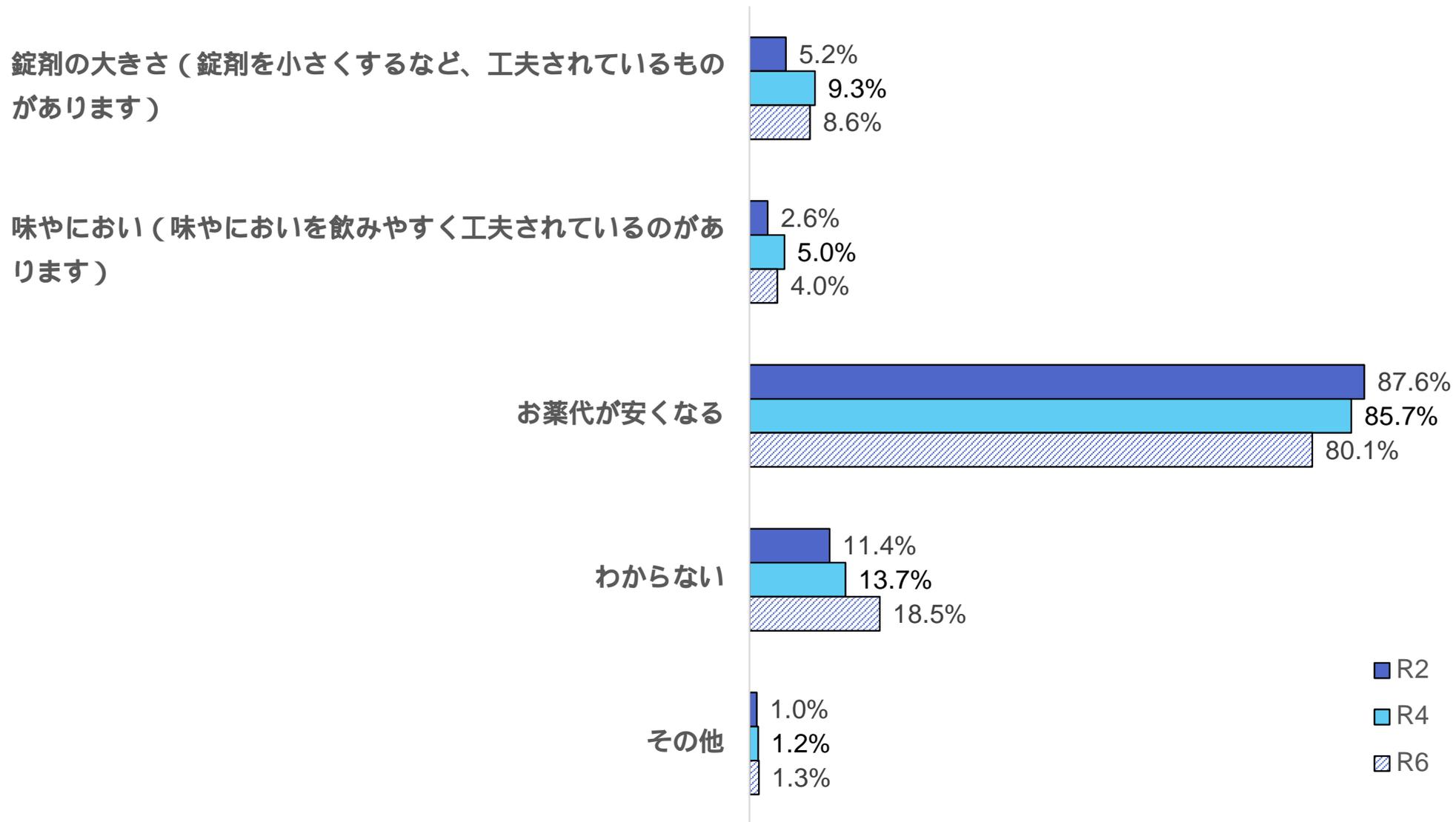
- R6年度は「お薬代が安くなる」が89.7%と最も高く、続いて「先発医薬品と効果が同じ」が63.4%、「先発医薬品と安全性に変わりがない」が42.7%であった。
- R6年度の「先発医薬品と安全性に変わりがない」はR2年度から14.7ポイント減少。



問11. 《問9で「1.すでに受けている」と回答した方》「ジェネリック医薬品」を使って  
みて良いと感じたことはありますか。（複数選択式）

県民

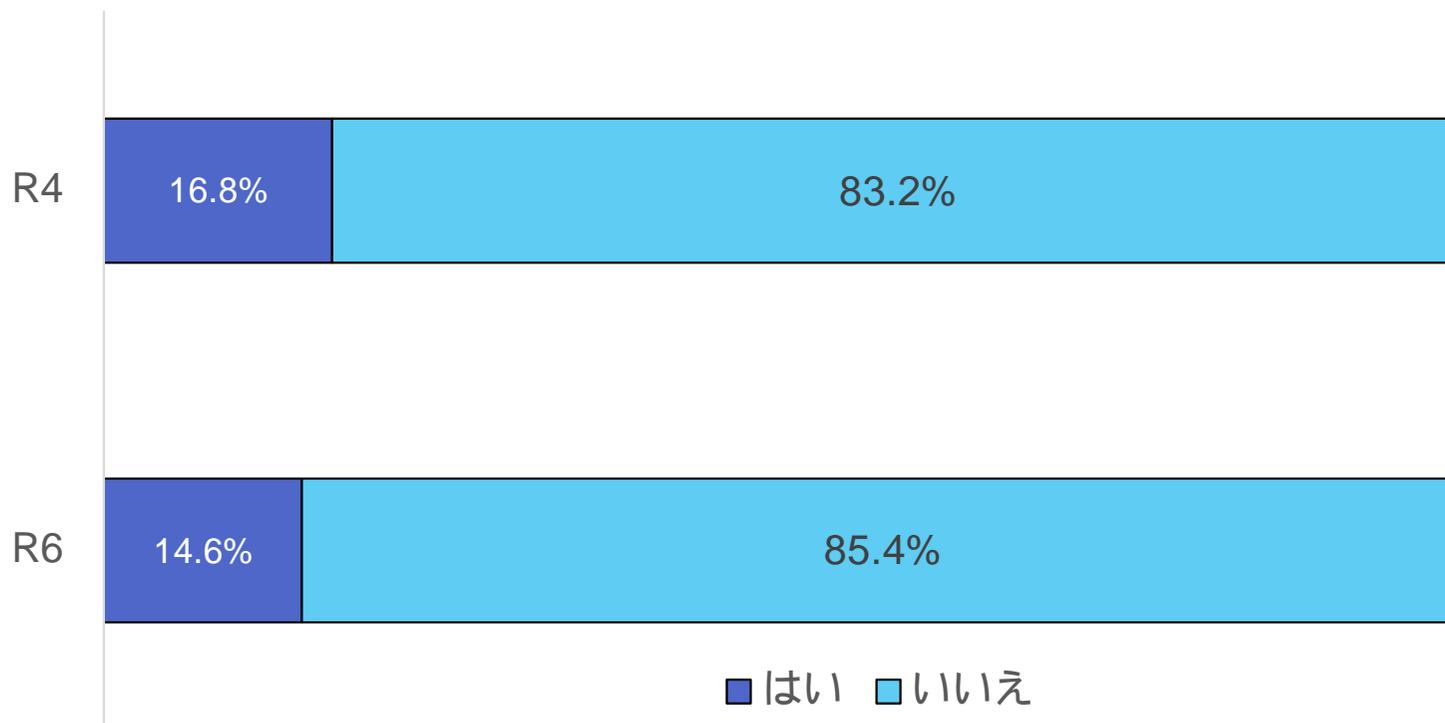
- 「お薬代が安くなる」が80.1%と最も高かった。
- R2年度と比較して「わからない」が増えている。



問12.《問9で「1.すでに受けている」と回答した方》— 昨年の複数の医薬品製造メーカーが起こした不祥事案に端を発し、後発医薬品における製品供給体制が不安定になりました。あなたが交付を受けている「ジェネリック医薬品」で医薬品が変更されるなどの影響がありましたか。

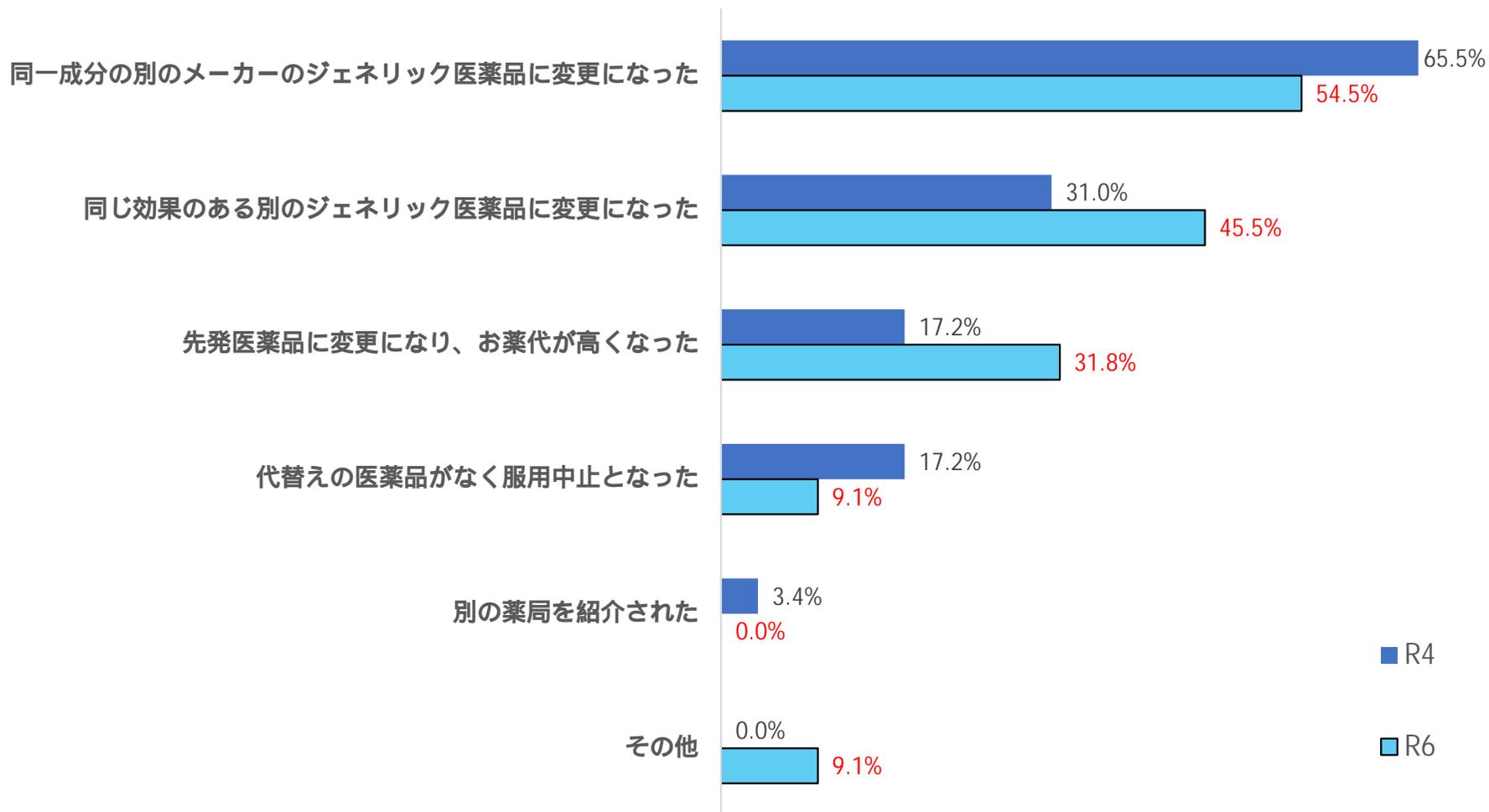
県民

● R6年度は「はい」と回答した方（影響があった方）が14.6%であり、前回と横ばい傾向であった。



問13. 《問12で「1. はい」と回答した方》どのような影響がありましたか。(複数選択式)

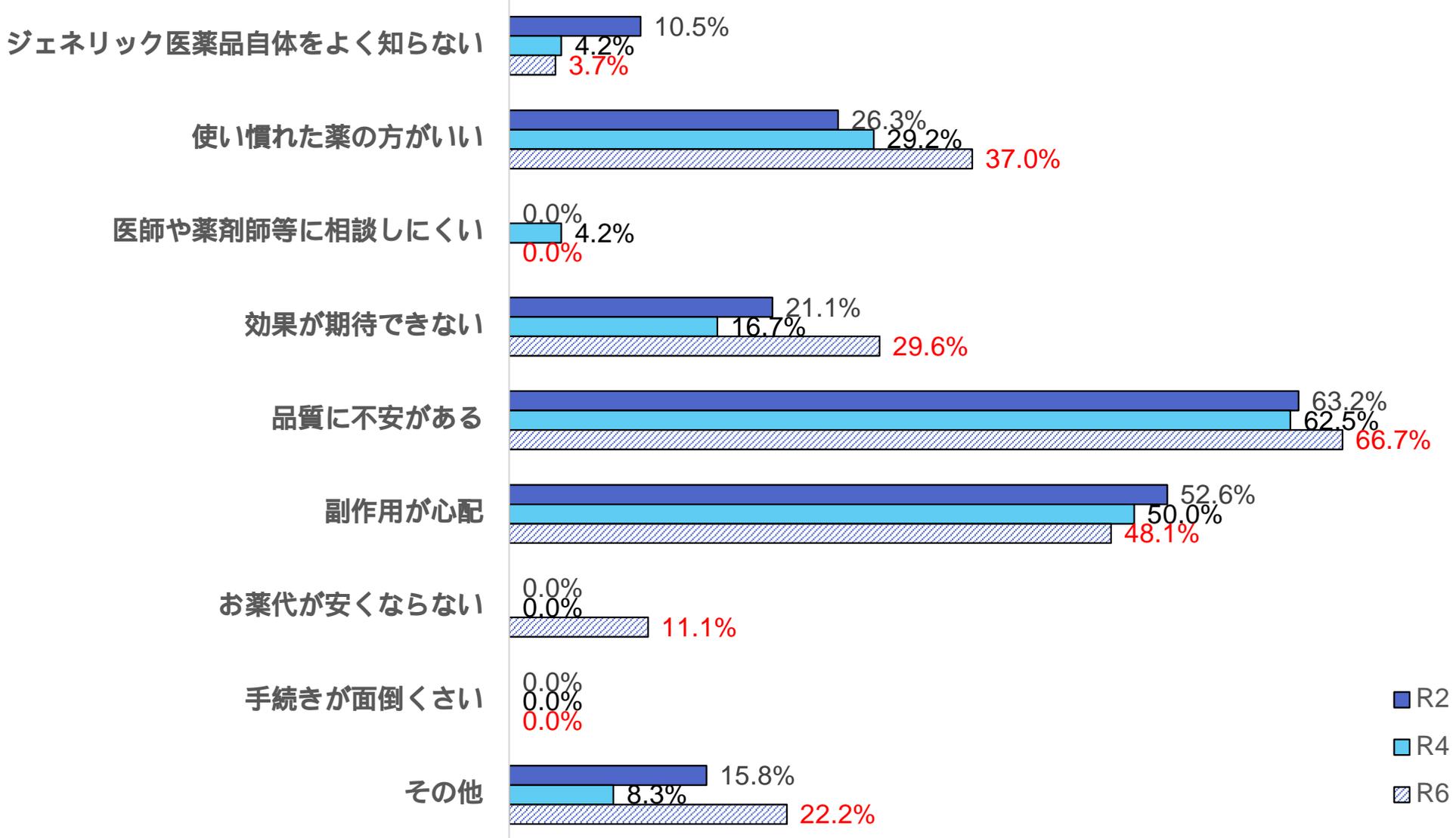
- R6年度は「同一成分の別のメーカーのジェネリック医薬品に変更になった」が54.5%と最も高かった。
- R6年度の「同じ効果のある別のジェネリック医薬品に変更になった」はR4年度から14.5ポイント増加した。
- R6年度の「先発医薬品に変更になり、お薬代が高くなった」はR4年度から14.6ポイント増加した。



問14. 《問9で「3. 受けたくない」と回答した方》「ジェネリック医薬品」の交付を受けたくない理由は何ですか。（複数選択式）

県民

- 「品質に不安がある」が66.7%と最も高く、続いて「副作用が心配」が48.1%であった。
- R2と比較して「使い慣れた薬の方がいい」、「効果が期待できない」、「お薬代が安くない」が増加した。



問15. 《問9で「2. 使い慣れた薬の方がいい」と回答した方》その具体的な理由を教えてください。（記入式）

---

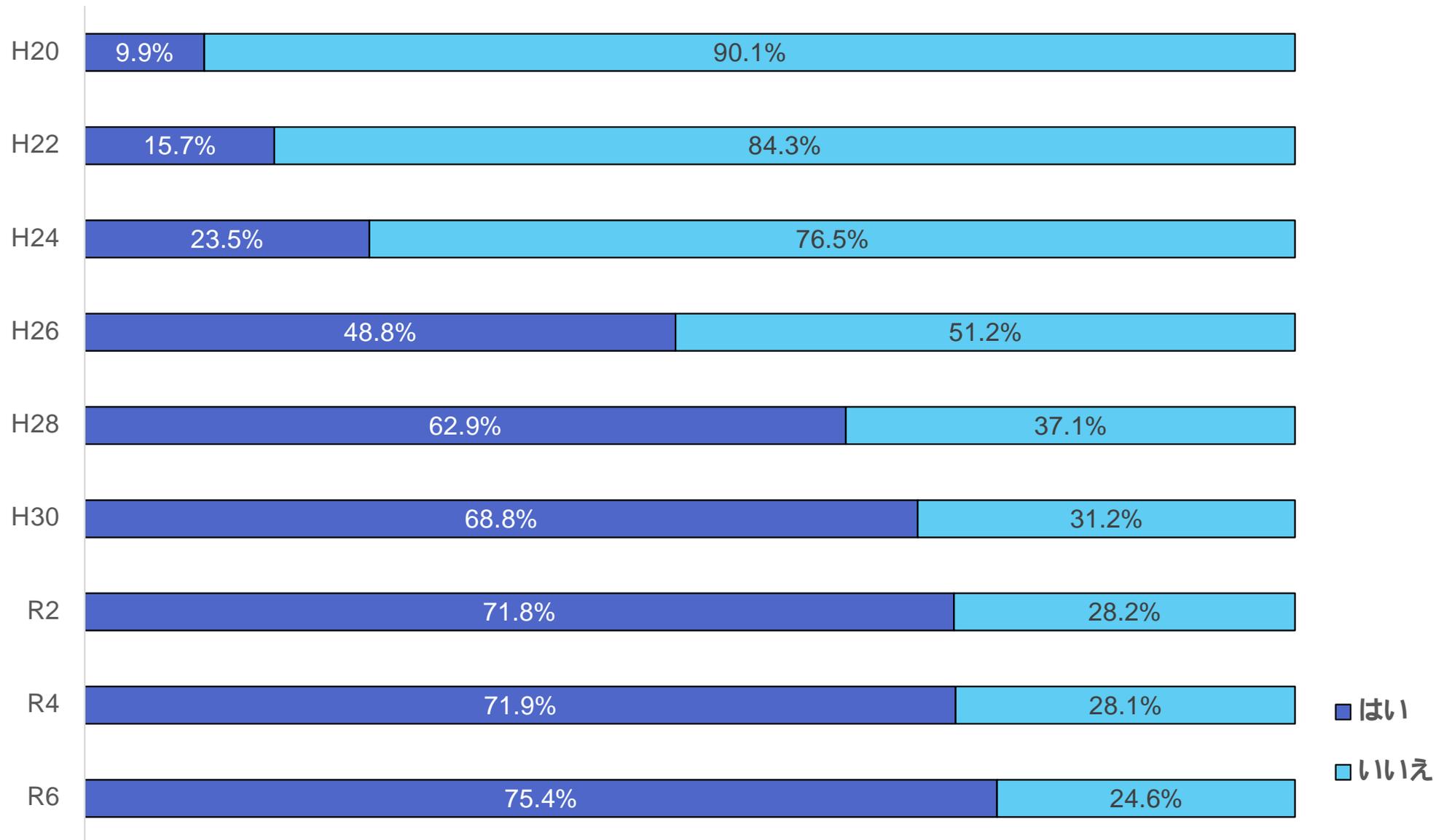
県民

- 価格より、品質。
- 家で分けるのですが、ジェネリックになるとどの薬かわからなくなったり間違えて誤飲する可能性があるため。

問16.医療機関や薬局で、実際に「ジェネリック医薬品」へ変更したことはありますか。（単一選択式）

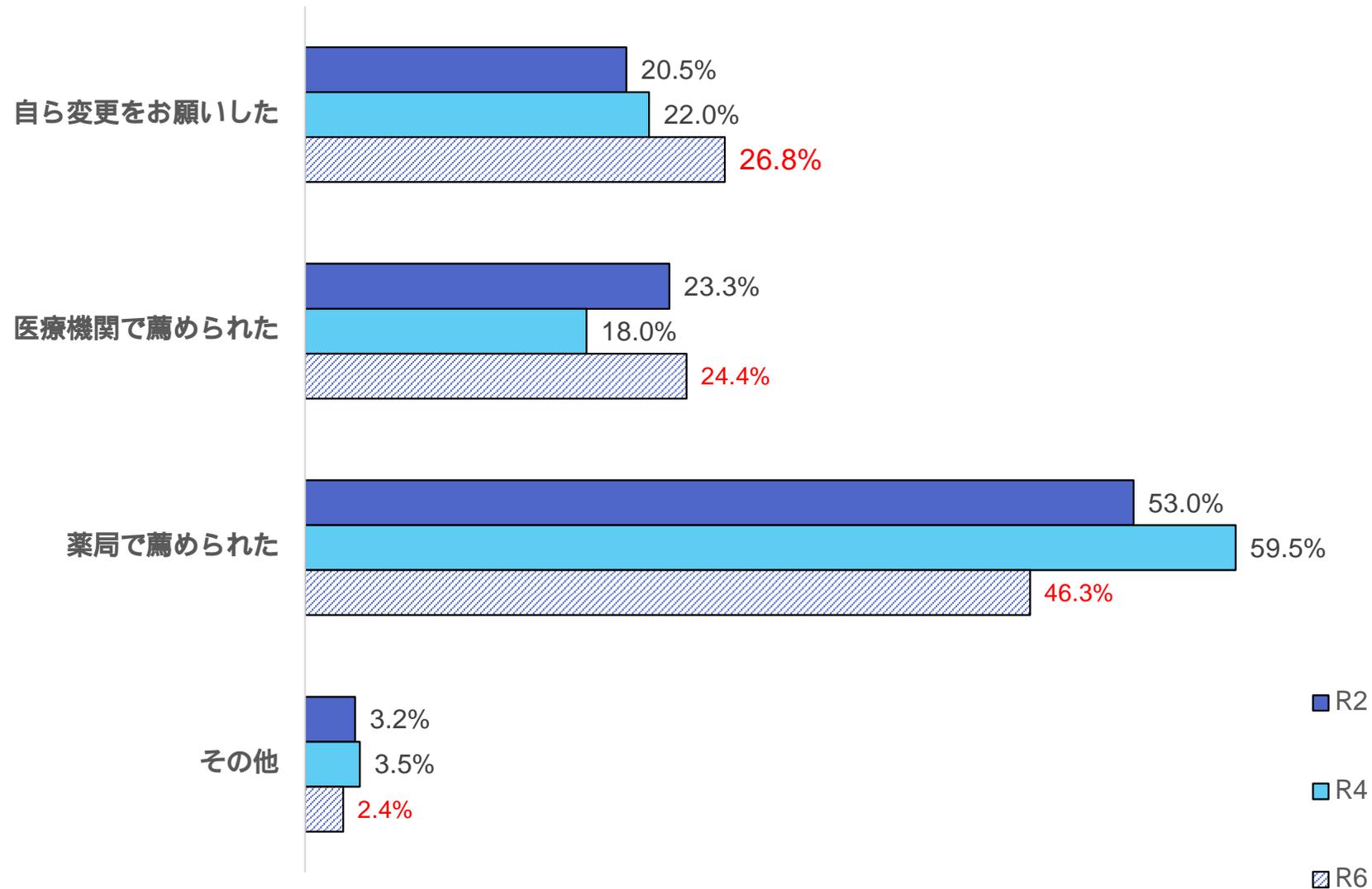
県民

● R6年度は「はい」が75.4%であり、H20年度から「はい」が65.5ポイント増加した。



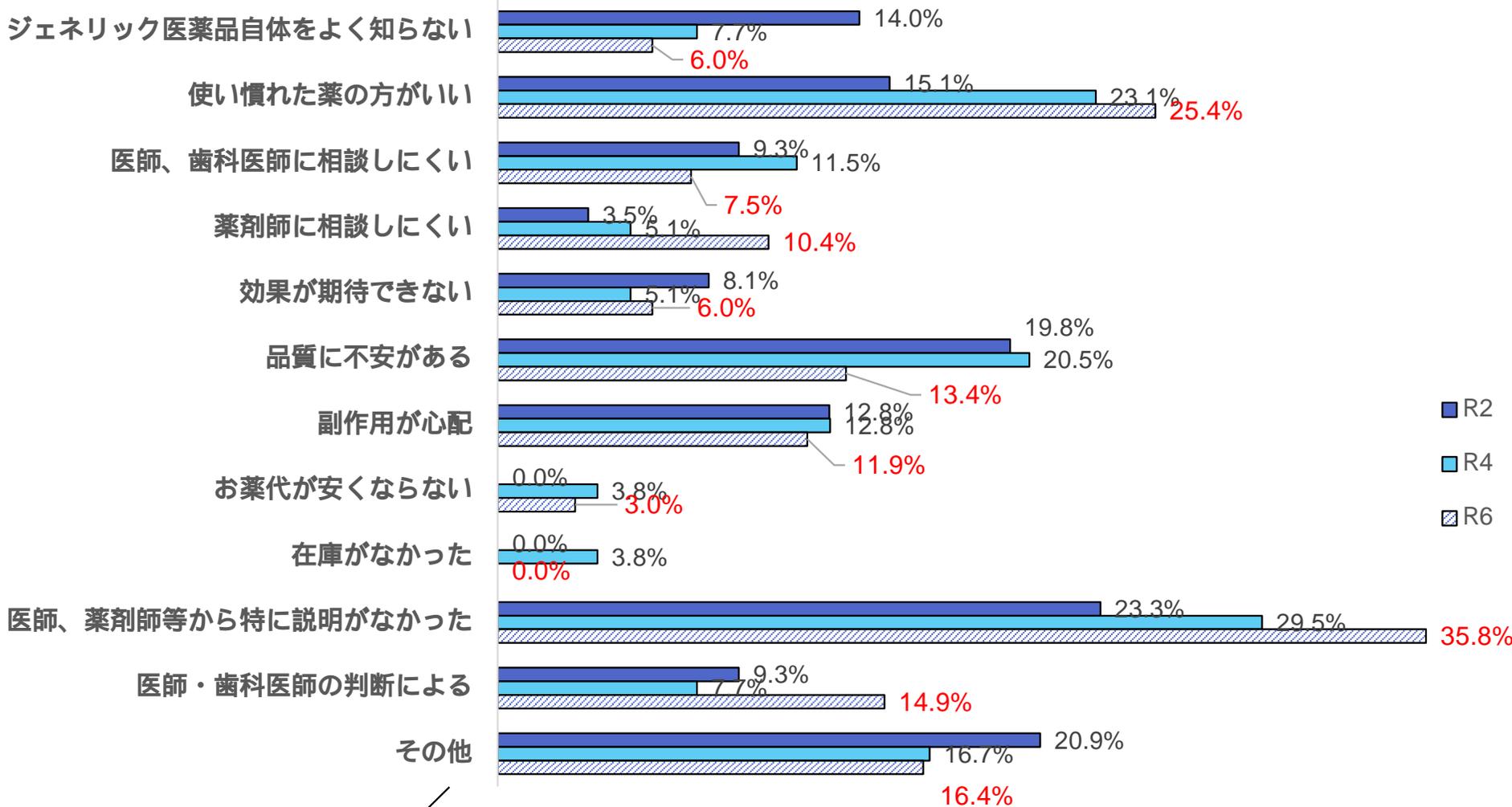
問17.《問16で「1. はい」と回答した方》どのようにして「ジェネリック医薬品」へ変更されましたか。主なものを一つ選んでください。（単一選択式）

- 「薬局で薦められた」が46.3%で最も高く、続いて「自ら変更をお願いした」が26.8%であった。
- R6年度の「自ら変更をお願いした」がR2から6.3ポイント増加した。



問18.《問16で「2.いいえ」と回答した方》「ジェネリック医薬品」へ変更しなかった理由は何ですか。（複数選択式）

- R6年度は「医師、薬剤師等から特に説明がなかった」が35.8%で最も高く、R2から12.5ポイント増加した。
- R6年度は「使い慣れた薬の方がいい」は25.4%であり、R2から10.3ポイント増加した。
- R6年度は「品質に不安がある」は13.4%であり、R2からは6.4ポイント減少した。

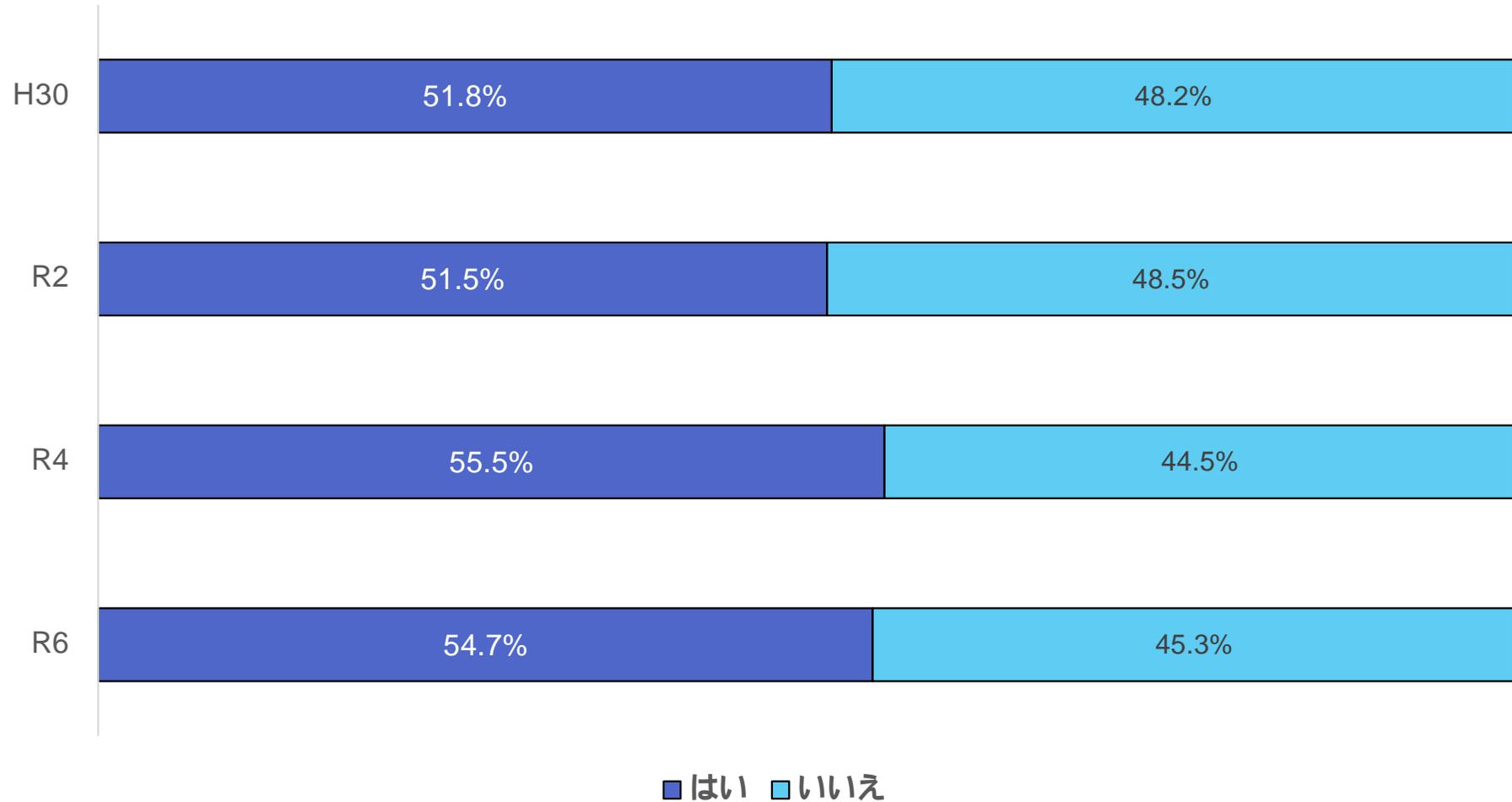


薬を飲んでいない（1件）、始めからジェネリック医薬品を服用している（4件）、過去に副作用が出たことがある（1件）、その他（5件）

問19.医療機関や薬局の窓口で提示することができる「ジェネリック医薬品希望カード」もしくは「ジェネリック医薬品希望シール」のことをご存知ですか。（単一選択式）

県民

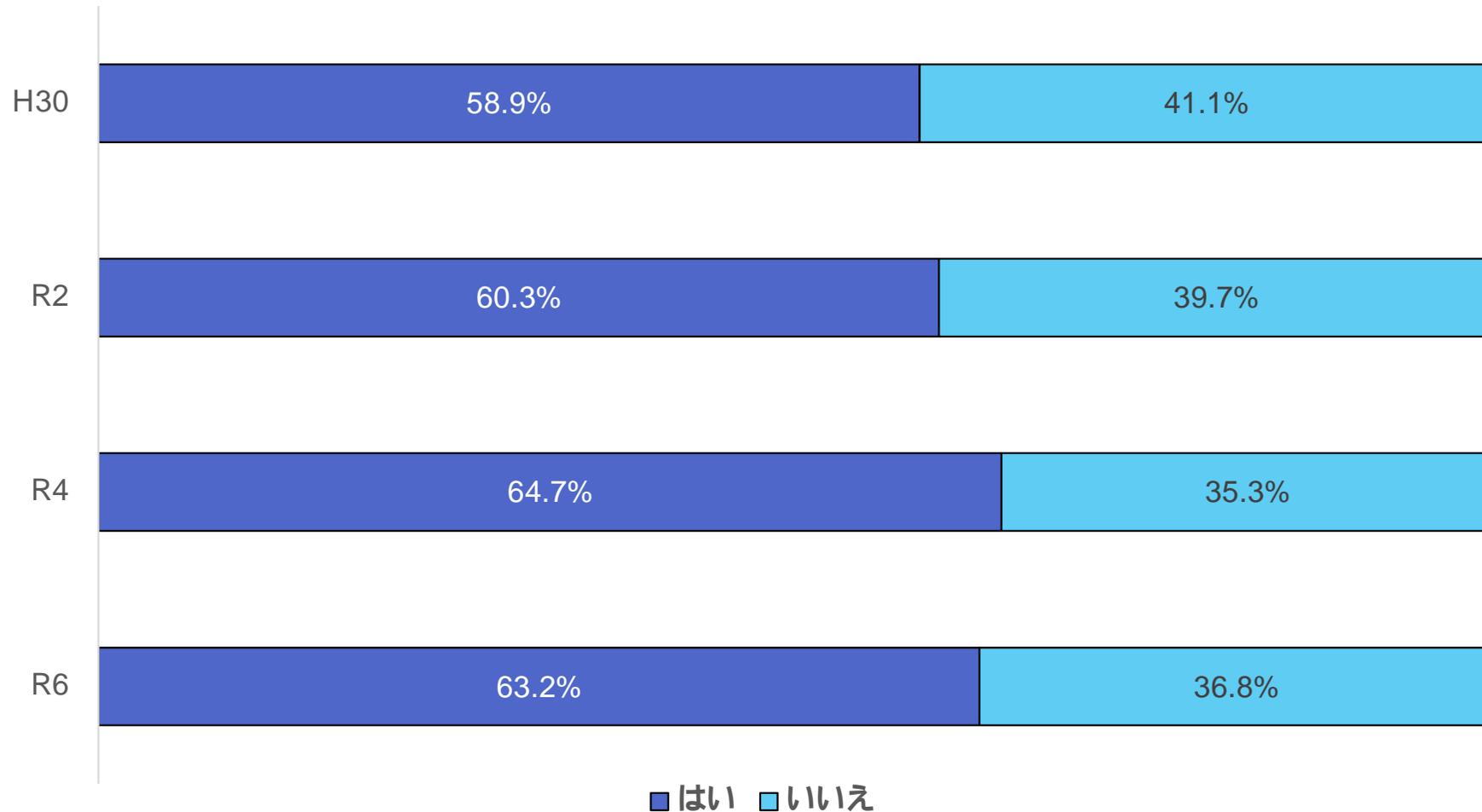
- R6年度は「はい」が54.7%であった。
- H30年度と比較して大きな変化は見られなかった。



問20.《問19で「1. はい」と回答した方》「ジェネリック医薬品希望カード」もしくは「ジェネリック医薬品希望シール」をお持ちですか。（単一選択式）

県民

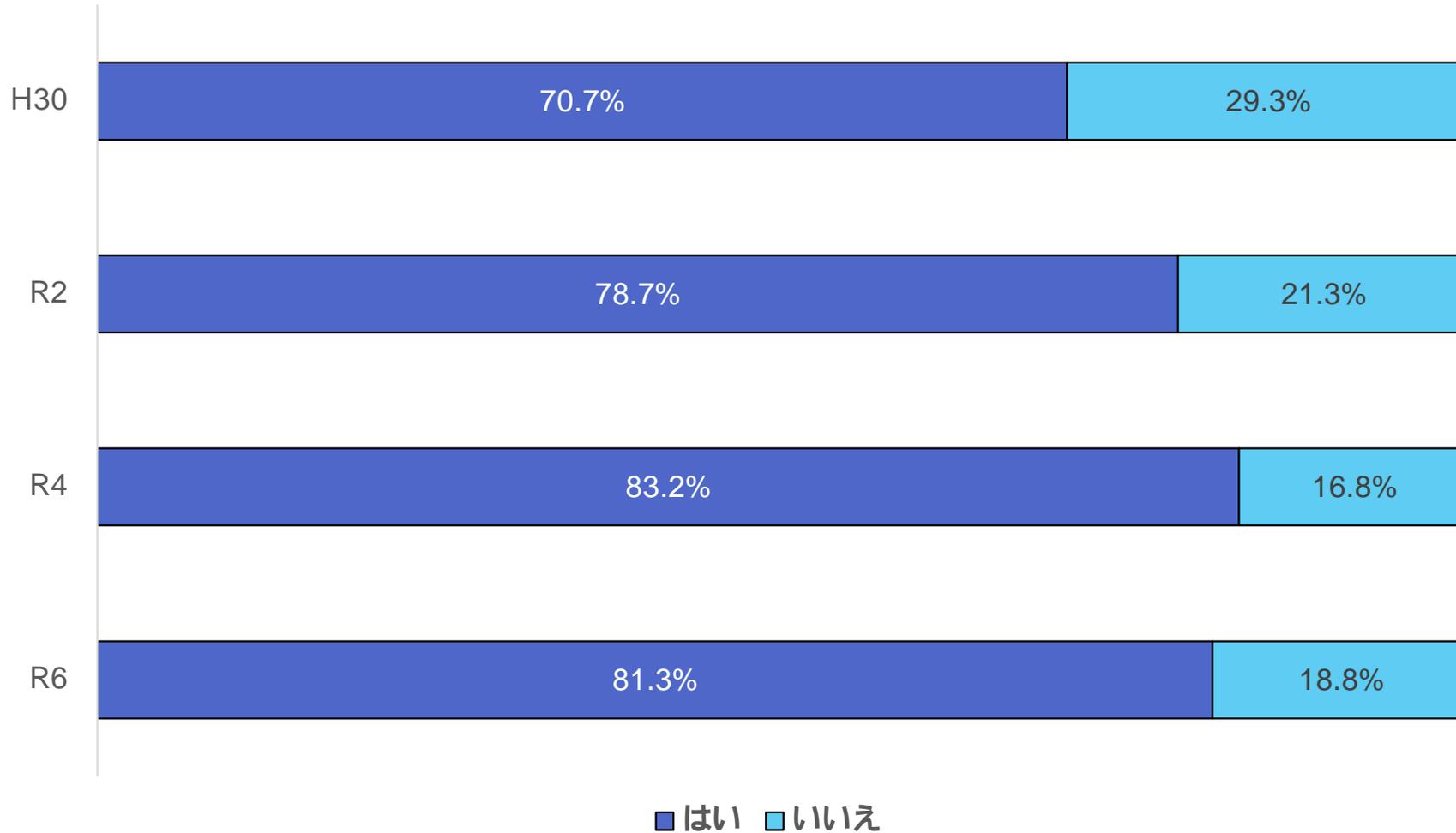
- R6年度は「はい」が63.2%であった。
- H30年度から「はい」と回答した方がやや増加し、R4とあまり変わらない。



問21.《問20で「1. はい」と回答した方》「ジェネリック医薬品希望カード」もしくは「ジェネリック医薬品希望シール」を使用した経験はありますか。（単一選択式）

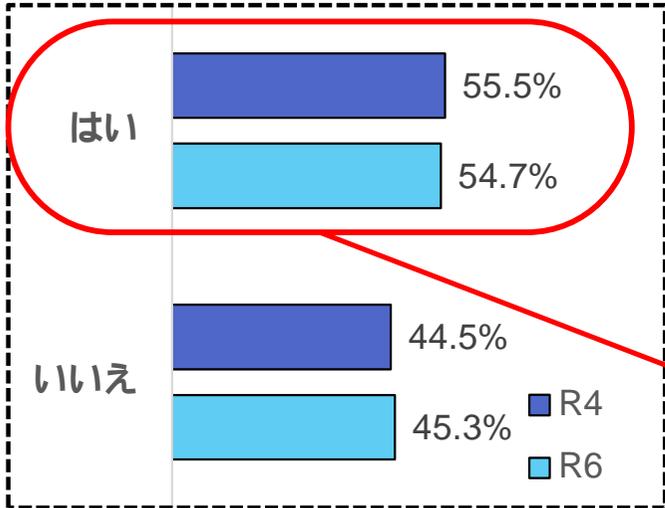
県民

- R6年度は「はい」が81.3%であった。
- H30年度と比較すると「はい」と回答した方が10.6ポイント増加した。

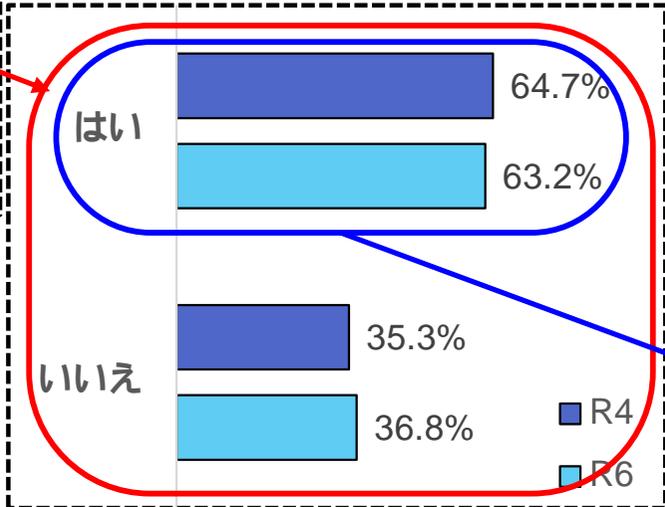


問19.医療機関や薬局の窓口で提示することができる「ジェネリック医薬品希望カード」もしくは「ジェネリック医薬品希望シール」のことをご存知ですか。（単一選択式）

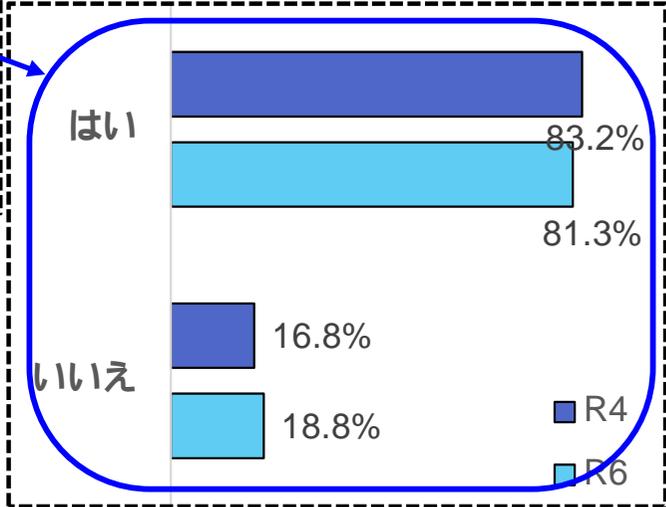
- R6年度は「ジェネリック医薬品希望カード・シール」を知っている人は54.7%、そのうち63.2%がカード・シールを所持しており、うち81.3%が使用経験があった。
- R4年度と比較して大きな変化は見られなかった。



問20.《問19で「1. はい」と回答した方》「ジェネリック医薬品希望カード」もしくは「ジェネリック医薬品希望シール」をお持ちですか。（単一選択式）



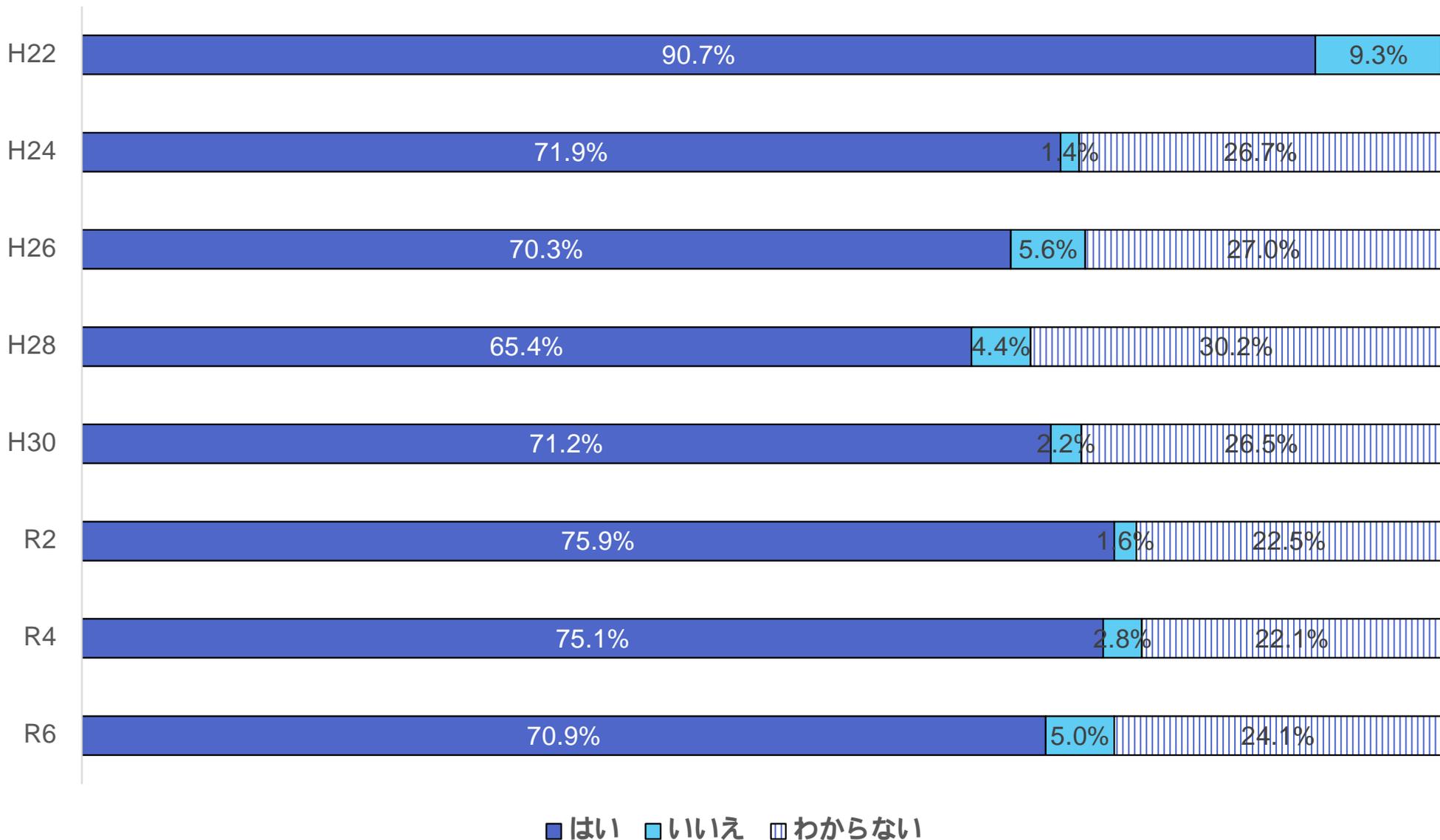
問21.《問19で「1. はい」と回答した方》「ジェネリック医薬品希望カード」もしくは「ジェネリック医薬品希望シール」を使用した経験はありますか。（単一選択式）



問22. 将来にわたって安心して医療を受けられることが出来るように（医療保険財政の改善）、  
「ジェネリック医薬品」を使用促進することは必要だと思いますか。（単一選択式）

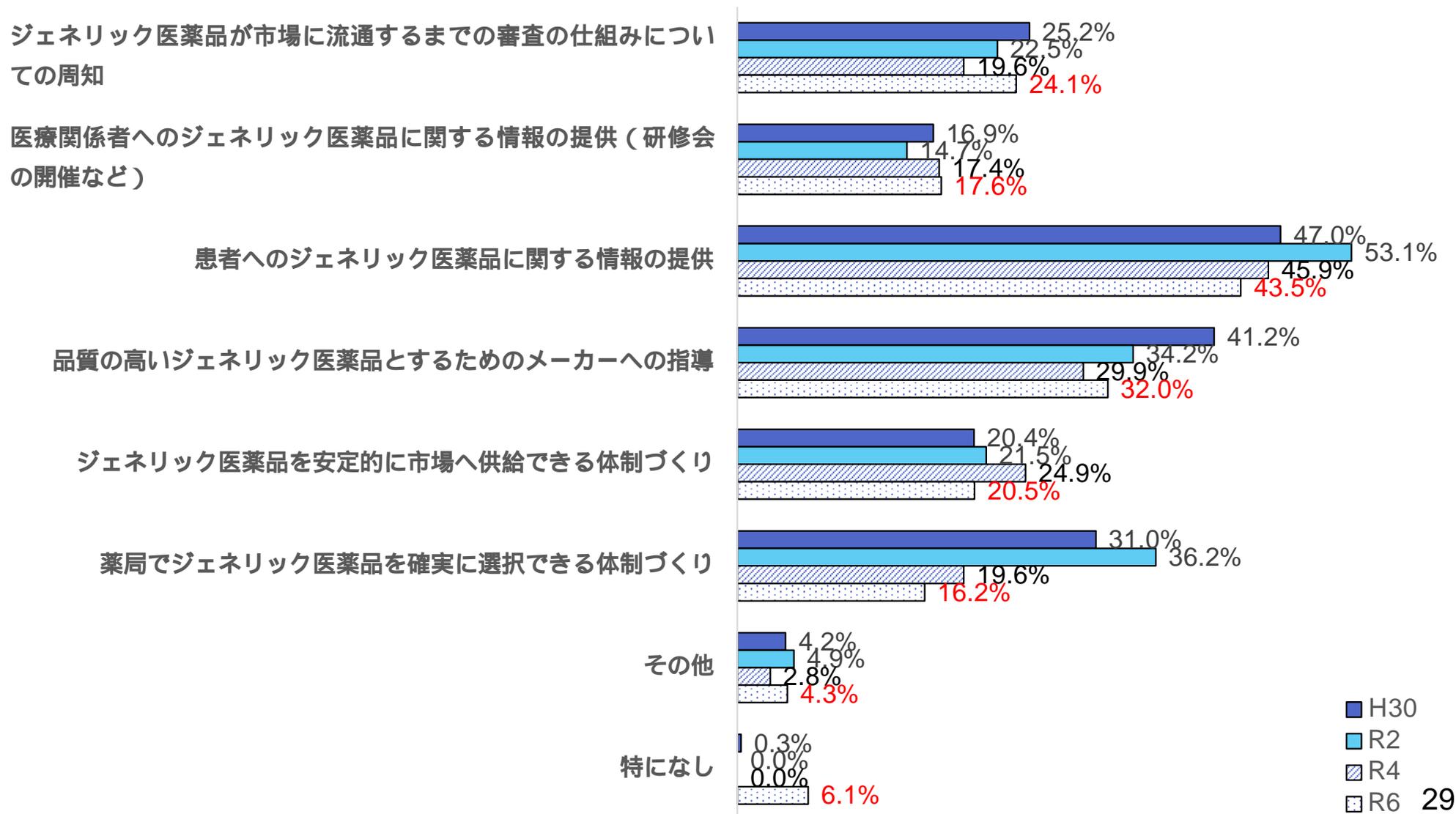
県民

- R6年度は「はい」が70.9%であった。
- H24年度から大きな変化は見られなかった。



問23. ジェネリック医薬品の利用に関して、行政（厚生労働省、長崎県福祉保健部薬務行政室）の施策に対し要望することがあれば、該当するものを2つ以内で選んでください。（2つ選択）

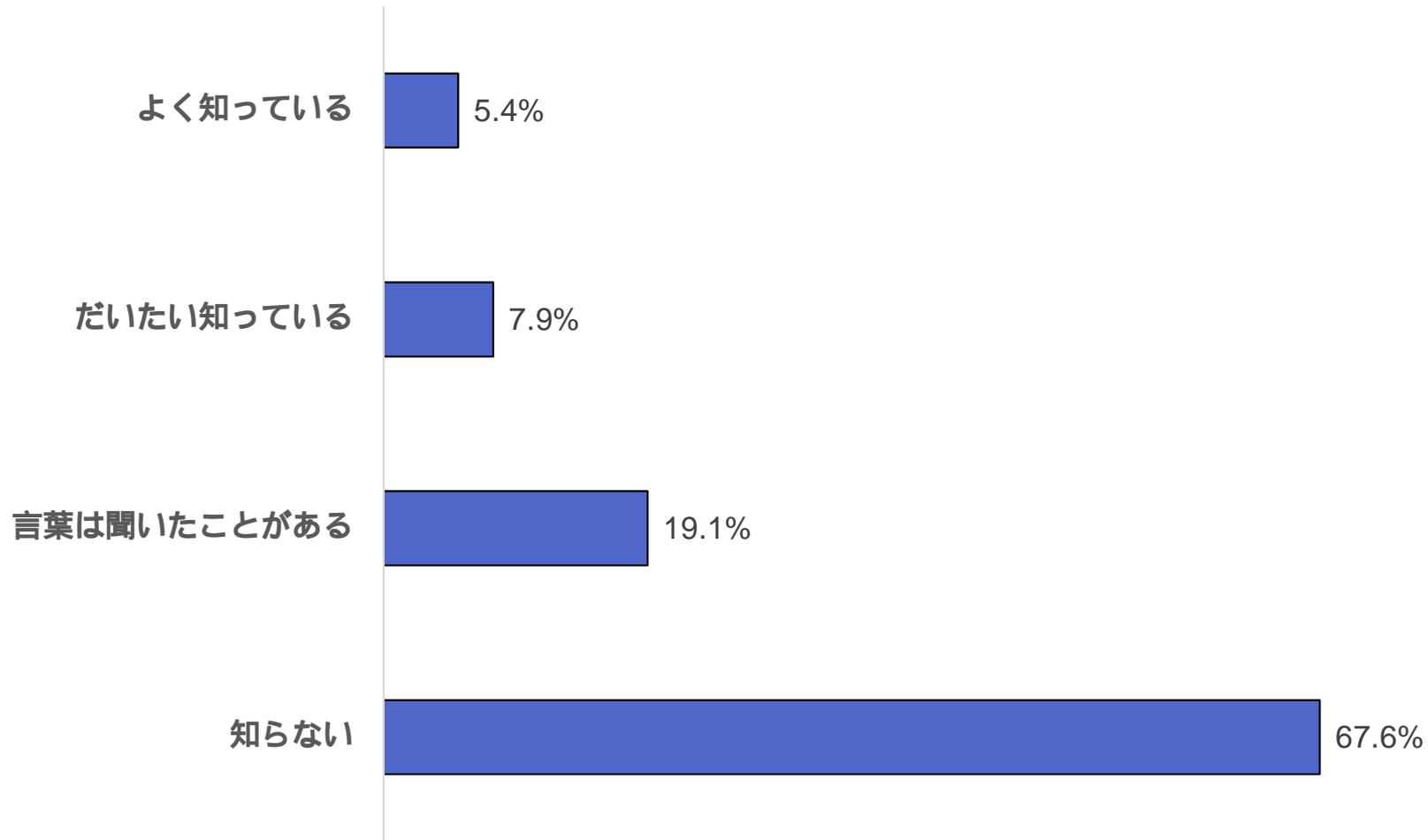
● R6年度は「患者へのジェネリック医薬品に関する情報の提供」が43.5%で最も高く、続いて「品質の高いジェネリック医薬品とするためのメーカーへの指導」が32.0%、「ジェネリック医薬品が市場に流通するまでの審査の仕組みについての周知」が24.1%であった。



問24. 「バイオ医薬品」のことについてご存知ですか。（単一選択式）

県民

● R6年度は「知らない」が67.6%で最も高く、「よく知っている」が5.4%、「だいたい知っている」は7.9%にとどまった。

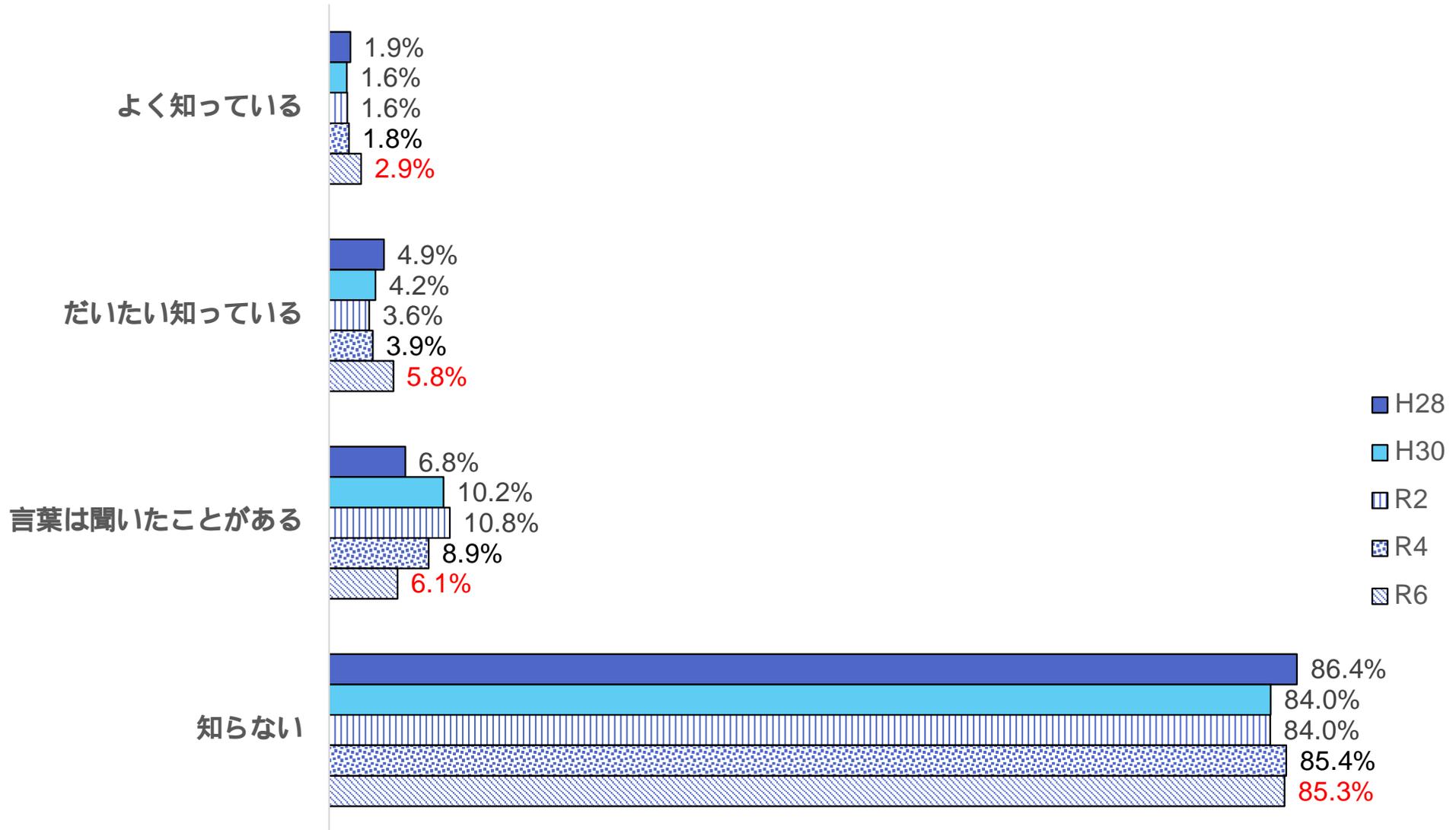


R6

問25.「バイオシミラー」（バイオ後続品）のことについてご存知ですか。（単一選択式）

県民

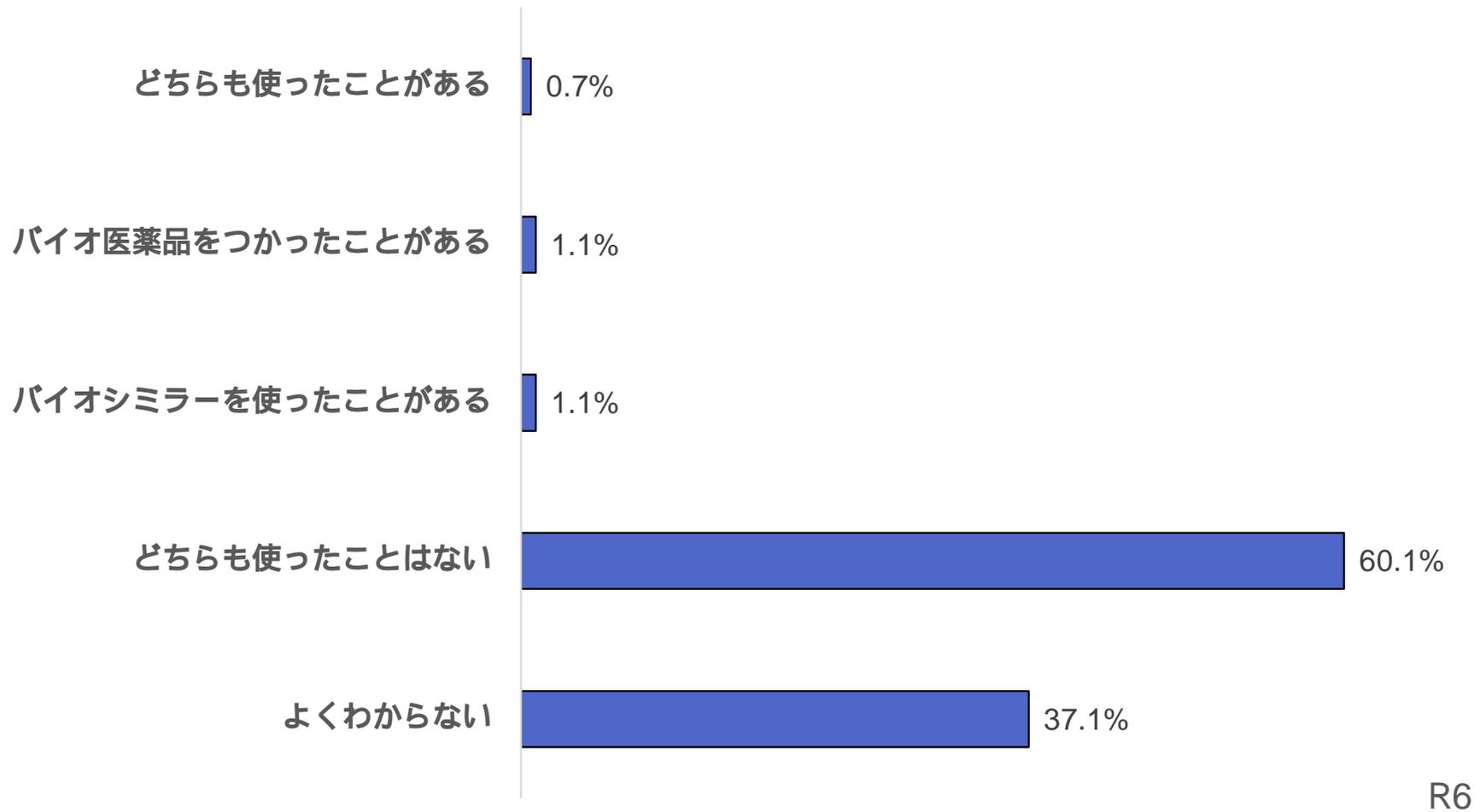
- R6年度は「知らない」が85.3%で最も高く、「よく知っている」が2.9%、「だいたい知っている」は5.8%にとどまった。
- H28年度から大きな変化は見られなかった。



問26. 「バイオ医薬品」又は「バイオシミラー」を使ったことがありますか。（単一選択式）

県民

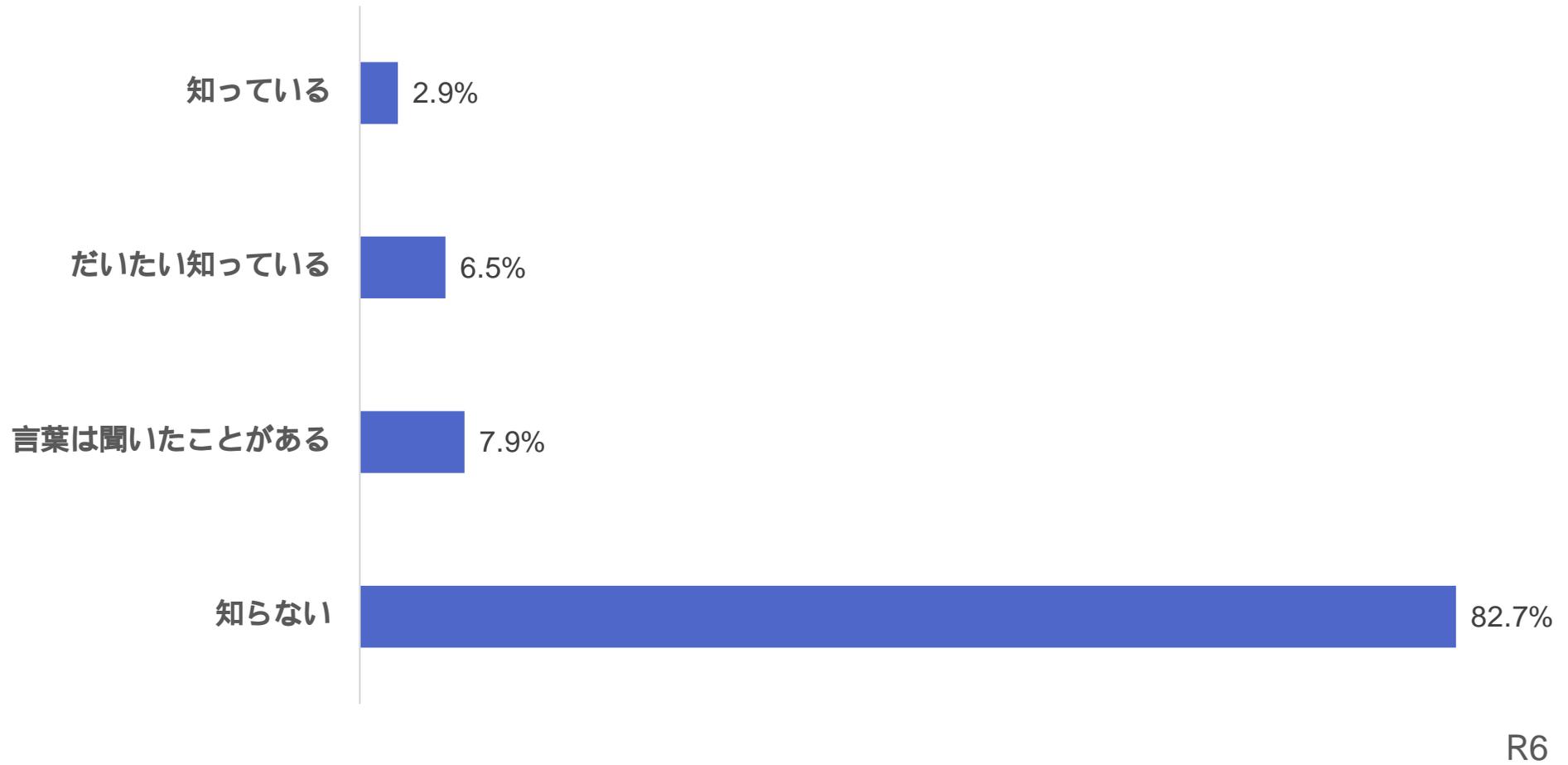
● R6年度は「どちらも使ったことはない」が60.1%で最も高く、続いて「よくわからない」が37.1%であった。



問27.「後発医薬品のある先発医薬品（長期収載品）の選定療養」についてご存知ですか。  
（単一選択式）

県民

● R6年度は「知らない」が82.7%で最も高く、「知っている」が2.9%、「だいたい知っている」は6.5%にとどまった。



# 病 院

# ジェネリック医薬品に関する病院アンケート調査結果

## 調査方法

- ・調査票の直接送付し、郵送又は電子申請による回答集計

## ○調査時期

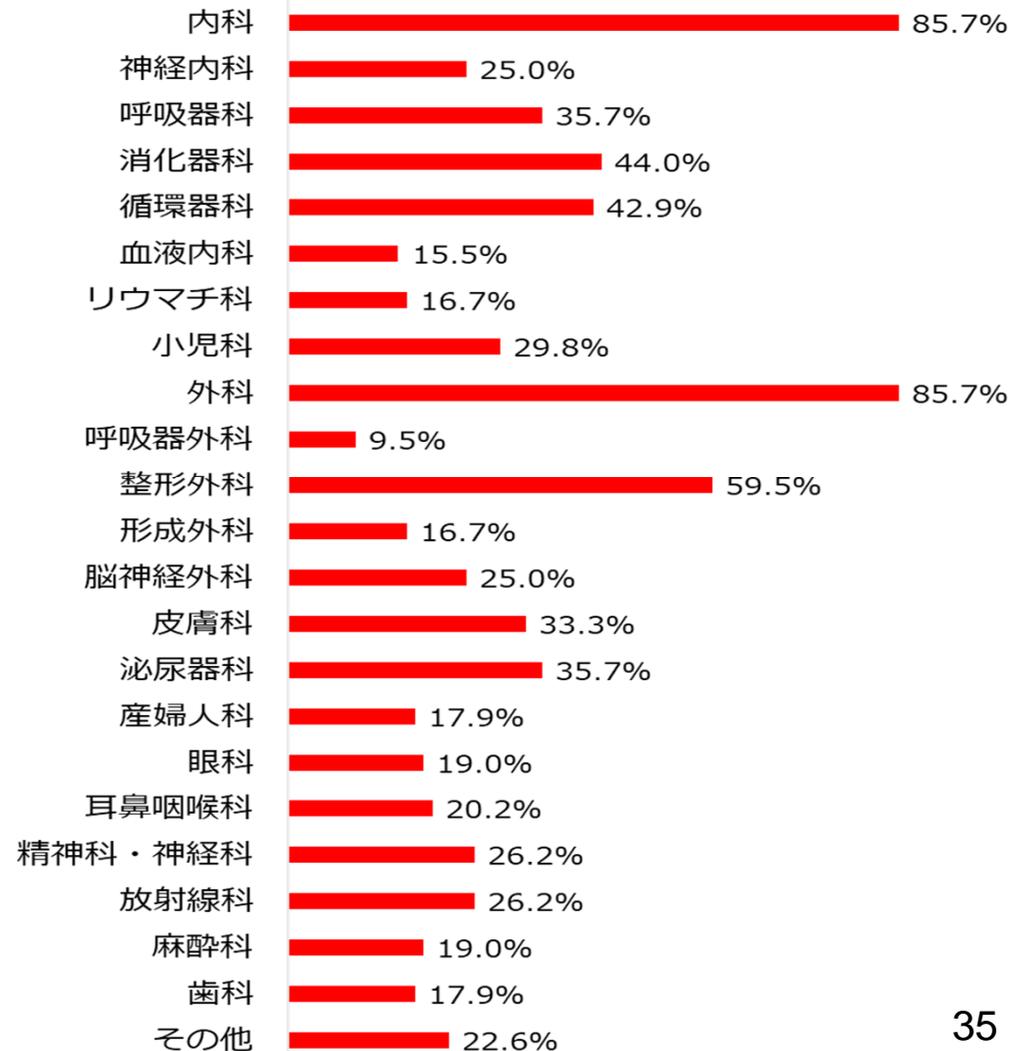
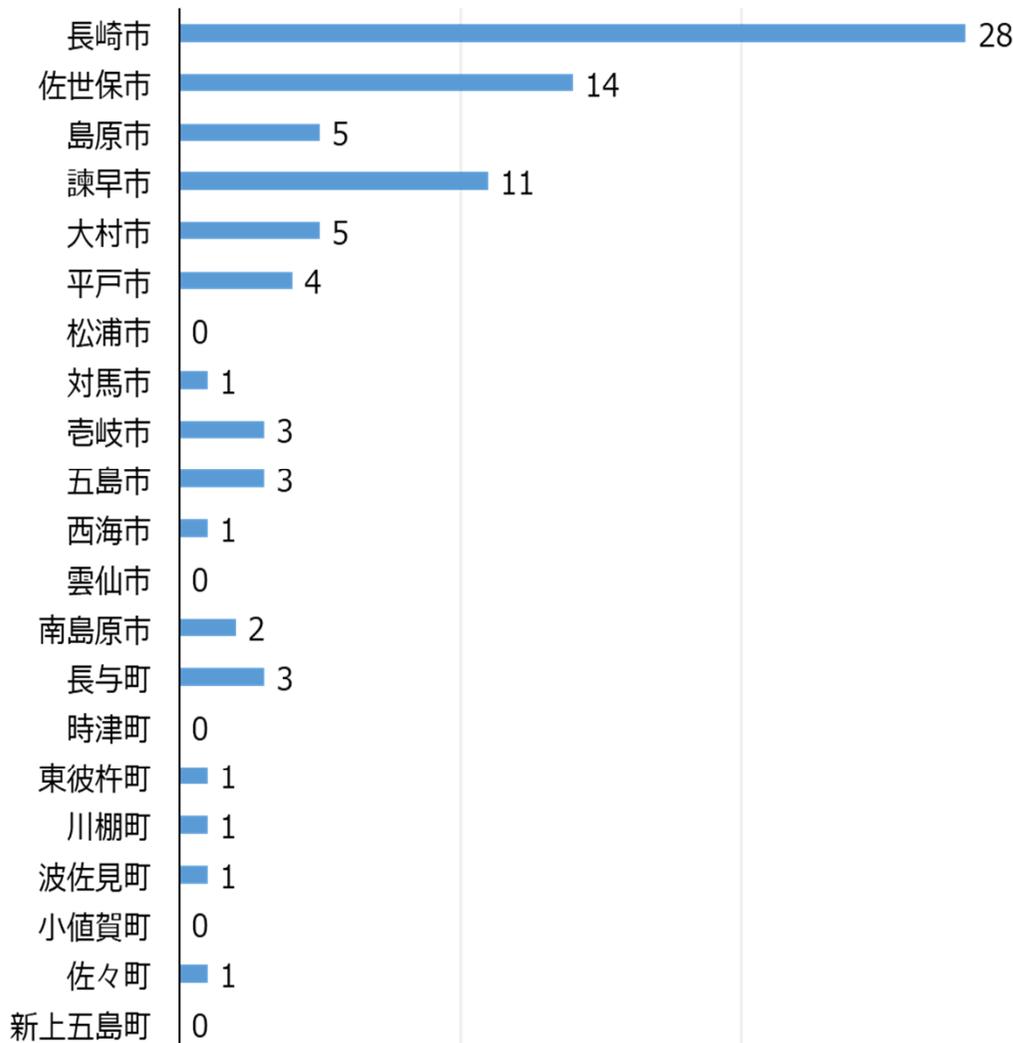
- ・令和6年7月29日から令和6年8月30日まで

## 調査対象

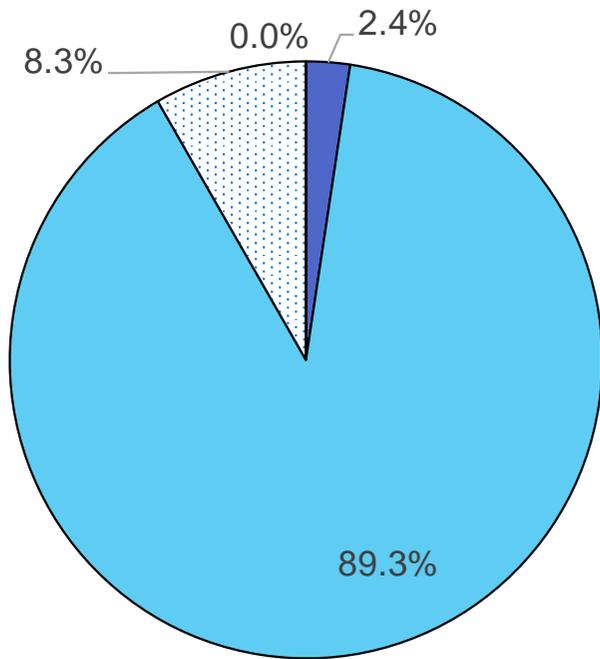
- ・県内すべての病院

## 対象者数、回答者数及び回収率

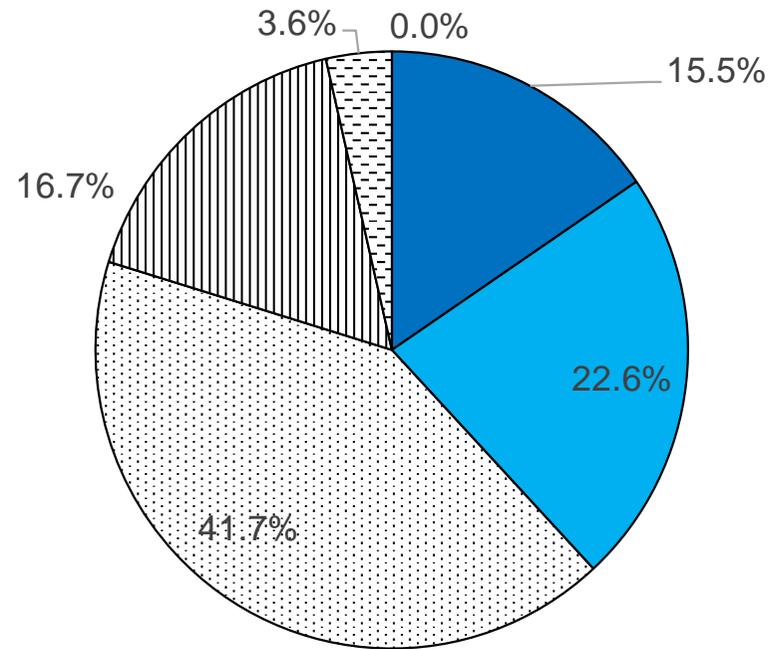
- ・対象施設数：143施設、回答施設数：84施設、回収率：58.7%



問3.ご回答者の職種及び年齢をお答えください。(単一選択式)



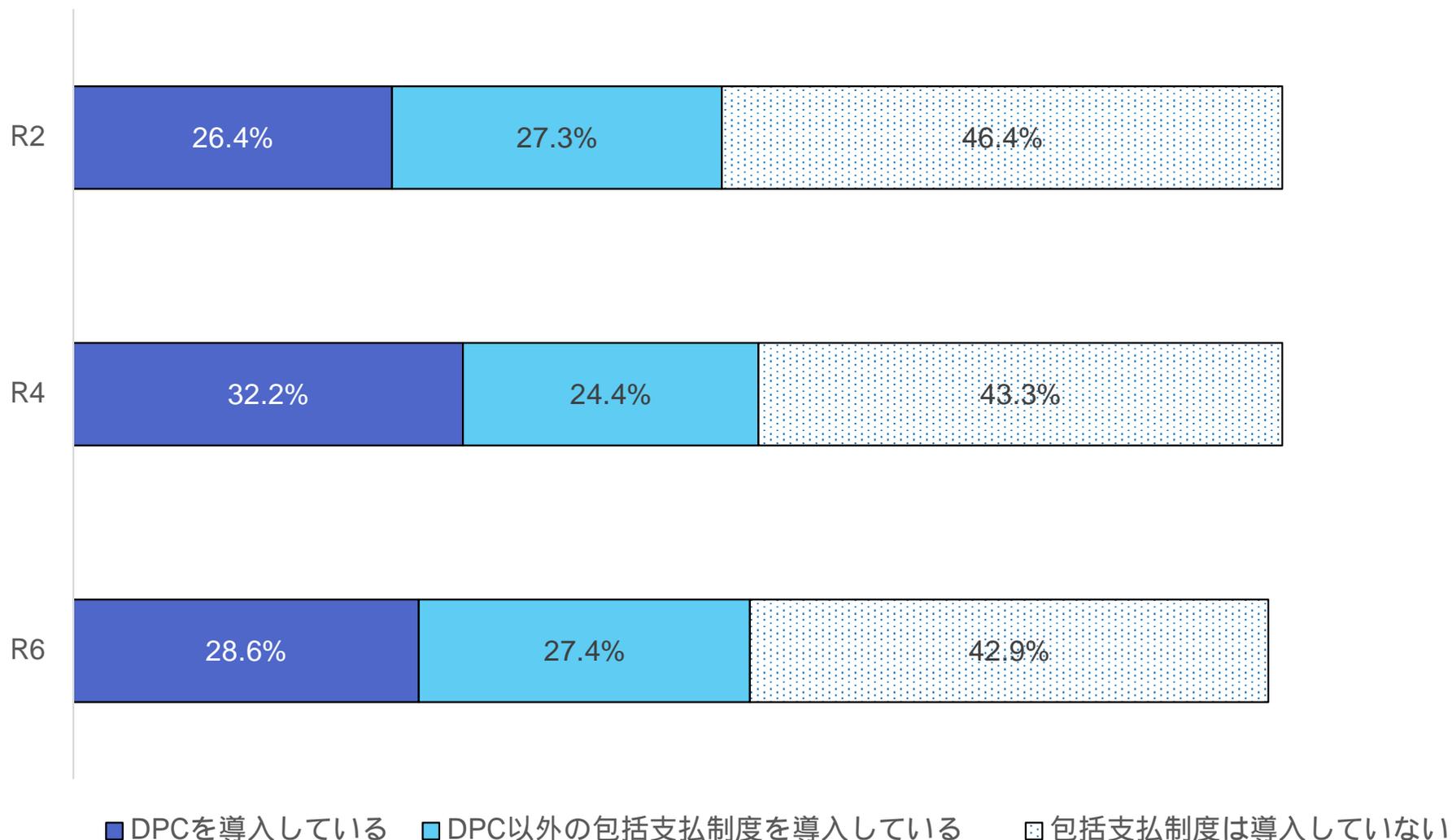
■ 医師 (歯科医師) ■ 薬剤師  
 ■ 事務職員 ■ その他



■ 30歳未満 ■ 30歳以上40歳以上  
 ■ 40歳以上50歳未満 ■ 50歳以上60歳未満  
 ■ 60歳以上70歳未満 ■ 70歳以上

問4. 《病院のみ回答》あなたの病院では、DPCに基づく医療費の包括支払制度等を導入していますか。（単一選択式）

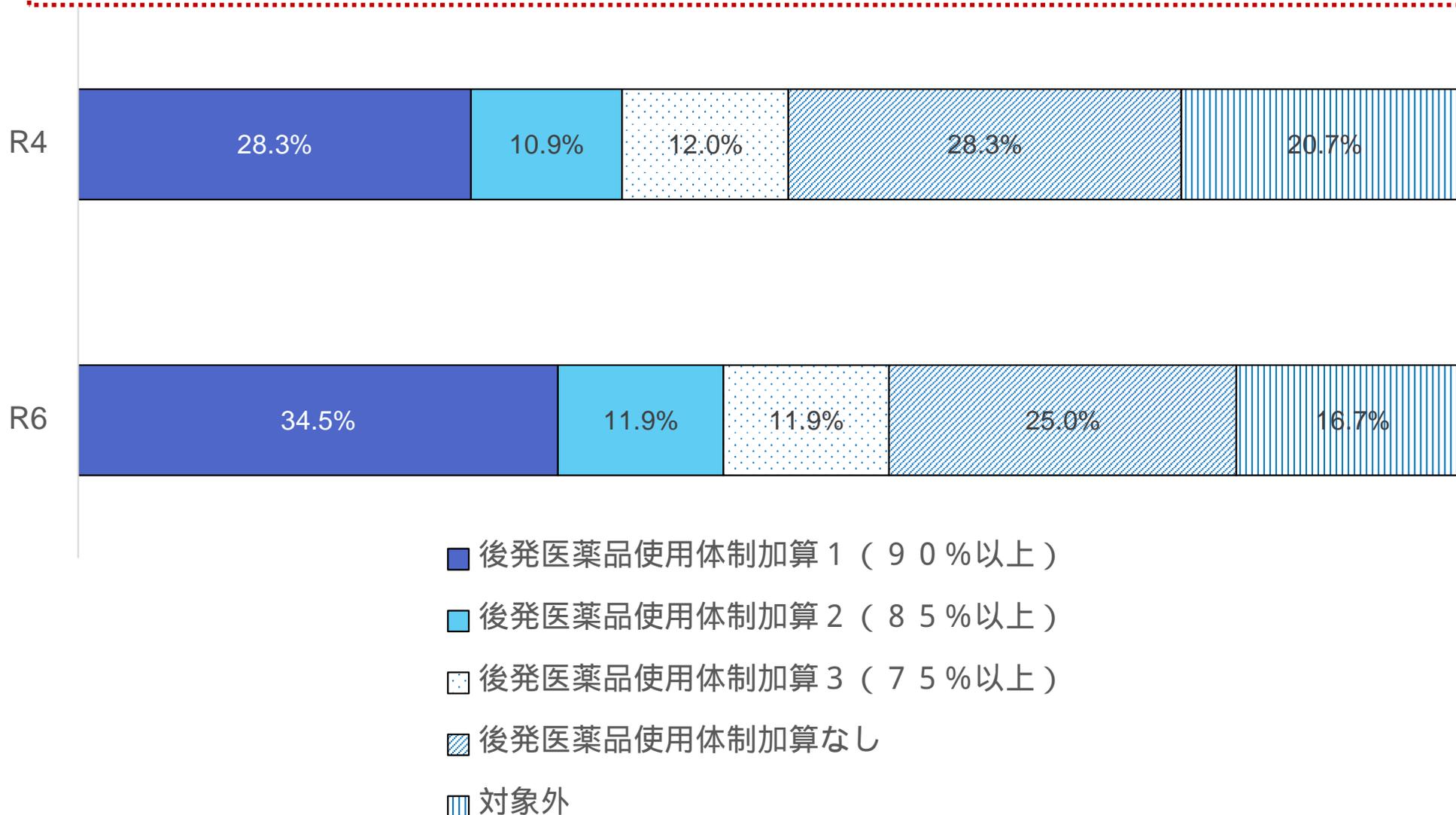
- R6年度は「DPCを導入している」が28.6%、「DPC以外の包括支払制度を導入している」が27.4%であった。
- R4年度と比較して「DPCを導入している」と「DPC以外の包括支払制度を導入している」の合計が0.6ポイント減少した。



問5.あなたの医療機関の後発医薬品使用体制加算の有無についてお答えください。(単一選択式)

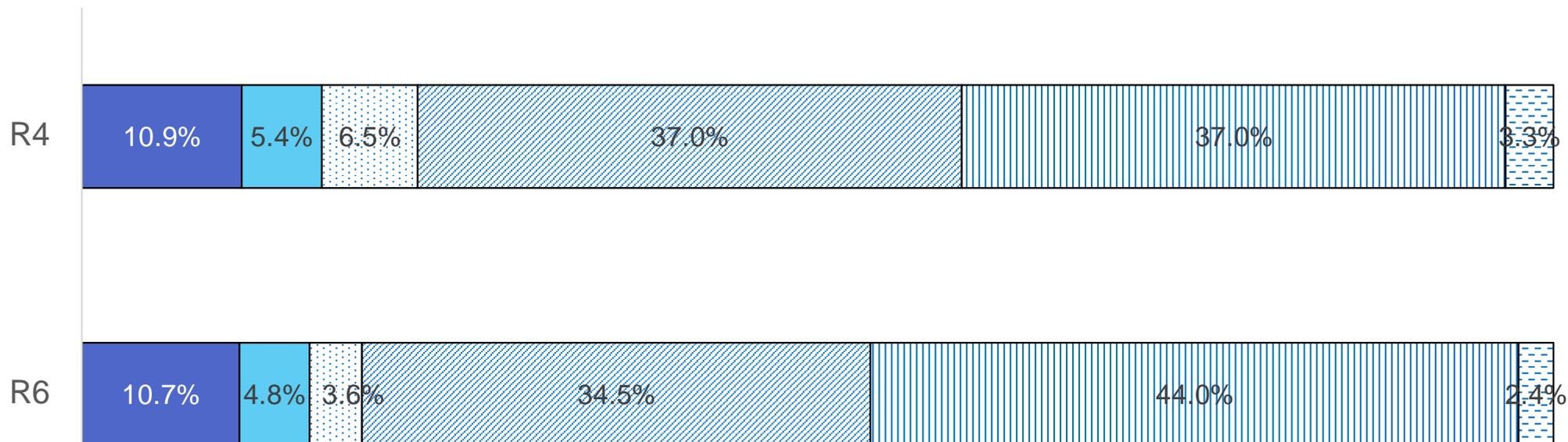
病院

- R6年度は「加算1」が34.5%、「加算2」が11.9%、「加算3」が11.9%、後発医薬品使用体制加算を算定している医療機関は全体の58.3%であった。
- R4年度と比較すると「加算1」が6.2ポイント、「加算2」が1.0ポイント増加し、「加算3」が0.1ポイント減少した。



問6.あなたの医療機関の外来後発医薬品使用体制加算の有無についてお答えください。(単一選択式)

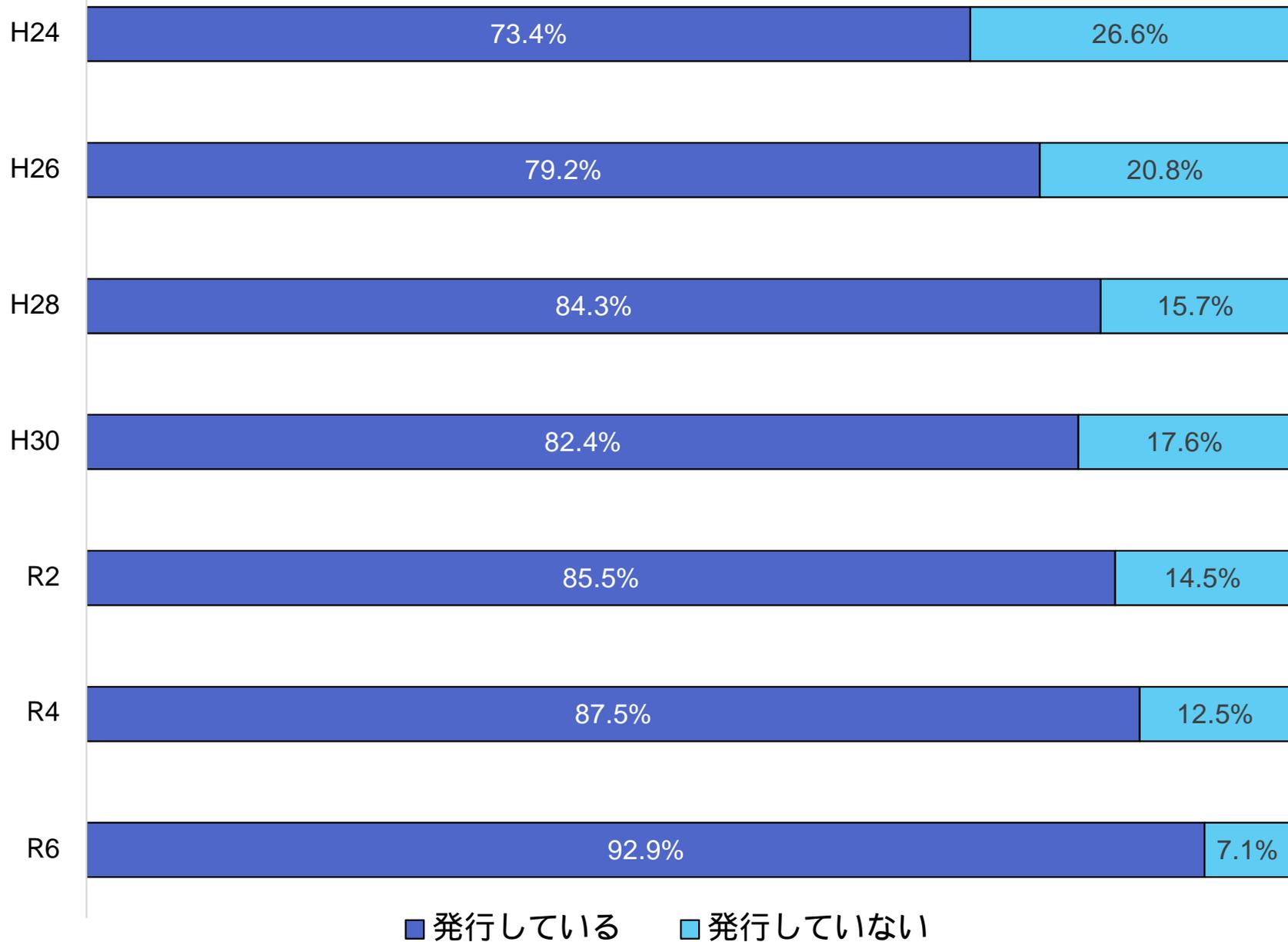
- R6年度は「加算1」が10.7%、「加算2」が4.8%、「加算3」が3.6%であった。
- R4年度と比較すると、「加算1」が0.2ポイント、「加算2」が0.6ポイント、「加算3」が2.9ポイント減少した。



- 外来後発医薬品使用体制加算1 (90%以上)
- 外来後発医薬品使用体制加算2 (85%以上)
- 外来後発医薬品使用体制加算3 (75%以上)
- 外来後発医薬品使用体制加算なし
- 対象外
- 未回答

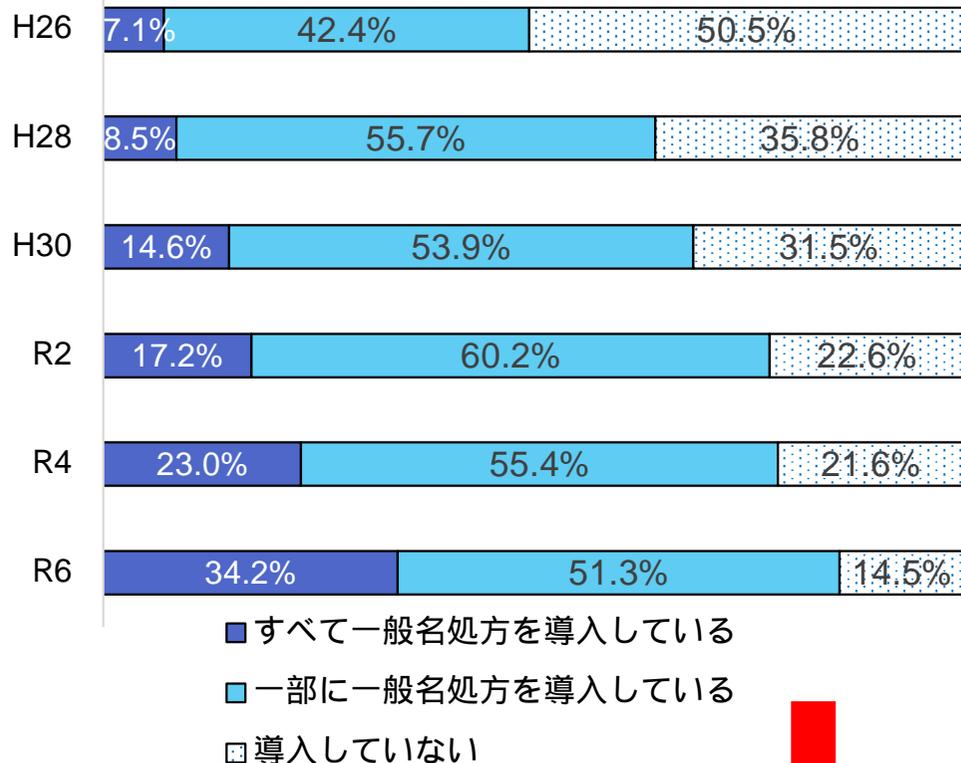
問7. あなたの医療機関では、院外処方せんを発行していますか。（単一選択式）

- R6年度は「発行している」が92.9%であった。
- H24年度から「発行している」が19.5ポイント増加した。

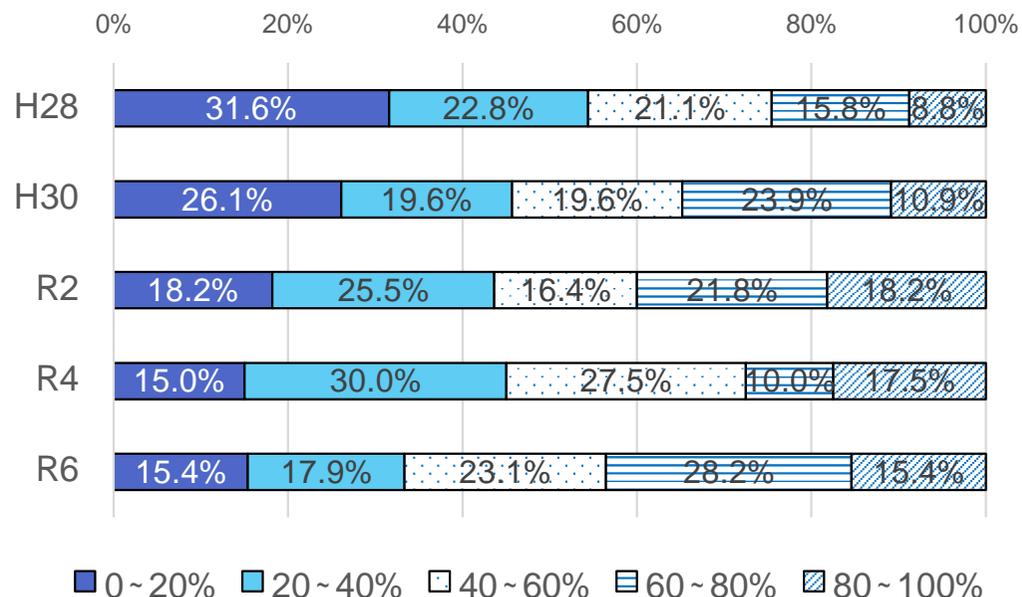


問8. 《問7で「1.発行している」と回答した医療機関》あなたの医療機関では、院外処方せん発行において一般名処方を導入していますか。（単一選択式）

- R6年度は「すべて一般名処方を導入している」が34.2%、「一部に一般名処方を導入している」が51.3%で、合計85.5%であった。
- H26年度から「すべて一般名処方を導入している」が27.1ポイント、「一部に一般名処方を導入している」が8.9ポイント、合計で36.0ポイント増加した。
- 一部に一般名処方を導入している場合のその割合について、H28年度から「60～80%」と「80～100%」の合計が19.0ポイント増加した。

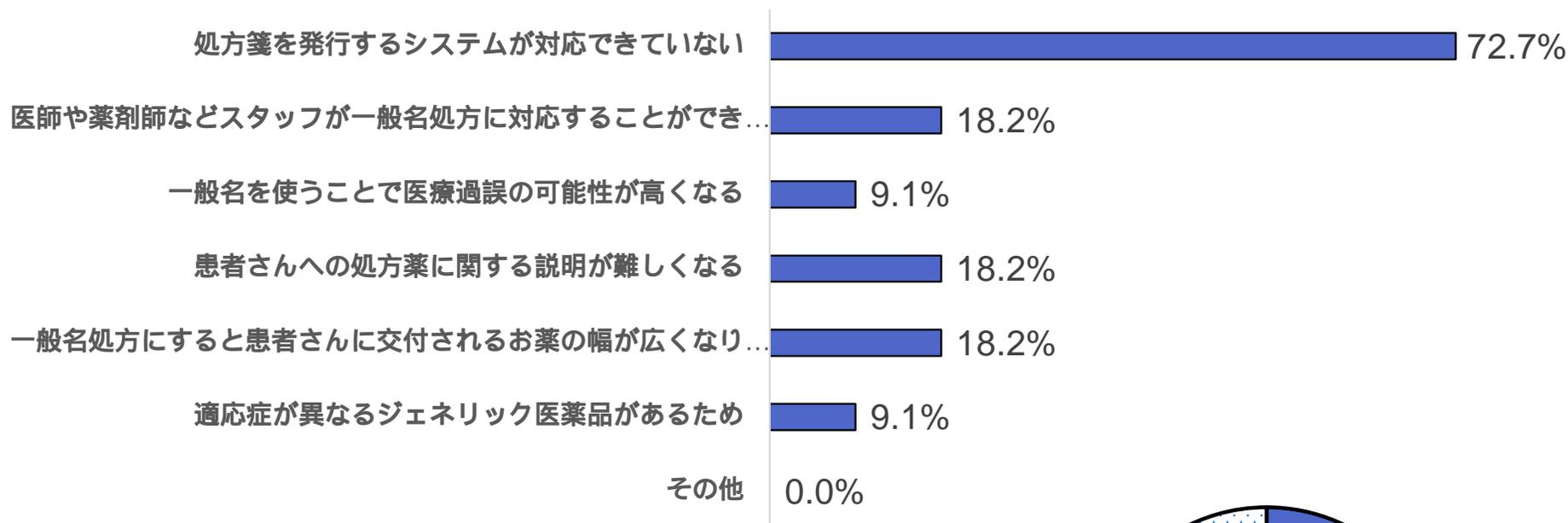


「一部に一般名処方を導入している」と回答した場合、その割合

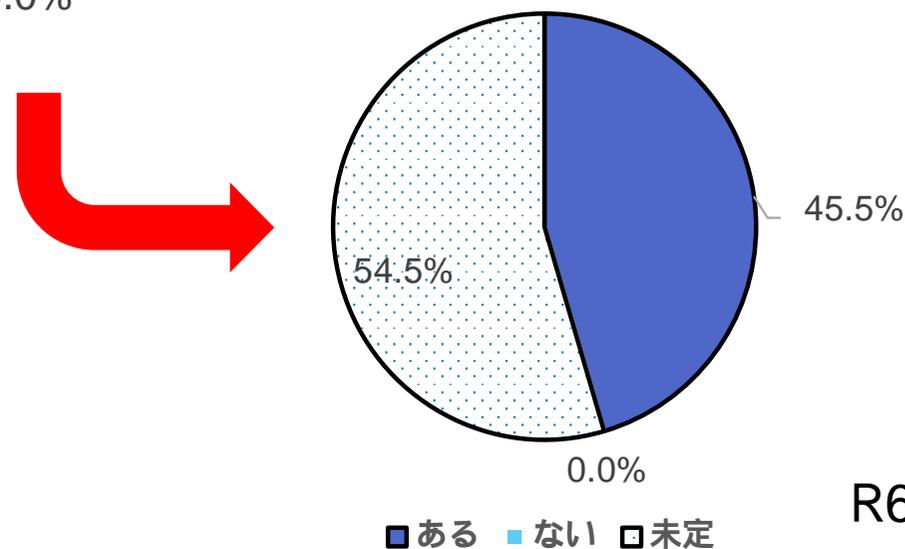


問9. 《問8で「3.導入していない」と回答した医療機関》一般名処方を導入していない理由は  
何ですか。（複数選択式）

- 「処方箋を発行するシステムが対応できていない」が72.7%で最も高く、続いて「医師や薬剤師などスタッフが一般名処方に対応することができない」、「患者さんへの処方薬に関する説明が難しくなる」、「一般名処方にする患者さんに交付されるお薬の幅が広くなりすぎる」であった。
- 問9の問題が改善できれば、一般名処方を導入する可能性があるとの回答が45.5%あった。



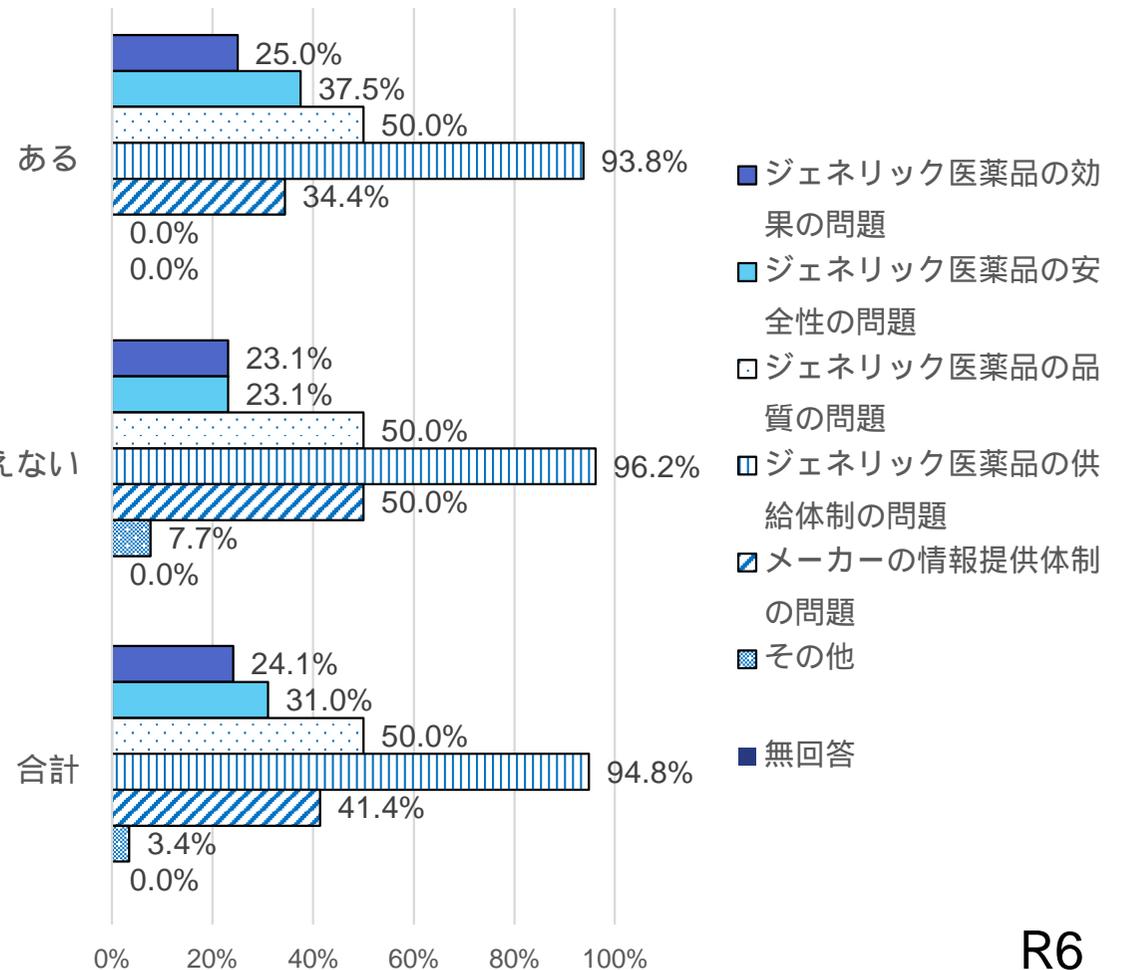
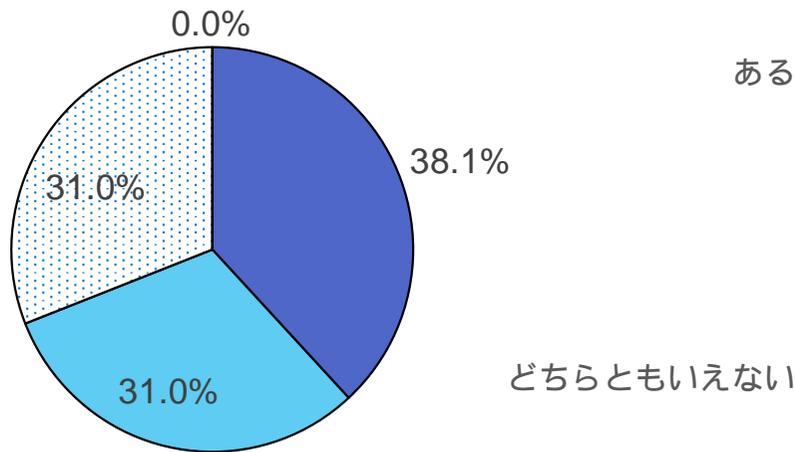
問10. 《問8で「3.導入していない」と回答した医療機関》問9の問題が改善できれば、一般名処方を導入する可能性  
がありますか。（単一選択式）



問11.ジェネリック医薬品を使用することに関して、不安感はありますか？（単一選択式）

- 「はい」が38.1%、「どちらともいえない」が31.0%であり、「いいえ」は31.0%にとどまった。
- 不安感を抱いている内容については、「ジェネリック医薬品の供給体制の問題」が94.8%で最も高く、続いて「ジェネリック医薬品の品質の問題」が50.0%、「メーカーの情報提供体制の問題」が41.4%であった。

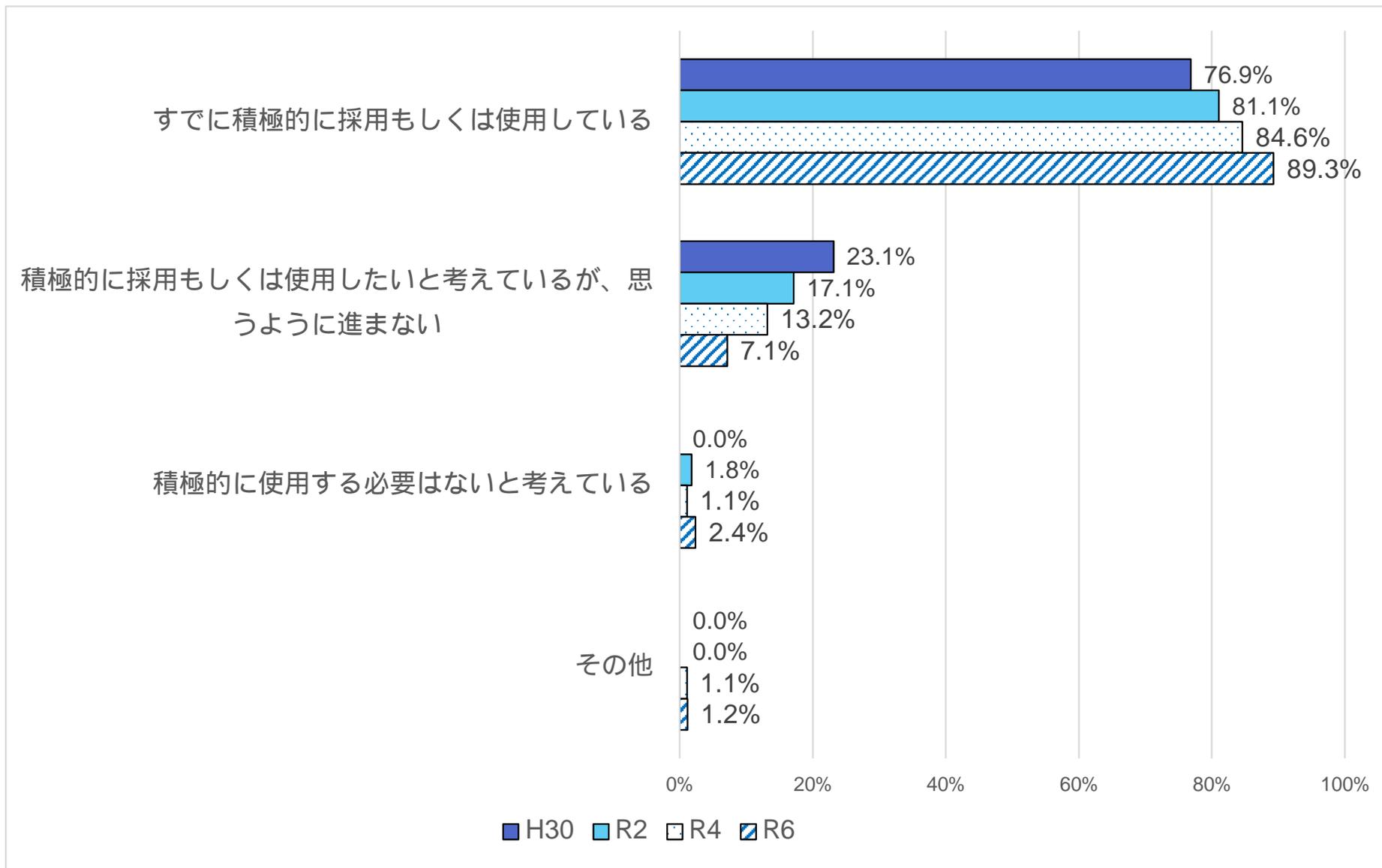
■ある ■どちらともいえない ■ない ■無回答



問12.《問11で「1.あり」、「2.どちらともいえない」と回答した医療機関》不安感を抱いている内容についてお答えください。（複数選択式）

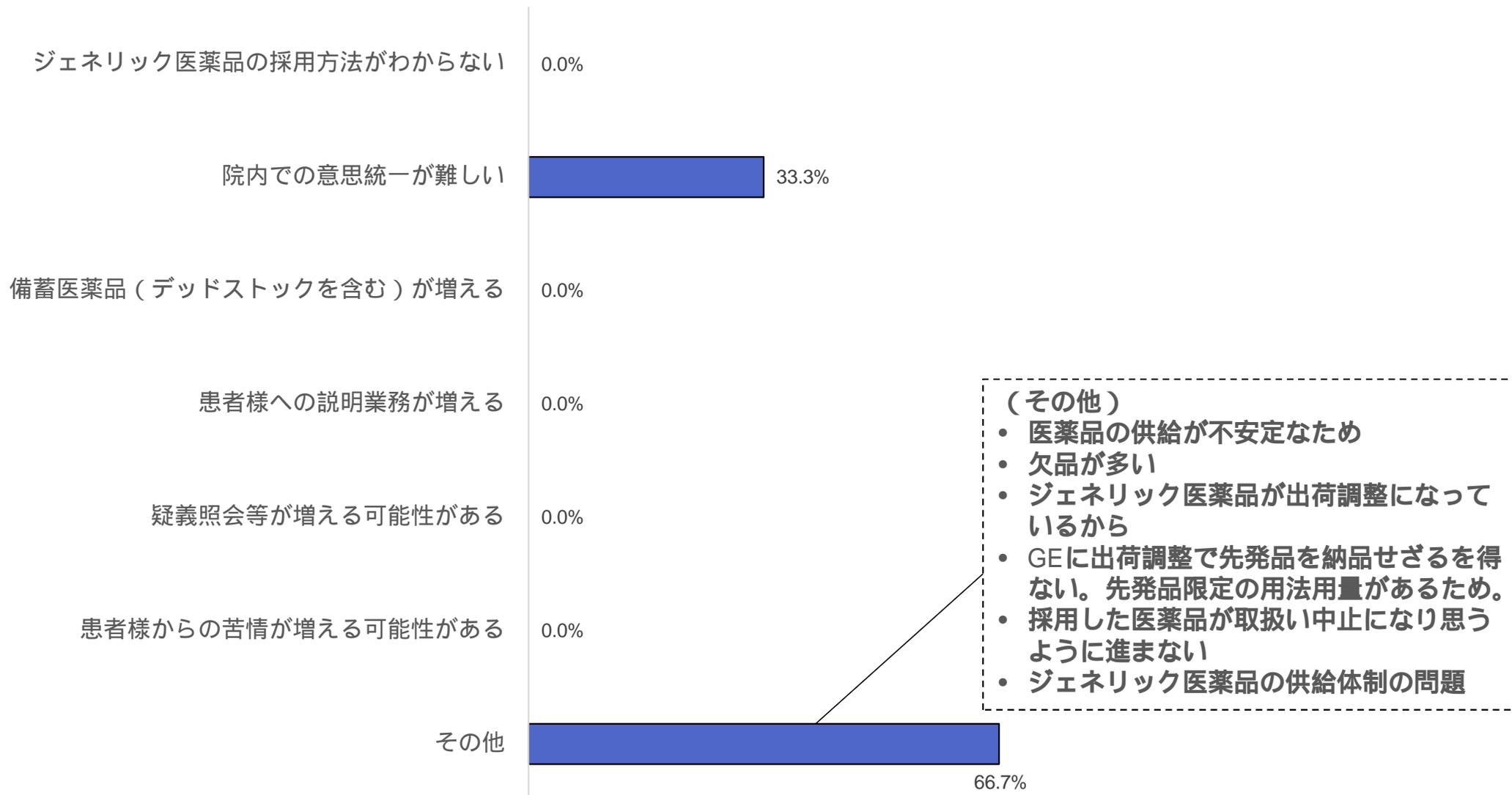
問13. あなたの医療機関では、ジェネリック医薬品を積極的に採用もしくは使用（院外処方を含む）したいと思いませんか。（単一選択式）

- R6年度は「すでに積極的に採用もしくは使用している」が89.3%で最も高く、続いて「積極的に採用もしくは使用したいと考えているが、思うように進まない」が7.1%であった。
- H28年度から「すでに積極的に採用もしくは使用している」が12.4ポイント増加した。



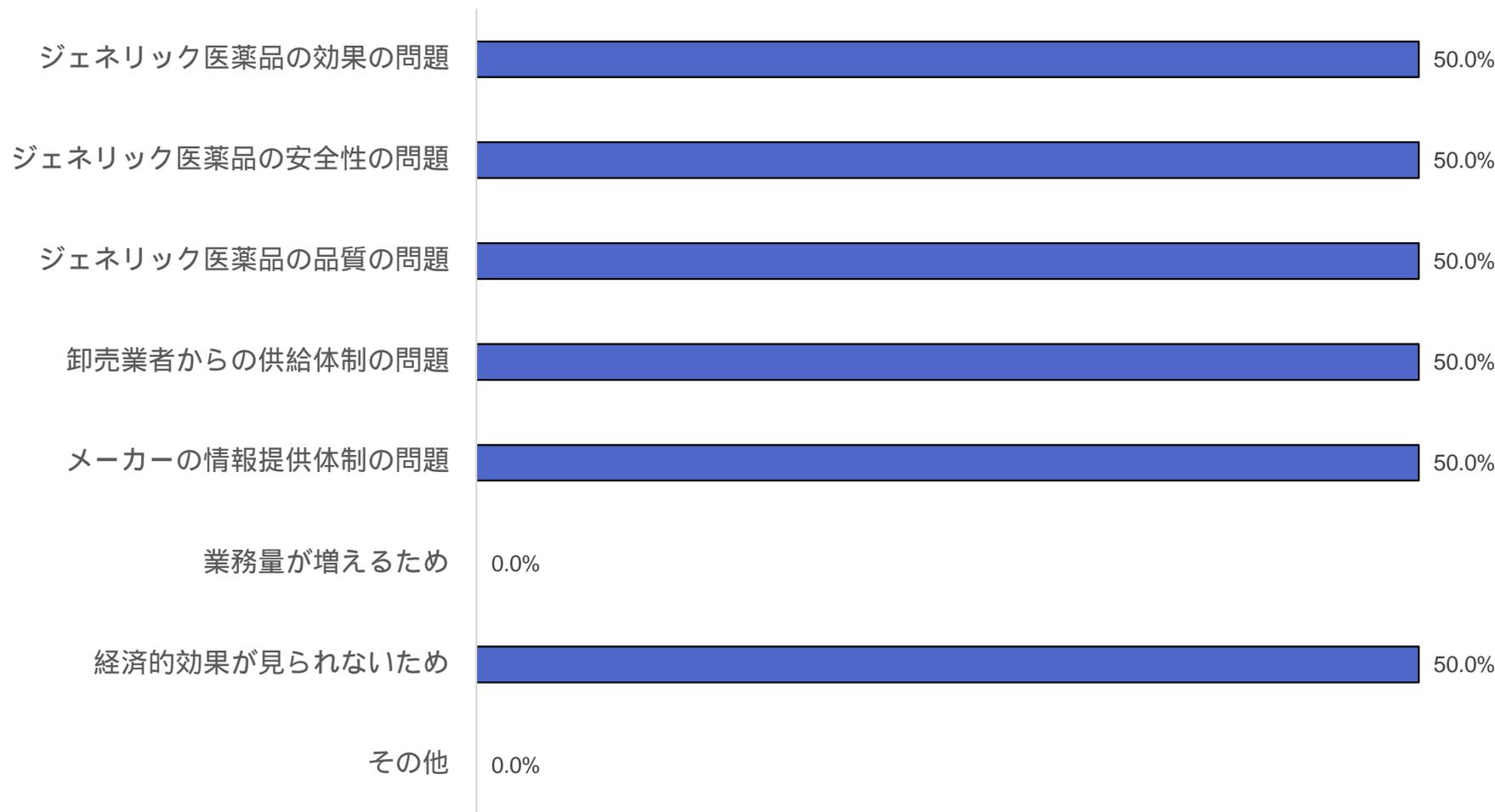
問14. 《問13で「2.積極的に採用もしくは使用したいと考えているが、思うように進まない」と回答した医療機関》ジェネリック医薬品の採用もしくは使用が思うように進まない理由は何ですか。（複数選択式）

● 「その他」が66.7%で最も高く、続いて「院内での意思統一が難しい」が33.3%であった。



問15. 《問13で「3.積極的に使用する必要はないと考えている」と回答した医療機関》ジェネリック医薬品を積極的に使用する必要がないと思う理由は何ですか。（複数選択式）

- 「ジェネリック医薬品の効果の問題」、「ジェネリック医薬品の安全性の問題」、ジェネリック医薬品の品質の問題」、「卸売販売業者からの供給体制の問題」、「メーカーの情報提供体制の問題」、「経済的効果がみられないため」の意見があった。



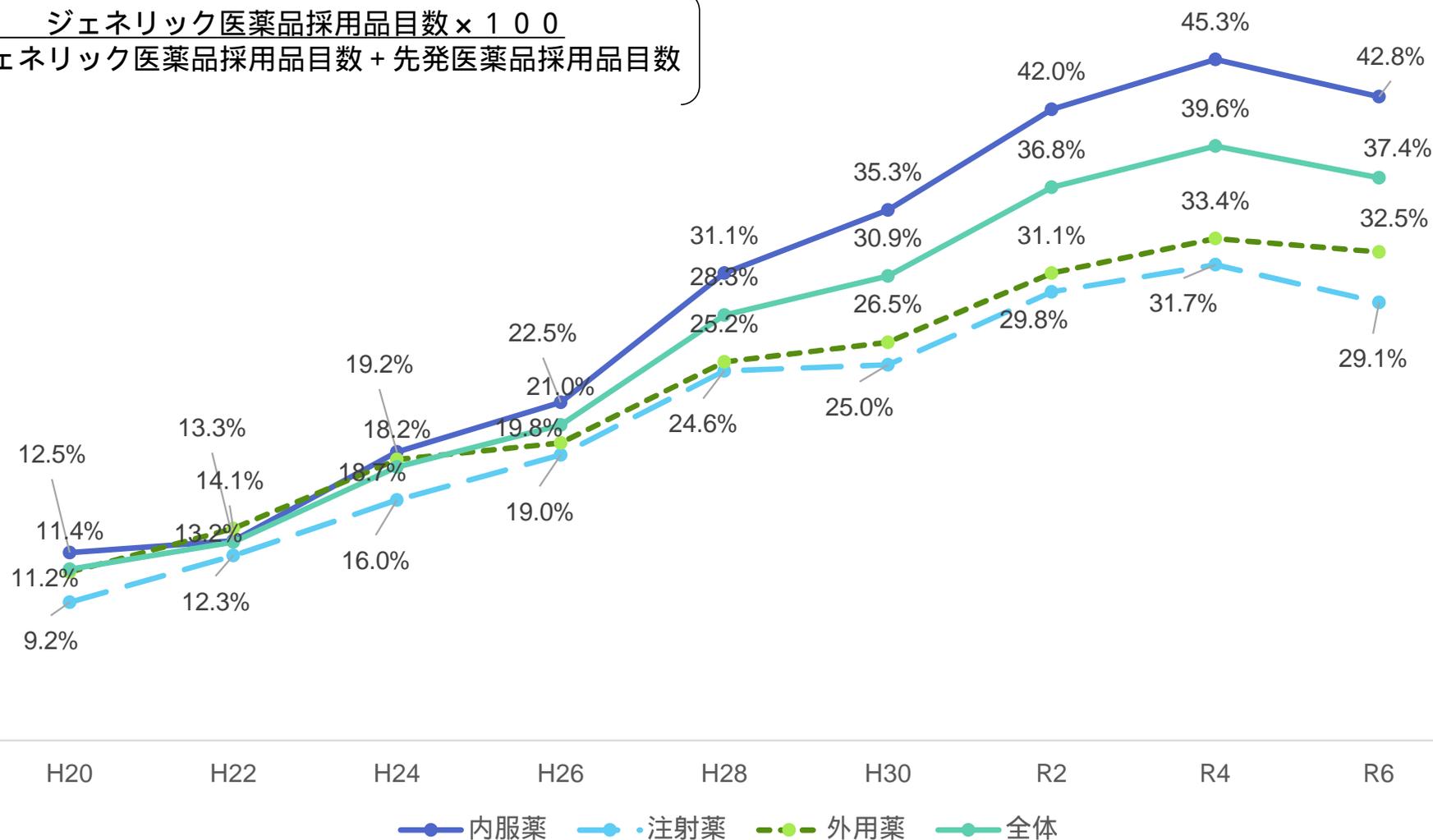
R6

問16. 令和6年5月現在、あなたの医療機関における先発医薬品とジェネリック医薬品の採用状況（品目数）についてお答えください。（記入式）

- ジェネリック医薬品の採用品目割合について、R6年度は初めて前回調査年度からどの品目も下がる傾向となった。R6年度は内服薬が42.8%で最も高く、注射薬が29.1%で最も低かった。また、全体（内服薬 + 注射薬 + 外用薬）は37.4%であった。
- R4年度から全体の割合が2.2ポイント減少した。

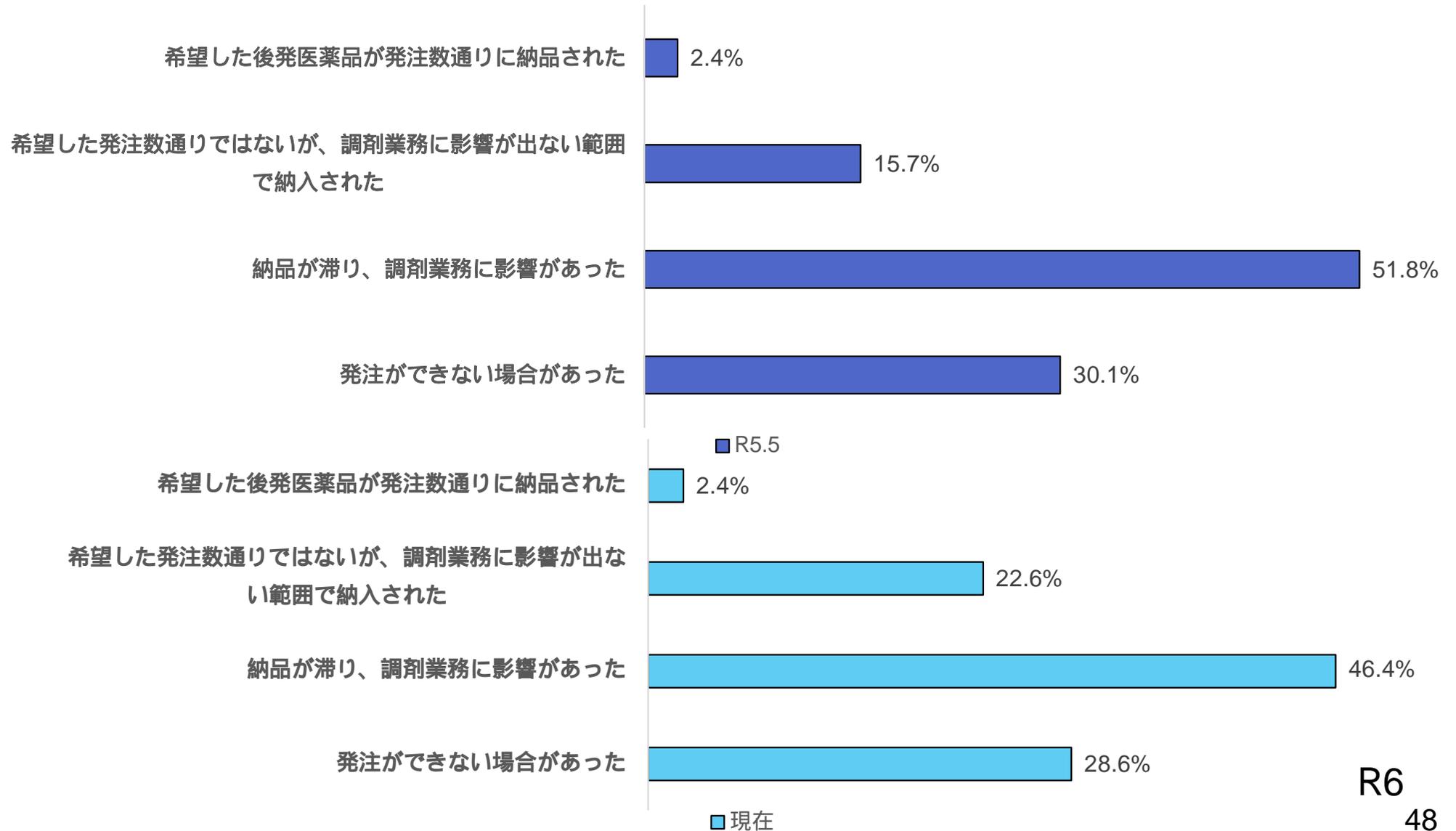
○ジェネリック医薬品の採用品目割合

$$\frac{\text{ジェネリック医薬品採用品目数} \times 100}{\text{ジェネリック医薬品採用品目数} + \text{先発医薬品採用品目数}}$$



問17. 2020年以降、複数の医薬品製造メーカーが起こした不祥事案に端を発し、後発医薬品における製品供給体制が不安定になりました。あなたの医療機関で採用している後発医薬品の「令和5年5月」及び「現在(令和6年5月)」の納入状況についてお答えください。(単一選択式)

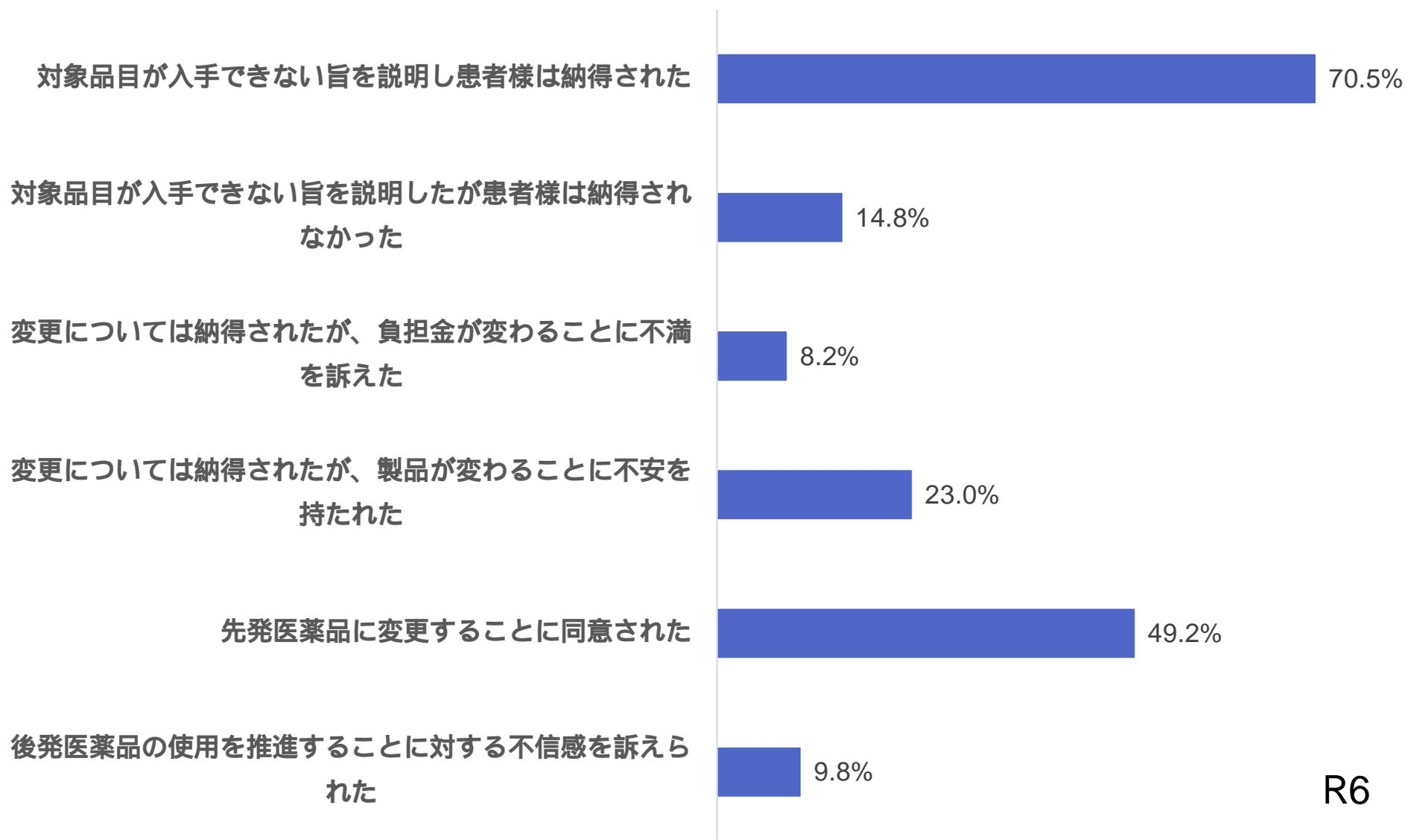
- 「令和5年5月」の納入状況では、「納品が滞り、調剤業務に影響があった」が51.8%で最も高く、続いて「発注できない場合があった」が30.1%であった。
- 「現在」の納入状況では、「納品が滞り、調剤業務に影響がある」が46.4%で最も高く、続いて「発注できない場合があった」が28.6%であった。



問18. 《問17で現在の状況において、「3. 納品が滞り、調剤業務に影響がある」、「4. 発注ができない場合ある」と回答した医療機関》医薬品の変更に対する患者様の反応をすべて選んでください（複数選択式）

病院

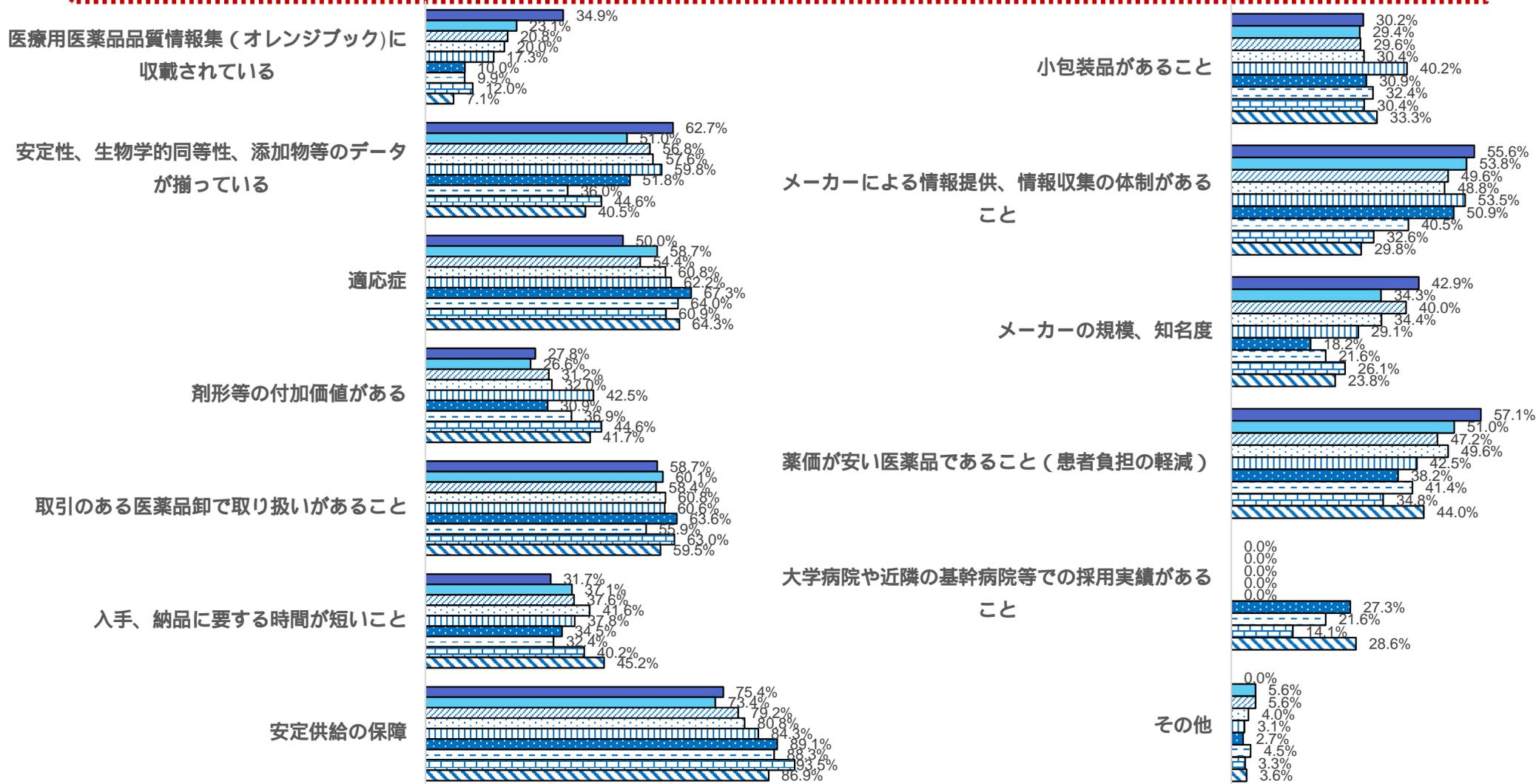
- 「対象品目が入手できない旨を説明し患者様は納得された」が70.5%で最も高く、続いて「先発医薬品に変更することに同意された」が49.2%であった。



R6

問19. あなたの医療機関がジェネリック医薬品を選ぶ際に重視している事項は何ですか。  
(複数選択式)

- R6年度は「安定供給の保障」が86.9%で最も高く、続いて「取引のある医薬品卸で取り扱いがあること」、「適応症」であった。
- H20年度から「安定供給の保障」が11.5ポイント増加した。



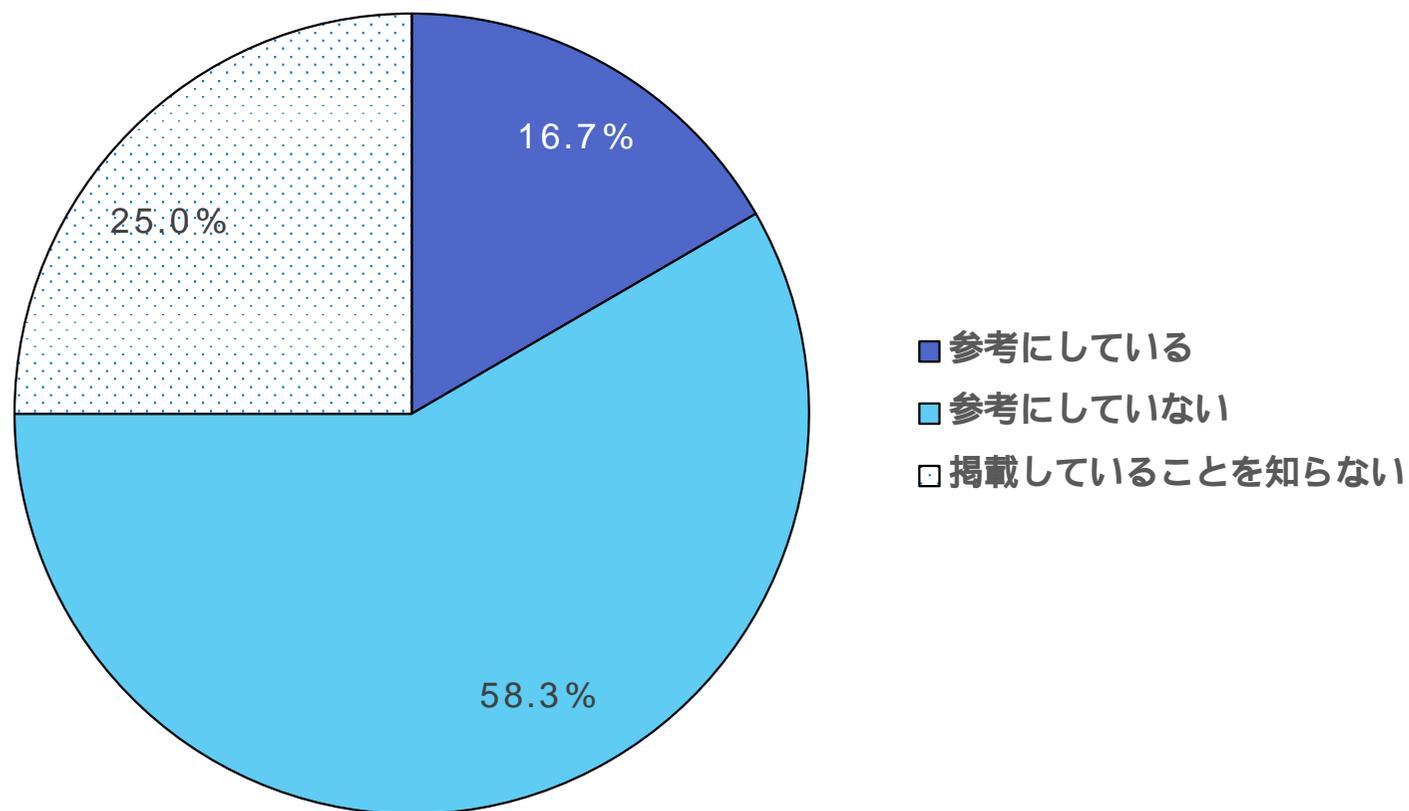
■平成20年度 ■平成22年度 ■平成24年度 □平成26年度 □平成28年度  
■平成30年度 □令和2年度 ■令和4年度 ■令和6年度

■平成20年度 ■平成22年度 ■平成24年度 □平成26年度 □平成28年度  
■平成30年度 □令和2年度 ■令和4年度 ■令和6年度

問20．あなたの医療機関がジェネリック医薬品を選ぶ際に、本県ホームページに掲載している県内主要医療機関のジェネリック医薬品採用品目リストを参考にしていますか？（単一選択式）

病院

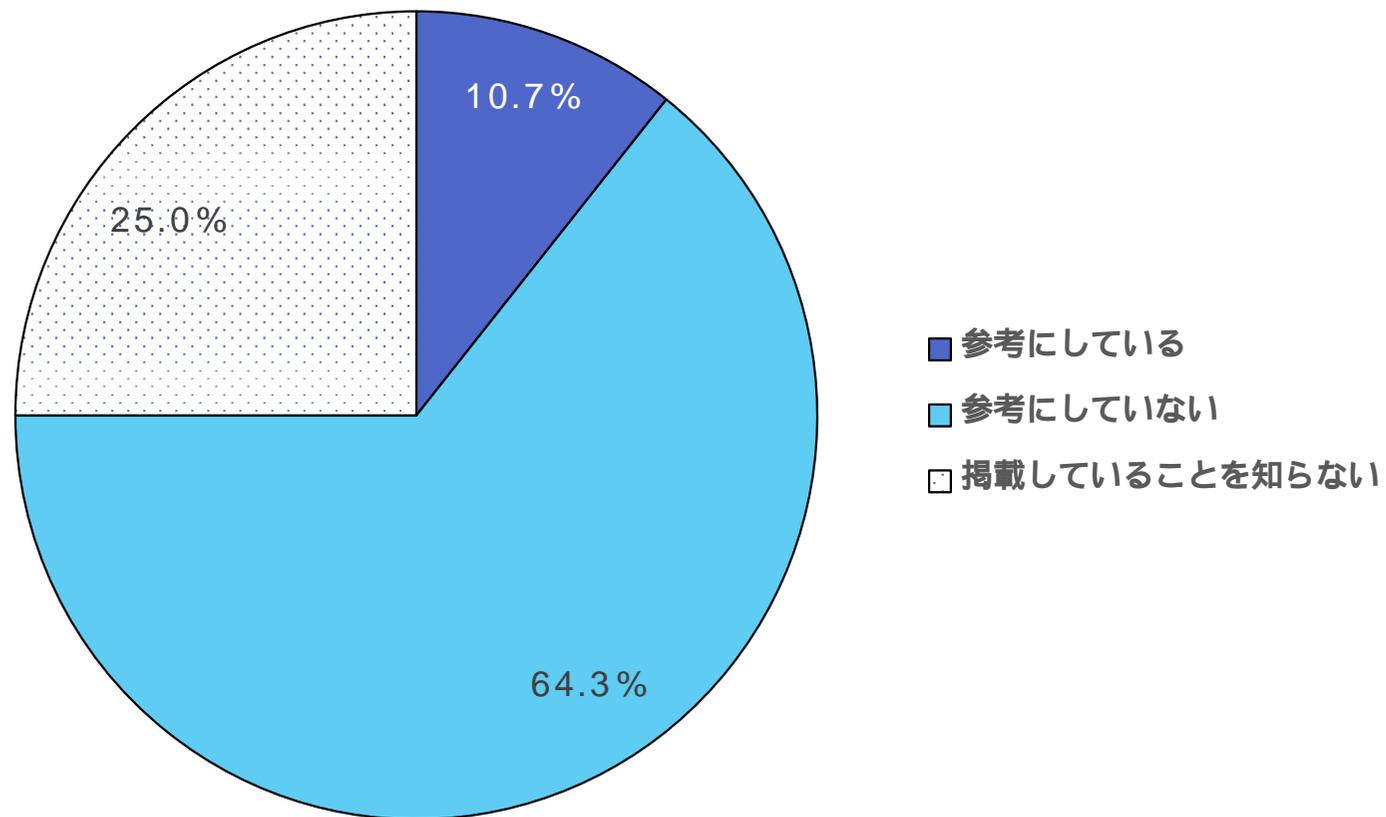
- 「参考にしている」が16.7%であり、「掲載していることを知らない」が25.0%であった。



R6

問21. あなたの医療機関がジェネリック医薬品を選ぶ際に、国の「後発医薬品品質確保対策事業」検査結果報告書を参考にしていますか？（単一選択式）

- 「参考にしている」が10.7%であり、「掲載していることを知らない」が25.0%であった。



R6

問22. 医学的見地から、ジェネリック医薬品が適さない、使用したくないと考える領域等（疾患など）があれば、お答えください。（自由記載）

- 循環器内科関係が4件で最も多かった。

#### 循環器内科関係 4件

- ・ 薬剤の溶解速度、放出速度が少し異なれば、心機能に影響するため
- ・ 生物学的同等性が保障されない 等

#### 抗てんかん薬関係 2件

- ・ ガイドライン、学会で使用が推奨されていないため
- ・ 抗てんかん薬で血中濃度のチェックが必要なもの

#### 呼吸器疾患関係 2件

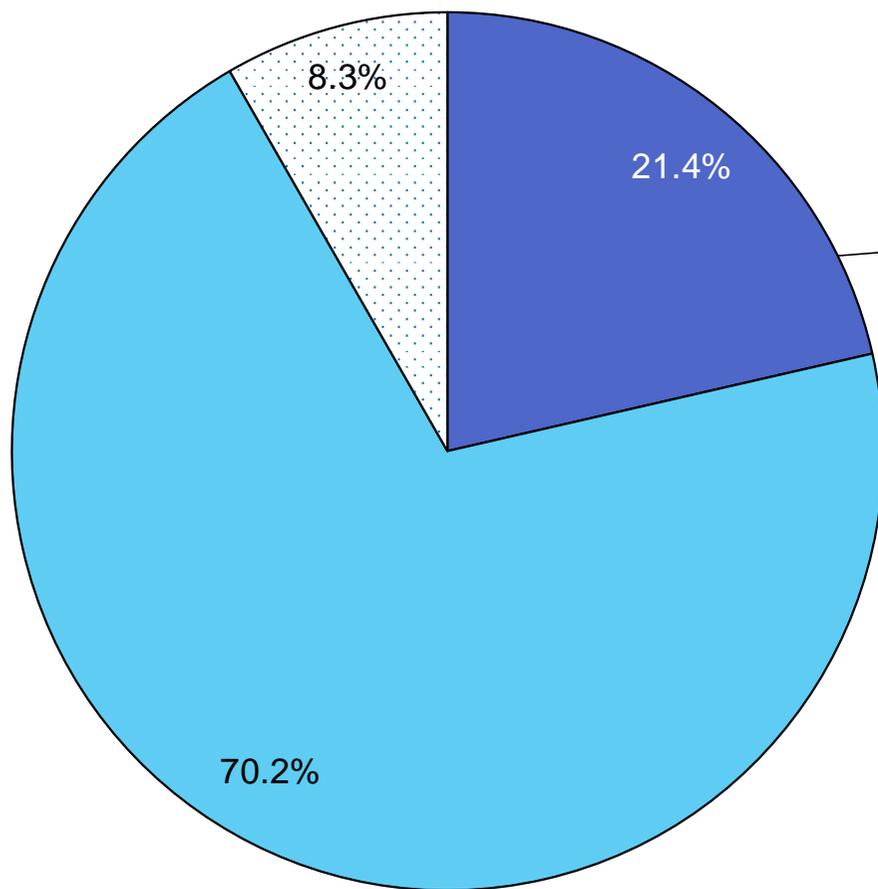
- ・ 血中濃度の同等性に疑問がある
- ・ 有効成分の体内への放出が同等でないため

#### 抗癌剤関係 1件

#### 抗パーキンソン病薬関係 1件

問23. これまでに、ジェネリック医薬品の使用にあたり、院内の薬剤部又は院外処方せんを  
 応需した調剤薬局との間で問題がありましたか。また、問題となった内容について簡単に  
 記入ください。（単一選択・記入式）

- 「あった」が21.4%であり、その内容としてジェネリック医薬品の安定供給に関する問題が15件であった。



- 供給体制が悪く変更になった事例。（15件）
- 吸入デバイスが先発と正確に同じとは言えない（2件）
- その他（1件）

■ あった ■ なかった ■ 無回答

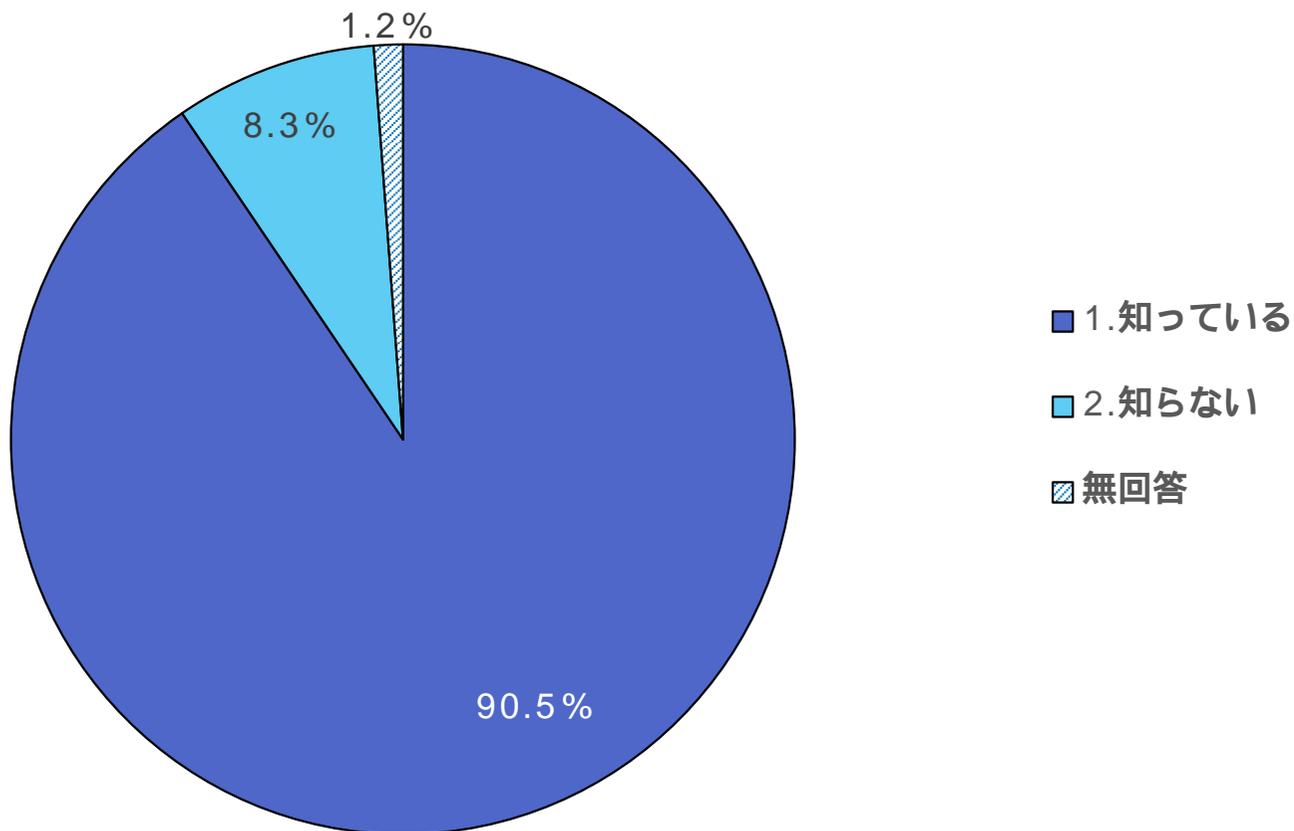
問24.ジェネリック医薬品には、剤形のサイズや味などに工夫がされ、患者が服用しやすいものがあります。ジェネリック医薬品に切り替えて、患者の服薬状況が良くなった、効果が良くなった等の事例があればお答えください。（自由記載）

- 使用感がよくなった、コンプライアンスが向上したといった事例が回答されていた。

- 使用感が良くなった、コンプライアンスが向上した
  - ・ 剤型が変わり飲みやすくなった（錠 OD錠、カプセル 錠 等） 3件

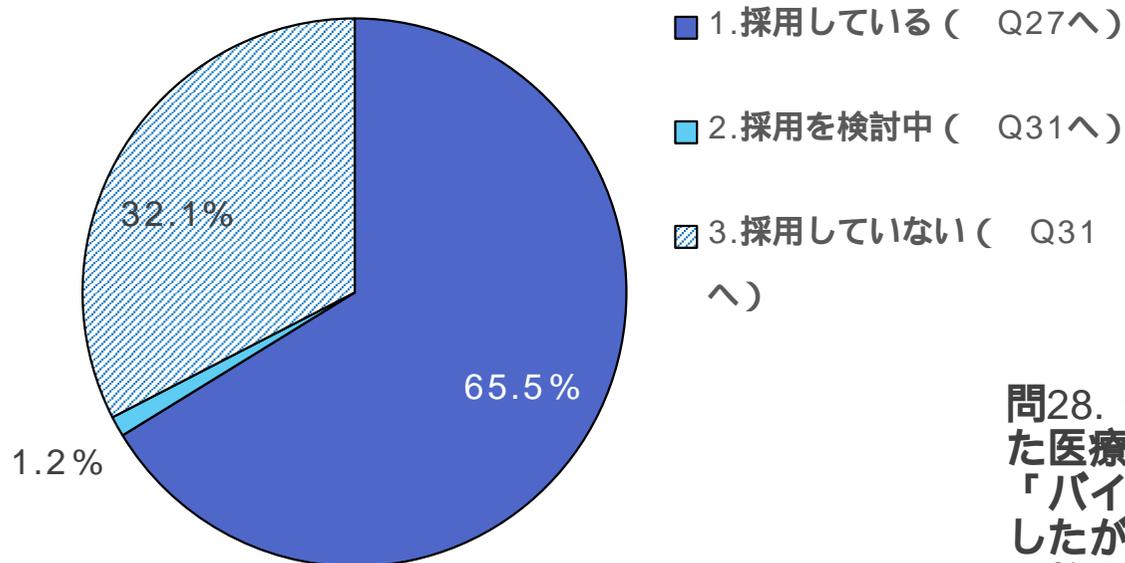
## 問25. バイオシミラー（バイオ後続品）という言葉を知っていますか。（単一選択式）

- 「知っている」が90.5%であった。



問26.あなたの医療機関では、バイオシミラー（バイオ後続品）を採用していますか。（単一選択式） あくまで医療機関内（院内）で使用するバイオシミラーがあることを指します。

● 「採用している」は65.5%であった。



問28.《問26で「1.採用している」と回答した医療機関》令和6年度の診療報酬改定で「バイオ後続品使用体制加算」が新設されましたが、あなたの医療機関が算定可能かどうか教えてください。（単一選択式）

1.算定可能	16	29%
2.算定不可	36	65%

問27.《問26で「1.採用している」と回答した医療機関》令和6年5月現在のバイオシミラー（バイオ後続品）の採用品目数を教えてください。

○バイオシミラーの採用品目割合 = 36.2%

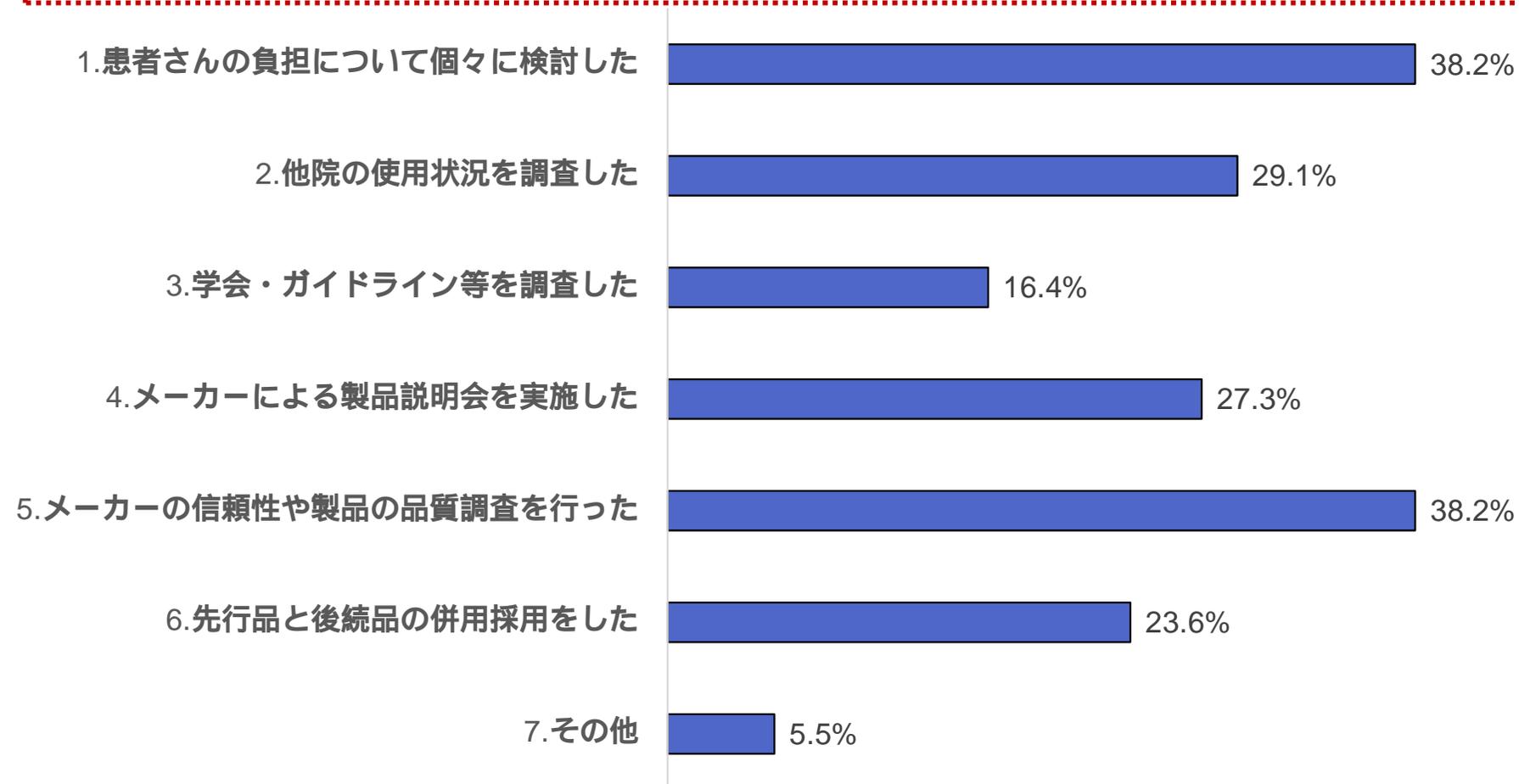
$$\left( \frac{\text{バイオ後続品品目数} \times 100}{\text{バイオ医薬品 (先行バイオ医薬品 + バイオ後続品採用品目数)}} \right)$$

算定不可の理由

- ・実績が足りない。
- ・医事課の対応が進んでいない。
- ・対象薬を必要としていないため。等

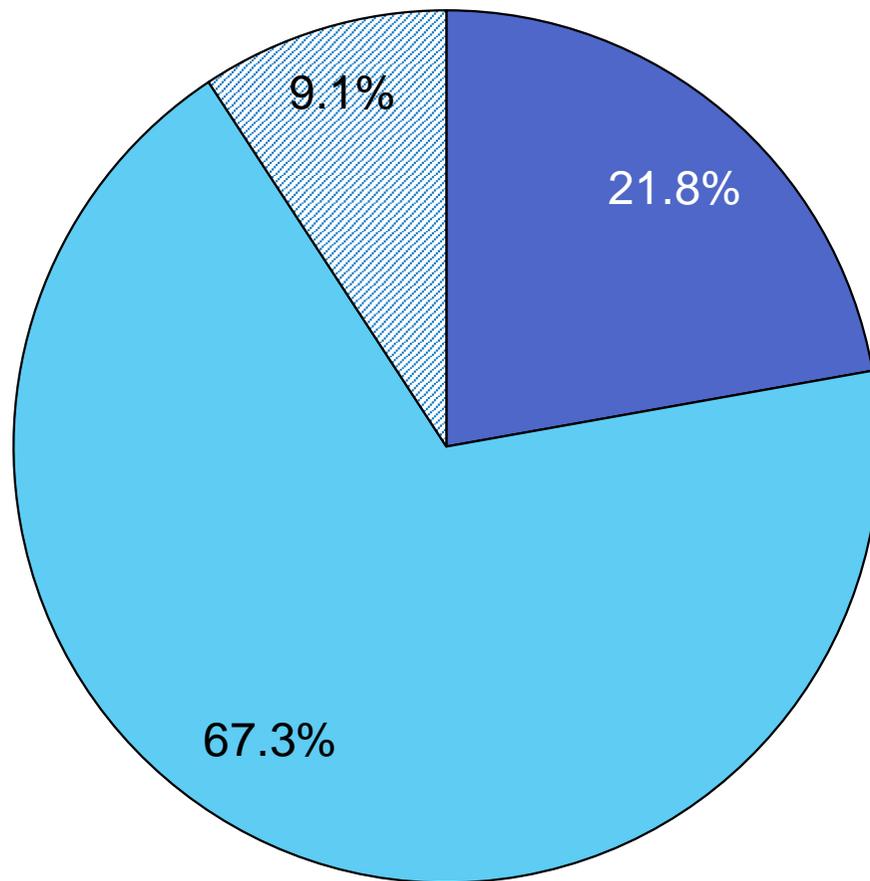
問29. 《問26で「1.採用している」と回答した医療機関》バイオシミラー（バイオ後続品）を採用するにあたり、取り組んだことを教えてください。

- 「患者さんの負担について個々に検討した」、「メーカーの信頼性や製品の品質調査を行った」が最も多い取組みであった。



問30. 《問26で「1.採用している」と回答した医療機関》バイオシミラー（バイオ後続品）を採用するについて、今後の状況を教えてください。

- 「採用を拡大する」又は「採用の拡大を検討している」を合わせて89.1%であった。

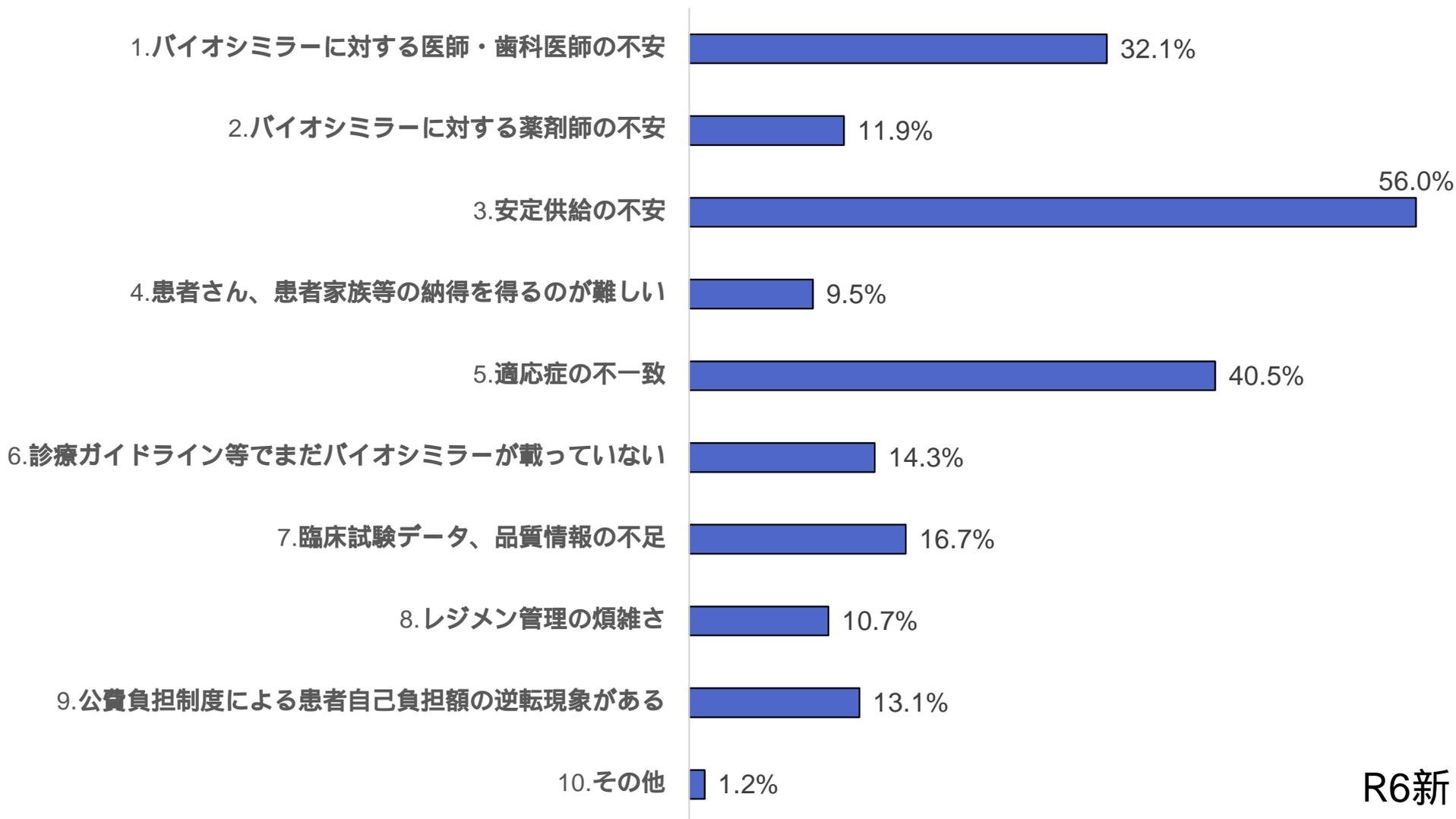


■ 1.採用を拡大する   ■ 2.採用の拡大を検討している   ■ 3.採用拡大は検討していない

R6新

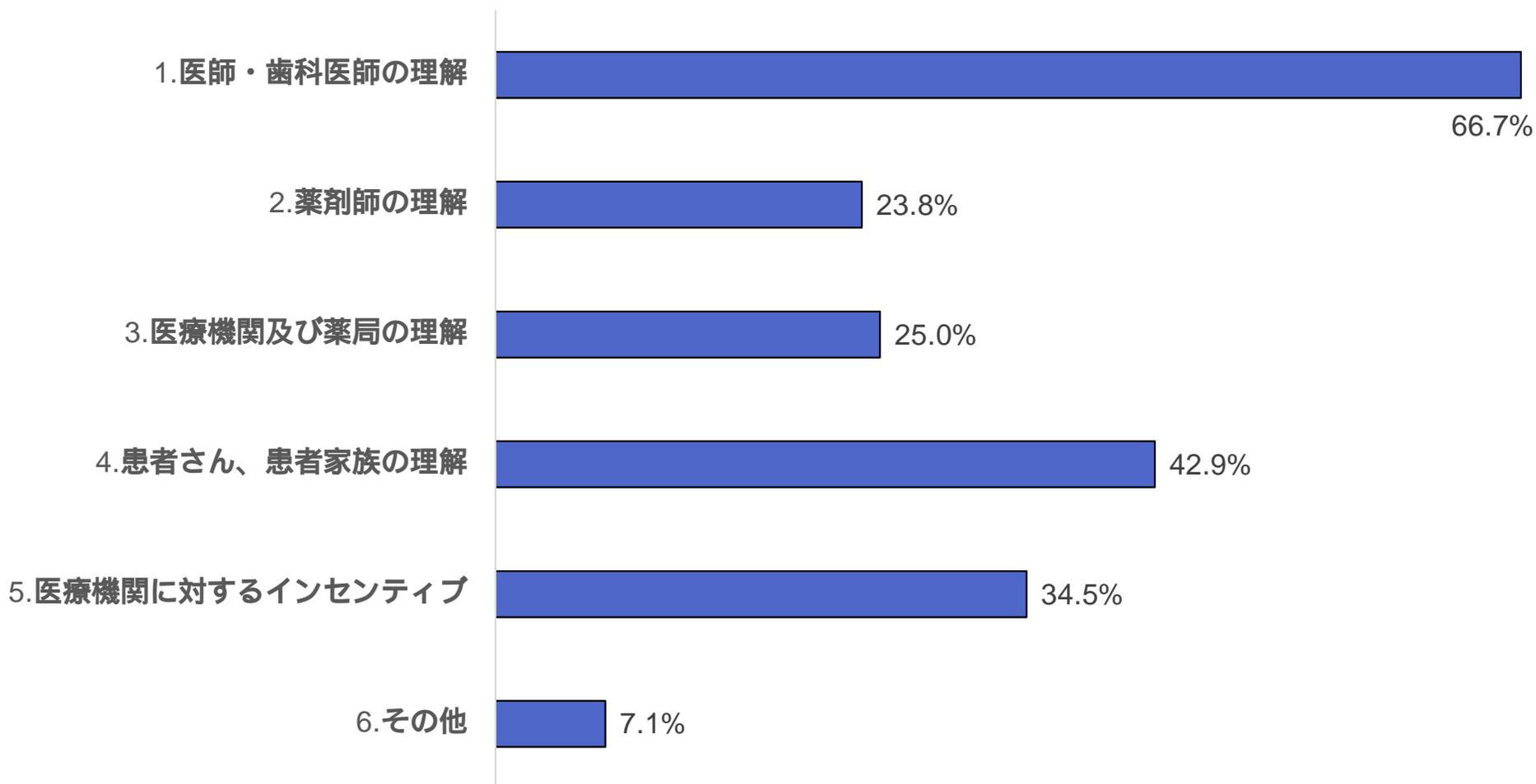
問31. バイオシミラー（バイオ後続品）の使用促進にあたり、どのような課題があると思いますか。（複数選択式）

- 「安定供給の不安」が56.0%で最も多く、続いて「適応症の不一致」が40.5%、「バイオシミラーに対する医師・歯科医師の不安」32.1%となった。



問32. バイオシミラー（バイオ後続品）の普及促進のために必要なことは何だと思えますか。  
（複数選択式）

- 「医師、歯科医師の理解」が66.7%と最も高く、続いて「患者さん、患者家族の理解」42.9%、「医療機関に対するインセンティブ」34.5%となった。

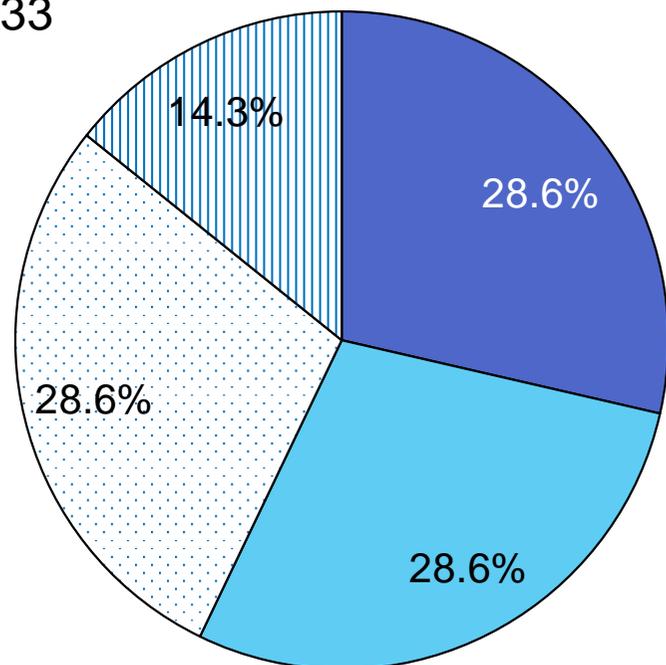


問33. 地域フォーミュラリという言葉を知っていますか。(単一選択式)

問34. あなたの医療機関でフォーミュラリを定めていますか。(単一選択式)

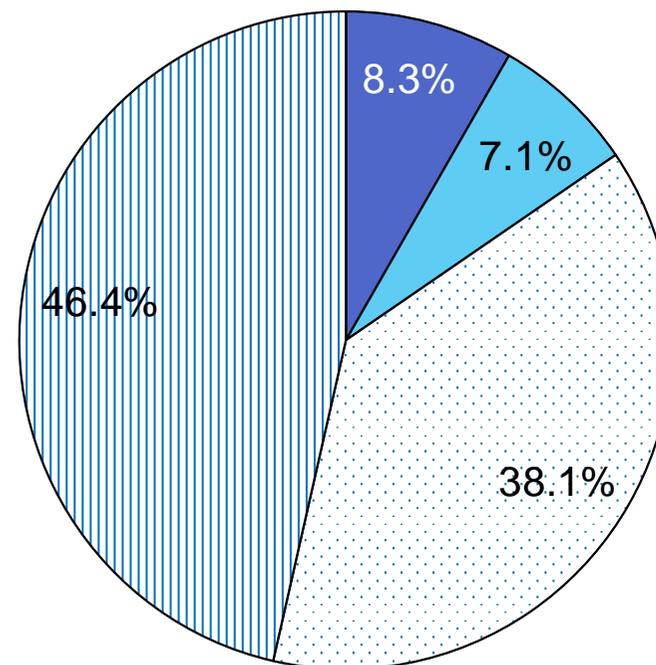
- 問33 「よく知っている」は28.6%であった。
- 問34 「既に定めている」は8.3%にとどまった。

問33



- 1.よく知っている
- 2.少し知っている
- 3.聞いたことはあるがよくわからない
- ▨ 4.まったく知らない、聞いたことがない

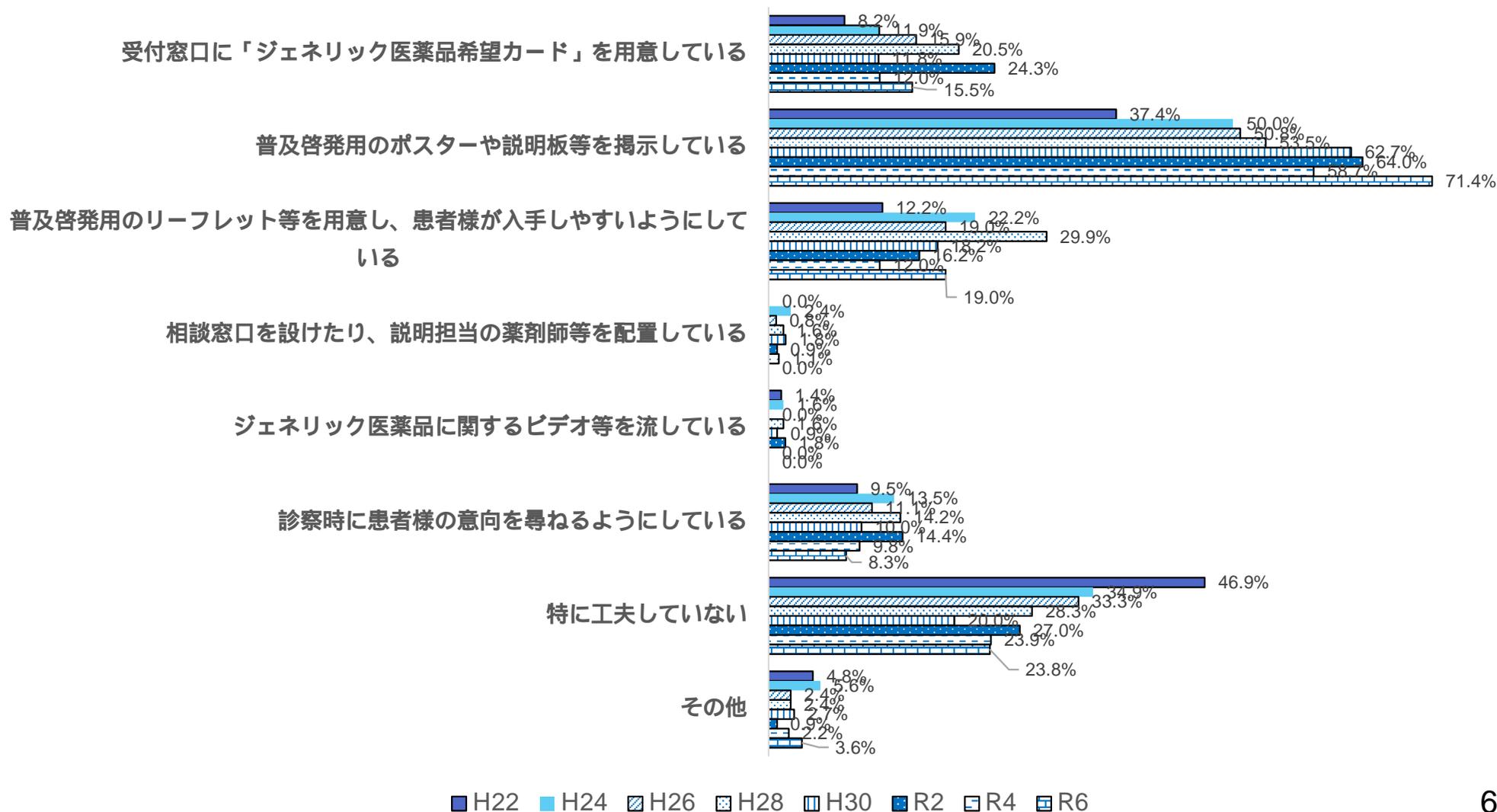
問34



- 1.既に定めている
- 2.今は定めていないが定める予定がある
- 3.今は定めていないが興味はある
- ▨ 4.定めていない(今後定める予定はない)

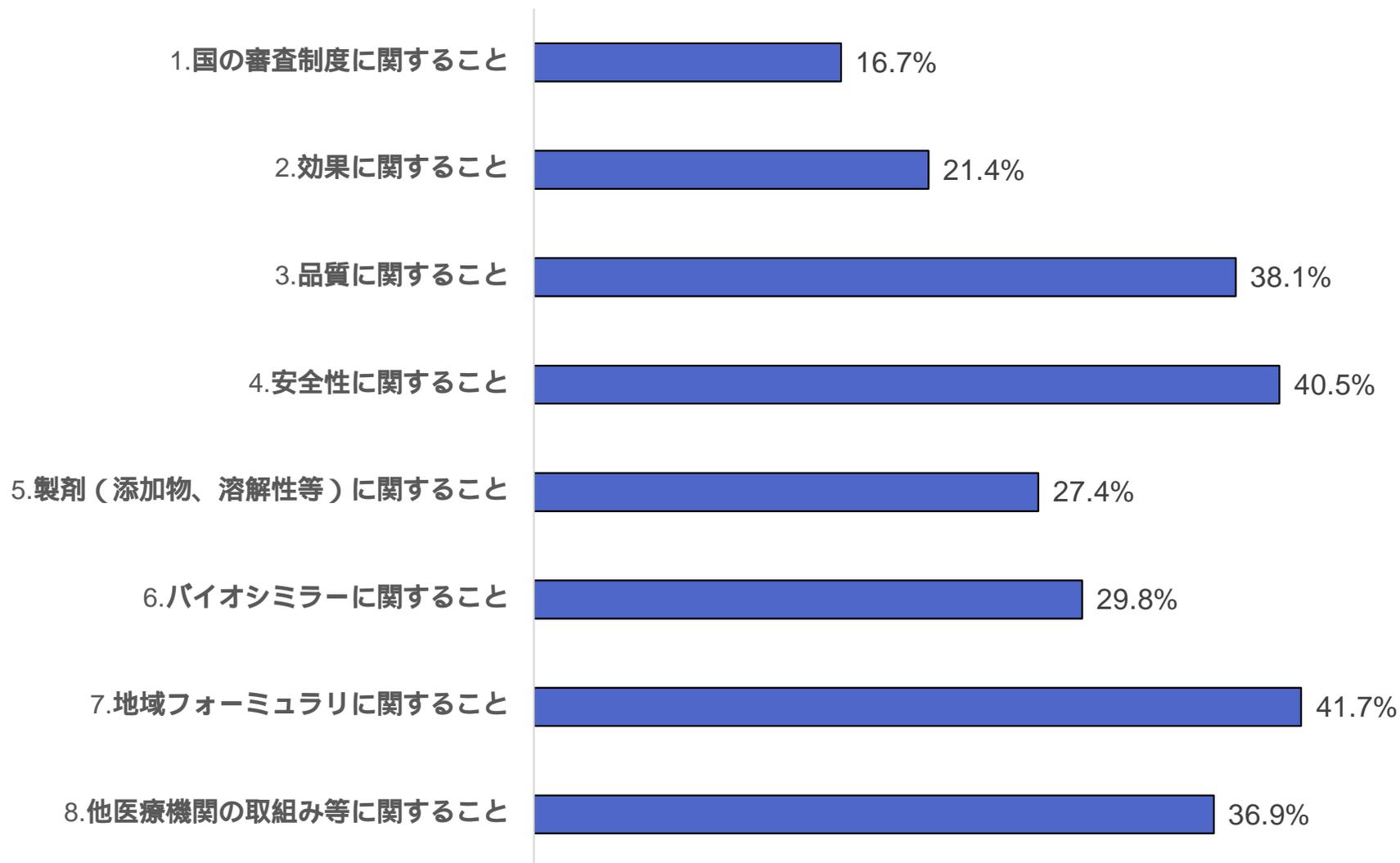
問35. あなたの医療機関では、患者様がジェネリック医薬品を頼みやすくなるような工夫をしていますか。（複数選択式）

- R6年度は「普及啓発用のポスターや説明板等を掲示している」が71.4%で最も高く、続いて「特に工夫していない」が23.8%、「普及啓発用のリーフレット等を用意し患者様が入手しやすいようにしている」が19.0%、「窓口受付に「ジェネリック医薬品希望カード」を用意している」15.5%であった。
- H22年度から「普及啓発用のポスターや説明板等を掲示している」が34.0ポイント増加した。一方で「特に工夫していない」は23.1ポイント減少した。



問36．本県では定期的（年1～2回）に有識者を招いて医療従事者向けのジェネリック医薬品に関する研修会（参加費無料）を開催しています。希望する研修の内容についてお答えください。（複数選択式）

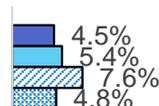
- 「地域フォーミュラリに関すること」が41.7%で最も高く、続いて「安全性に関すること」が40.5%、「品質に関すること」が38.1%であった。



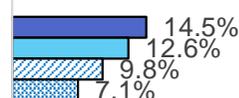
問37. ジェネリック医薬品の利用に関して、行政（厚生労働省、長崎県福祉保健部薬務行政室）の施策に対し要望することがあれば、該当するものを2つ以内で選んでください。（2つ選択）

- R6年度は「ジェネリック医薬品を安定的に市場へ供給できる体制づくり」が88.1%で最も高く、続いて「品質の高いジェネリック医薬品とするためのメーカーへの指導」が42.9%であった。
- H30年度と比較すると、「ジェネリック医薬品を安定的に市場へ供給できる体制づくり」が27.2%増加した。

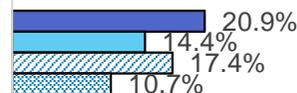
ジェネリック医薬品が市場に流通するまでの審査の仕組みについての周知



医療関係者へのジェネリック医薬品に関する情報の提供（研修会の開催など）



患者へのジェネリック医薬品に関する情報の提供



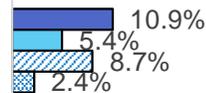
品質の高いジェネリック医薬品とするためのメーカーへの指導



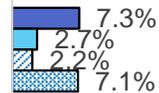
ジェネリック医薬品を安定的に市場へ供給できる体制づくり



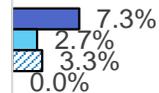
薬局でジェネリック医薬品を確実に選択できる体制づくり



その他



特になし



■ H30 ■ R2 ■ R4 ■ R6

# 診 療 所

# ジェネリック医薬品に関する診療所アンケート調査結果

## ○調査方法

- ・調査票を郵送し、郵送又は電子申請システムから回答

## ○調査時期

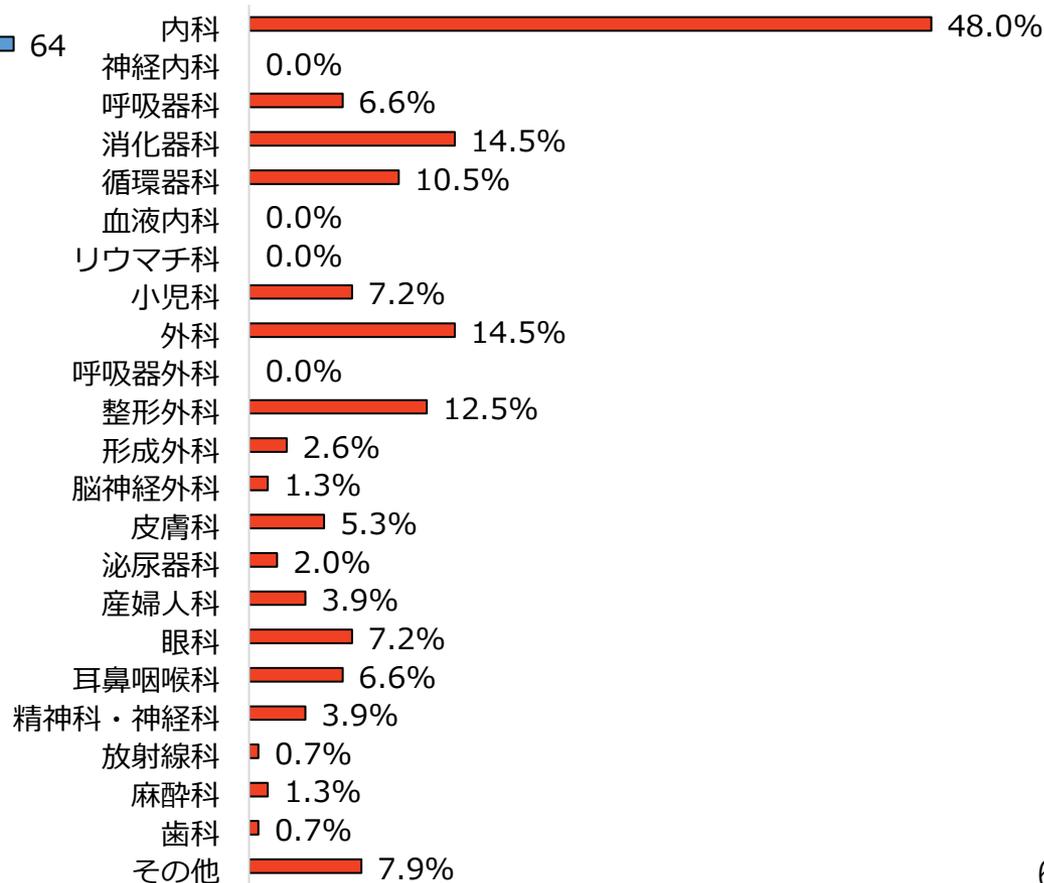
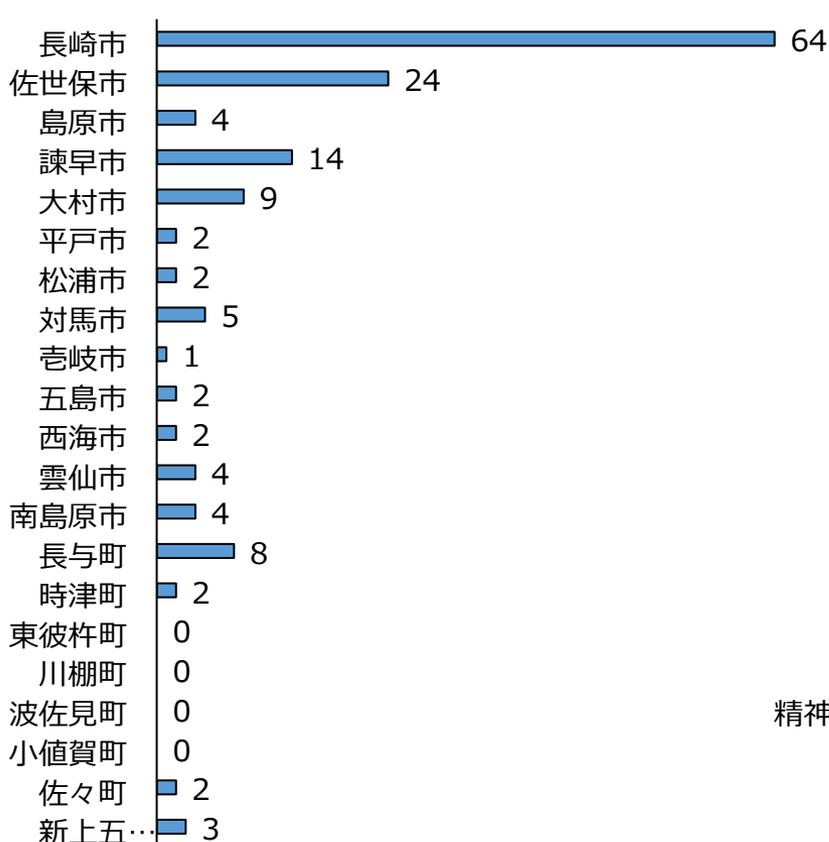
- ・令和6年7月29日から令和6年8月30日まで

## ○調査対象

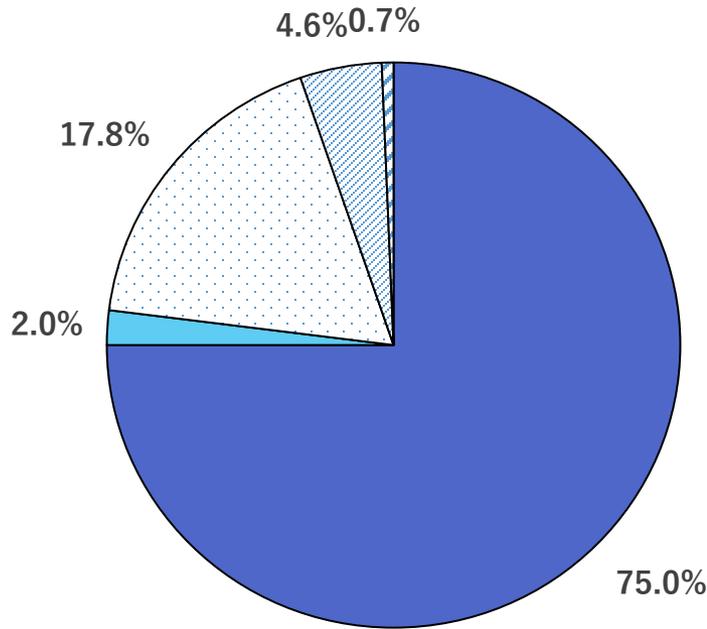
- ・県内すべてすべての診療所から、無作為に抽出した3分の1の診療所

## ○対象者数、回答者数及び回収率

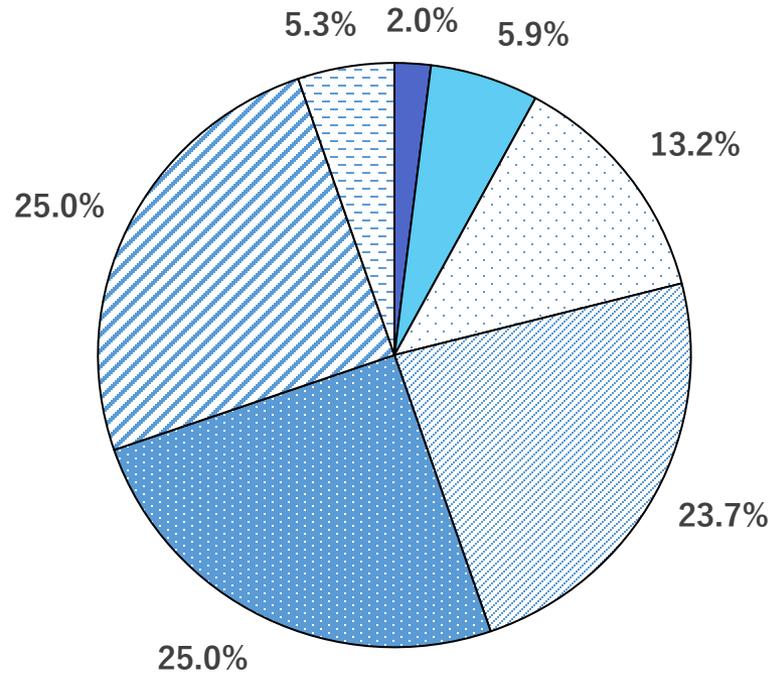
- ・対象施設数：365施設、回答施設数：152施設、回答率：41.6%



問3.ご回答者の職種及び年齢をお答えください。(単一選択式)



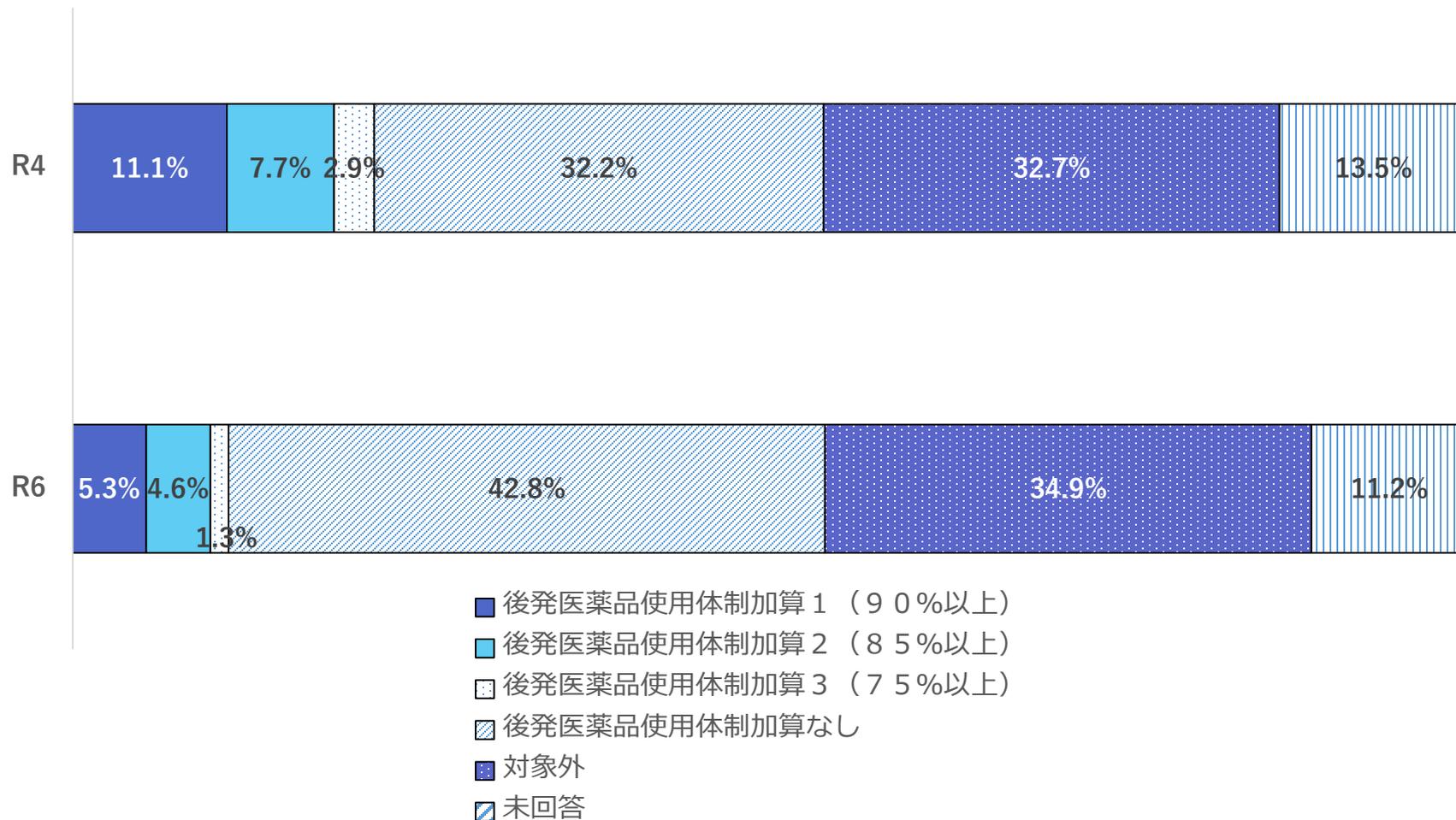
- 医師（歯科医師）
- 薬剤師
- 事務職員
- その他
- 無回答



- 30歳未満
- 30歳以上40歳以上
- 40歳以上50歳未満
- 50歳以上60歳未満
- 60歳以上70歳未満
- 70歳以上
- 無回答

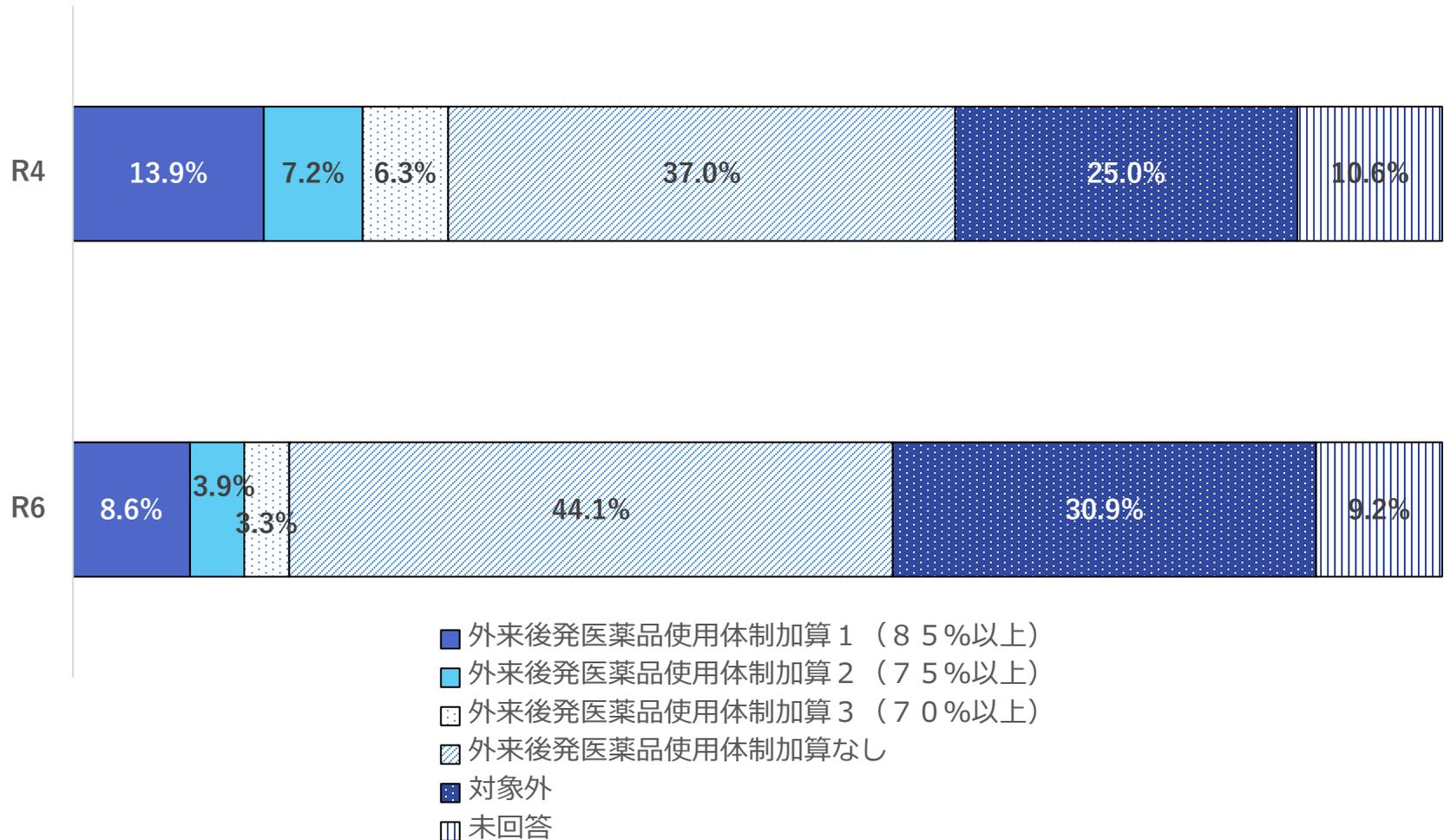
問5.あなたの医療機関の後発医薬品使用体制加算の有無についてお答えください。（単一選択式）

- R6年度は「加算1」が5.3%、「加算2」が4.6%、「加算3」が1.3%であり、後発医薬品使用体制加算を算定している医療機関は全体の11.2%であった。
- R4年度と比較すると、「加算1」が5.8ポイント減少、「加算2」が3.1ポイント減少した。



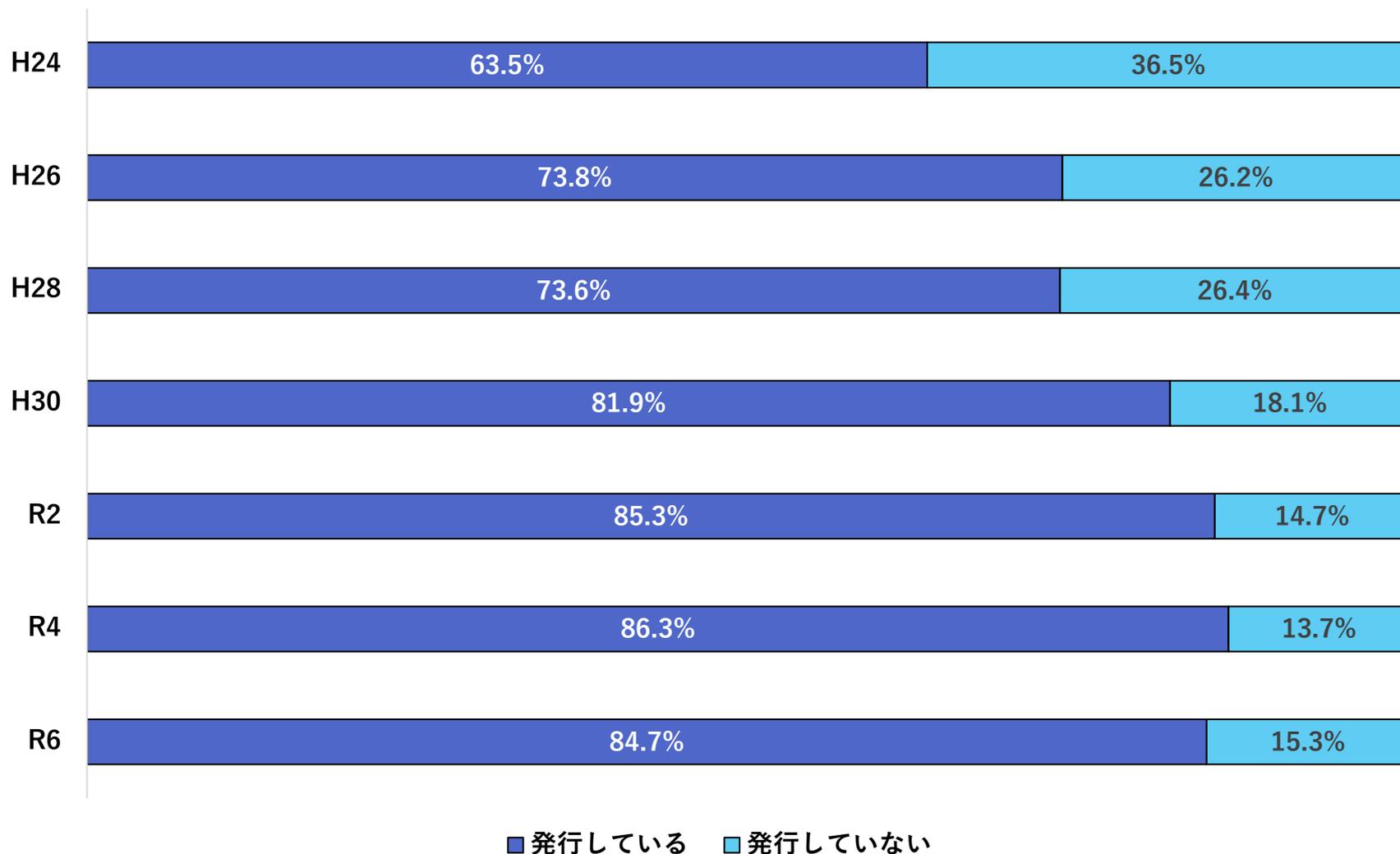
問6.あなたの医療機関の外来後発医薬品使用体制加算の有無についてお答えください。（単一選択式）

- R6年度は「加算1」が8.6%、「加算2」が3.9%、「加算3」が3.3%であり、外来後発医薬品使用体制加算を算定している医療機関は全体の15.8%であった。
- R4年度と比較すると、「加算1」が5.3ポイント減少、「加算2」が3.3ポイント減少した。



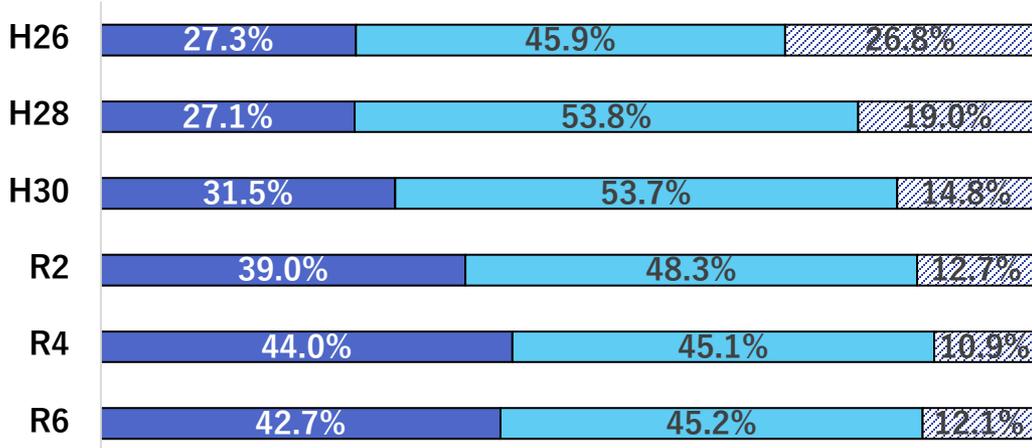
問7. あなたの医療機関では、院外処方せんを発行していますか。（単一選択式）

- R6年度は「発行している」が84.7%であった。
- H24年度から「発行している」が21.2ポイント増加した。



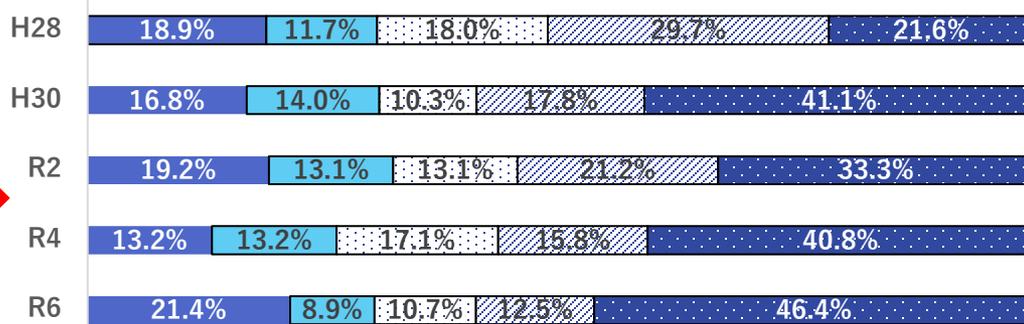
問8. 《問7で「1.発行している」と回答した医療機関》あなたの医療機関では、院外処方せん発行において一般名処方を導入していますか。（単一選択式）

- R6年度は「すべて一般名処方を導入している」が42.7%、「一部に一般名処方を導入している」が45.2%で、合計87.9%であった。
- H26年度から「すべて一般名処方を導入している」が15.4ポイント増加し、一方で「一部に一般名処方を導入している」が0.7ポイント減少したが、合計で14.7ポイント増加した。
- 一部に一般名処方を導入している場合のその割合について、「80～100%」が46.4%で最も高かった。



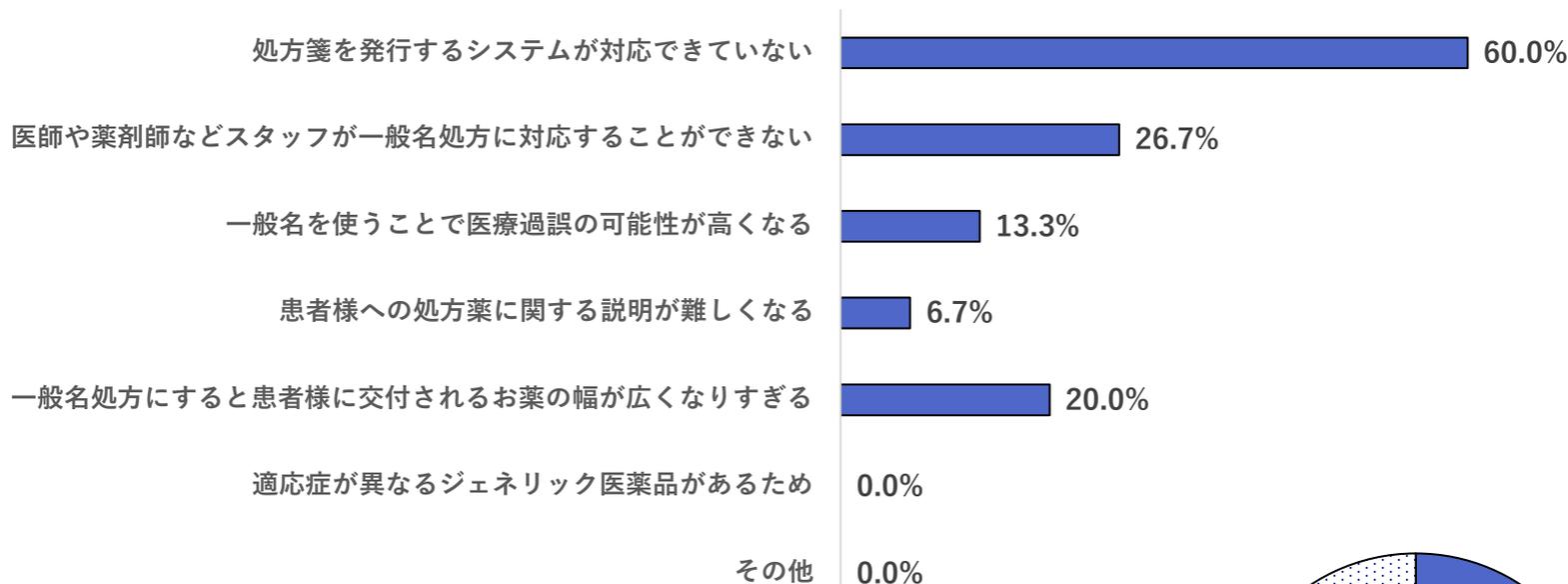
■ すべて一般名処方を導入している   ■ 一部に一般名処方を導入している  
 ▨ 導入していない

「一部に一般名処方を導入している」と回答した場合、その割合



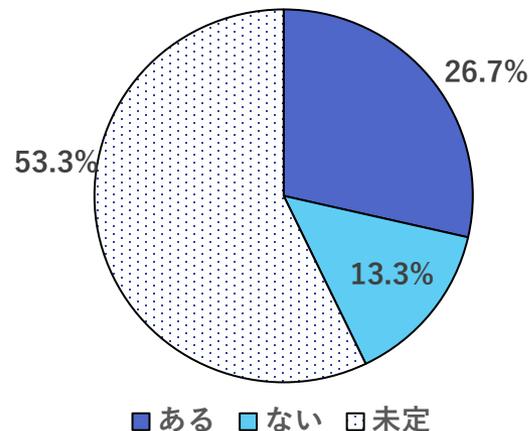
問9. 《問8で「3.導入していない」と回答した医療機関》 一般名処方を導入していない理由は  
何ですか。（複数選択式）

- 「処方箋を発行するシステムが対応できていない」が60.0%で最も高く、続いて「医師や薬剤師などスタッフが一般名処方に対応することができない」が26.7%であった。
- 問9の問題が改善できれば、一般名処方を導入する可能性があるとの回答が26.7%あった。



R6

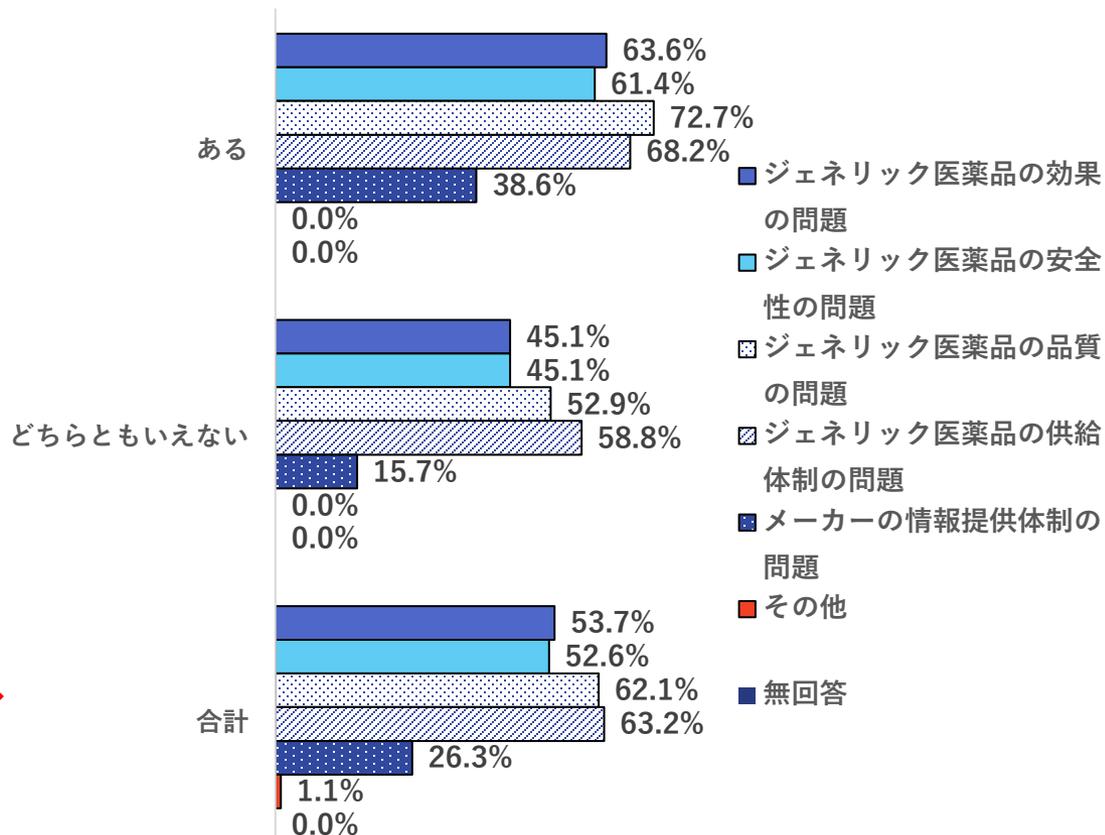
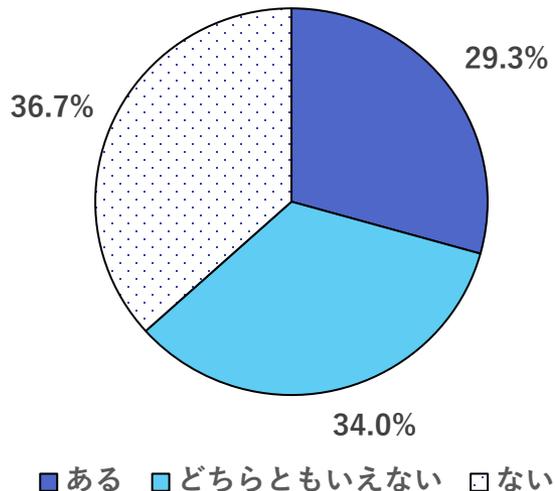
問10. 《問8で「3.導入していない」と回答した医療機関》問9の問題が改善できれば、一般名処方を導入する可能性がありますか。（単一選択式）



■ある □ない □未定

問11.ジェネリック医薬品を使用することに関して、不安感はありますか？（単一選択式）

- 「ある」が29.3%、「どちらともいえない」が34.0%であり、「いいえ」は36.7%であった。
- 不安感を抱いている内容については、「ジェネリック医薬品の供給体制の問題」が63.2%で最も高く、続いて「ジェネリック医薬品の品質の問題」が62.1%、「ジェネリック医薬品の効果の問題」が53.7%であった。



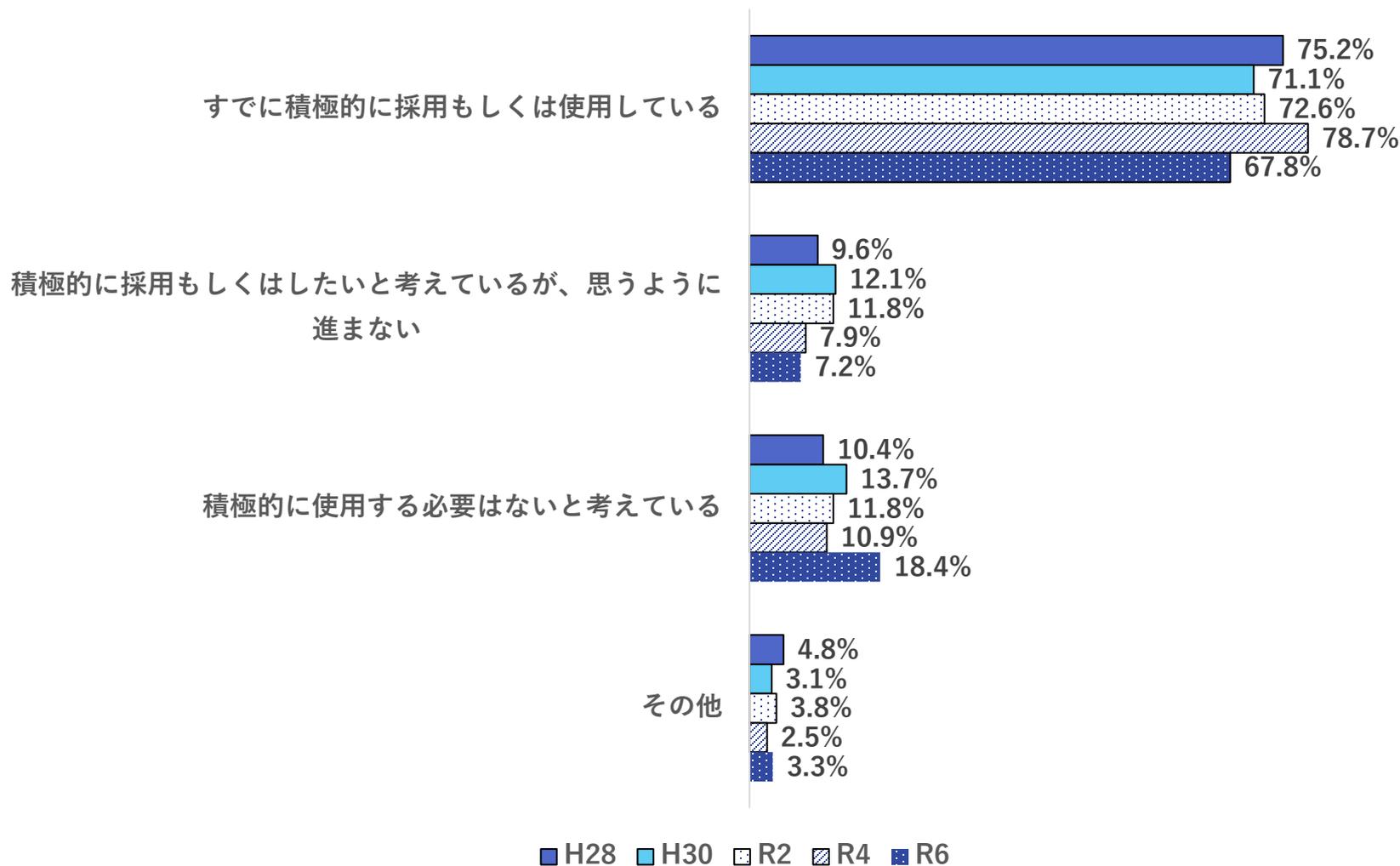
R6



問12. 《問11で「1.ある」、「2.どちらともいえない」と回答した医療機関》不安感を抱いている内容についてお答えください。（複数選択式）

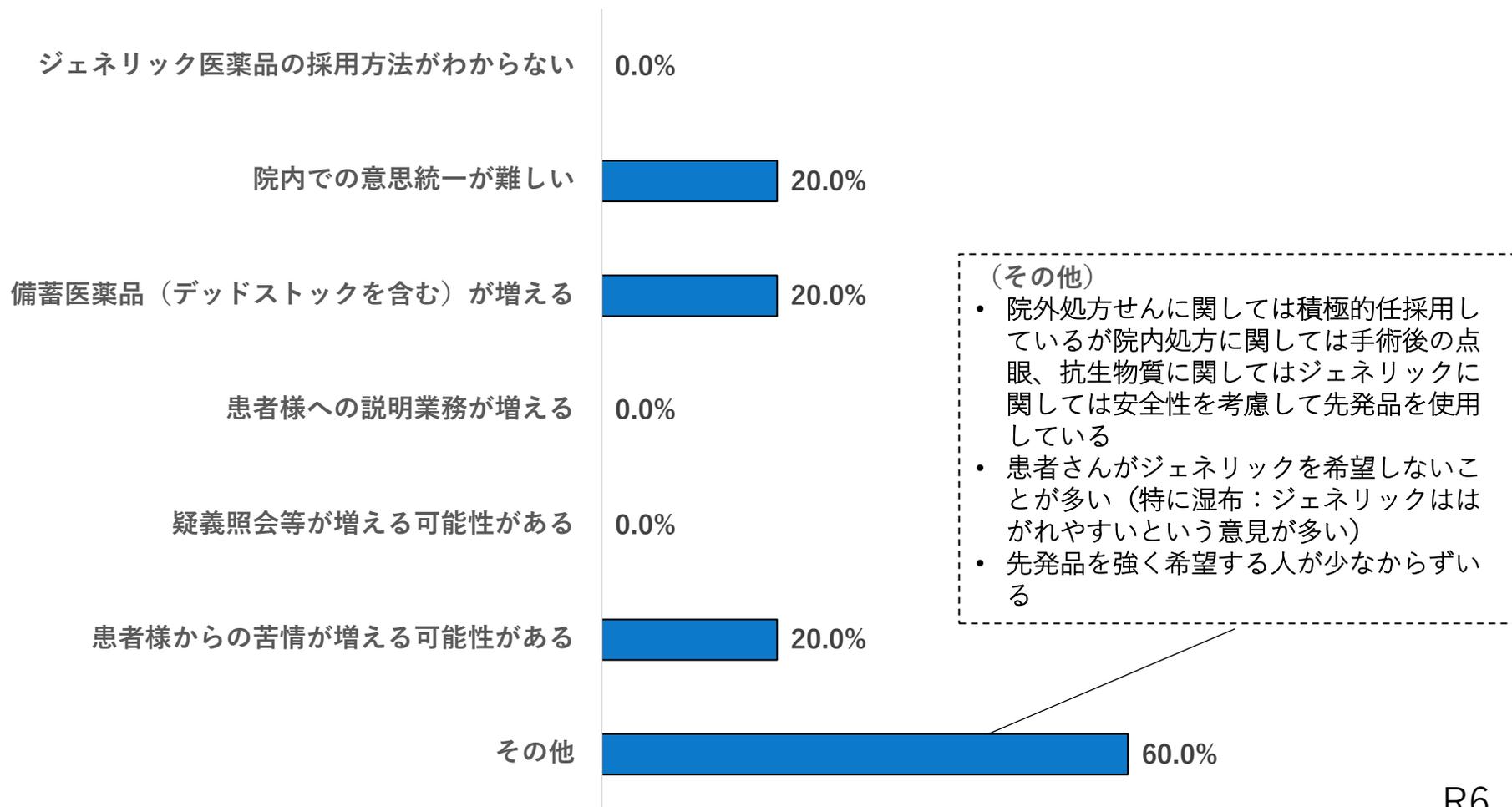
問13. あなたの医療機関では、ジェネリック医薬品を積極的に採用もしくは使用（院外処方を含む）したいと思いますか。（単一選択式）

- R6年度は「すでに積極的に採用もしくは使用している」が67.8%で最も高かった。
- H28年度から大きな変化はなかった。



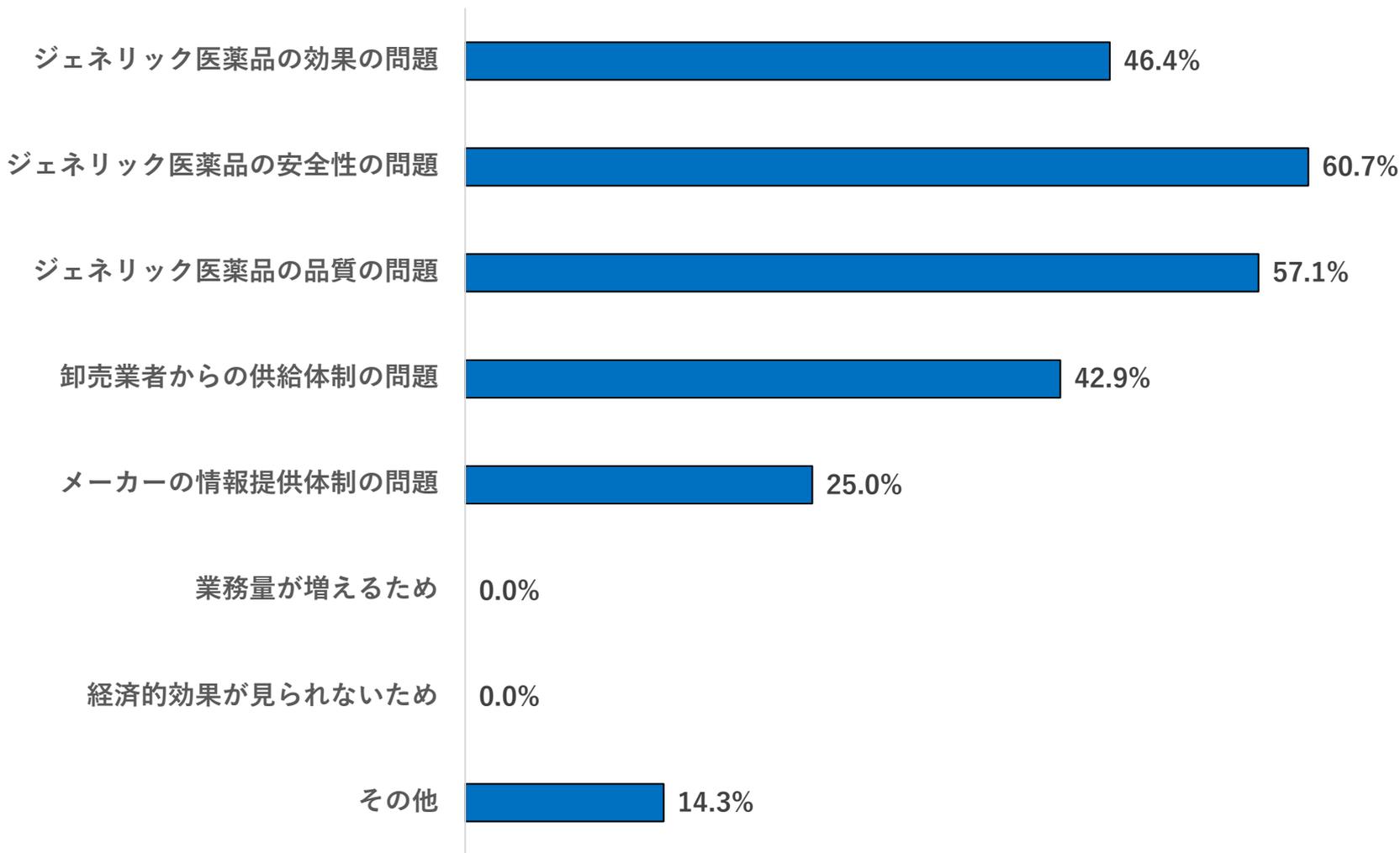
問14. 《問13で「2.積極的に採用もしくは使用したいと考えているが、思うように進まない」と回答した医療機関》ジェネリック医薬品の採用もしくは使用が思うように進まない理由は何ですか。（複数選択式）

- 「その他」が60.0%で最も高く、内容としては以下のとおりであった。



問15. 《問13で「3.積極的に使用する必要はないと考えている」と回答した医療機関》ジェネリック医薬品を積極的に使用する必要がないと思う理由は何ですか。（複数選択式）

- 「ジェネリック医薬品の安全性の問題」が60.7%で最も高く、続いて「ジェネリック医薬品の品質の問題」が57.1%、「ジェネリック医薬品の効果の問題」が46.4%であった。

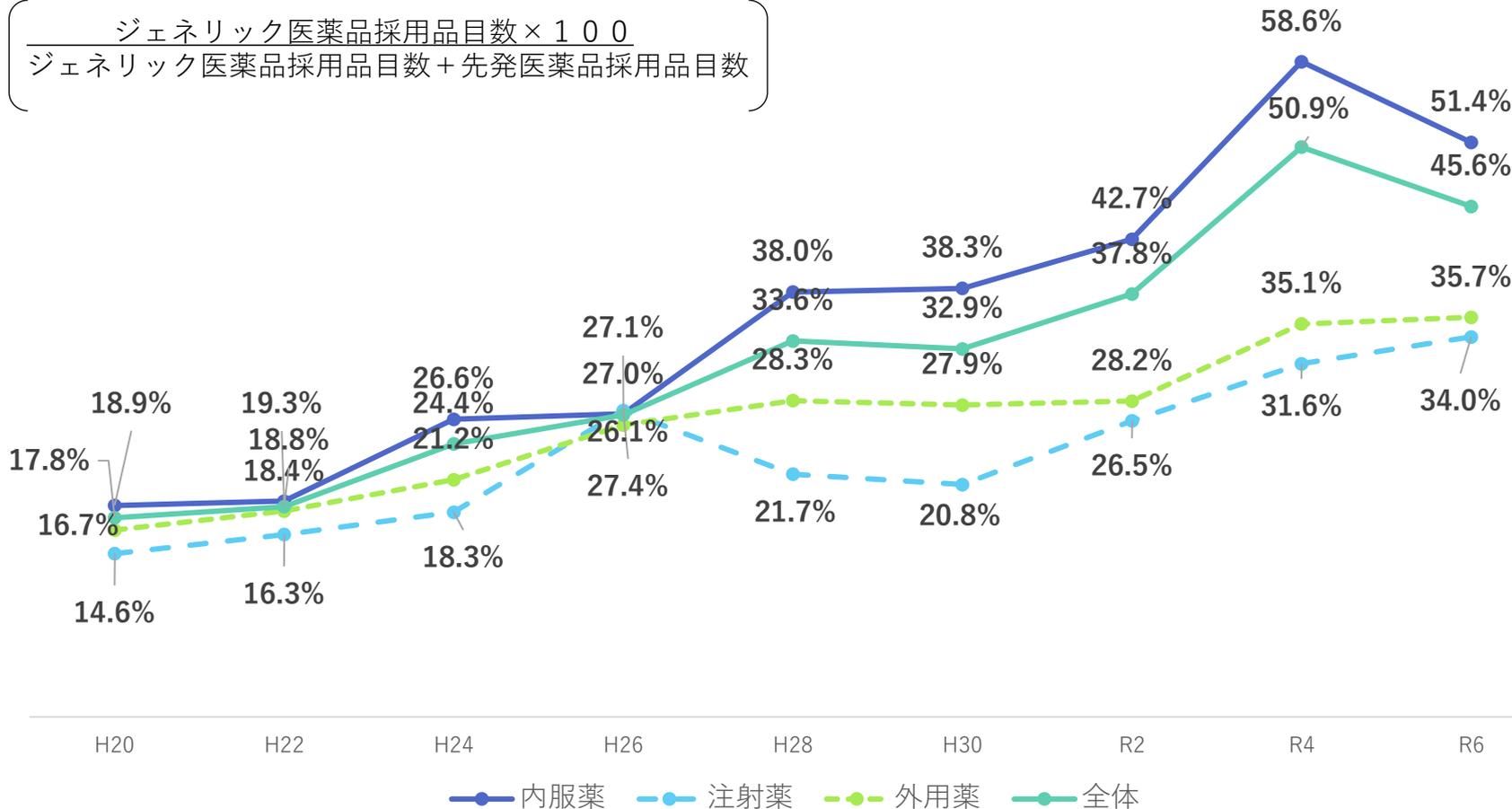


問16. 令和6年5月現在、あなたの医療機関における先発医薬品とジェネリック医薬品の採用状況（品目数）についてお答えください。（記入）

- ジェネリック医薬品の採用品目割合について、R6年度は内服薬が51.4%で最も高く、注射薬が34.0%で最も低かった。また、全体（内服薬＋注射薬＋外用薬）は45.6%であった。
- H20年度から全体の割合が27.8ポイント増加した。

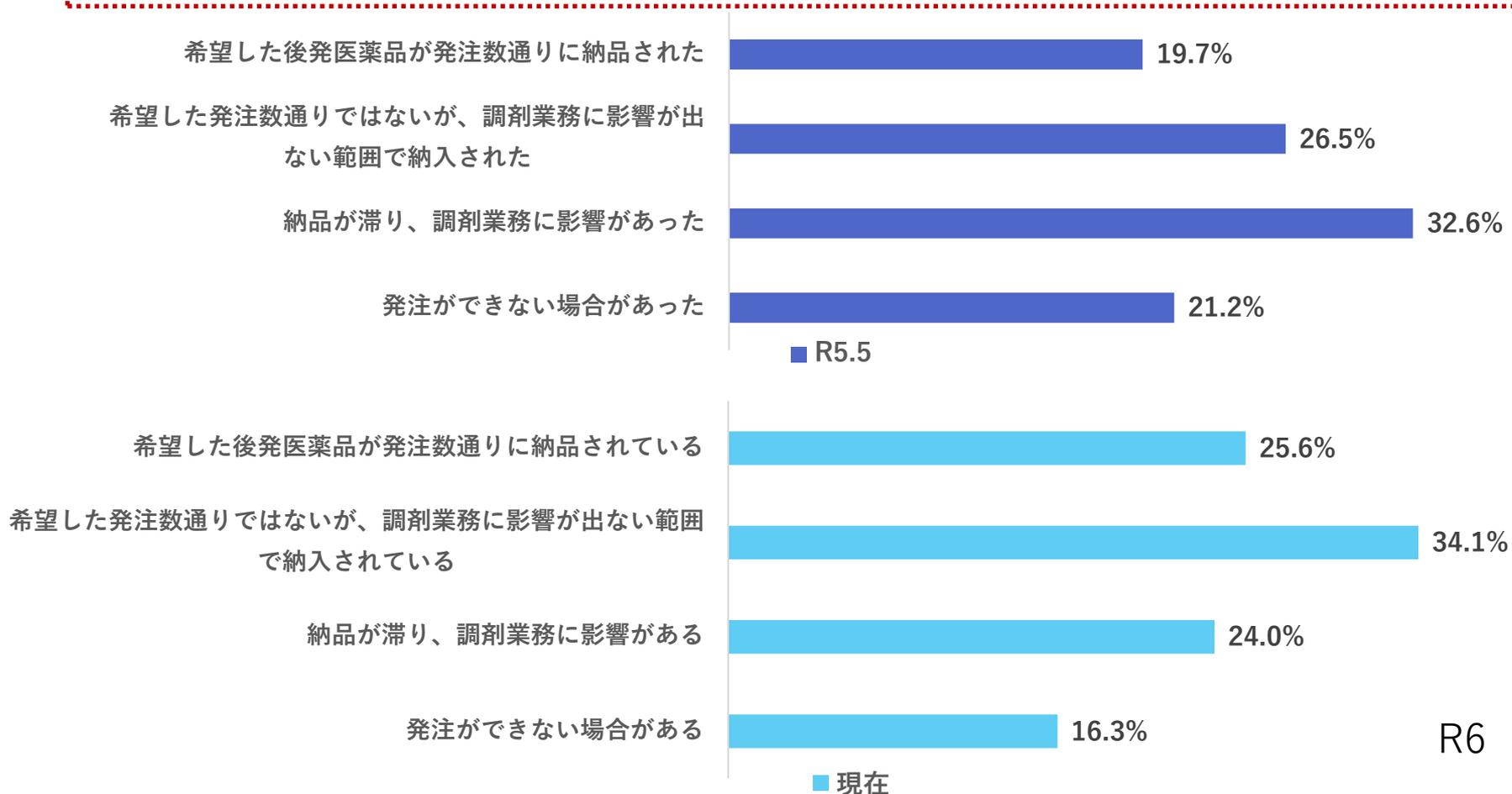
### ○ジェネリック医薬品の採用品目割合

$$\left( \frac{\text{ジェネリック医薬品採用品目数} \times 100}{\text{ジェネリック医薬品採用品目数} + \text{先発医薬品採用品目数}} \right)$$



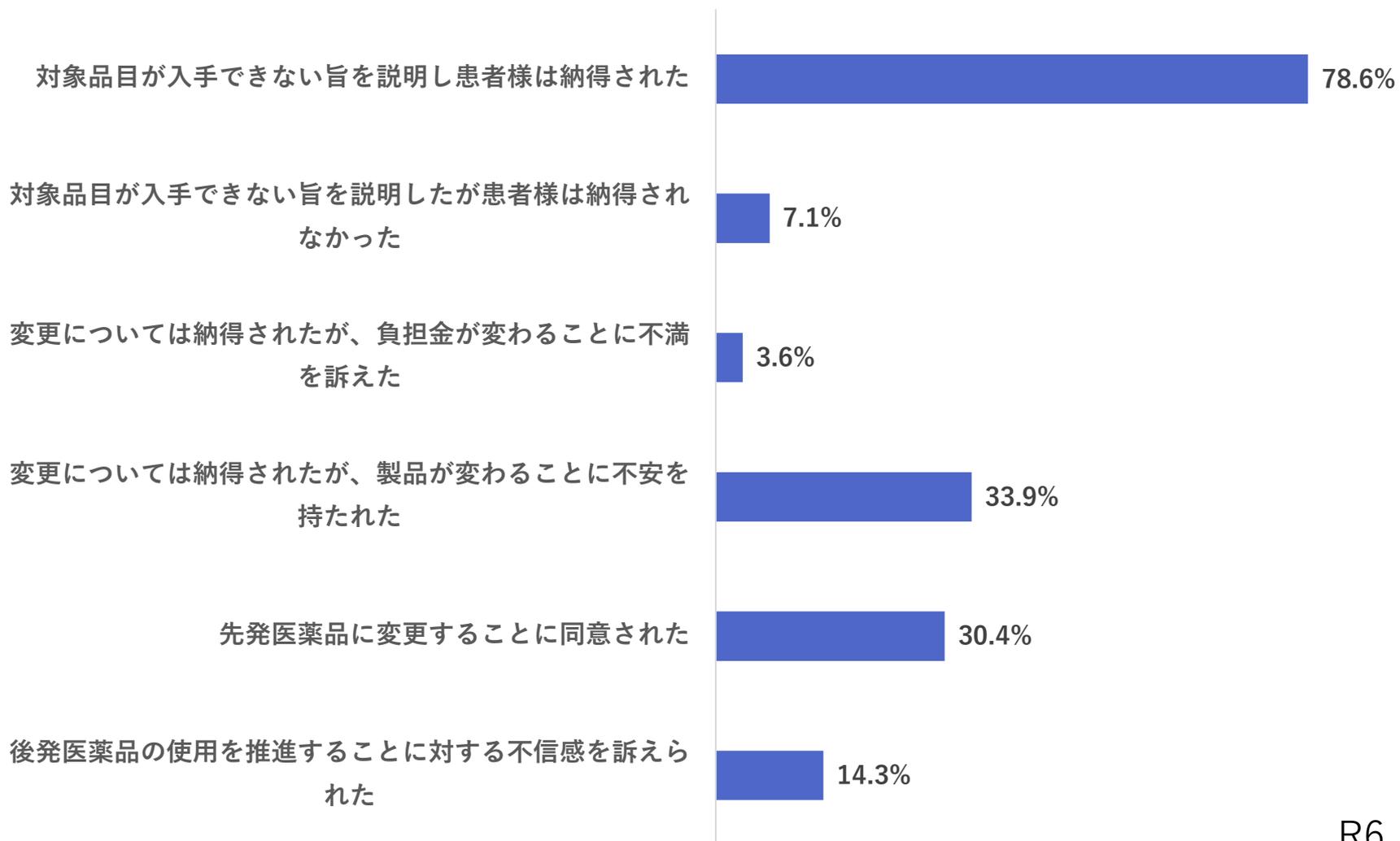
問17. 2020年以降、複数の医薬品製造メーカーが起こした不祥事案に端を発し、後発医薬品における製品供給体制が不安定になりました。あなたの医療機関で採用している後発医薬品の「令和5年5月」及び「現在(令和6年5月)」の納入状況についてお答えください。(単一選択式)

- 「令和5年5月」の納入状況では、「納品が滞り、調剤業務に影響があった」が32.6%で最も高く、続いて「希望した発注数通りではないが、調剤業務に影響が出ない範囲で納入された」が26.5%であった。
- 「現在」の納入状況では、「希望した発注数通りではないが、調剤業務に影響が出ない範囲で納入されている」が34.1%で最も高く、「希望した後発医薬品が発注数通りに納品されている」が25.6%であった。



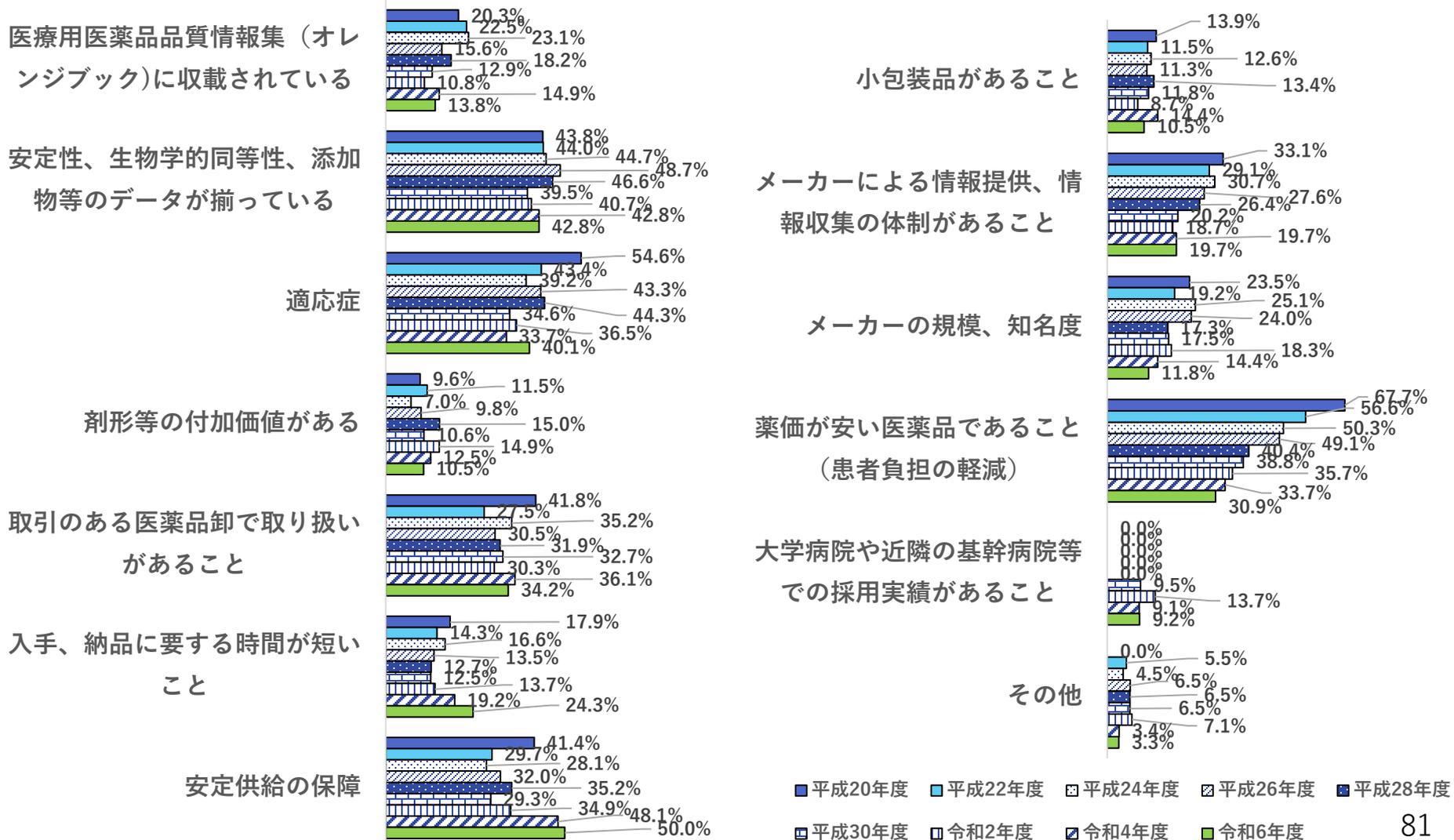
問18. 《問17で現在の状況において、「3. 納品が滞り、調剤業務に影響がある」、「4. 発注ができない場合ある」と回答した医療機関》医薬品の変更に対する患者様の反応をすべて選んでください（複数選択式）

- 「対象品目が入手できない旨を説明し患者様は納得された」が78.6%で最も高く、続いて「変更については納得されたが、製品が変わることに不安を持たれた」が33.9%であった。



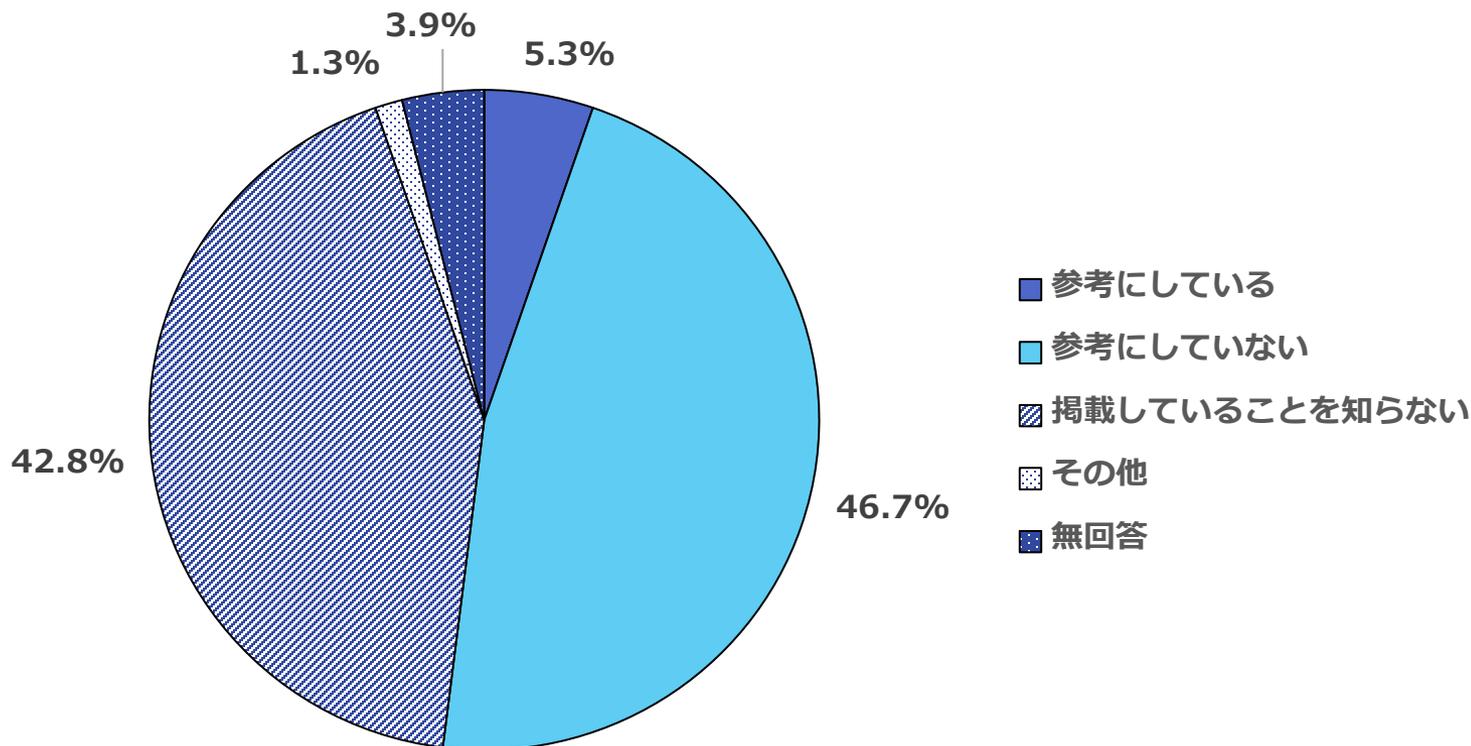
問19. あなたの医療機関がジェネリック医薬品を選ぶ際に重視している事項は何ですか。  
(複数選択式)

● R6年度は「安定供給の保障」が50.0%で最も高く、続いて「安定性、生物学的同等性、添加物等のデータが揃っている」が42.8%、「適応症」が40.1%、「取引のある医薬品卸で取り扱いがある」が34.2%、「薬価が安い医薬品であること（患者様の負担軽減）」が30.9%であった。



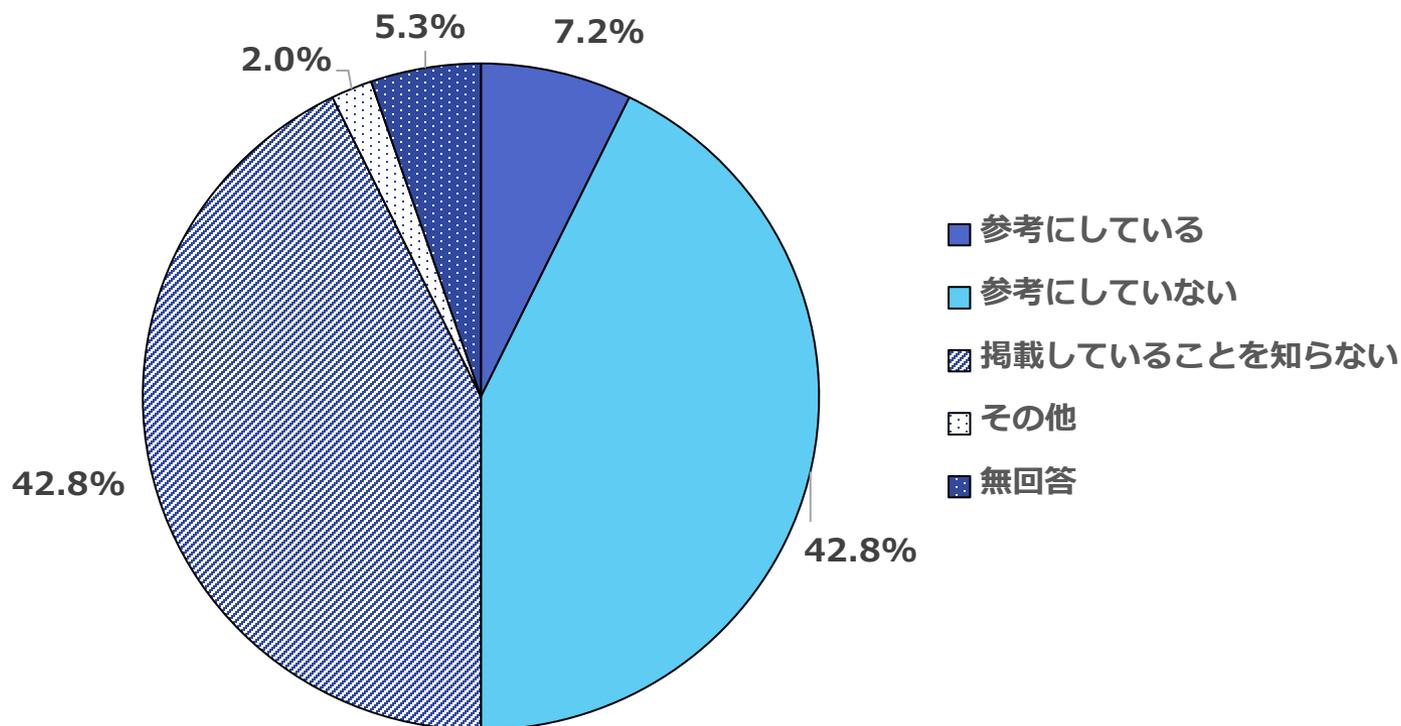
問20. あなたの医療機関がジェネリック医薬品を選ぶ際に、本県ホームページに掲載している県内主要医療機関のジェネリック医薬品採用品目リストを参考にしていますか？（単一選択式）

- 「参考にしている」が5.3%にとどまり、「参考にしていない」が46.7%、「掲載していることを知らない」が42.8%であった。



問21. あなたの医療機関がジェネリック医薬品を選ぶ際に、国の「後発医薬品品質確保対策事業」検査結果報告書を参考にしていますか？（単一選択式）

- 「参考にしている」が7.2%にとどまり、「参考にしていない」が42.8%、「掲載していることを知らない」が42.8%であった。



問22.医学的見地から、ジェネリック医薬品が適さない、使用したくないと考える領域等（疾患など）があれば、お答えください。（自由記載）

● 外用薬関係が4件で最も多く、続いて皮膚科関係が3件であった。

● 外用薬関係 4件

- ・副作用が発生
- ・患者側から先発に変えてほしい要望あり
- ・医学雑誌で一部の先発品の品質や効果で問題ありとのデータを見た
- ・先発と効果の差があるように感じる

● 皮膚科関係 3件

- ・先発のほうが効果が優れていたという経験があった
- ・使用感が悪い、効果が落ちるなどの問題点が多くみられる
- ・効果のばらつき、副反応もあり不安

● 抗癌剤関係 2件

- ・効果・副作用が心配

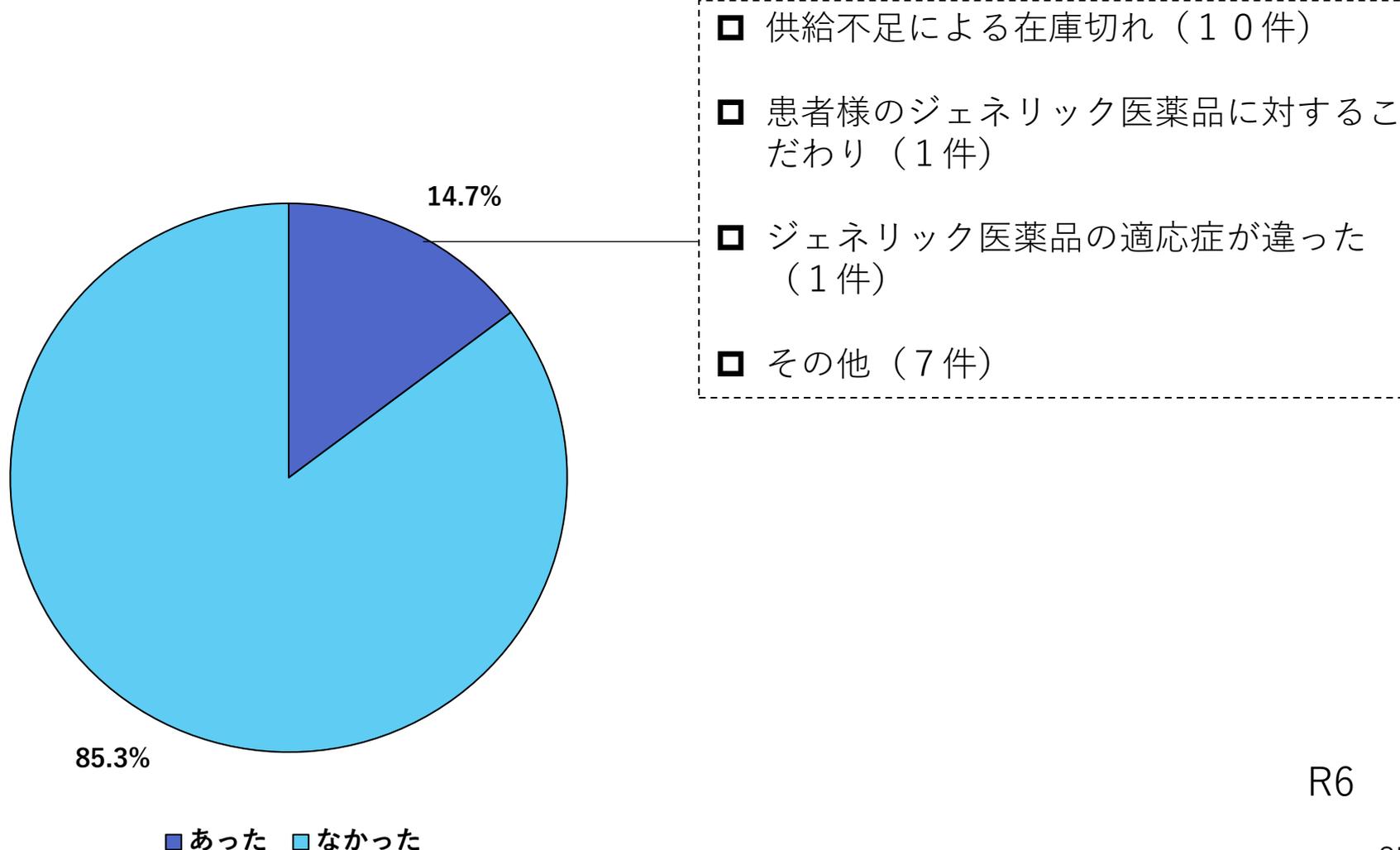
● 関節内に投与する薬 2件

- ・効果に不安がある。

● その他 11件

問23. これまでに、ジェネリック医薬品の使用にあたり、院内の薬剤部又は院外処方せんを  
応需した調剤薬局との間で問題はありましたか。また、問題となった内容について簡単にご  
記入ください。（単一選択・記入式）

- 「あった」が14.7%であり、その内容として「供給不足による在庫切れ」が10件で最も多かった。



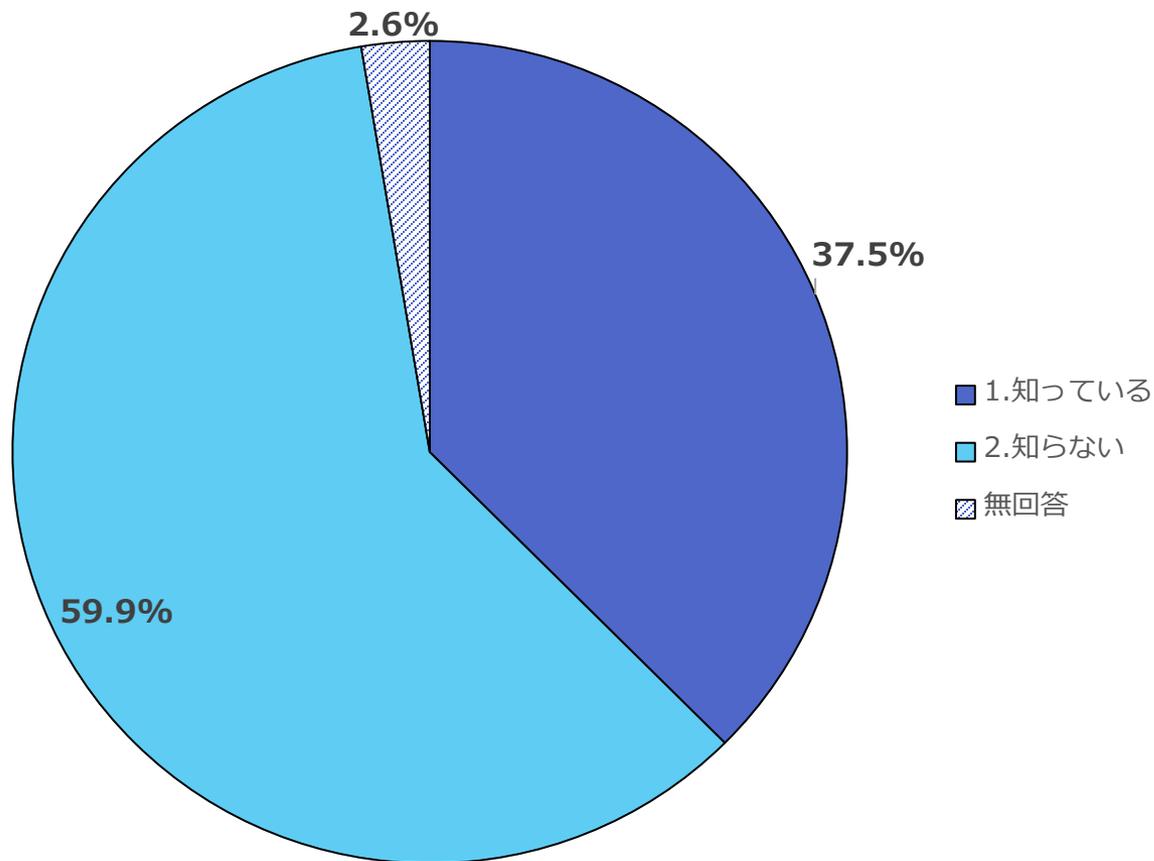
問24.ジェネリック医薬品には、剤形のサイズや味などに工夫がされ、患者が服用しやすいものがあります。ジェネリック医薬品に切り替えて、患者の服薬状況が良くなった、効果が良くなった等の事例があればお答えください。（自由記載）

- 使用感がよくなった、コンプライアンスが向上したといった事例が5件で最も多かった。

- 使用感が良くなった、コンプライアンスが向上した 5件
  - ・ 剤型が変わり飲みやすくなった（錠→OD錠、カプセル→錠 等） 1件
  - ・ 味やにおいが良くなった 2件
  - ・ その他 2件

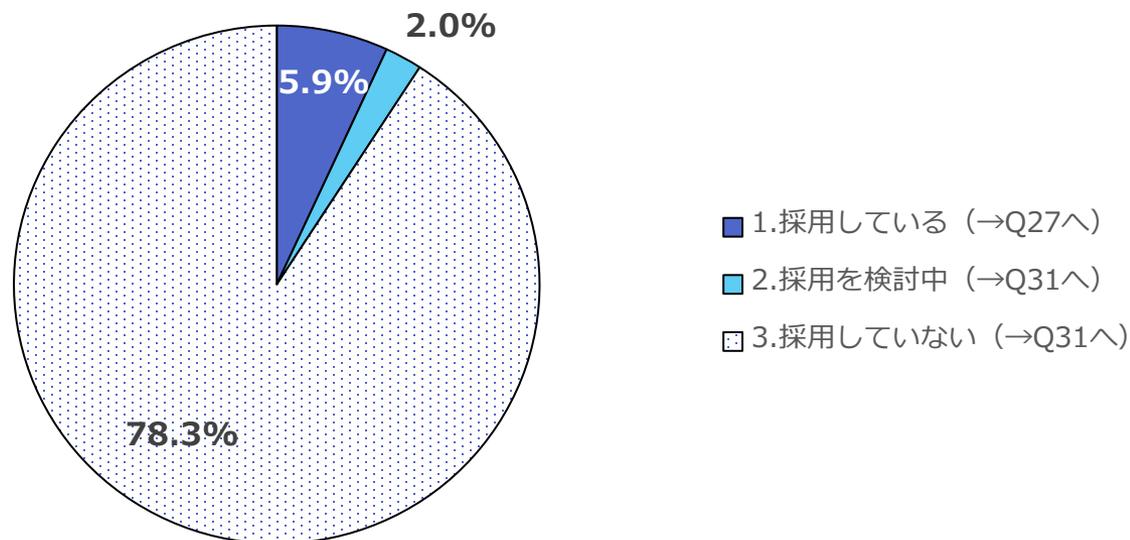
問25. バイオシミラー（バイオ後続品）という言葉を知っていますか。（単一選択式）

- 「知っている」が37.5%であり、「知らない」が59.9%にものぼった。



問26.あなたの医療機関では、バイオシミラー（バイオ後続品）を採用していますか。（単一選択式）※あくまで医療機関内（院内）で使用するバイオシミラーがあることを指します。

- 診療所で採用している施設は5.9%であった。（9施設）



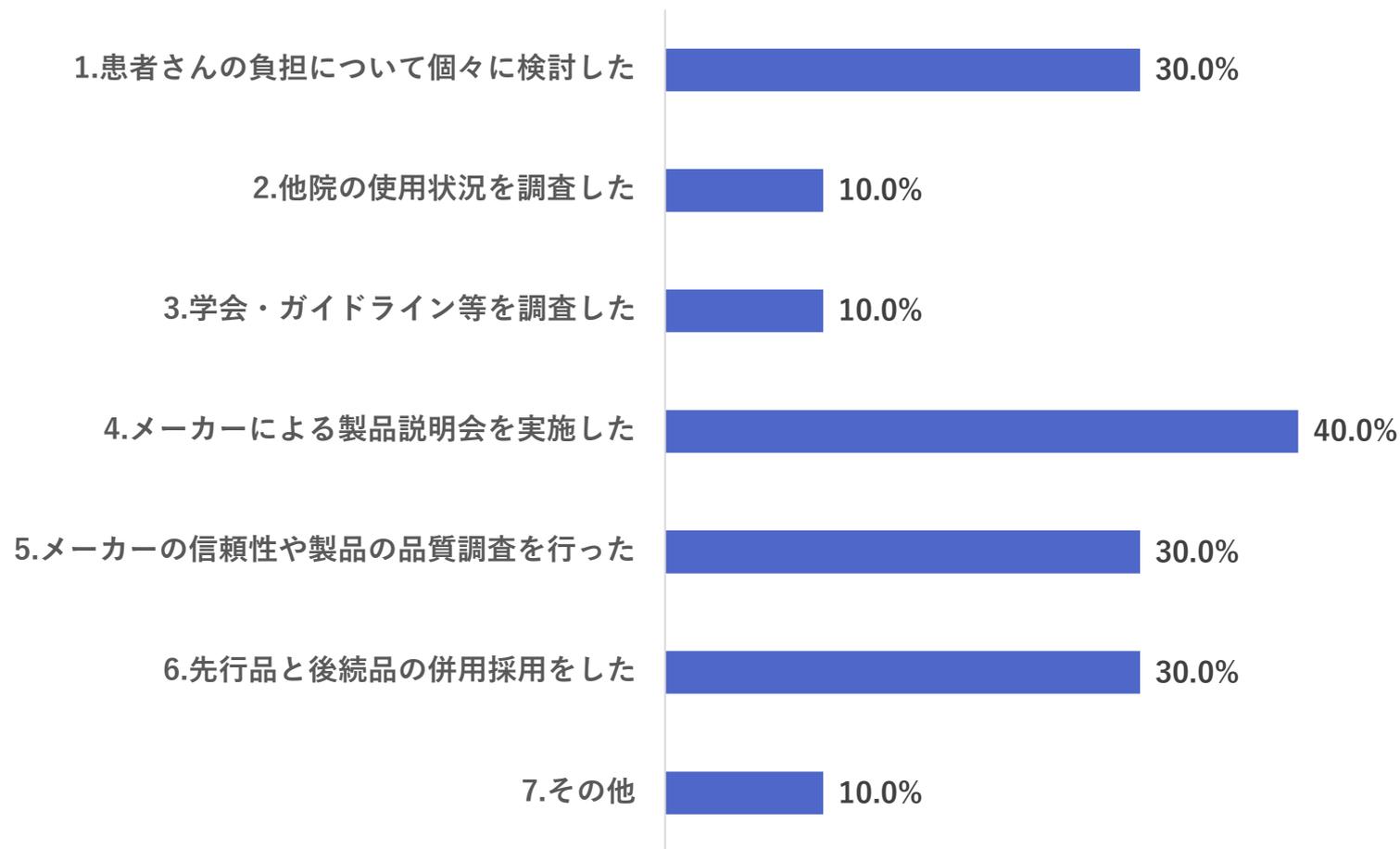
問27.《問26で「1.採用している」と回答した医療機関》令和6年5月現在のバイオシミラー（バイオ後続品）の採用品目数を教えてください。

問28.《問26で「1.採用している」と回答した医療機関》令和6年度の診療報酬改定で「バイオ後続品使用体制加算」が新設されましたが、あなたの医療機関が算定可能かどうか教えてください。（単一選択式）

- 診療所で採用している品目数のべ24品目であった（9施設）。
- 算定可能施設は4施設とのことであった。

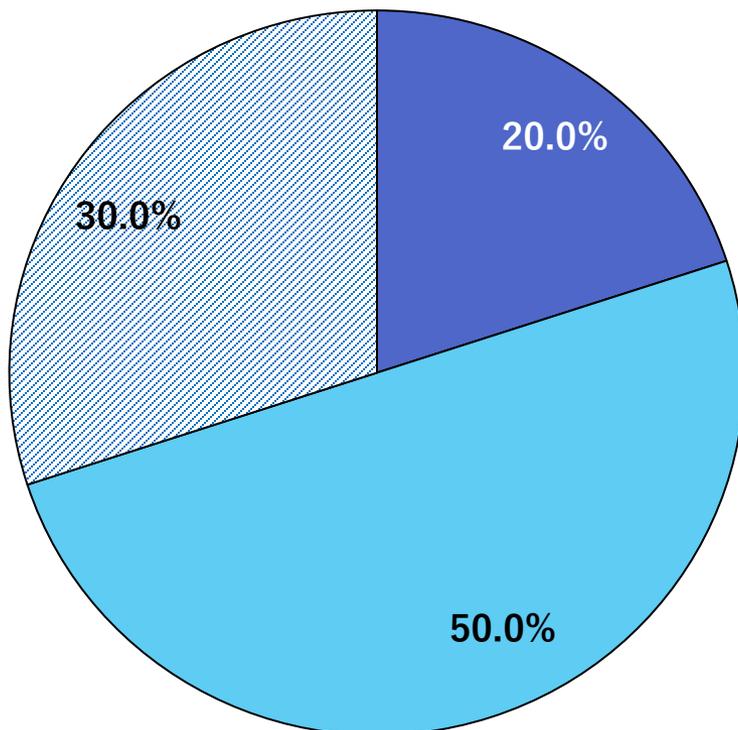
問29. 《問26で「1.採用している」と回答した医療機関》 バイオシミラー（バイオ後続品）を採用するにあたり、取り組んだことを教えてください。（複数選択式）

- 「メーカーによる製品説明会を実施した」が40.0%で最も多く、続いて「患者さんの負担について個々に検討した」、「メーカーの信頼性や製品の品質調査を行った」、「先行品と後続品と併用採用した」が同率の30.0%であった。



問30. 《問26で「1.採用している」と回答した医療機関》 バイオシミラー（バイオ後続品）を採用するについて、今後の状況を教えてください。（単一選択式）

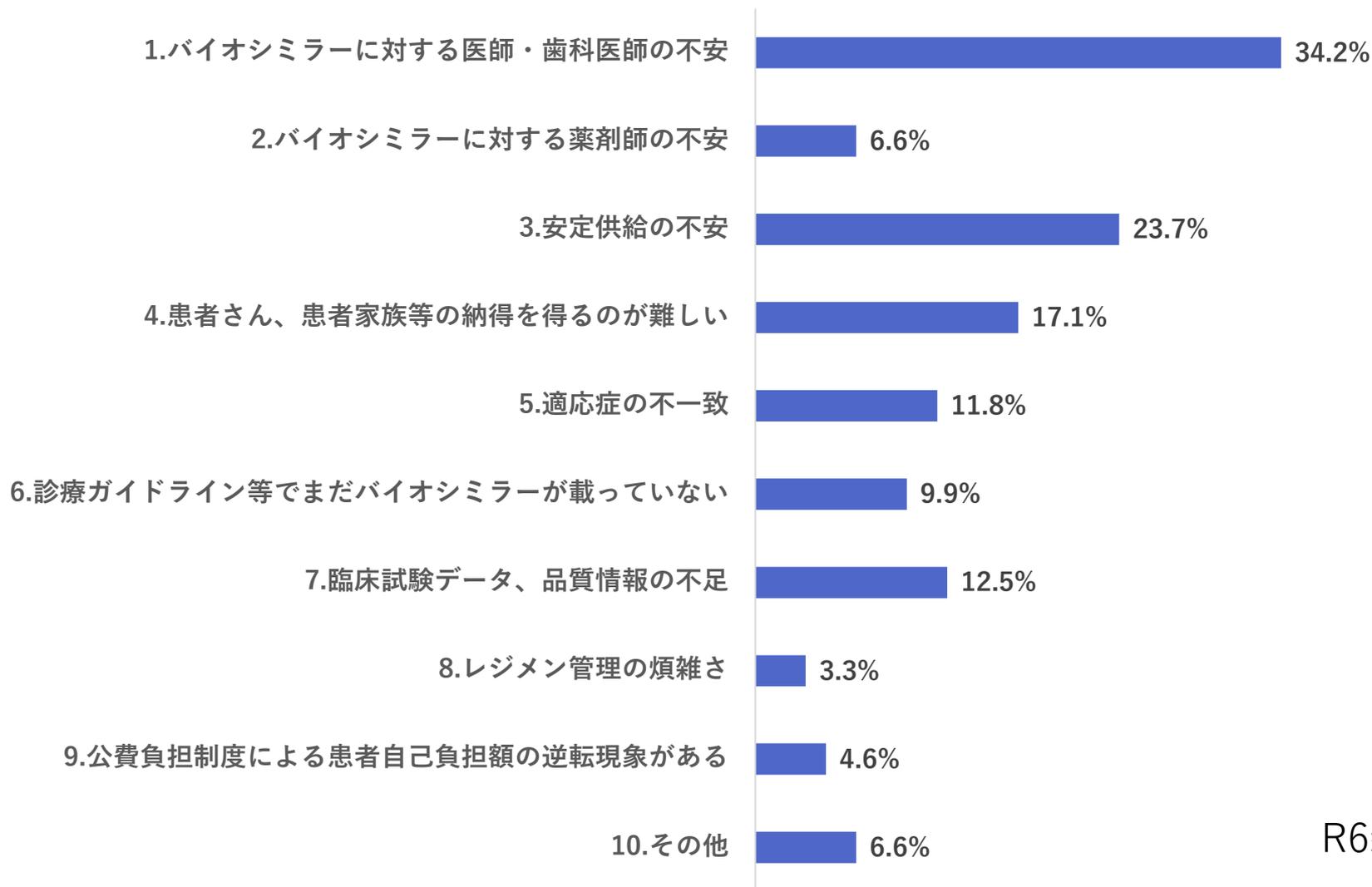
- 「採用を拡大する」が20.0%、「採用の拡大を検討している」が50.0%、「採用拡大は検討していない」が30.0%であった。



- 1.採用を拡大する
- 2.採用の拡大を検討している
- 3.採用拡大は検討していない

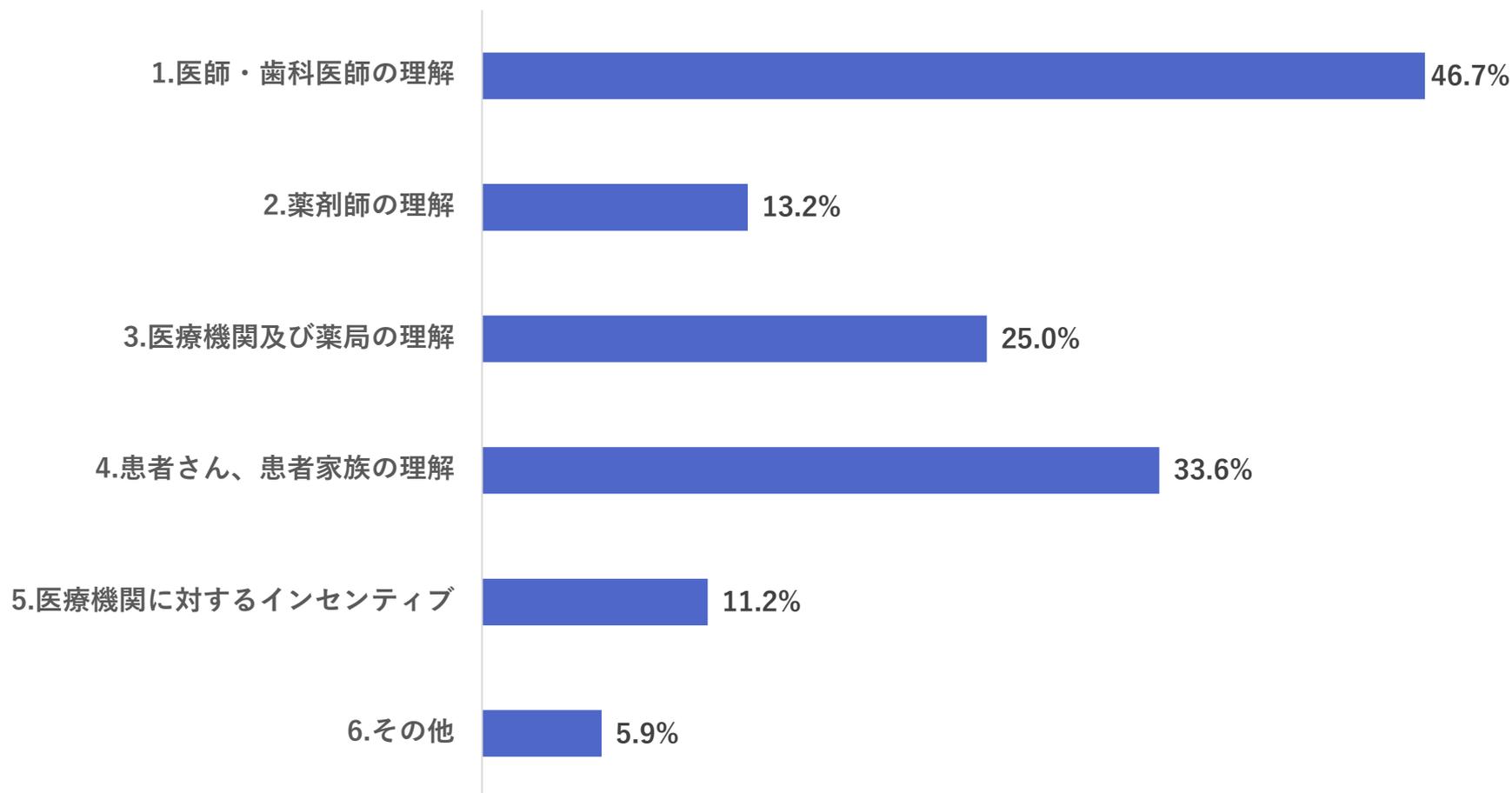
問31. バイオシミラー（バイオ後続品）の使用促進にあたり、どのような課題があると思いますか。（複数選択式）

- 「バイオシミラーに対する医師・歯科医師の不安」が34.2%で最も多く、続いて「安定供給の不安」が23.7%、「患者さん、患者家族等の納得を得るのが難しい」が17.1%であった。



問32. バイオシミラー（バイオ後続品）の普及促進のために必要なことは何だと思えますか。  
（複数選択式）

- 「医師、歯科医師の理解」が46.7%と最も高く、続いて「患者さん、患者家族の理解」33.6%となった。

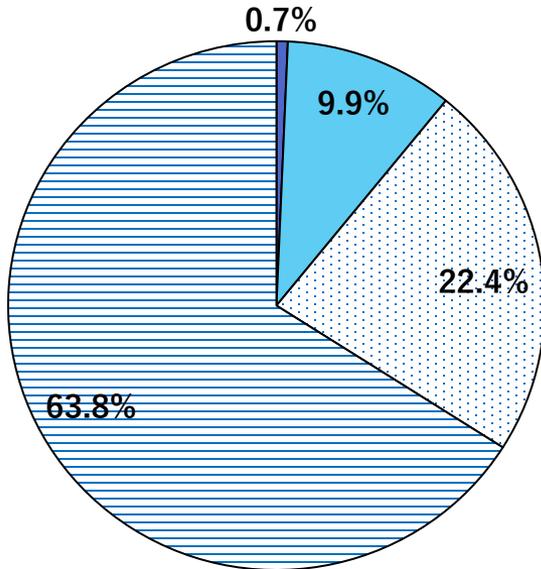


問33. 地域フォーミュラリという言葉を知っていますか。(単一選択式)

問34. あなたの医療機関でフォーミュラリを定めていますか。(単一選択式)

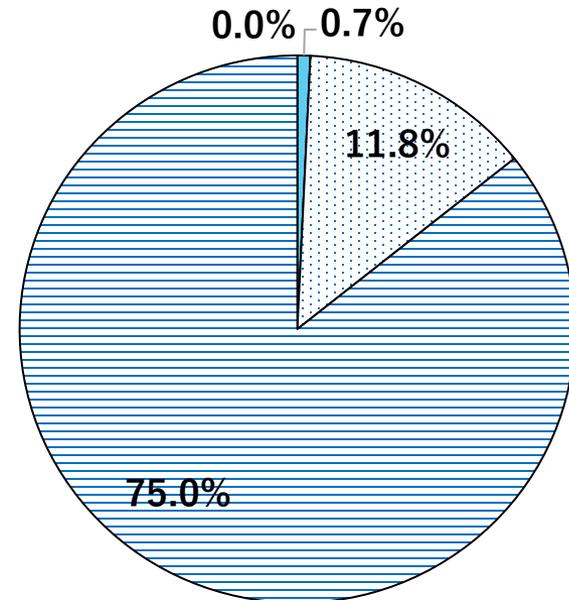
- 問33 「まったく知らない、聞いたことがない」が最も多く、63.6%であった。
- 問34 「定めていない(今後定める予定はない)」が最も多く、75.0%であった。

問33



- よく知っている
- 少し知っている
- 聞いたことはあるがよくわからない
- まったく知らない、聞いたことがない

問34



- 既に定めている
- 今は定めていないが定める予定がある
- 今は定めていないが興味はある
- 定めていない(今後定める予定はない)

問35. あなたの医療機関では、患者様がジェネリック医薬品を頼みやすくなるような工夫をしていますか。（複数選択式）

- R6年度は「特に工夫していない」が53.3%で最も高く、続いて「普及啓発用のポスターや説明板等を掲示している」が23.7%、「診察時に患者様の意向を尋ねるようにしている」が15.1%であった。
- H22年度から「受付窓口に「ジェネリック医薬品希望カード」を用意している」が4.1ポイント増加した。一方で、「診察時に患者様の意向を尋ねるようにしている」が8.9ポイント減少、「特に工夫していない」が5.5ポイント減少した。

受付窓口に「ジェネリック医薬品希望カード」を用意している

普及啓発用のポスターや説明板等を掲示している

普及啓発用のリーフレット等を用意し、患者様が入手しやすいようにしている

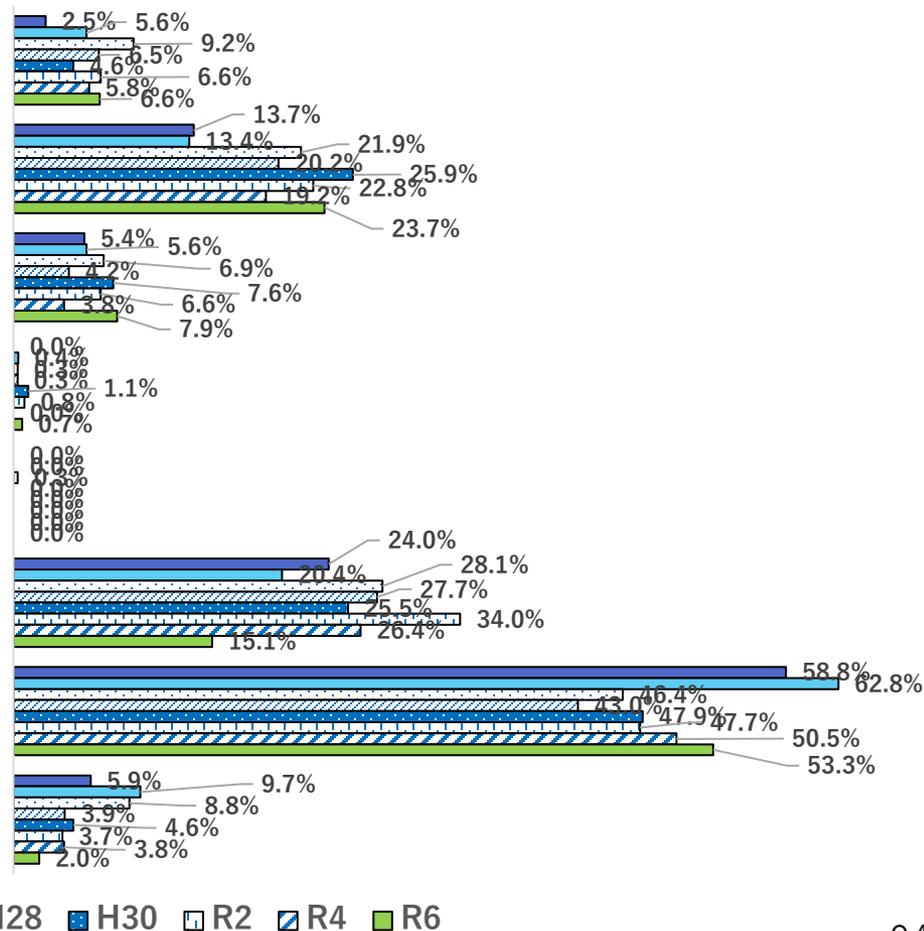
相談窓口を設けたり、説明担当の薬剤師等を配置している

ジェネリック医薬品に関するビデオ等を流している

診察時に患者様の意向を尋ねるようにしている

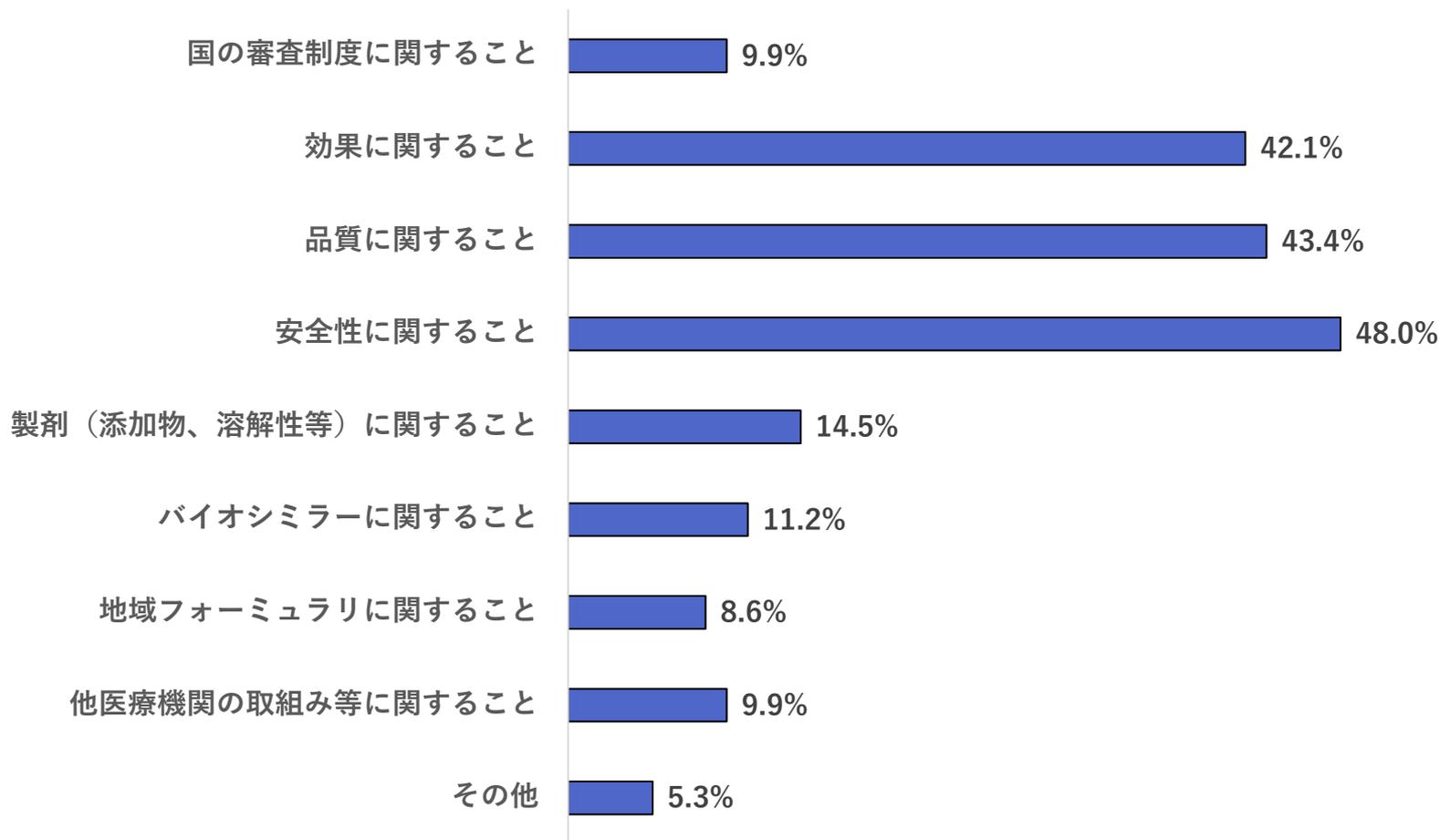
特に工夫していない

その他



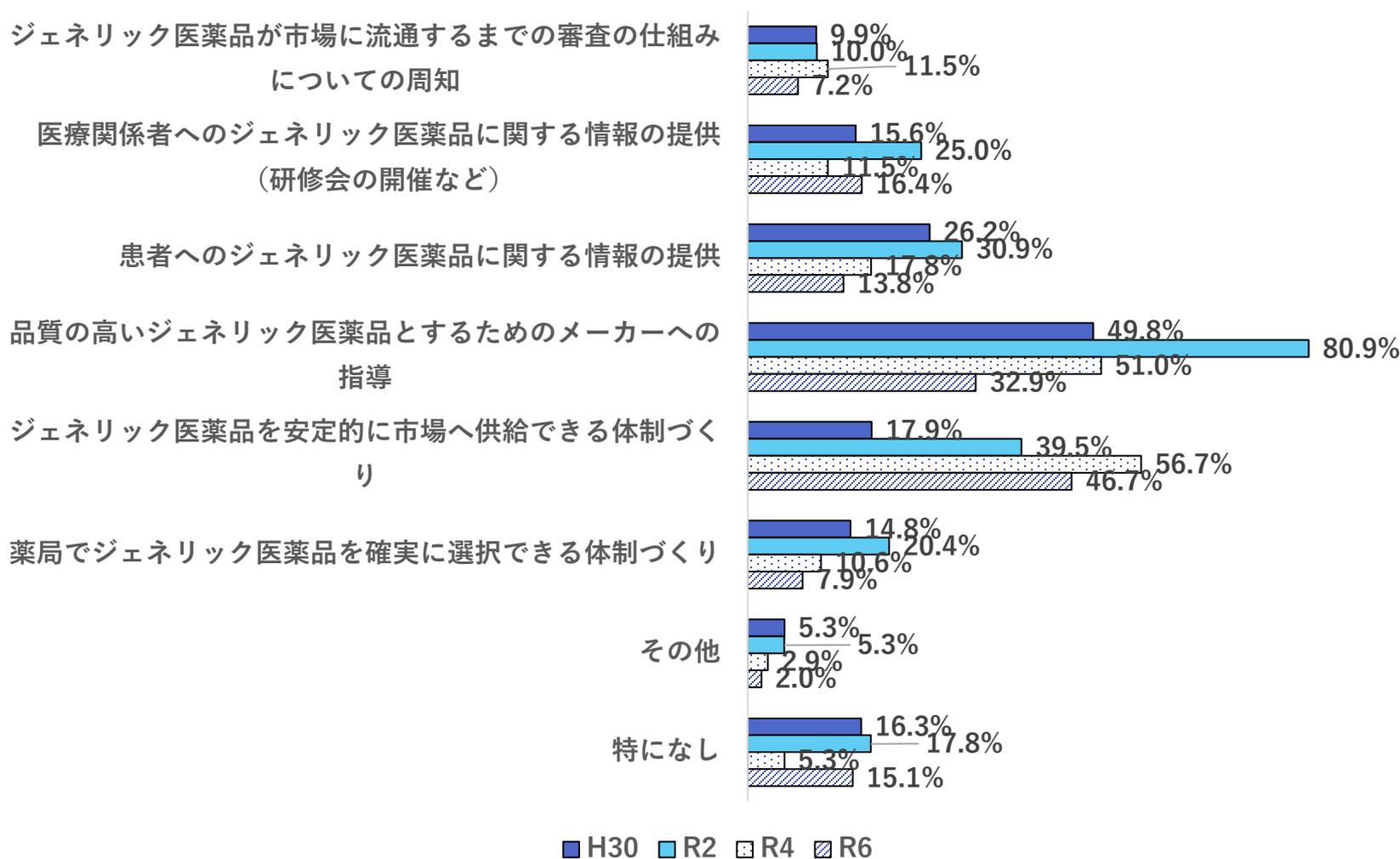
問36. 本県では定期的（年1～2回）に有識者を招いて医療従事者向けのジェネリック医薬品に関する研修会（参加費無料）を開催しています。希望する研修の内容についてお答えください。（複数選択式）

- 「安全性に関すること」が48.0%で最も高く、続いて「品質に関すること」が43.4%、「効果に関すること」が42.1%であった。



問37. ジェネリック医薬品の利用に関して、行政（厚生労働省、長崎県福祉保健部薬務行政室）の施策に対し要望することがあれば、該当するものを2つ以内で選んでください。（2つ選択）

- R6年度は「ジェネリック医薬品を安定的に市場へ供給できる体制づくり」が46.7%で最も高く、続いて「品質の高いジェネリック医薬品とするためのメーカーへの指導」が32.9%であった。
- H30年度から「ジェネリック医薬品を安定的に市場へ供給できる体制づくり」が28.8ポイント増加した。



# 齒科診療所

# ジェネリック医薬品に関する診療所アンケート調査結果

## ○調査方法

- ・調査票を郵送し、郵送又は電子申請システムから回答

## ○調査時期

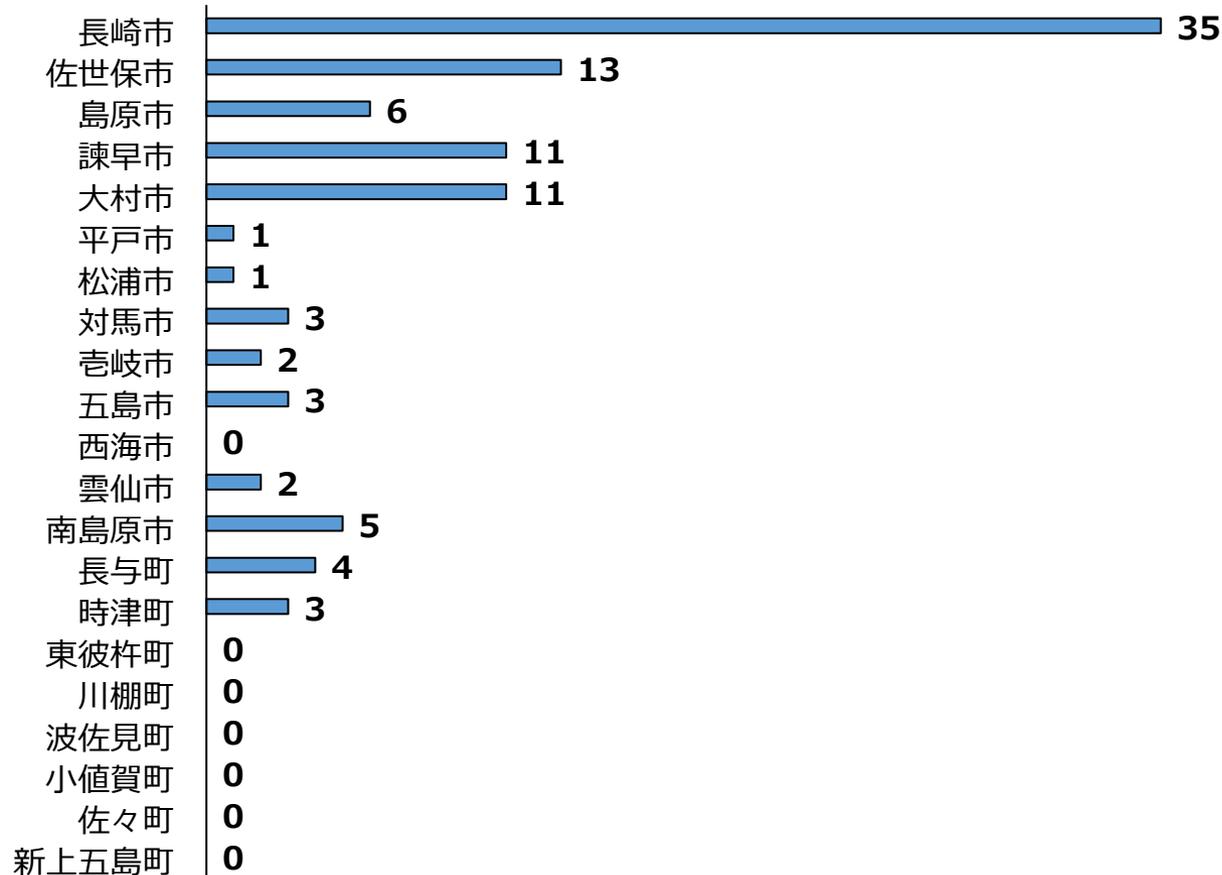
- ・令和6年7月29日から令和6年8月30日まで

## ○調査対象

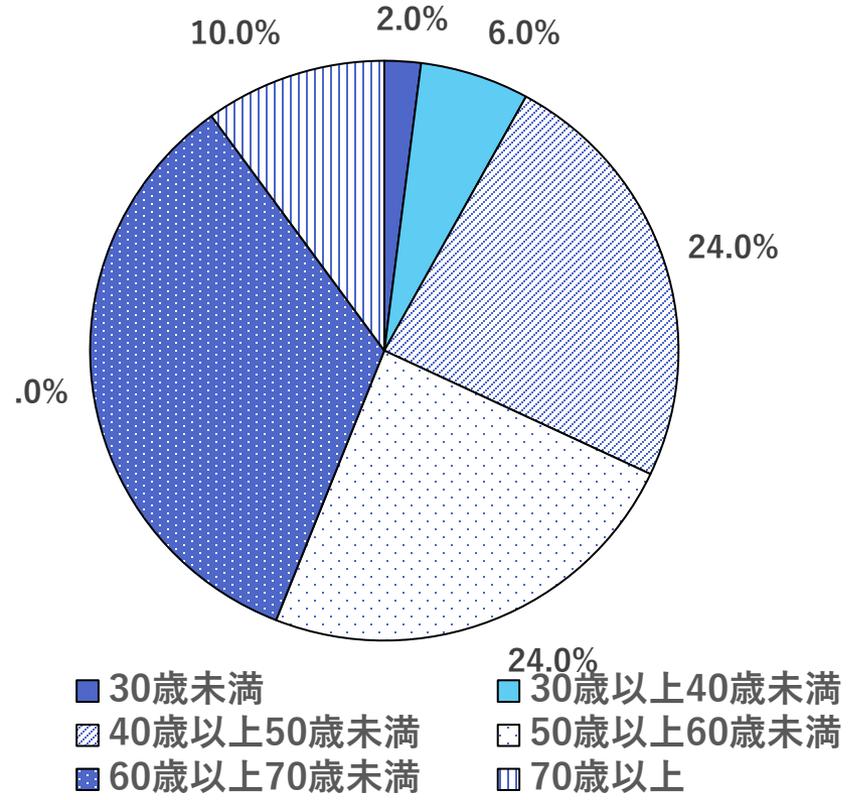
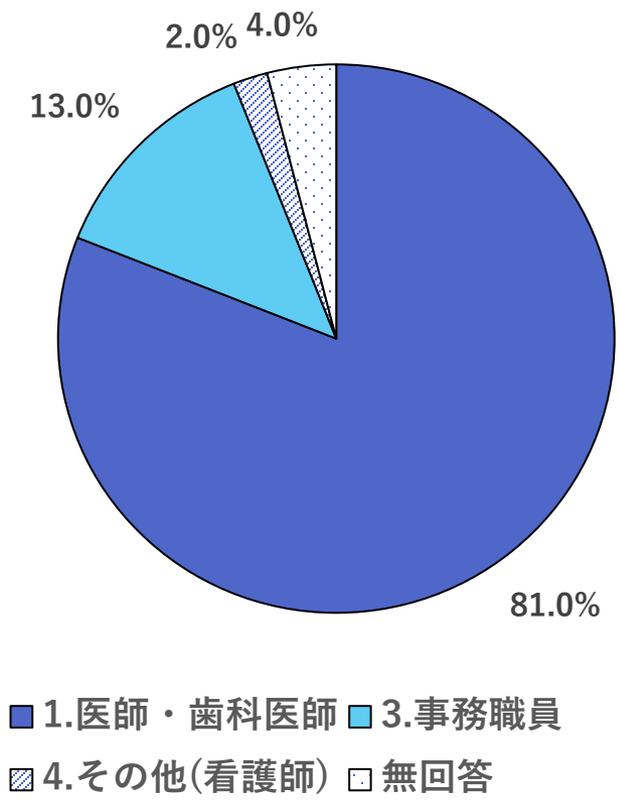
- ・県内すべての歯科診療所から、無作為に抽出した3分の1の診療所

## ○対象者数、回答者数及び回収率

- ・対象施設数：225施設、回答施設数：100施設、回答率：44.4%

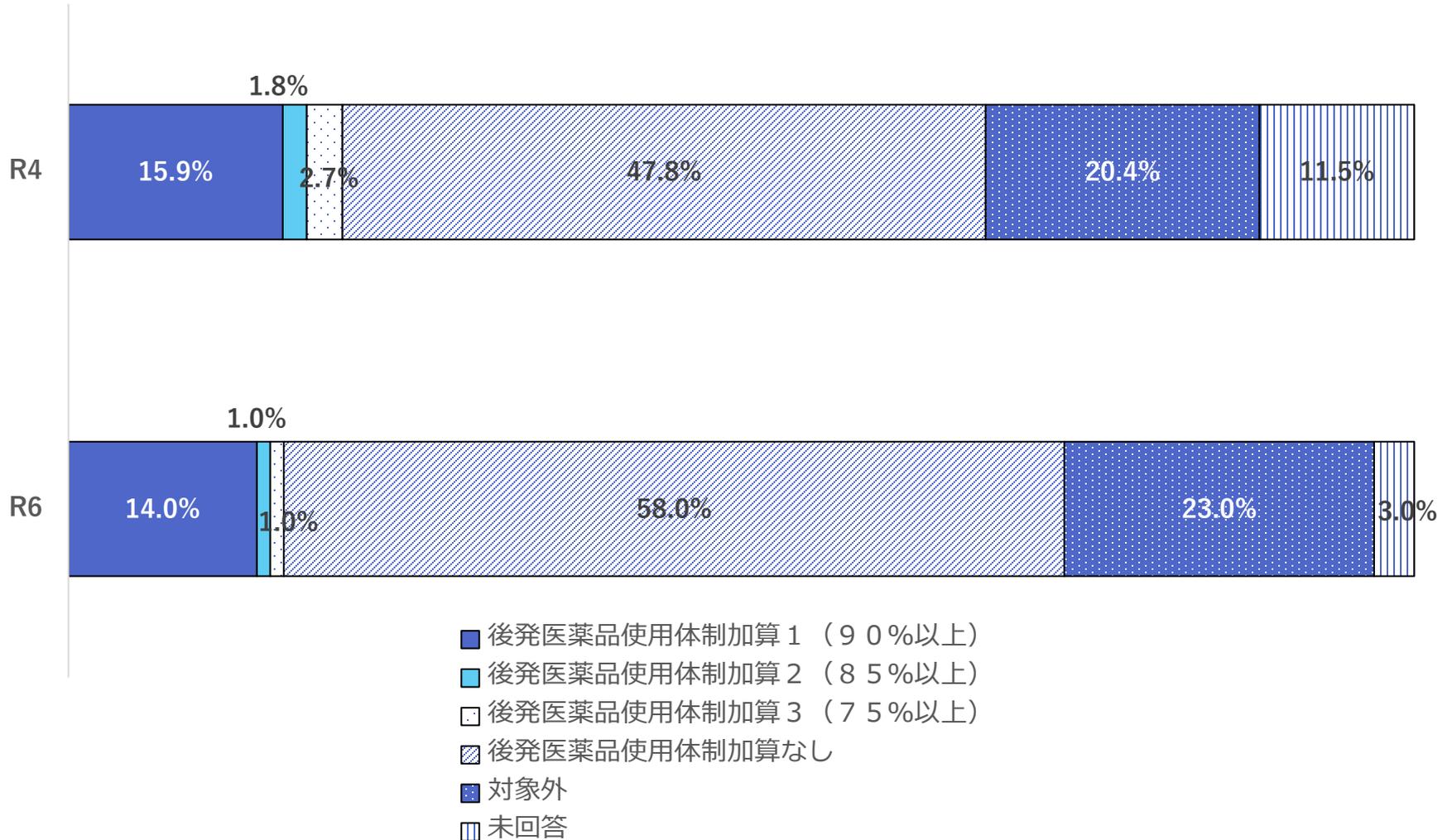


問3.ご回答者の職種及び年齢をお答えください。(単一選択式)



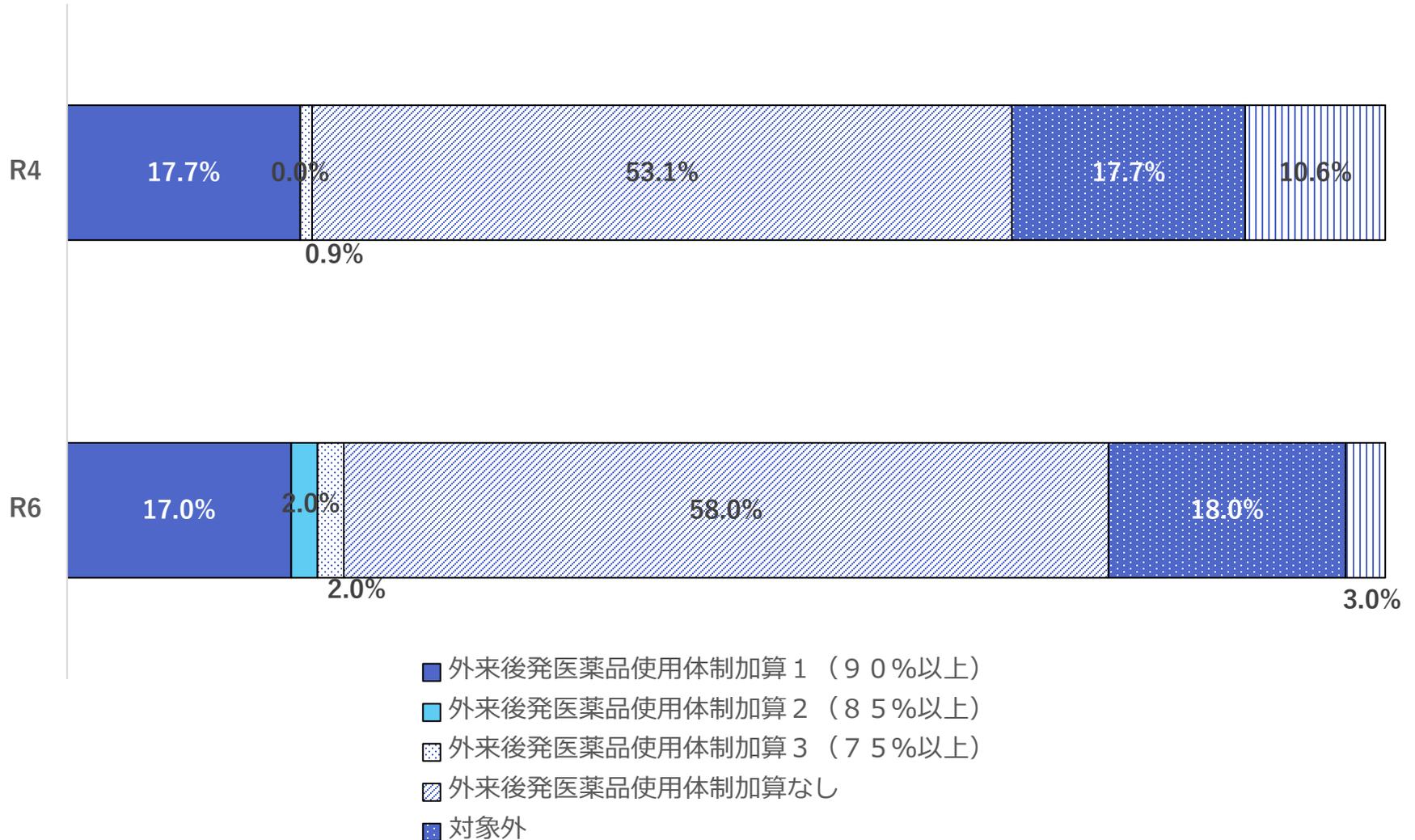
問5.あなたの医療機関の後発医薬品使用体制加算の有無についてお答えください。（単一選択式）

● R6年度は「加算1」が14.0%、「加算2」が1.0%、「加算3」が1.0%であり、後発医薬品使用体制加算を算定している医療機関は全体の16.0%であった。



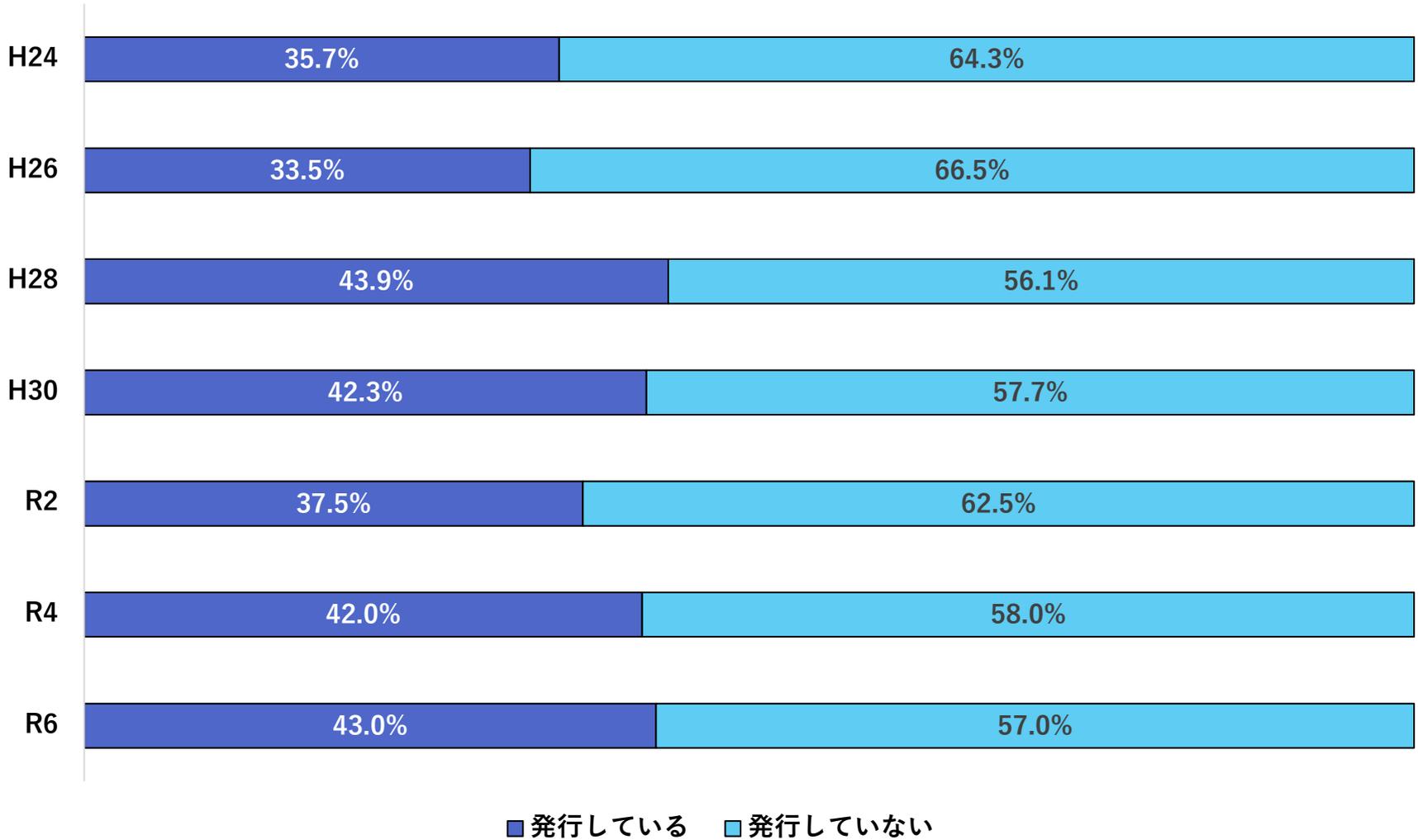
問6.あなたの医療機関の外来後発医薬品使用体制加算の有無についてお答えください。(単一選択式)

● R6年度は「加算1」が17.0%、「加算2」が2.0%、「加算3」が2.0%であり、外来後発医薬品使用体制加算を算定している医療機関は全体の21.0%であった。



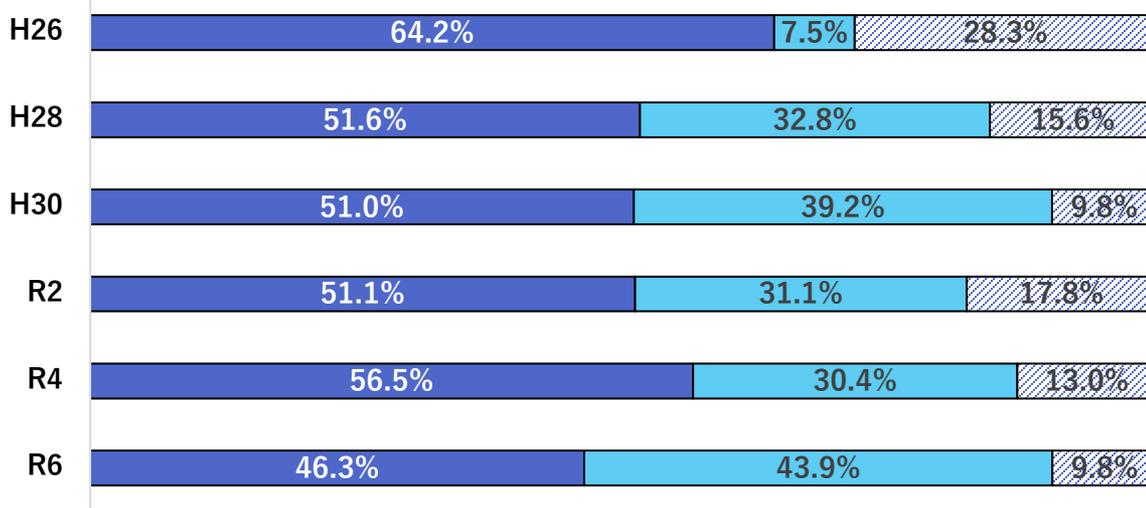
問7. あなたの医療機関では、院外処方せんを発行していますか。（単一選択式）

- R6年度は「発行している」が43.0%であった。
- H24年度から比較すると7.3%増加した。



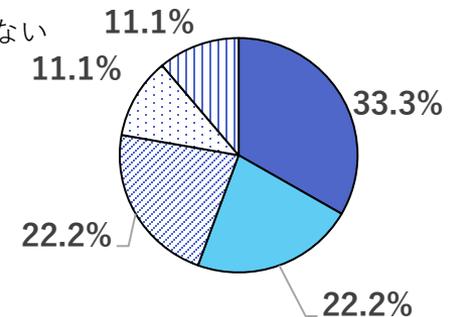
問8. 《問7で「1.発行している」と回答した医療機関》あなたの医療機関では、院外処方せん発行において一般名処方を導入していますか。（単一選択式）

- R6年度は「すべて一般名処方を導入している」が46.3%、「一部に一般名処方を導入している」が43.9%で、合計90.2%であった。
- H26年度から「すべて一般名処方を導入している」と「一部に一般名処方を導入している」の合計が18.5%増加した。
- 一部に一般名処方を導入している場合のその割合について、「0～20%」が33.3%で最も高かった。



■ すべて一般名処方を導入している ■ 一部に一般名処方を導入している ▨ 導入していない

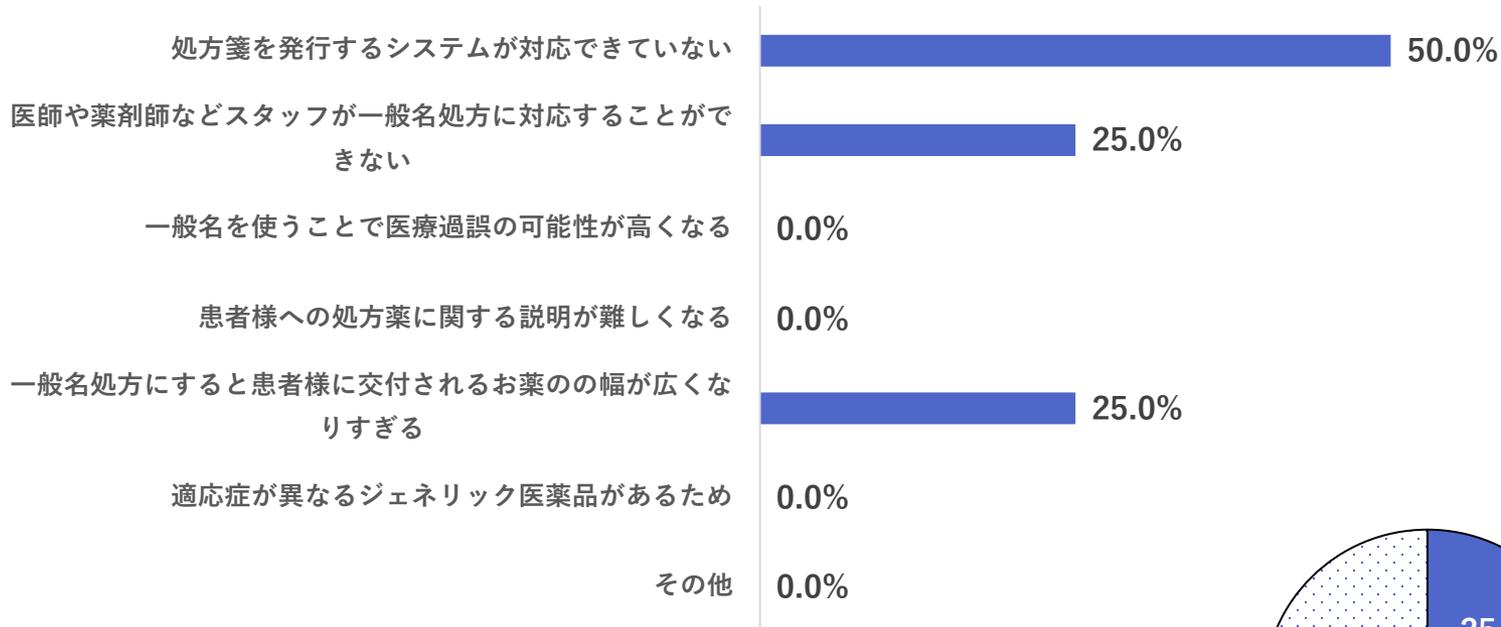
「一部に一般名処方を導入している」と回答した場合、その割合



■ 0～20% ■ 20～40% ▨ 40～60%  
 ▨ 60～80% ▨ 80～100%

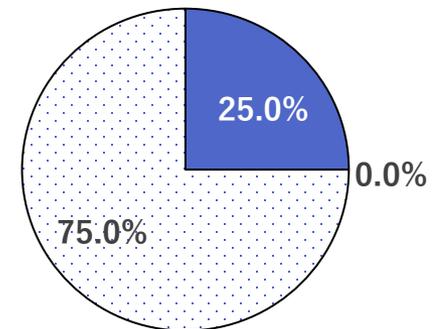
問9. 《問8で「3.導入していない」と回答した医療機関》 一般名処方を導入していない理由は何ですか。（複数選択式）

- 「処方箋を発行するシステムが対応できていない」が50.0%で最も高く、続いて「医師や薬剤師などスタッフが一般名処方に対応することができない」、「一般名処方になると患者様に交付されるお薬の幅が広くなりすぎる」が25.0%であった。
- 問9の問題が改善できれば、一般名処方を導入する可能性があるとの回答が25.0%あった。



R6

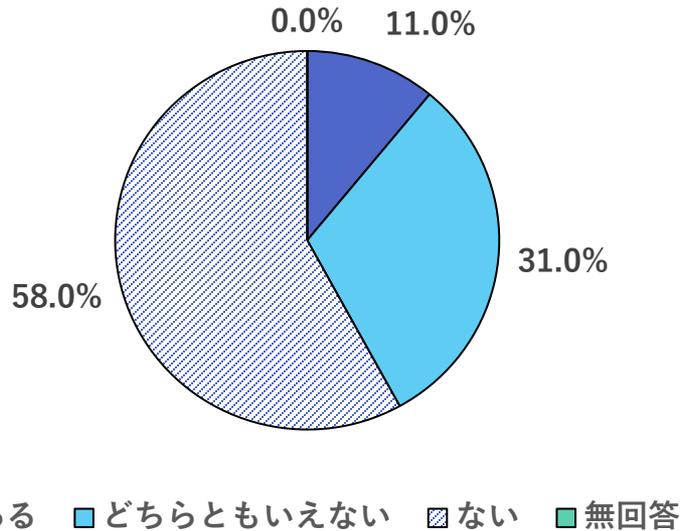
問10. 《問8で「3.導入していない」と回答した医療機関》 問9の問題が改善できれば、一般名処方を導入する可能性がありますか。（単一選択式）



■ある ■ない □未定

問11.ジェネリック医薬品を使用することに関して、不安感はありますか？（単一選択式）

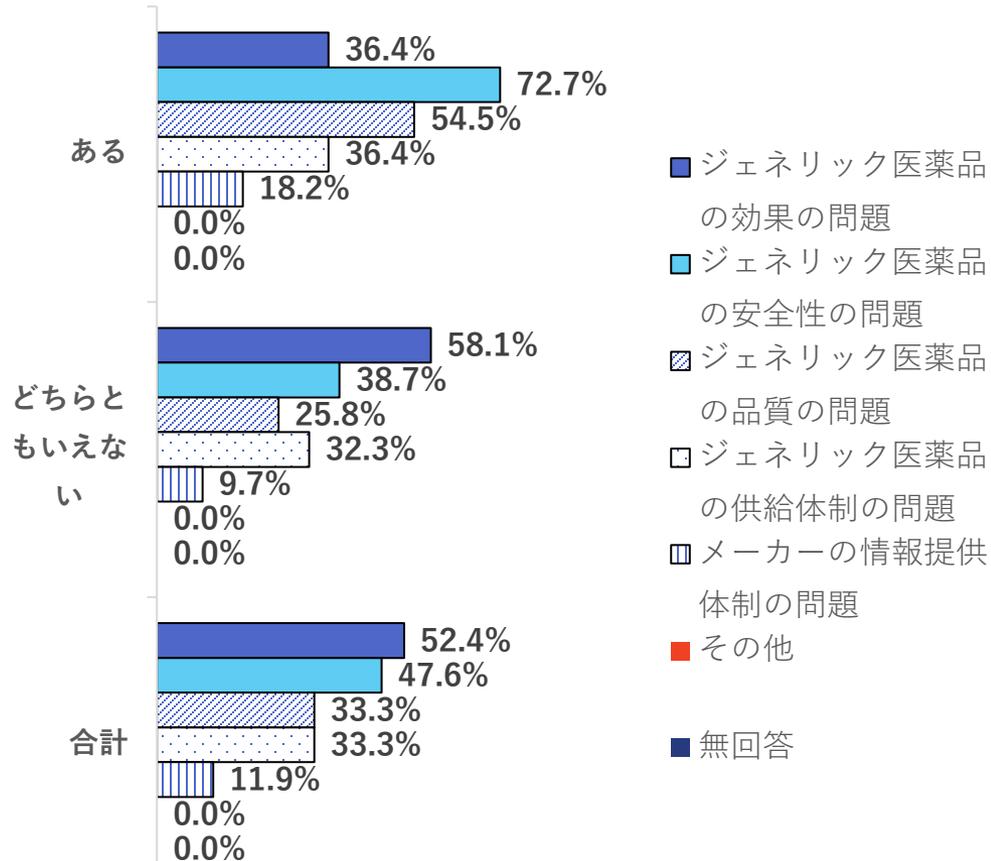
- 「ない」が58.0%で最も高かった。
- 不安感を抱いている内容については、「ジェネリック医薬品の効果の問題」が52.4%で最も高く、続いて「ジェネリック医薬品の安全性の問題」が47.6%、「ジェネリック医薬品の品質の問題」と「供給体制の問題」が33.3%であった。



R6

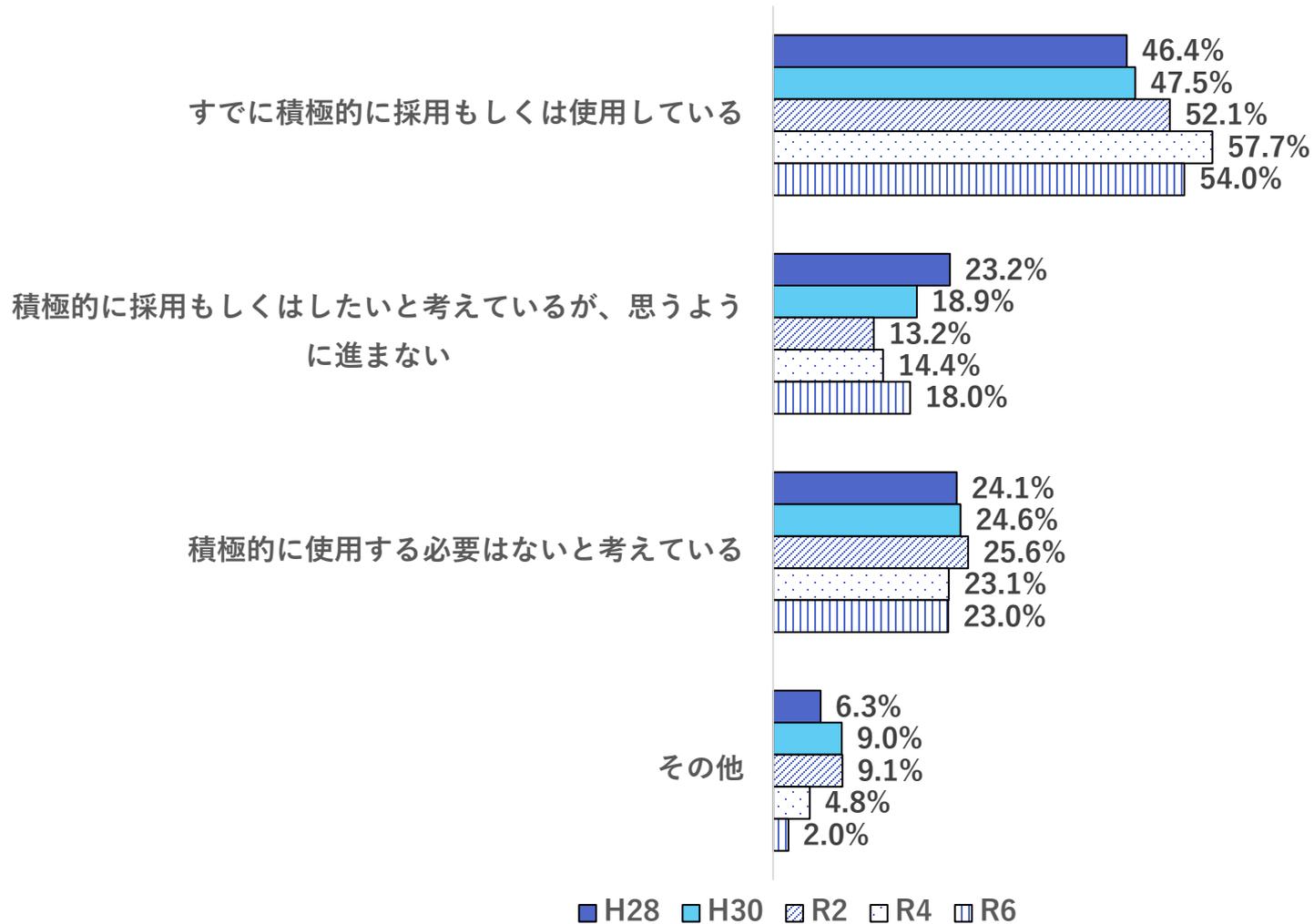


問12. 《問11で「1.ある」、「2.どちらともいえない」と回答した医療機関》不安感を抱いている内容についてお答えください。（複数選択式）



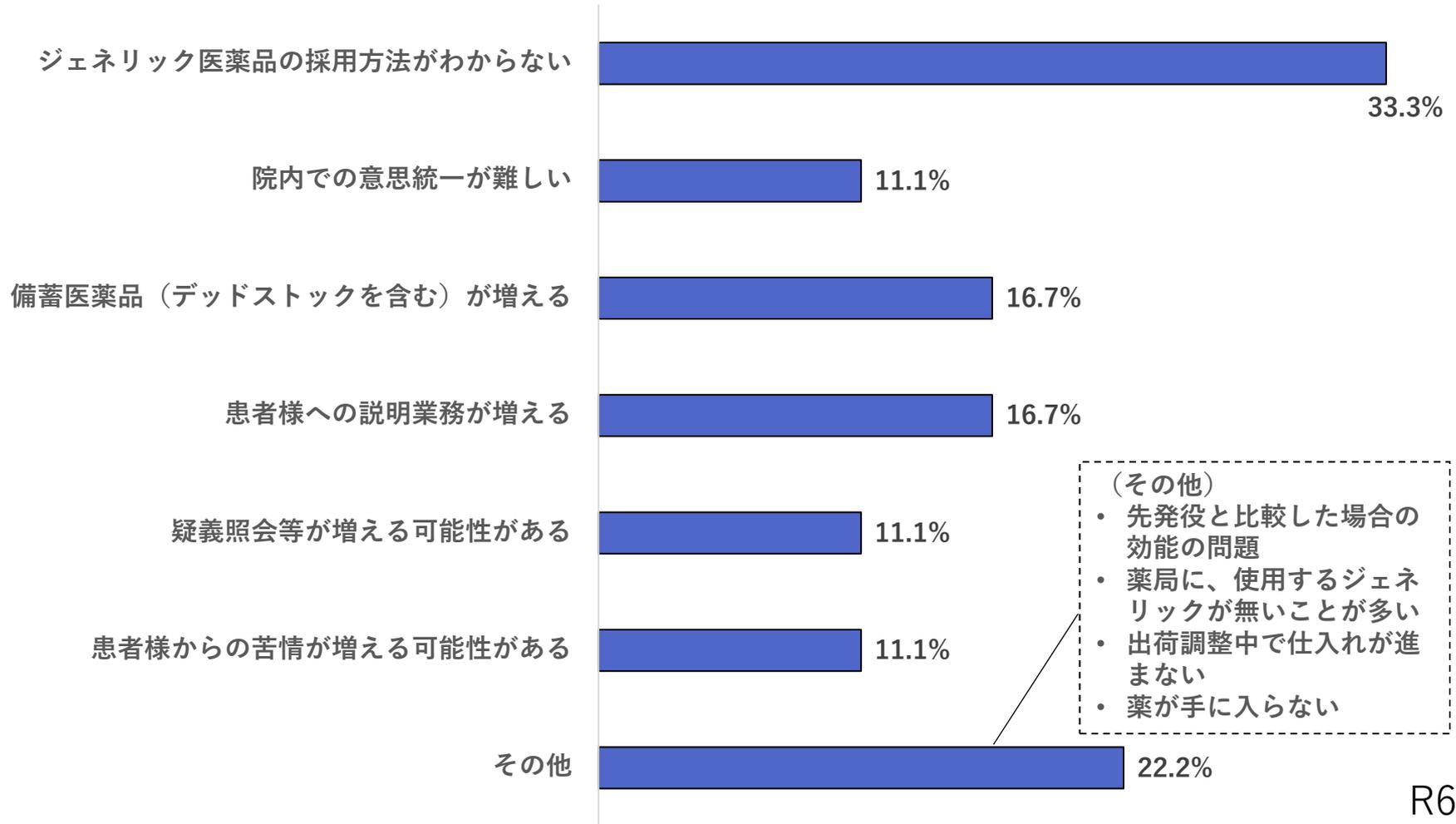
問13. あなたの医療機関では、ジェネリック医薬品を積極的に採用もしくは使用（院外処方を含む）したいと思いますか。（単一選択式）

- R6年度は「すでに積極的に採用もしくは使用している」が54.0%で最も高かった。
- H28年度から「すでに積極的に採用もしくは使用している」が7.6ポイント増加した。



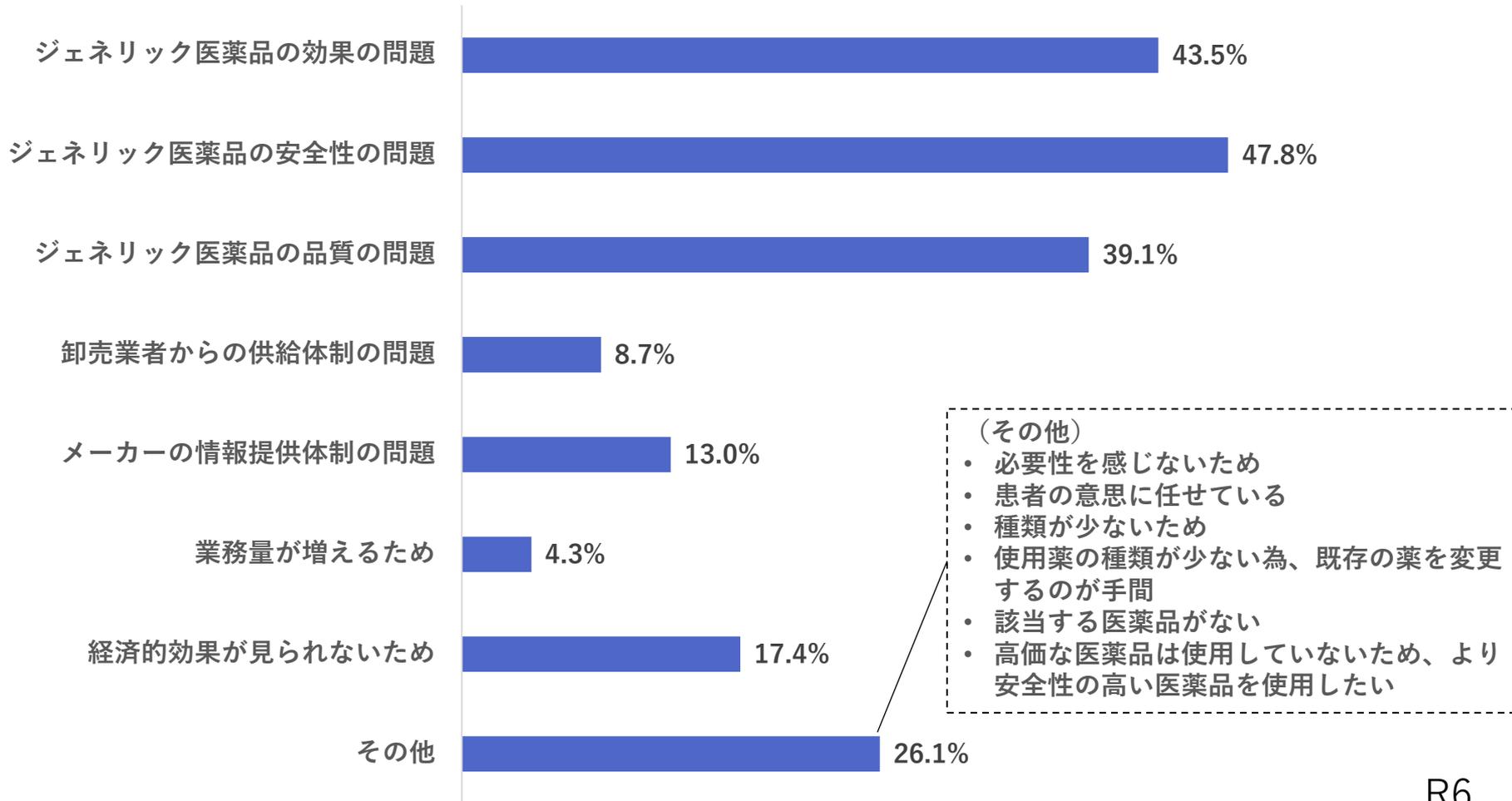
問14. 《問13で「2.積極的に採用もしくは使用したいと考えているが、思うように進まない」と回答した医療機関》ジェネリック医薬品の採用もしくは使用が思うように進まない理由は何ですか。（複数選択式）

- 「ジェネリック医薬品の採用方法がわからない」が33.3%で最も高かった。



問15. 《問13で「3.積極的に使用する必要はないと考えている」と回答した医療機関》ジェネリック医薬品を積極的に使用する必要がないと思う理由は何ですか。（複数選択式）

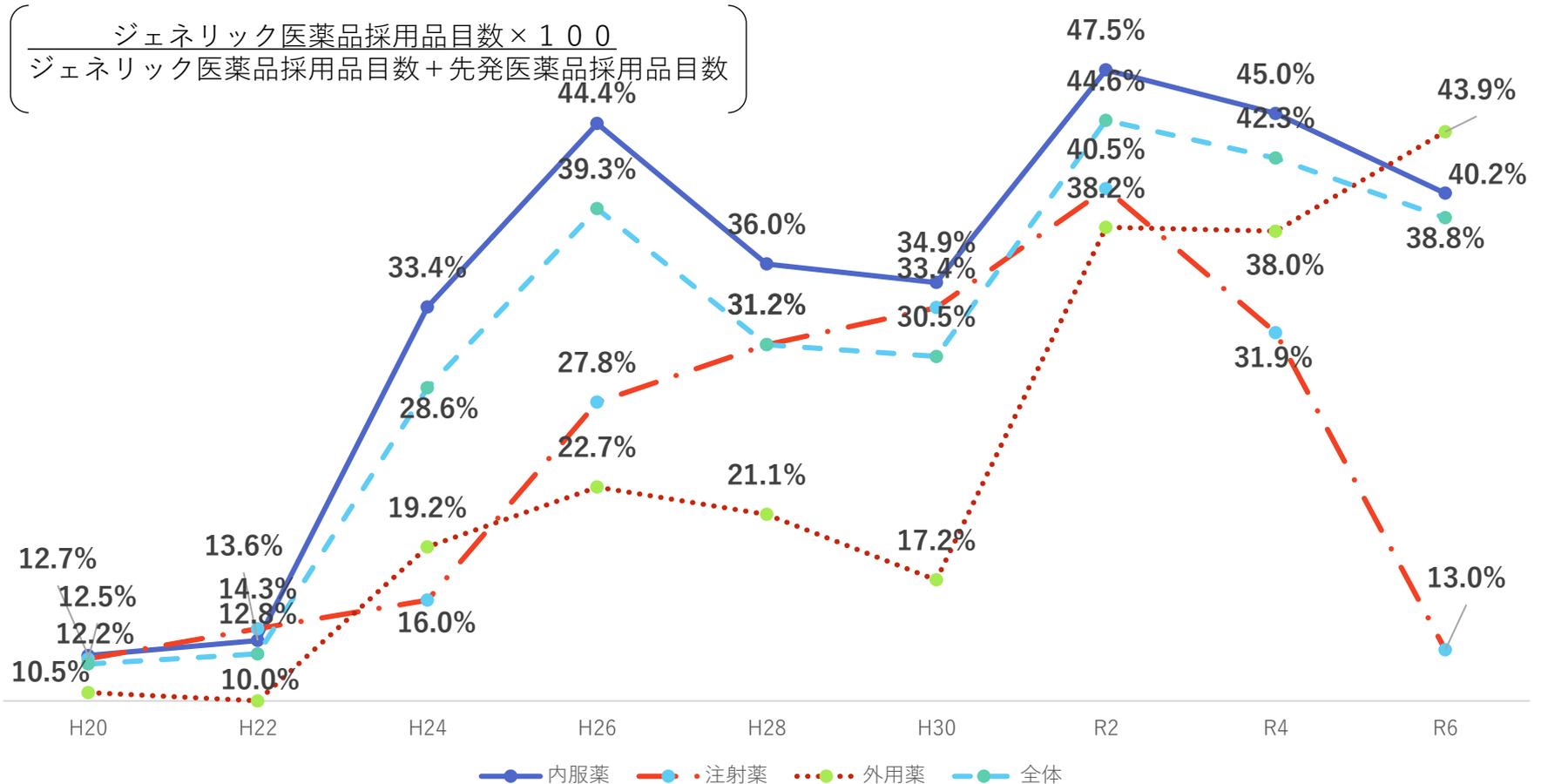
- 「ジェネリック医薬品の安全性の問題」が47.8%で最も高く、続いて「ジェネリック医薬品の効果の問題」が43.5%であった。



問16. 令和6年5月現在、あなたの医療機関における先発医薬品とジェネリック医薬品の採用状況（品目数）についてお答えください。（記入式）

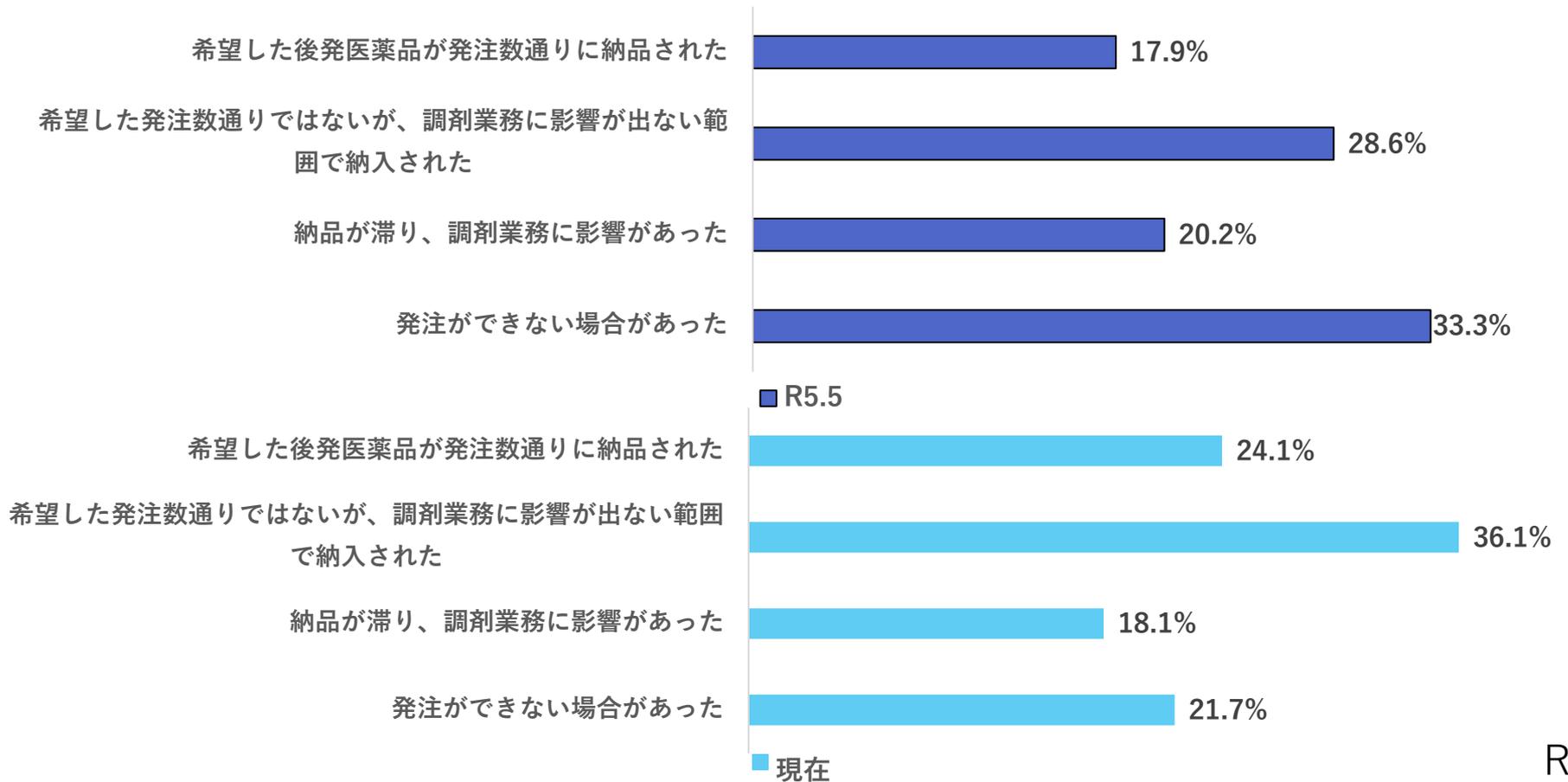
- R6年度は外用薬が43.9%で最も高く、注射薬が13.0%で最も低かった。内服、注射についてはR4年度から減少傾向が続いている。また、全体（内服薬＋注射薬＋外用薬）は38.8%であった。
- R4年度と比較すると、全体の割合が3.5ポイント減少した。

### ○ジェネリック医薬品の採用品目割合



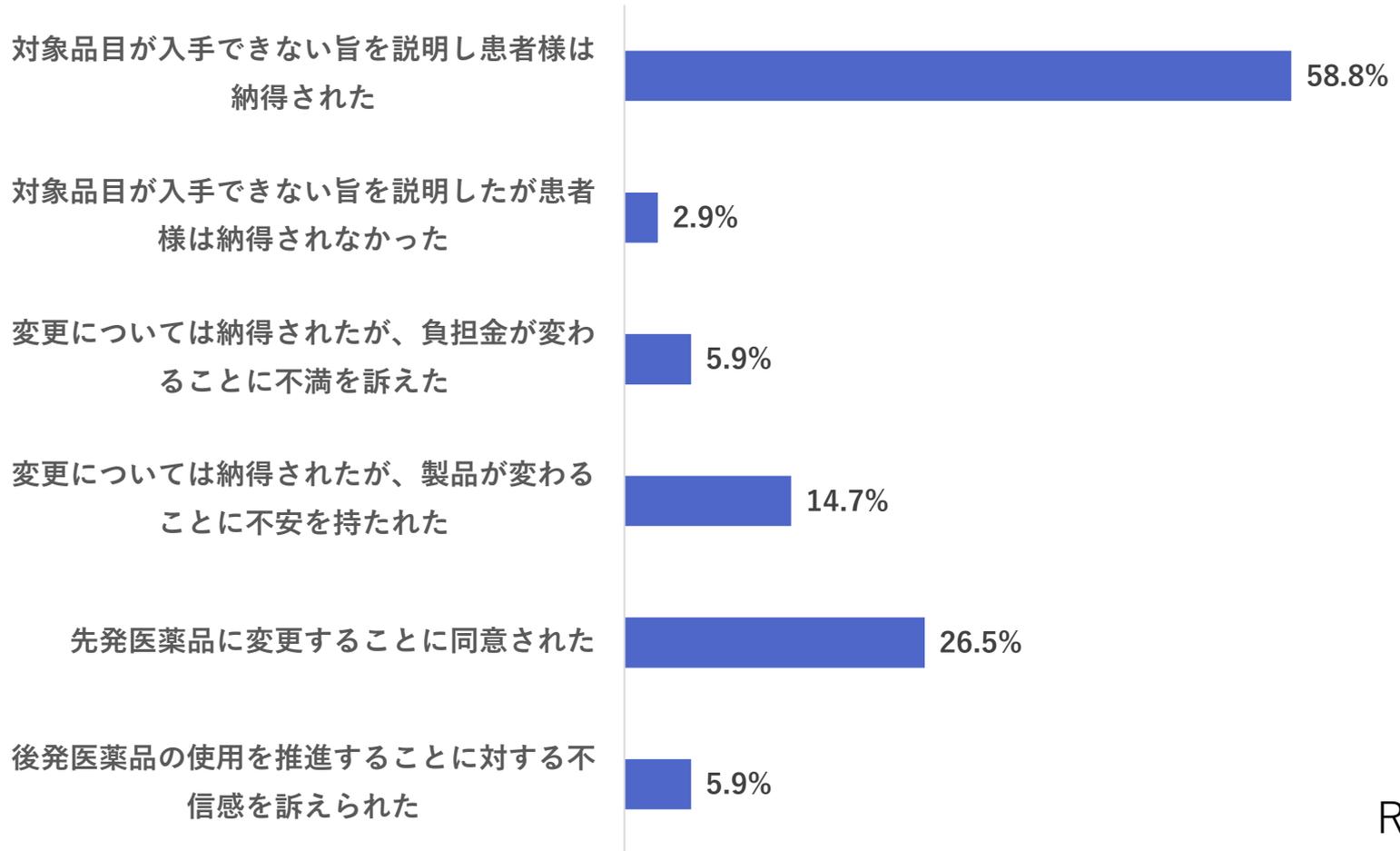
問17. 2020年以降、複数の医薬品製造メーカーが起こした不祥事案に端を発し、後発医薬品における製品供給体制が不安定になりました。あなたの医療機関で採用している後発医薬品の「令和5年5月」及び「現在(令和6年5月)」の納入状況についてお答えください。(単一選択式)

- 「令和5年5月」の納入状況では、「発注できない場合があった」が33.3%で最も高く、続いて「希望した発注数通りではないが、調剤業務に影響が出ない範囲で納入された」が28.6%であった。
- 「現在(令和6年5月)」の納入状況では、「希望した発注数通りではないが、調剤業務に影響が出ない範囲で納入された」が36.1%で最も高く、続いて「希望した後発医薬品が発注数通りに納品された」が24.1%であった。



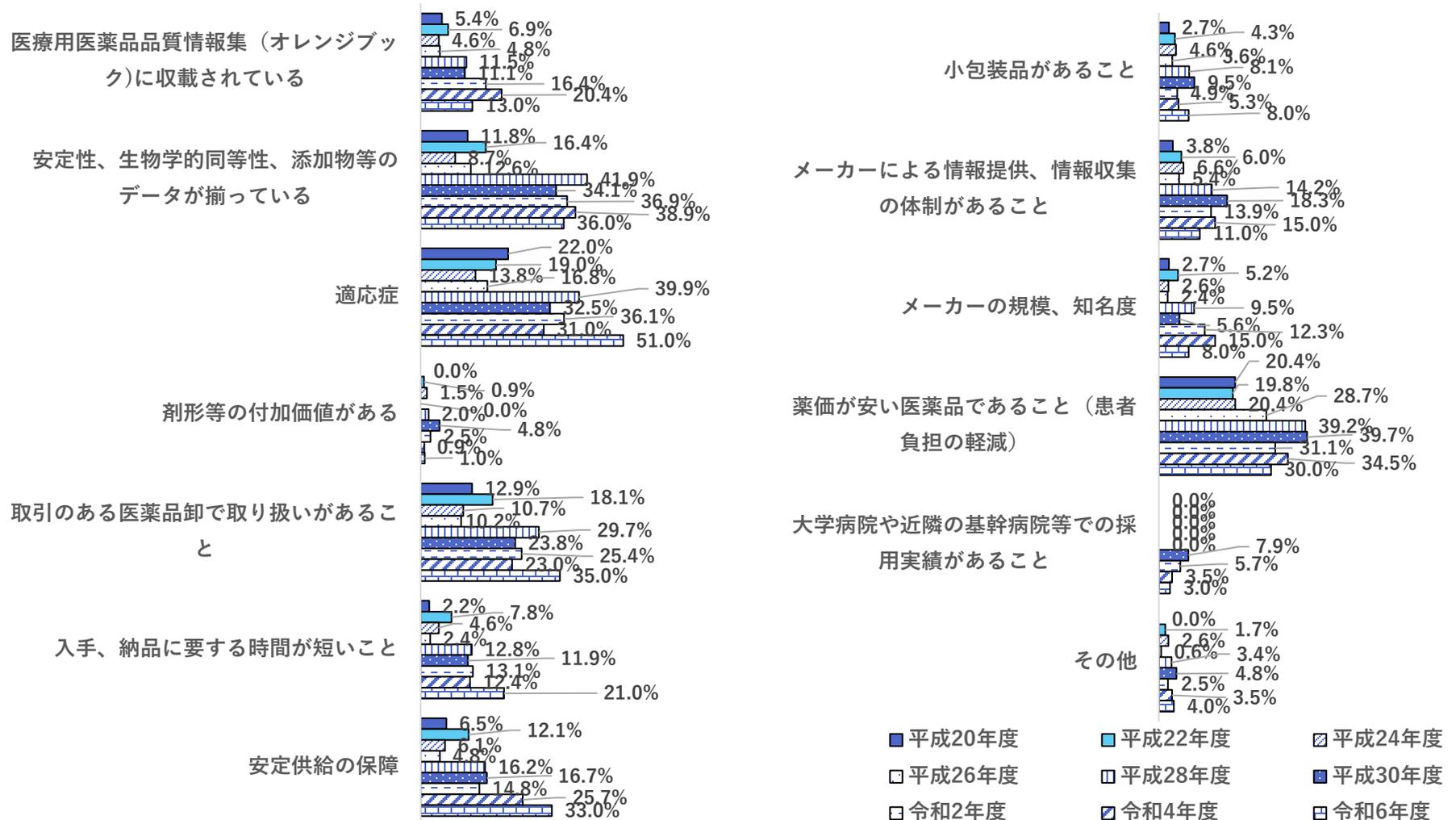
問18. 《問17で現在の状況において、「3. 納品が滞り、調剤業務に影響がある」、「4. 発注ができない場合ある」と回答した医療機関》医薬品の変更に対する患者様の反応をすべて選んでください（複数選択式）

- 「対象品目が入手できない旨を説明し患者様は納得された」が58.8%で最も高く、続いて「先発医薬品に変更することに同意された」が26.5%であった。



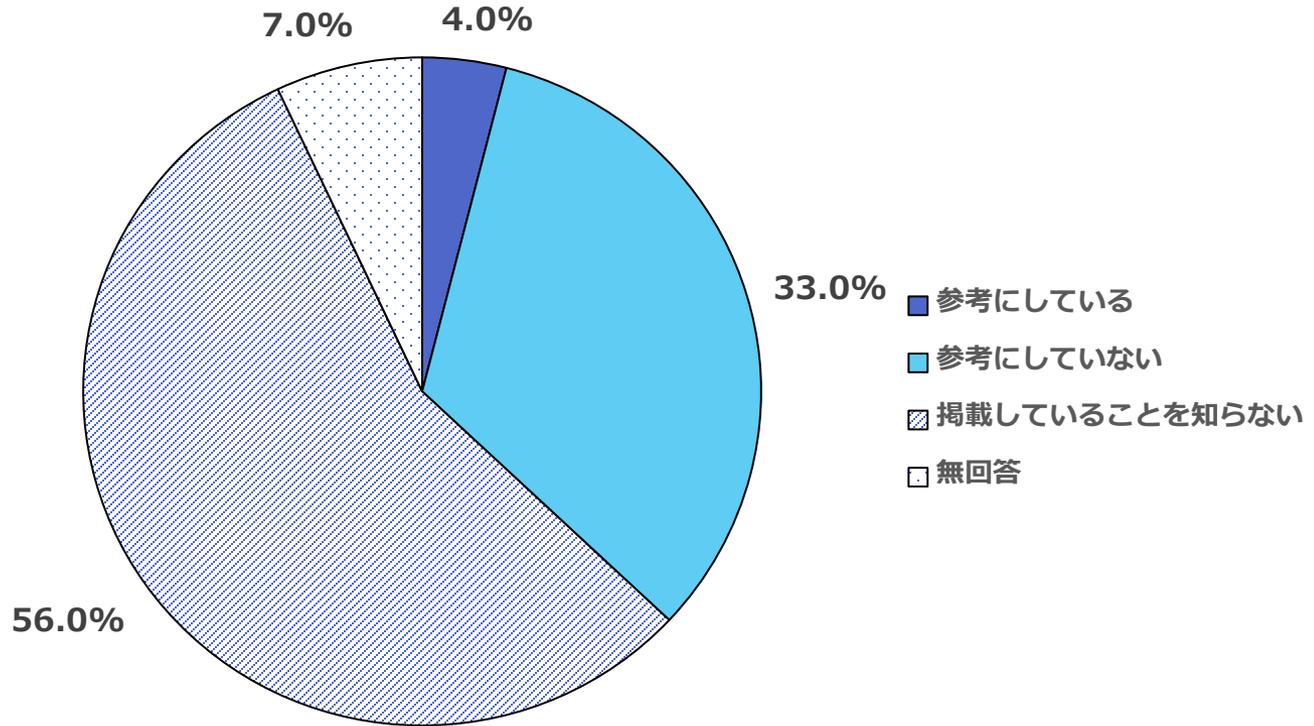
問19 あなたの医療機関がジェネリック医薬品を選ぶ際に重視している事項は何ですか。（複数選択式）

● R6年度は「適応症」が51.0%で最も高く、続いて「安定性、生物学的同等性、添加物等のデータが揃っている」が36.0%、「取引のある医薬品卸で取り扱いがあること」が35.0%であった。



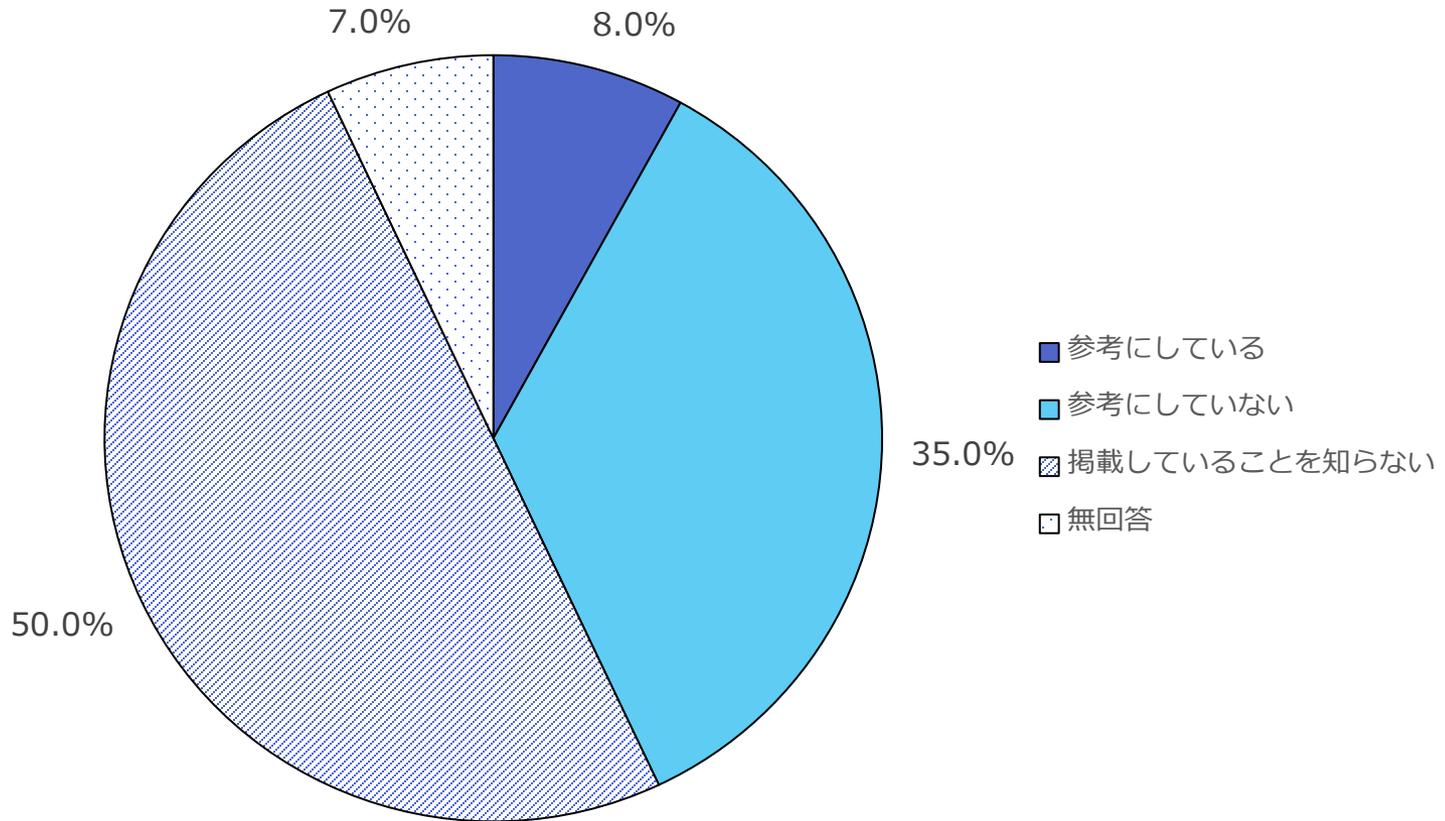
問20. あなたの医療機関がジェネリック医薬品を選ぶ際に、本県ホームページに掲載している県内主要医療機関のジェネリック医薬品採用品目リストを参考にしていますか？（単一選択式）

- 「参考にしている」が4.0%にとどまり、「掲載していることを知らない」が56.0%にものぼった。



問21. あなたの医療機関がジェネリック医薬品を選ぶ際に、国の「後発医薬品品質確保対策事業」検査結果報告書を参考にしていますか？（単一選択式）

- 「参考にしている」が8.0%にとどまり、「掲載していることを知らない」が50.0%にものぼった。

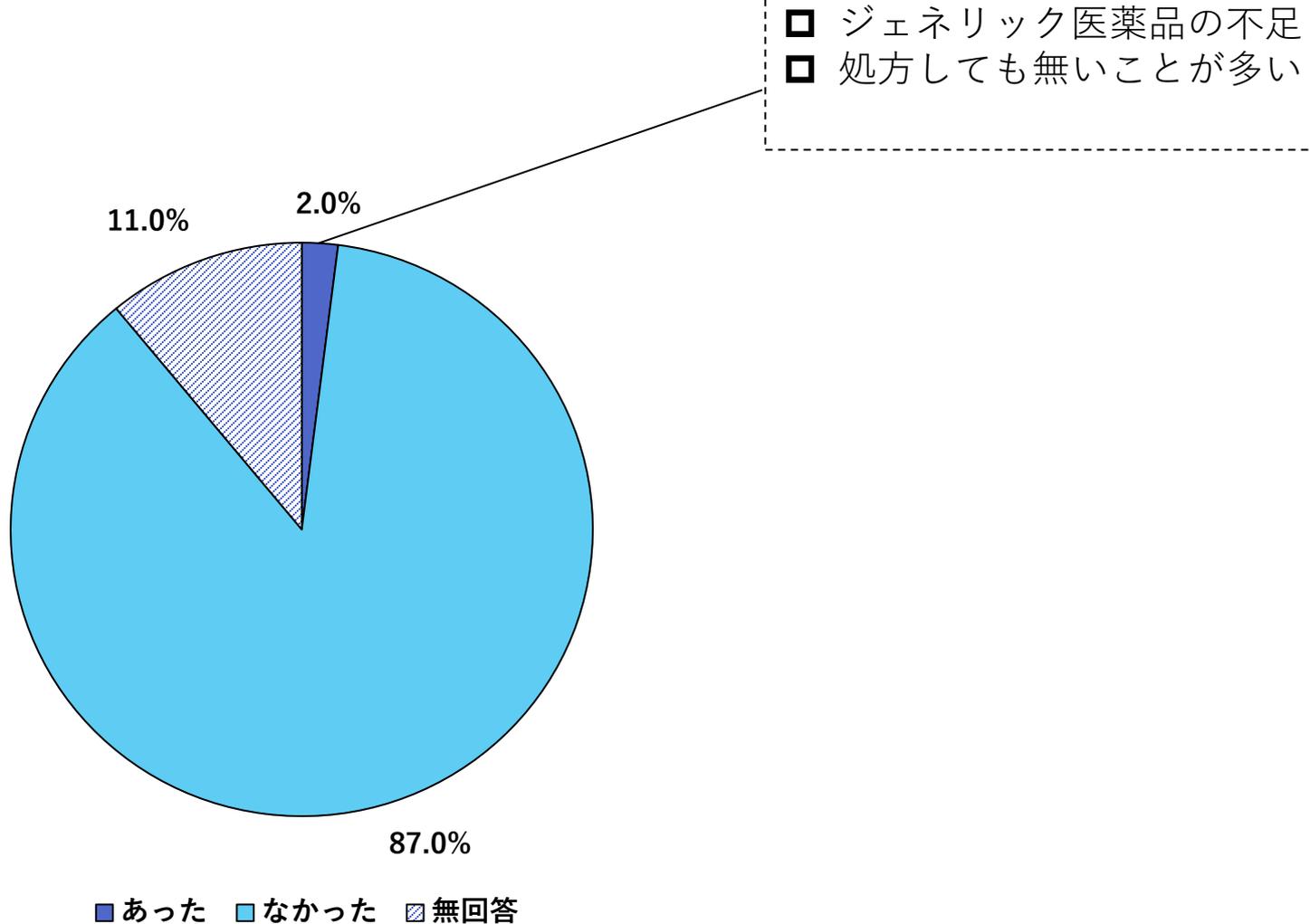


問22.医学的見地から、ジェネリック医薬品が適さない、使用したくないと考える領域等（疾患など）があれば、お答えください。（自由記載）

- 歯科疾患全般  
使用経験が長いものが効果等わかっているので安心して処方できる。
- 抗生物質  
生命の危険に直結するので。  
「Made in China」と聞いたことがある。品質は大丈夫なのか？と思う。

問23. これまでに、ジェネリック医薬品の使用にあたり、院内の薬剤部又は院外処方せんを  
 応需した調剤薬局との間で問題はありましたか。また、問題となった内容について簡単にご  
 記入ください。（単一選択・記入式）

- 「あった」が2.0%であり、その内容として供給及び薬局の在庫に関する問題が2件であった。

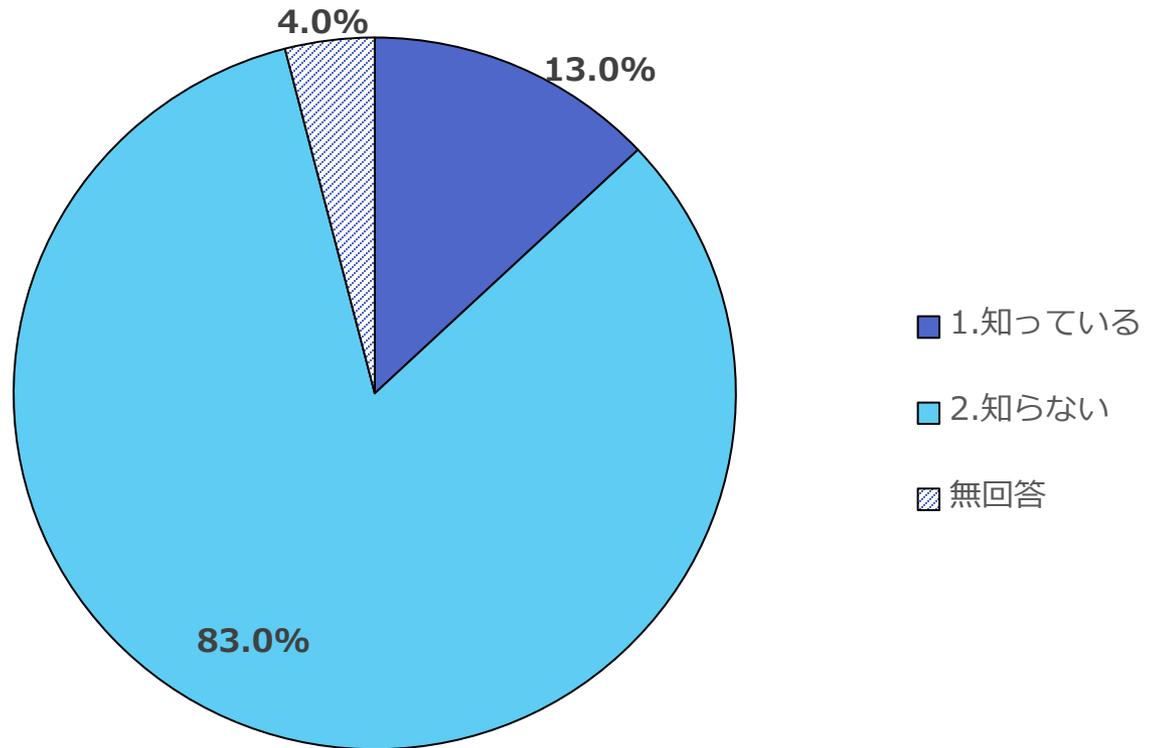


問24.ジェネリック医薬品には、剤形のサイズや味などに工夫がされ、患者が服用しやすいものがあります。ジェネリック医薬品に切り替えて、患者の服薬状況が良くなった、効果が良くなった等の事例があればお答えください。（自由記載）

- 特に記載なし

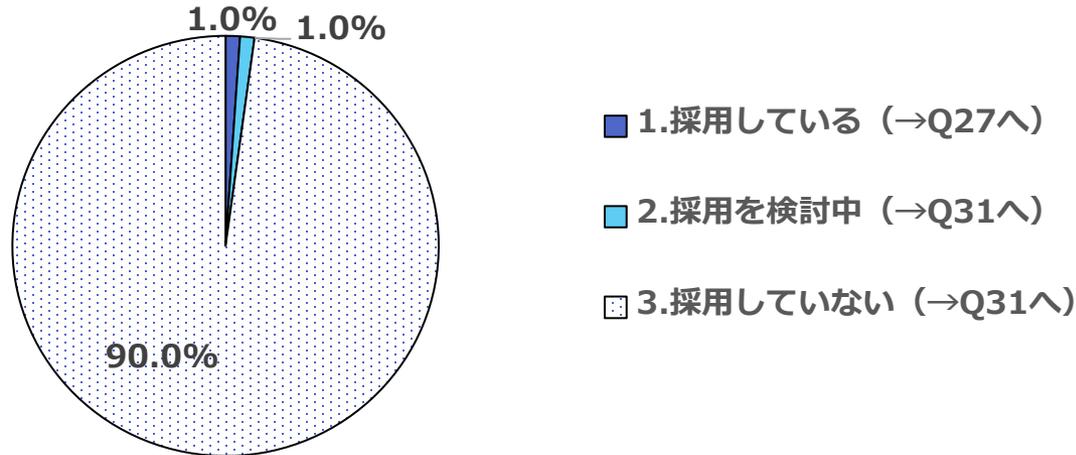
問25. バイオシミラー（バイオ後続品）という言葉を知っていますか。（単一選択式）

- 「知っている」が13.0%であり、「知らない」が83.0%にもなった。



問26.あなたの医療機関では、バイオシミラー（バイオ後続品）を採用していますか。（単一選択式）※あくまで医療機関内（院内）で使用するバイオシミラーがあることを指します。

- 歯科診療所で採用している件数は1.0%（1施設）であった。



問27.《問26で「1.採用している」と回答した医療機関》令和6年5月現在のバイオシミラー（バイオ後続品）の採用品目数を教えてください。

問28.《問26で「1.採用している」と回答した医療機関》令和6年度の診療報酬改定で「バイオ後続品使用体制加算」が新設されましたが、あなたの医療機関が算定可能かどうか教えてください。（単一選択式）

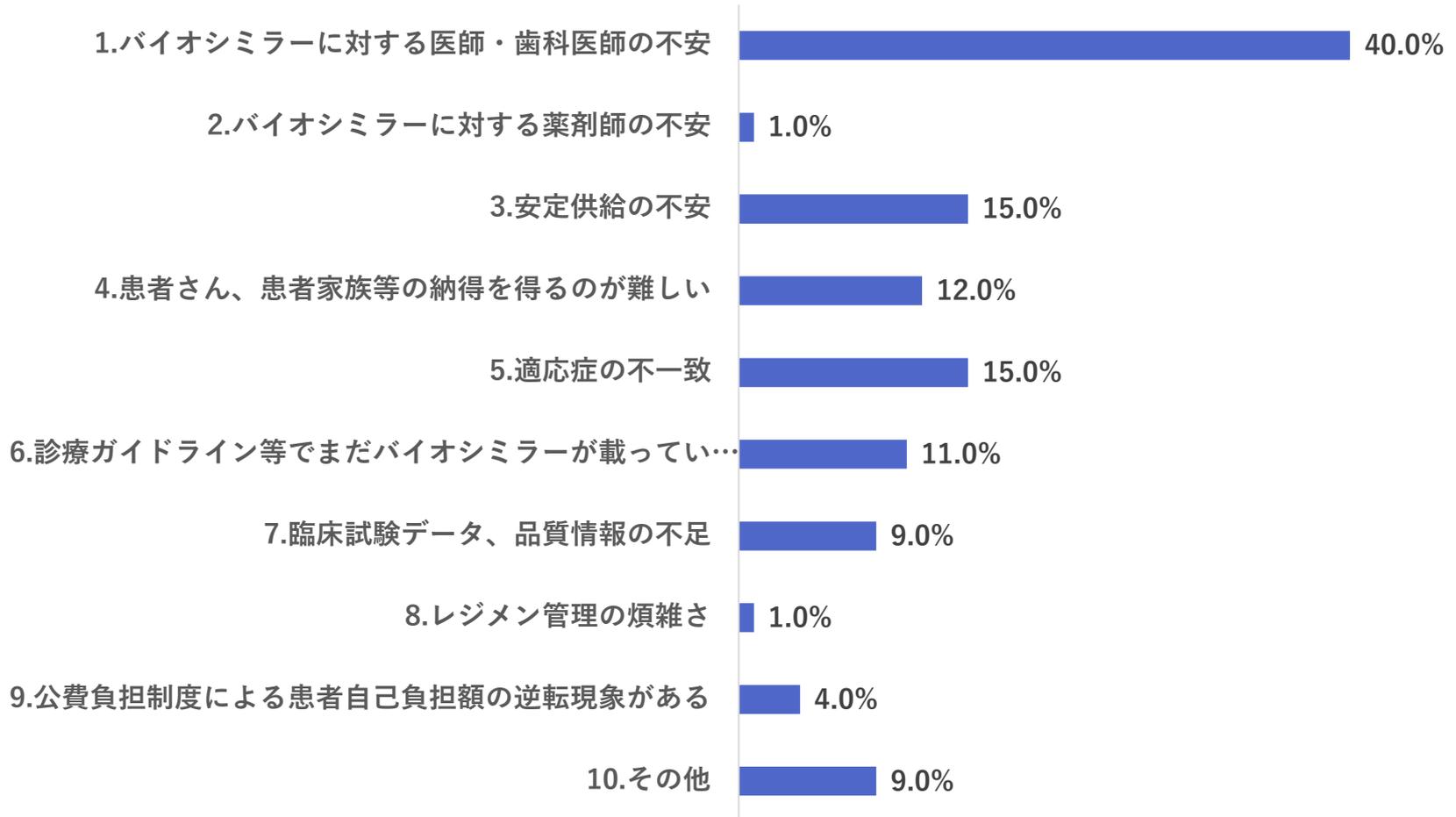
問29.《問26で「1.採用している」と回答した医療機関》バイオシミラー（バイオ後続品）を採用するにあたり、取り組んだことを教えてください。

問30.《問26で「1.採用している」と回答した医療機関》バイオシミラー（バイオ後続品）を採用するについて、今後の状況を教えてください。

- 歯科診療所で採用している品目数は1品目のみであった。（1施設）
- 「患者さんの負担について個々に検討した」ことに取り組んだとのこと。
- 「採用の拡大を検討している」との回答あり。

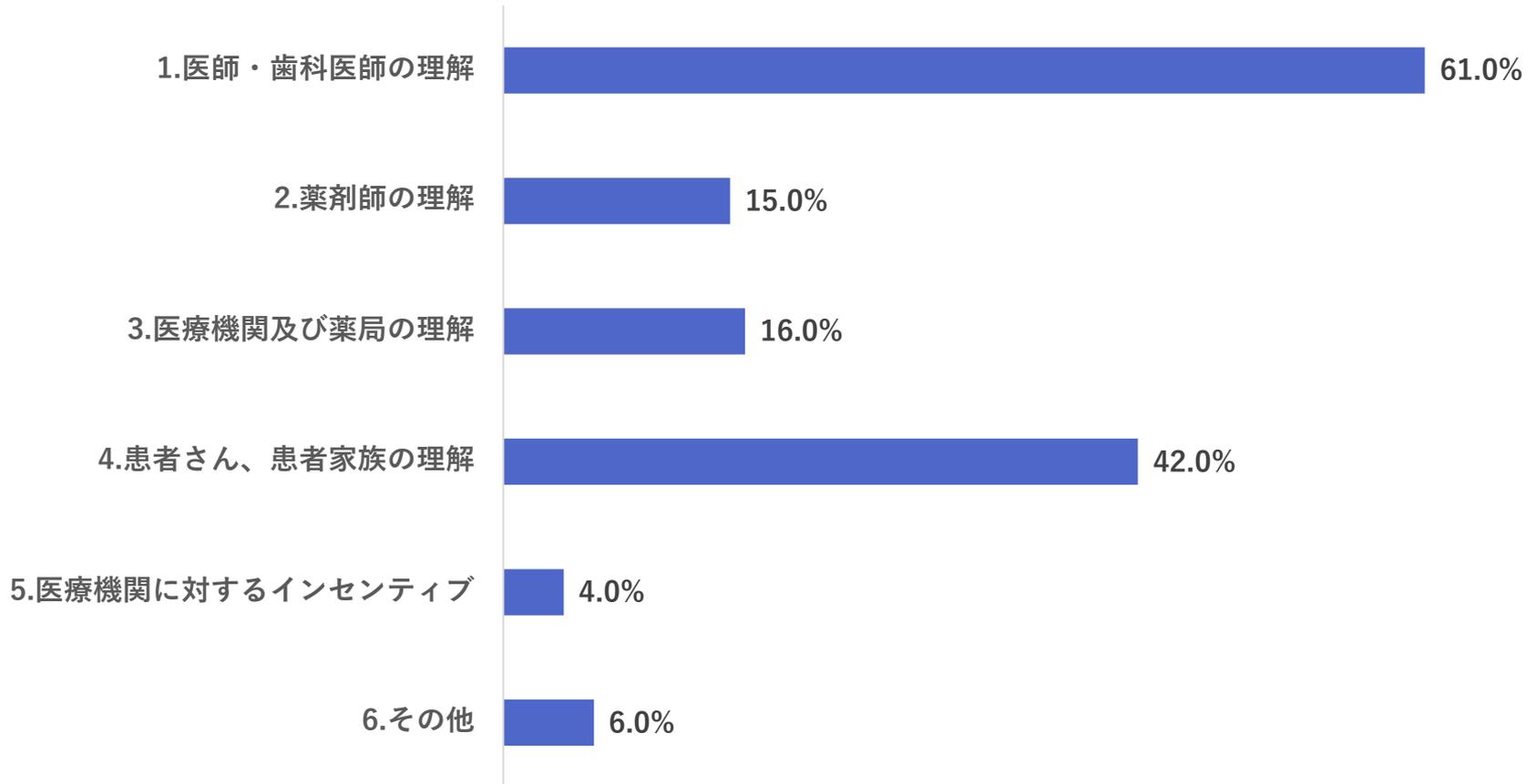
問31. バイオシミラー（バイオ後続品）の使用促進にあたり、どのような課題があると思いますか。（複数選択式）

- 「バイオシミラーに対する医師・歯科医師の不安」が40.0%で最も多く、続いて「安定供給の不安」、「適応症の不一致」が同率の15.0%であった。



問32. バイオシミラー（バイオ後続品）の普及促進のために必要なことは何だと思えますか。  
（複数選択式）

- 「医師、歯科医師の理解」が61.0%と最も高く、続いて「患者さん、患者家族の理解」42.0%となった。

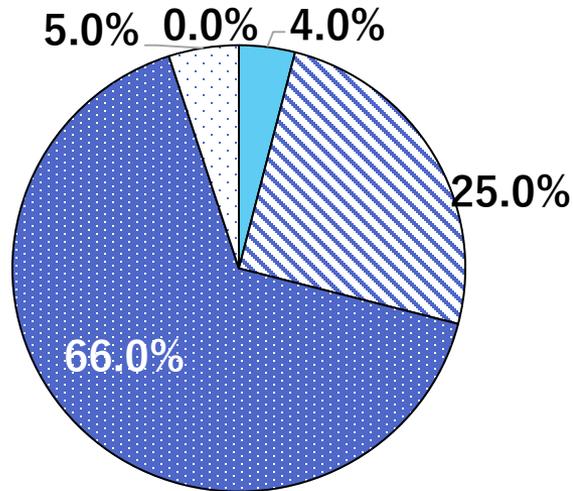


問33. 地域フォーミュラリという言葉を知っていますか。(単一選択式)

問34. あなたの医療機関でフォーミュラリを定めていますか。(単一選択式)

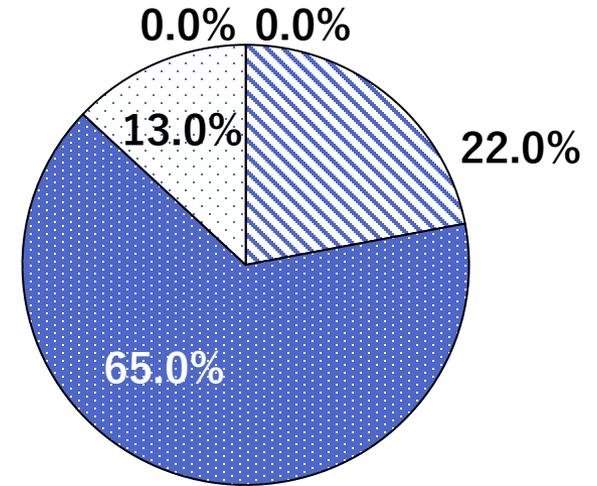
- 問33 「まったく知らない、聞いたことがない」が最も多く66.0%であった。
- 問34 「定めていない(今後定める予定はない)」が最も多く65.0%であった。

問33



- 1.よく知っている
- 2.少し知っている
- 3.聞いたことはあるがよくわからない
- 4.まったく知らない、聞いたことがない
- 無回答

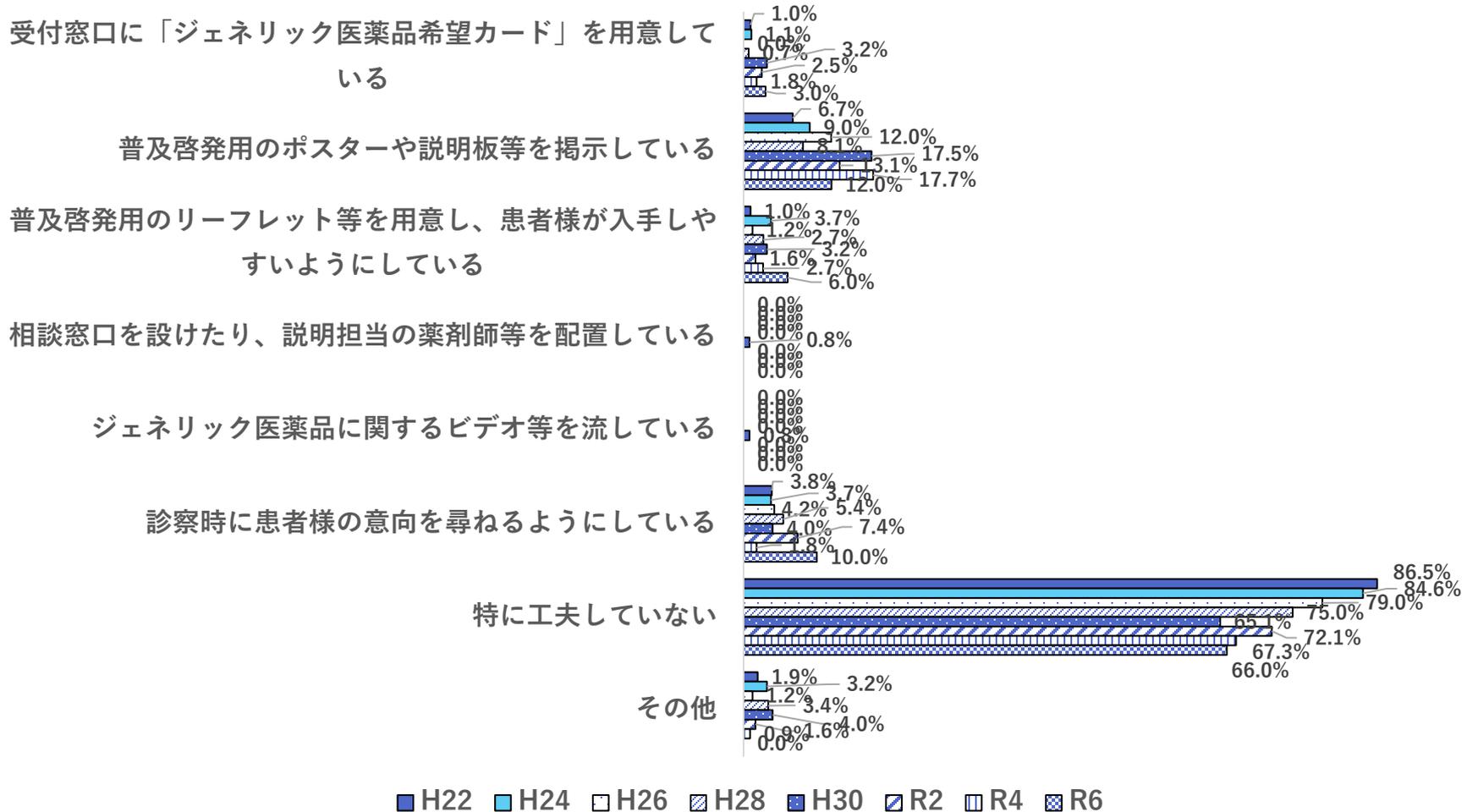
問34



- 1.既に定めている
- 2.今は定めていないが定める予定がある
- 3.今は定めていないが興味はある
- 4.定めていない(今後定める予定はない)
- 無回答

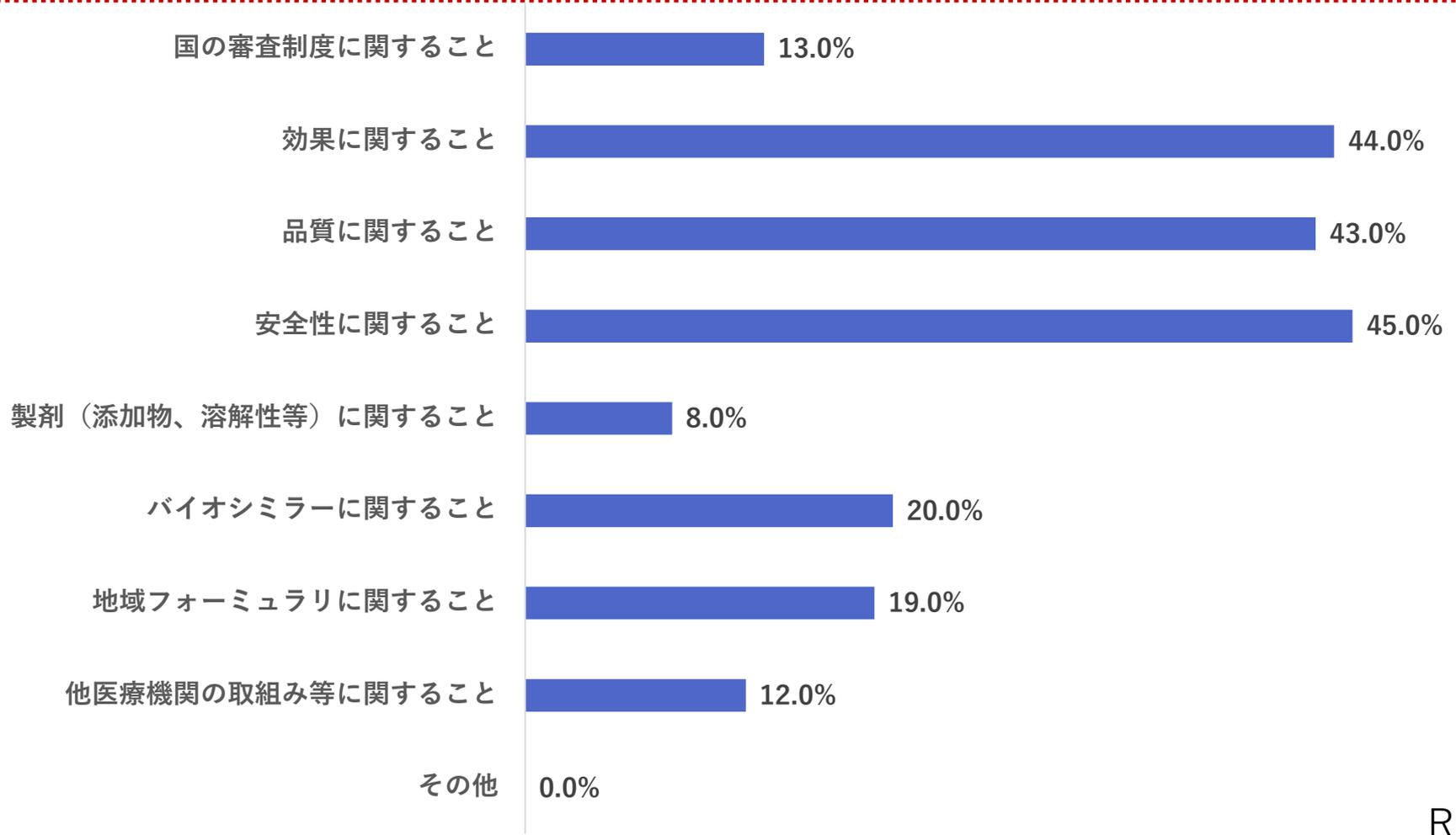
問35. あなたの医療機関では、患者様がジェネリック医薬品を頼みやすくなるような工夫をしていますか。（複数選択式）

- R6年度は「特に工夫していない」が66.0%で最も高く、続いて「普及啓発用のポスターや説明板等を掲示している」が12.0%であった。
- H22年度から「特に工夫していない」が20.5%減少した。



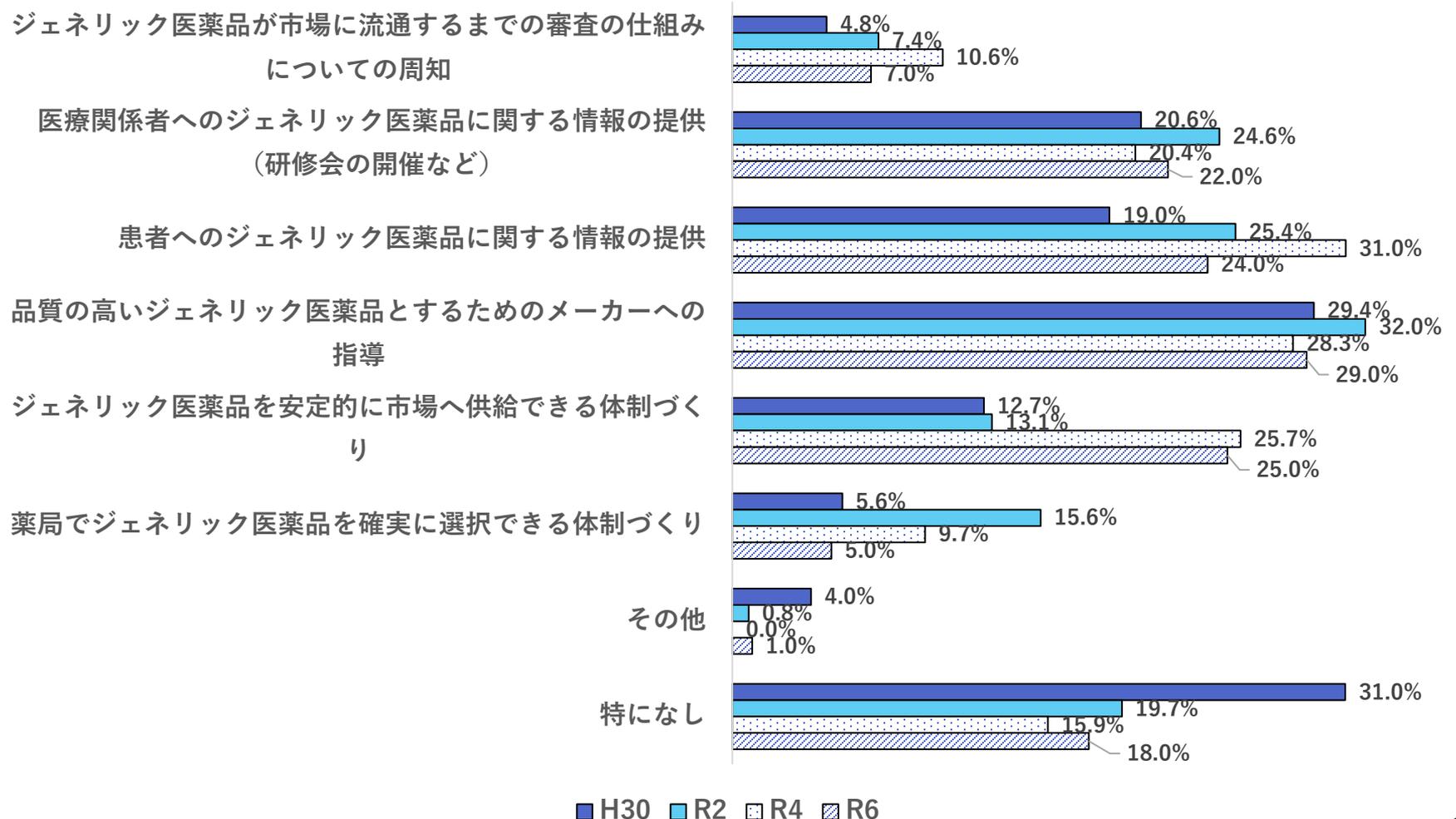
問36. 本県では定期的（年1～2回）に有識者を招いて医療従事者向けのジェネリック医薬品に関する研修会（参加費無料）を開催しています。希望する研修の内容についてお答えください。（複数選択式）

● 「安全性に関すること」が45.0%で最も高く、続いて「効果に関すること」が44.0%、「品質に関すること」43.0%であった。



問37. ジェネリック医薬品の利用に関して、行政（厚生労働省、長崎県福祉保健部薬務行政室）の施策に対し要望することがあれば、該当するものを2つ以内で選んでください。（2つ選択）

- R6年度は「品質の高いジェネリック医薬品とするためのメーカーへの指導」が29.0%で最も高く、続いて「ジェネリック医薬品を安定的に市場へ供給できる体制づくり」が25.0%であった。



# 藥 局

# ジェネリック医薬品に関する薬局アンケート調査結果

## 調査方法

- ・調査票を直接送付し、郵送又は電子申請による回答集計

## 調査時期

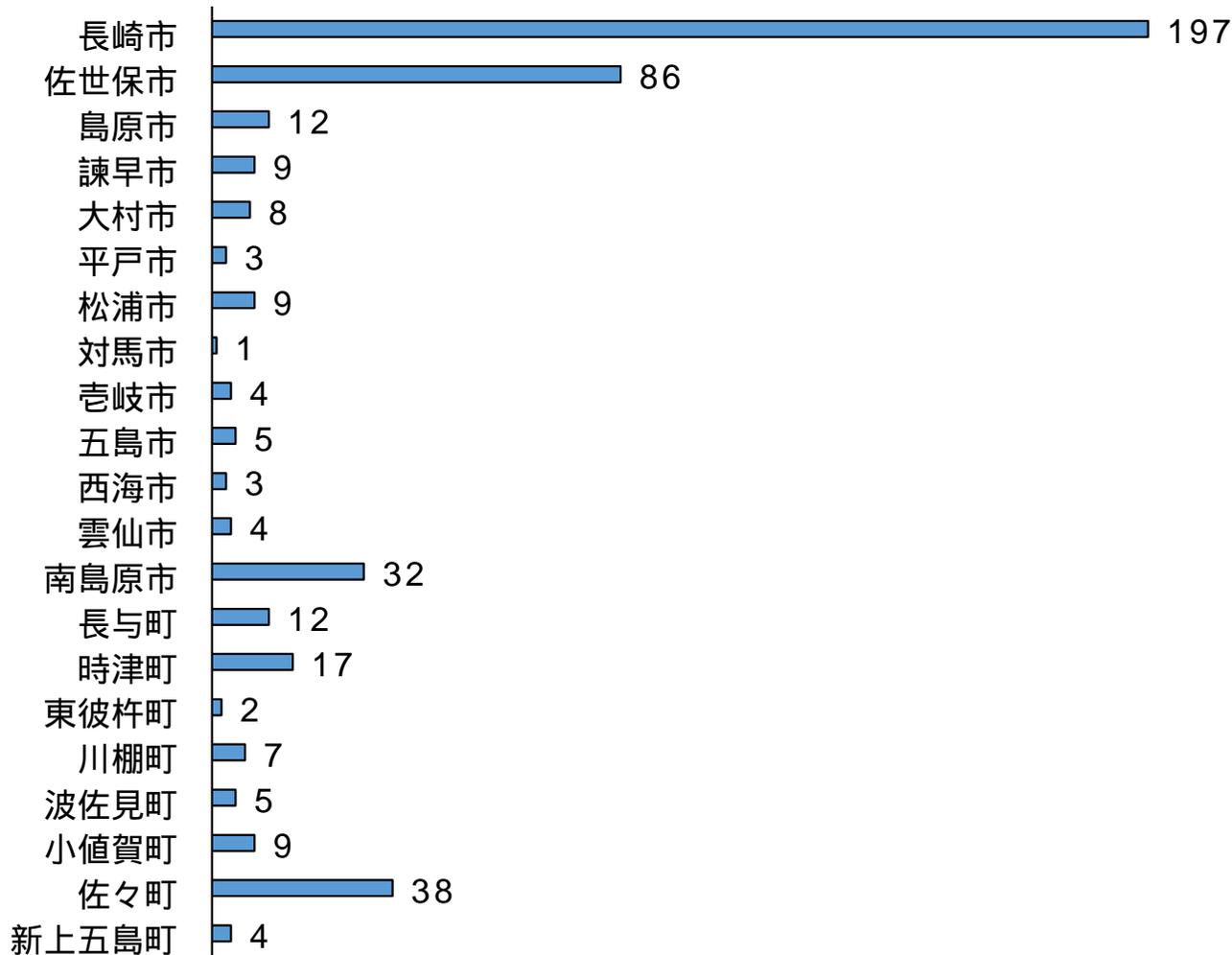
- ・令和6年7月29日から令和6年8月30日まで

## 調査対象

- ・県内すべての薬局

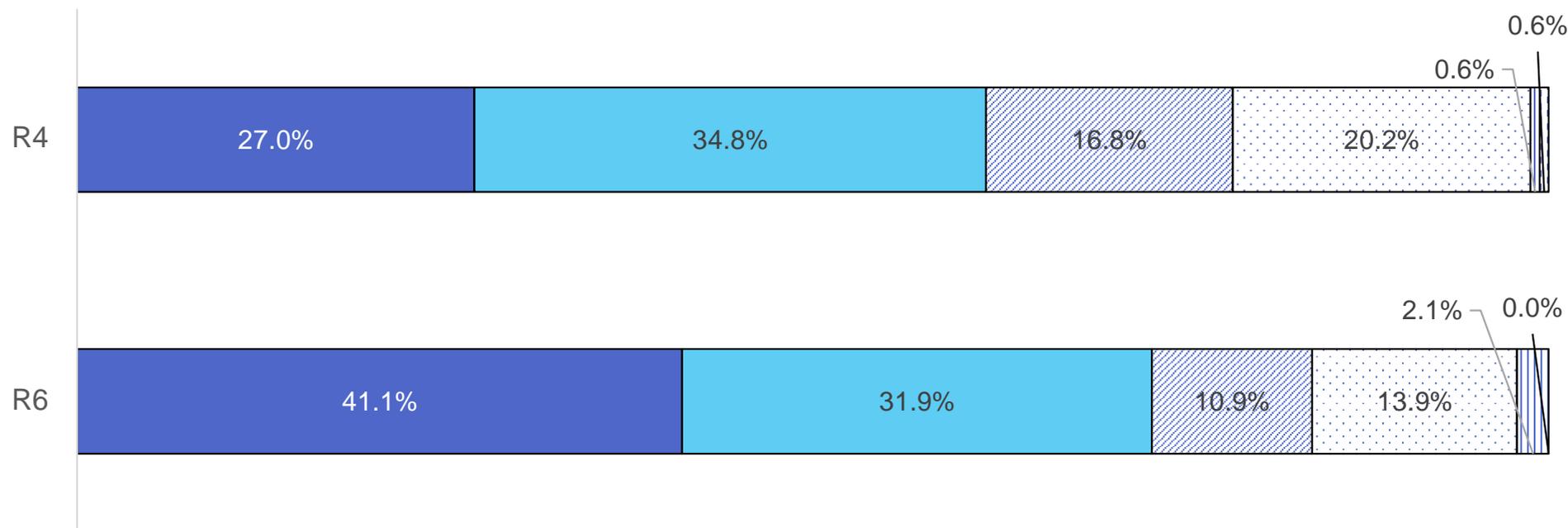
## 対象者数、回答者数及び回収率

- ・対象施設数：721施設、回答施設数：467施設、回答率：64.8%



問2.あなたの薬局の後発医薬品調剤体制加算の有無についてお答えください。(単一選択式)

- R6年度は「加算3」が41.1%、「加算2」が31.9%、「加算3」が10.9%であり、後発医薬品調剤体制加算を算定している薬局は全体の83.9ポイントであった。
- R4年度から「加算3」が14.1ポイント増加した。算定している薬局全体としても5.3ポイント増加した



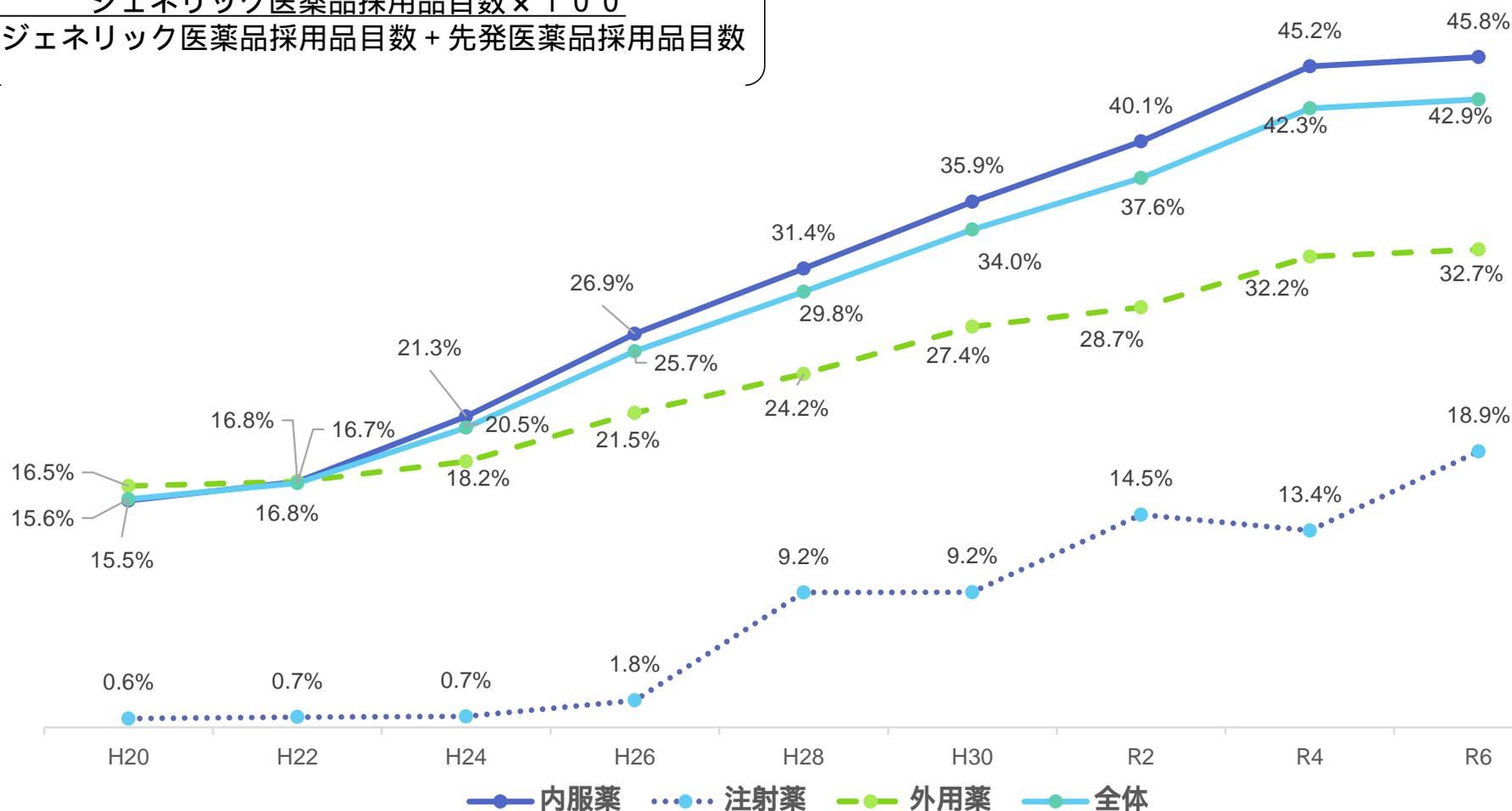
- 1 後発医薬品調剤体制加算3 (後発医薬品の調剤数量が90%以上)
- 2 後発医薬品調剤体制加算2 (後発医薬品の調剤数量が85%以上)
- 3 後発医薬品調剤体制加算1 (後発医薬品の調剤数量が80%以上)
- 4 後発医薬品調剤体制加算なし
- ▨ 5 対象外
- ▨ 5 未回答

問3. 令和6年5月現在、あなたの薬局における先発医薬品とジェネリック医薬品の備蓄状況（品目数）についてお答えください。（記入式）

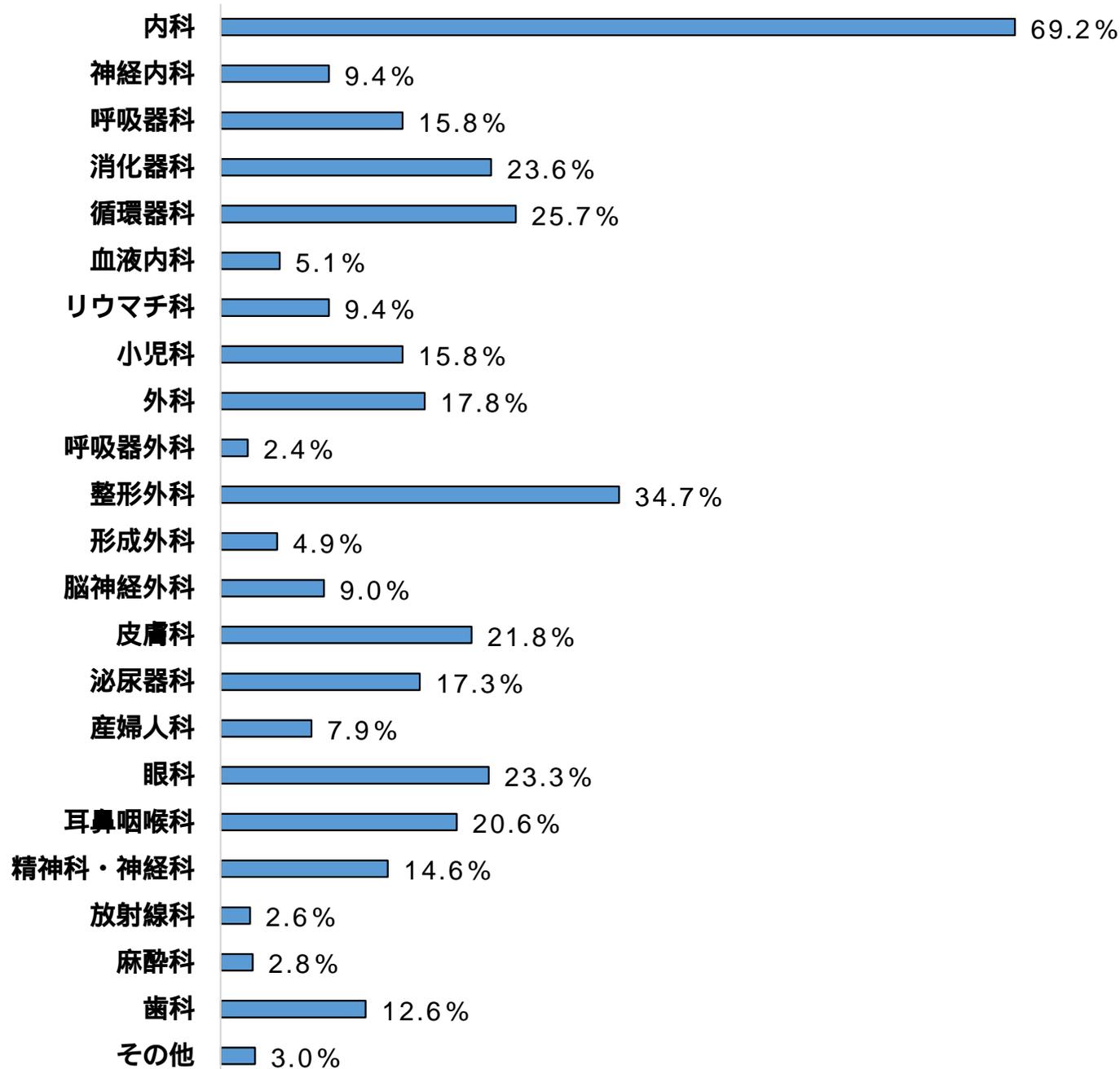
- ジェネリック医薬品の採用品目割合について、R6年度は内服薬が45.8%で最も高く、注射薬が18.9%で最も低かった。また、全体（内服薬 + 注射薬 + 外用薬）は42.9%であった。
- H20年度から全体の割合が27.3%増加した。

### ○ジェネリック医薬品の採用品目割合

$$\left( \frac{\text{ジェネリック医薬品採用品目数} \times 100}{\text{ジェネリック医薬品採用品目数} + \text{先発医薬品採用品目数}} \right)$$

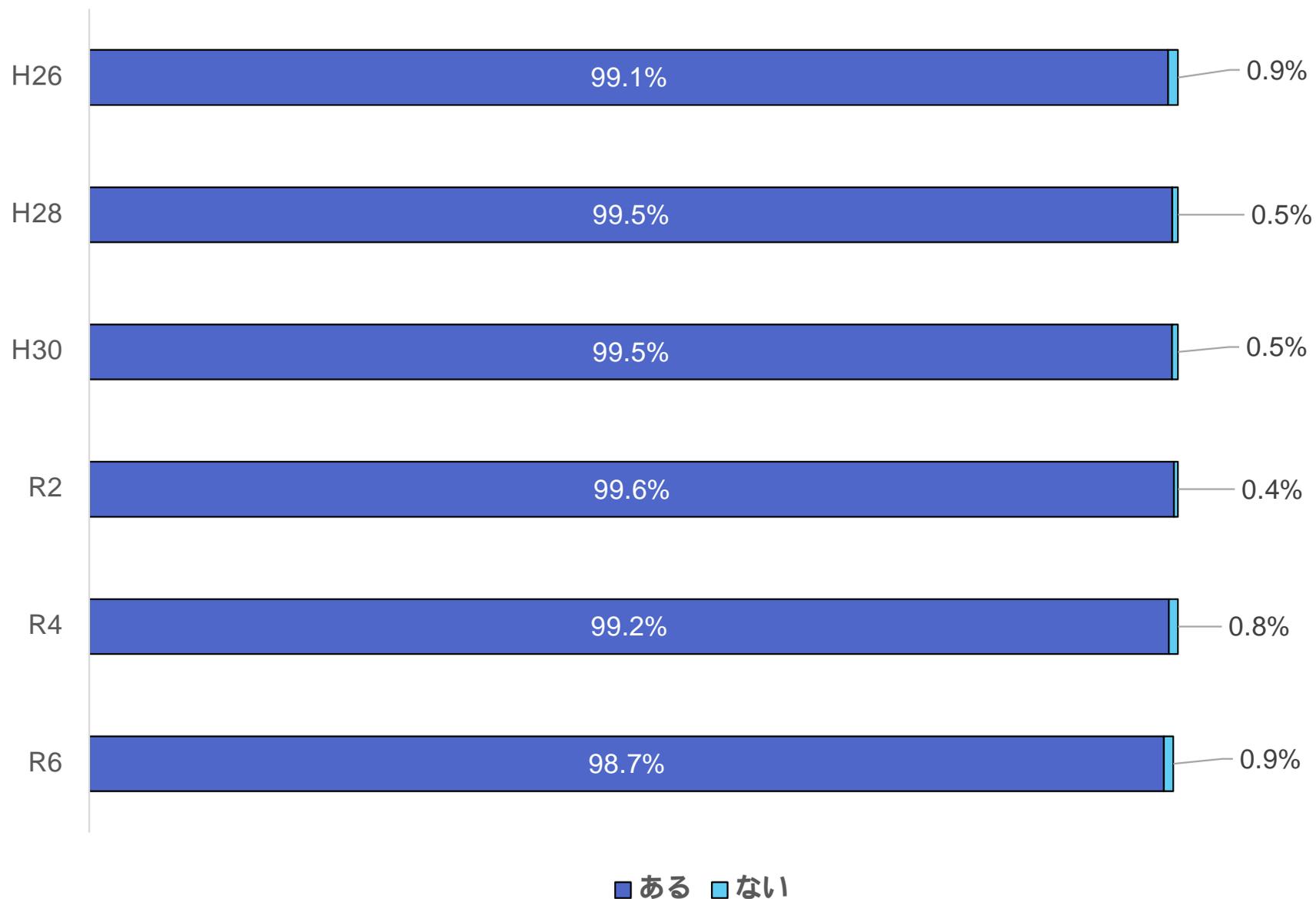


問4.あなたの薬局が処方せんを受けている医療機関の主な診療科目は次のうちどれですか。  
(複数選択式)



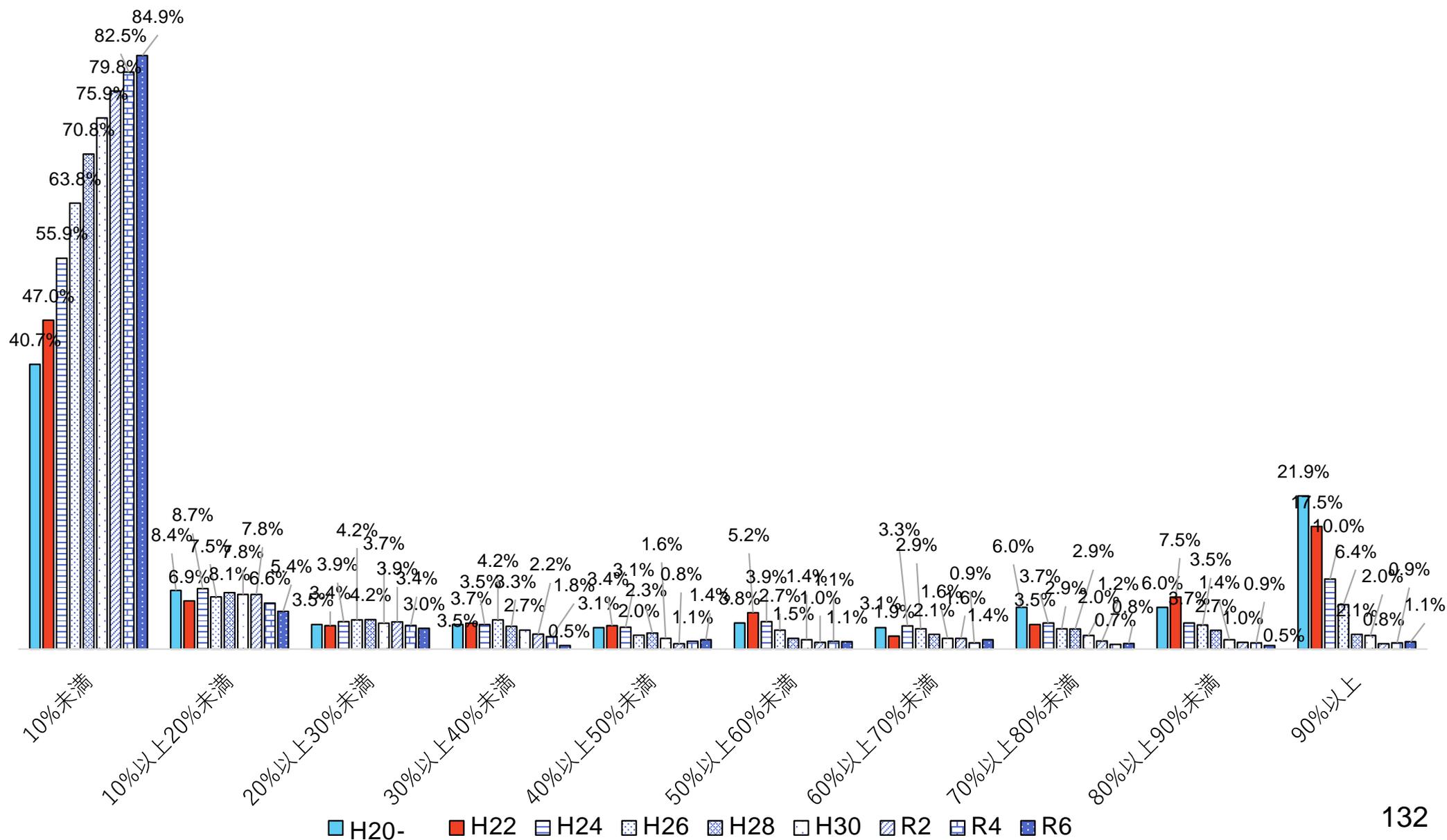
問5. これまでに、あなたの薬局で一般名が記載された処方せんを受けたことがありますか。  
 (単一選択式)

- R6年度は「ある」が98.7%であった。
- H26年度から大きな変化はなかった。



問6.あなたの薬局が令和6年5月（1か月間）に応需した処方せんのうち、「ジェネリック医薬品への変更不可」の処方せん割合は何%ですか。（記入式）

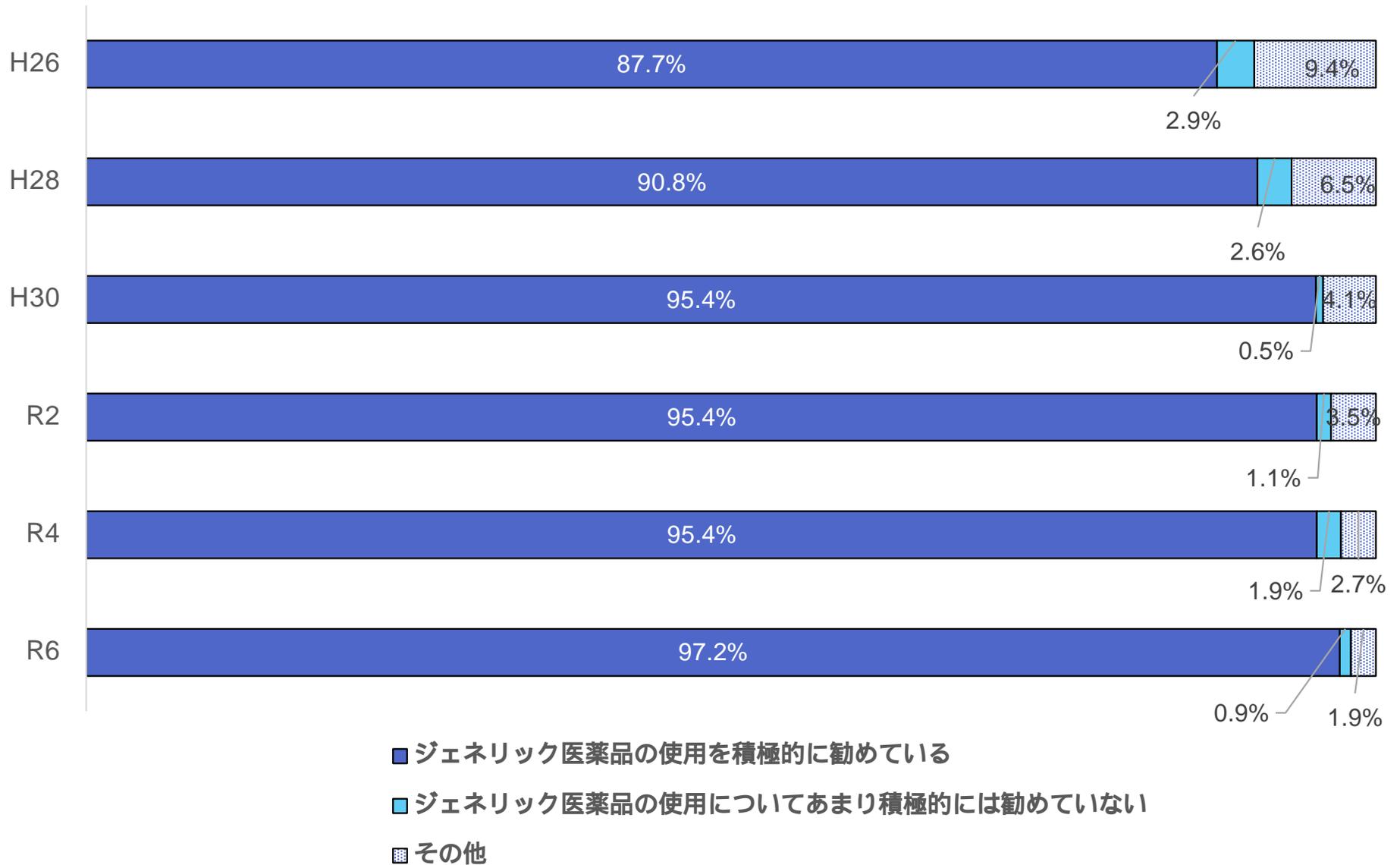
- R6年度は「10%未満」が84.9%で最も高かった。
- H20年度から「90%以上」が20.8ポイント減少し、「10%未満」が44.2ポイント増加した



問7. 一般名が記載された処方せんを応需して、先発医薬品とジェネリック医薬品の両方の在庫がある場合、あなたの薬局では、ジェネリック医薬品の使用について、患者様に対しどのように説明していますか。（単一選択式）

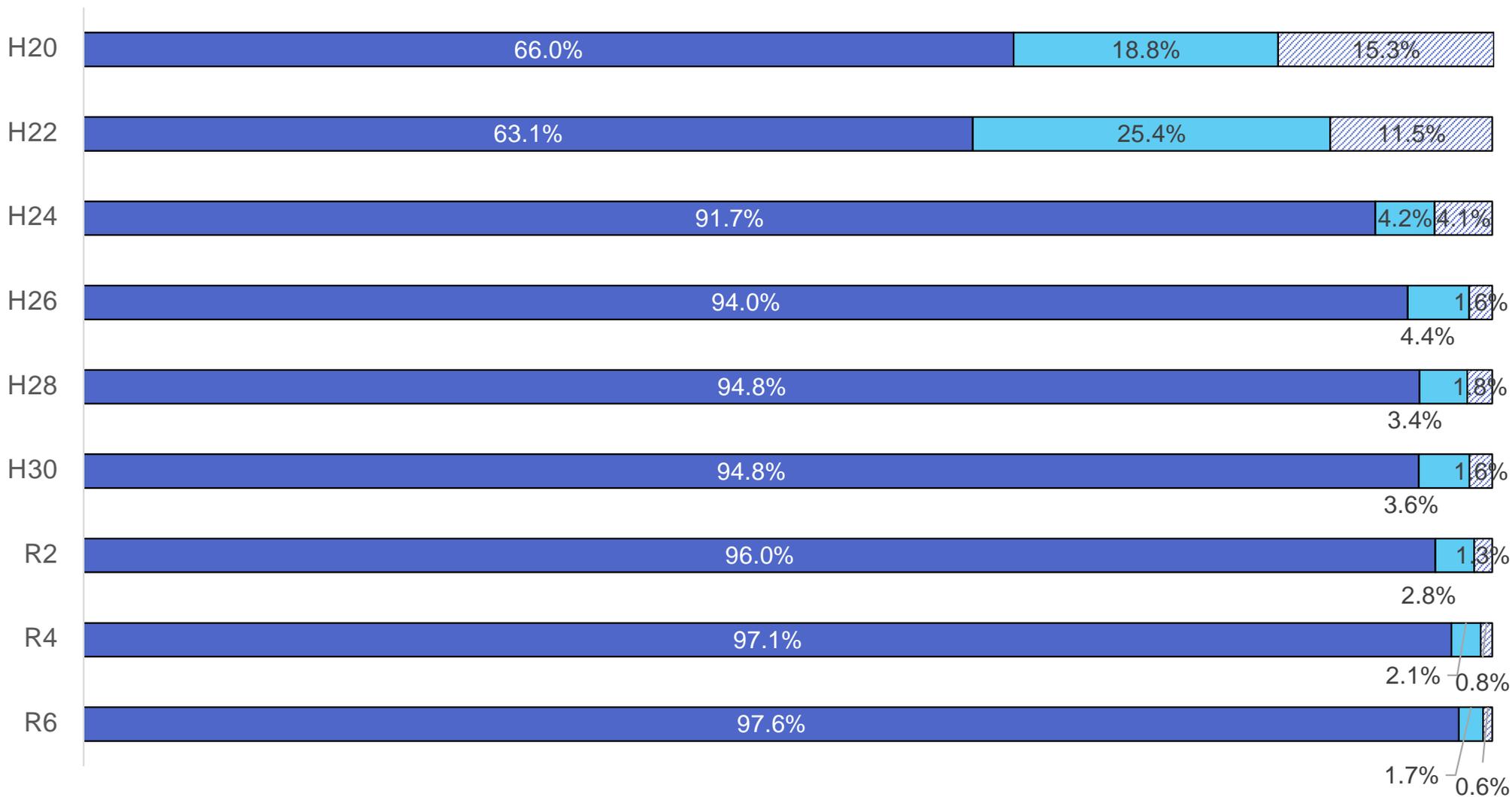
薬局

- R6年度は「ジェネリック医薬品の使用を積極的に勧めている」が97.2%であった。
- H26年度から「ジェネリック医薬品の使用を積極的に勧めている」が9.5%増加した。



問8. 令和6年5月（1か月間）に応需した処方せんのうち、患者様がジェネリック医薬品を希望した場合のあなたの薬局における対応について、最も多い項目は何ですか。（単一選択）

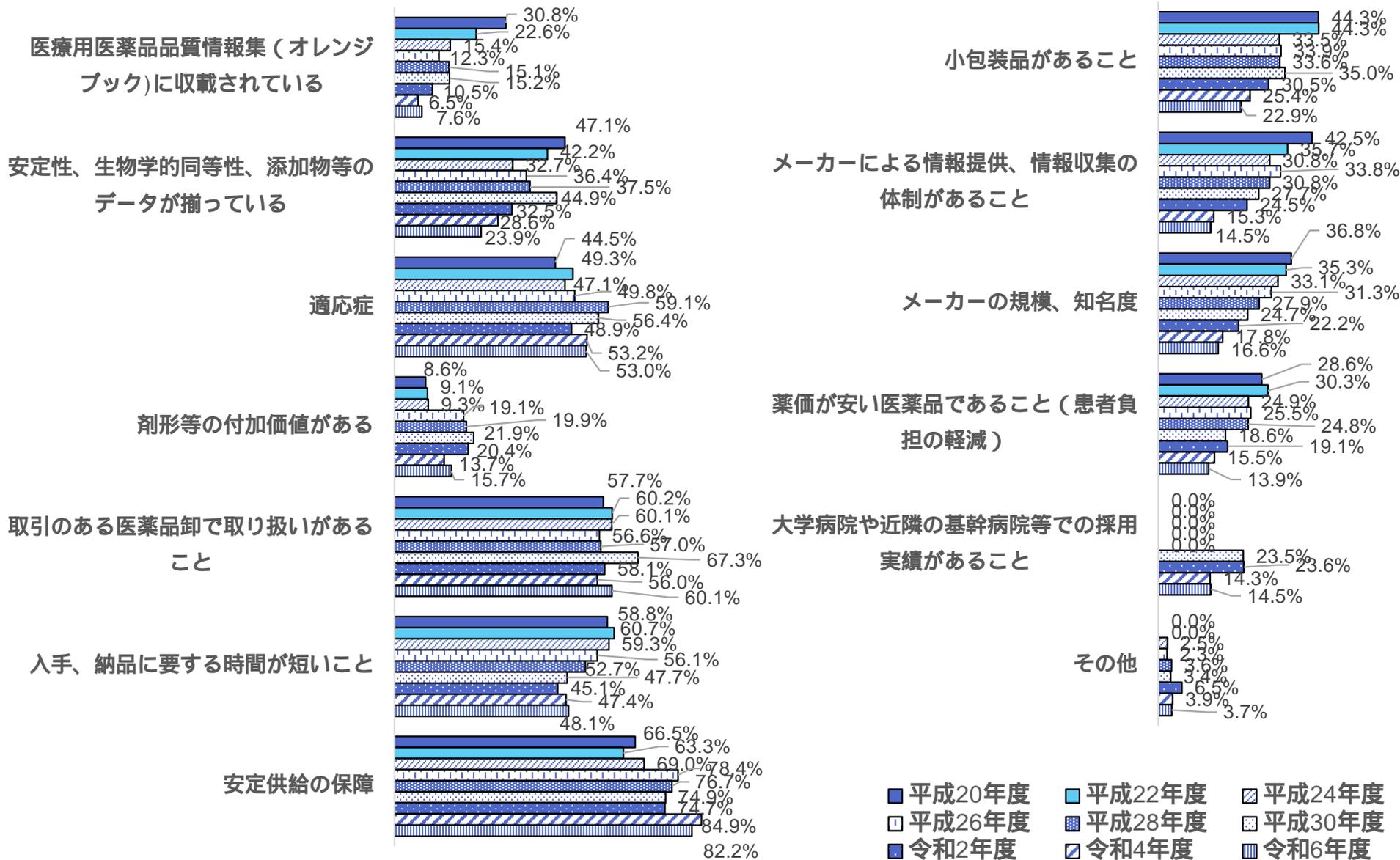
- R6年度は「備蓄しているジェネリック医薬品に変更して調剤した」が97.6%で最も高かった。
- H20年度から「備蓄しているジェネリック医薬品に変更して調剤した」が31.6%増加した。



- 備蓄しているジェネリック医薬品に変更して調剤した
- 必要なジェネリック医薬品がなかったため、直ちに手配して調剤した
- 処方せんに記載されている医薬品を調剤した

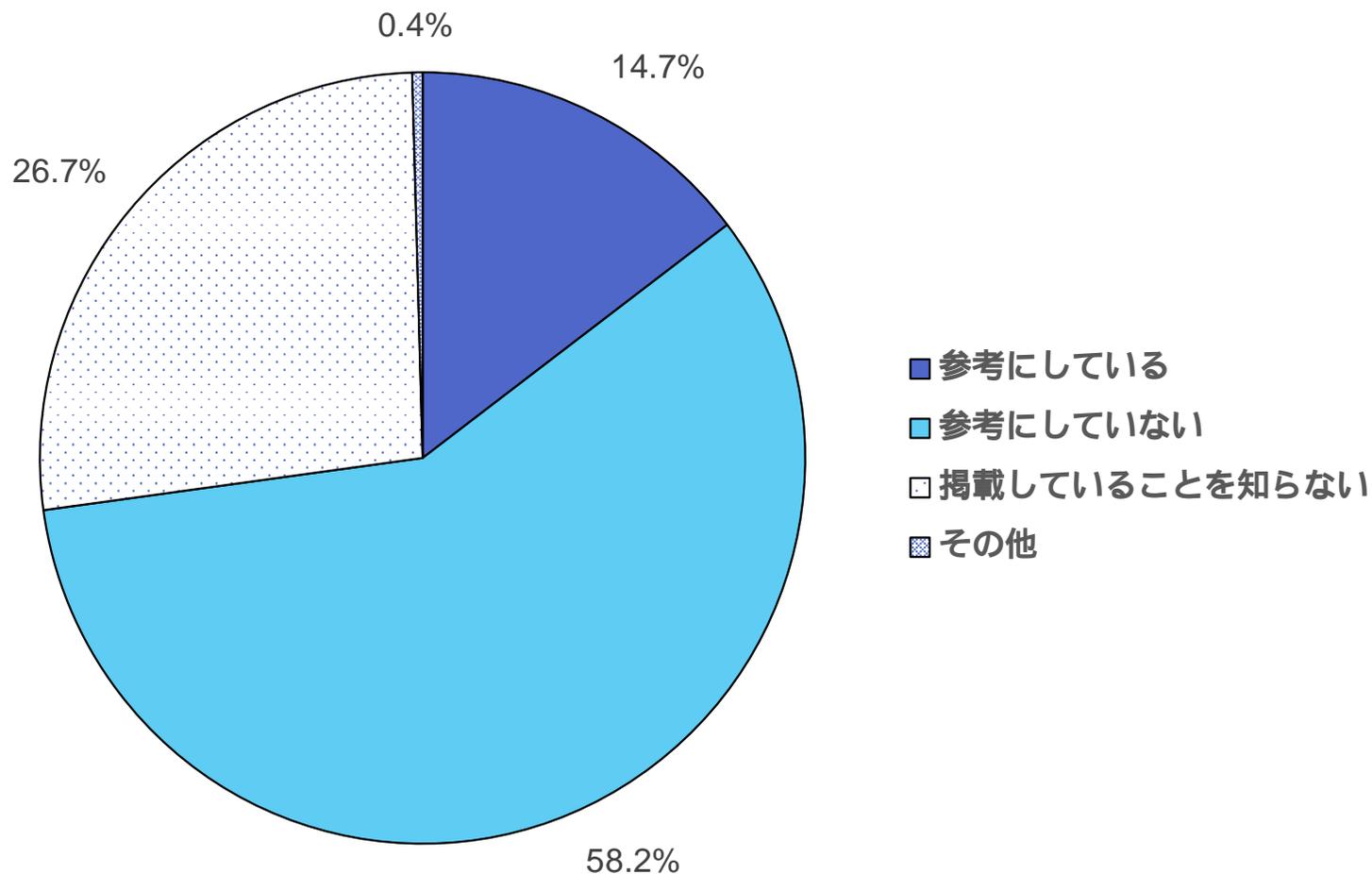
問9.あなたの薬局がジェネリック医薬品を選ぶ際に重視している事項は何ですか。(複数選択式)

- R6年度は「安定供給の保障」が82.2%で最も高く、続いて「取引の医薬品卸で取り扱いがあること」が60.1%であった。
- H20年度から「安定供給の保障」が15.7ポイント増加した。



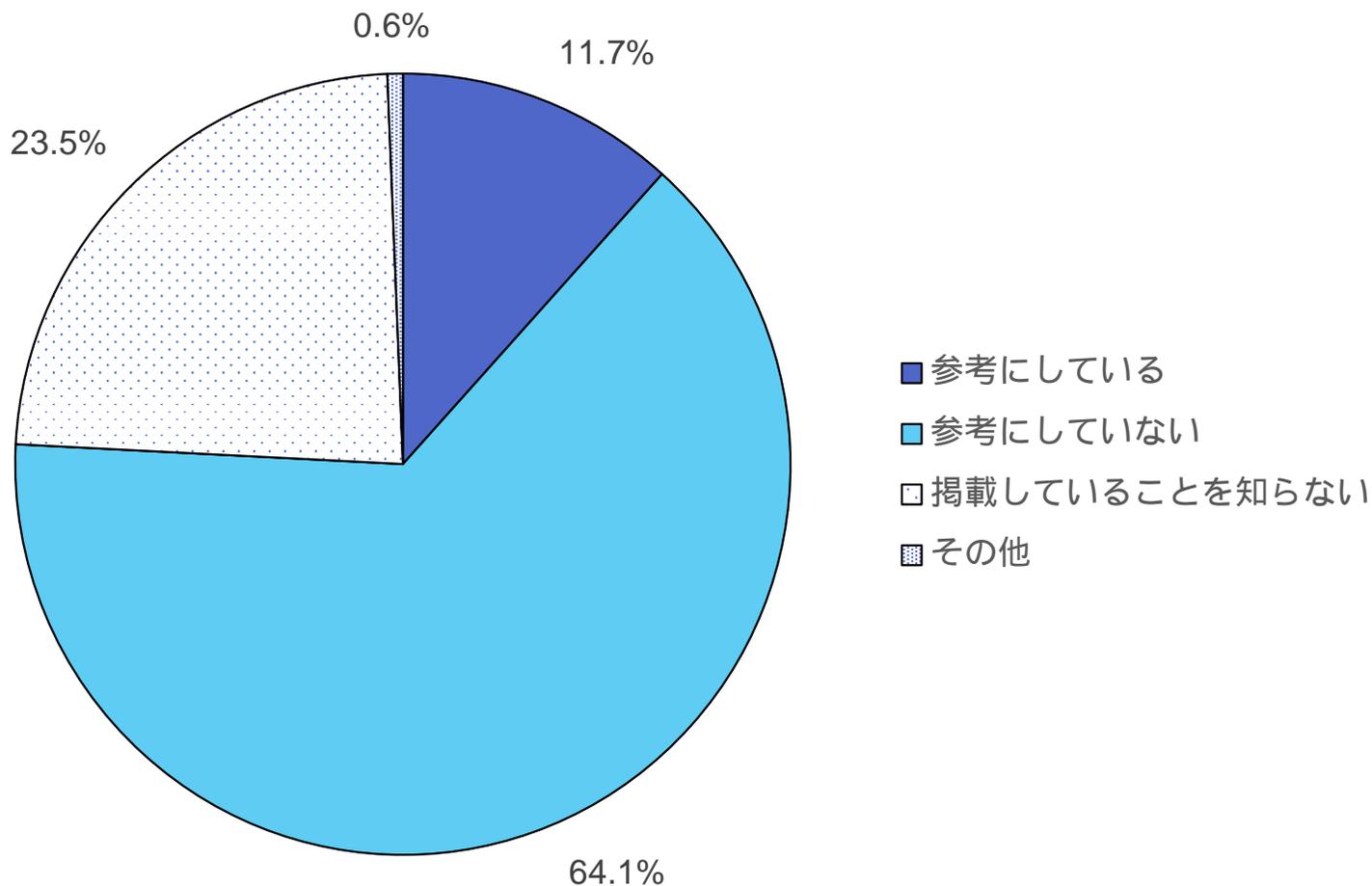
問10．あなたの薬局がジェネリック医薬品を選ぶ際に、本県ホームページに掲載している県内主要医療機関のジェネリック医薬品採用品目リストを参考にしていますか？（単一選択式）

- 「参考にしている」が14.7%であり、「掲載していることを知らない」が26.7%であった。



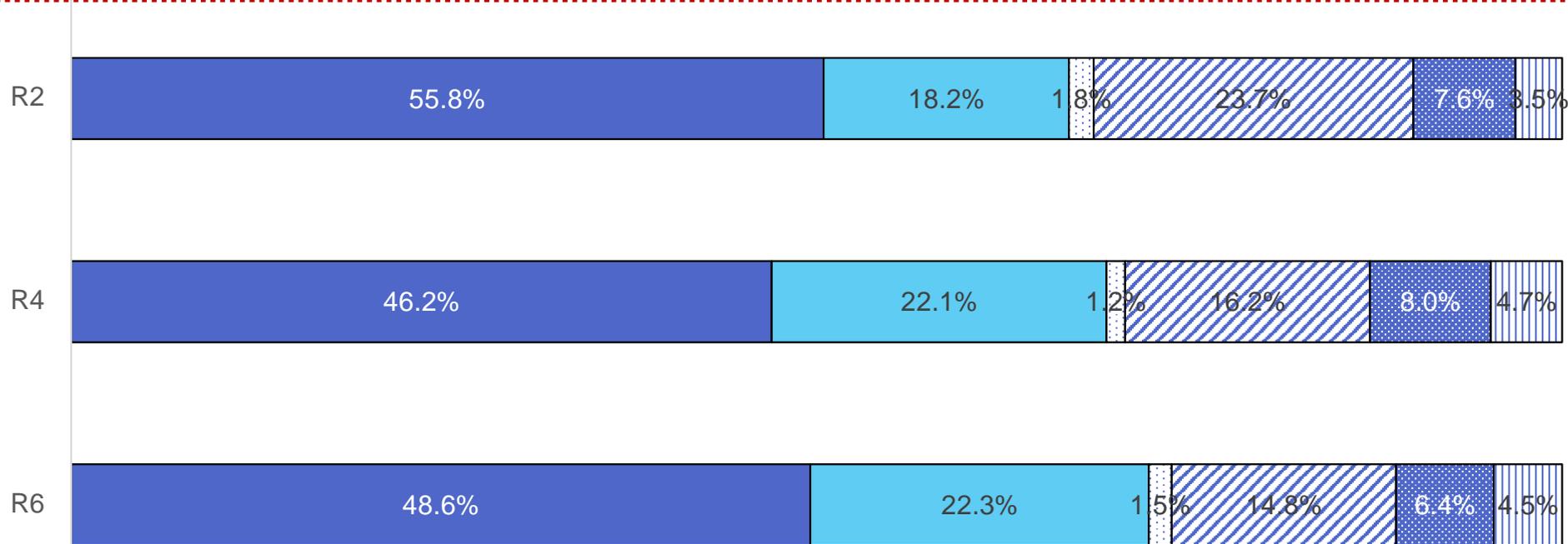
問11. あなたの薬局がジェネリック医薬品を選ぶ際に、国の「後発医薬品品質確保対策事業」検査結果報告書を参考にしていますか？（単一選択式）

- 「参考にしている」が11.7%であり、「掲載していることを知らない」が23.5%であった。



問12.あなたの薬局で、ジェネリック医薬品に変更されなかった患者様の理由として、次のうちどれに該当するものが最も多いと思いますか。（単一選択式）

- R6年度は「普段から使い慣れている薬の方が良いから」が48.6%で最も高く、続いて「効果が同じであるか不安だから」が22.3%であった。
- R6年度は「いったんジェネリック医薬品を使用したけど、再度、先発品に戻した」が6.4%であり、R2年度から1.2ポイント減少した。

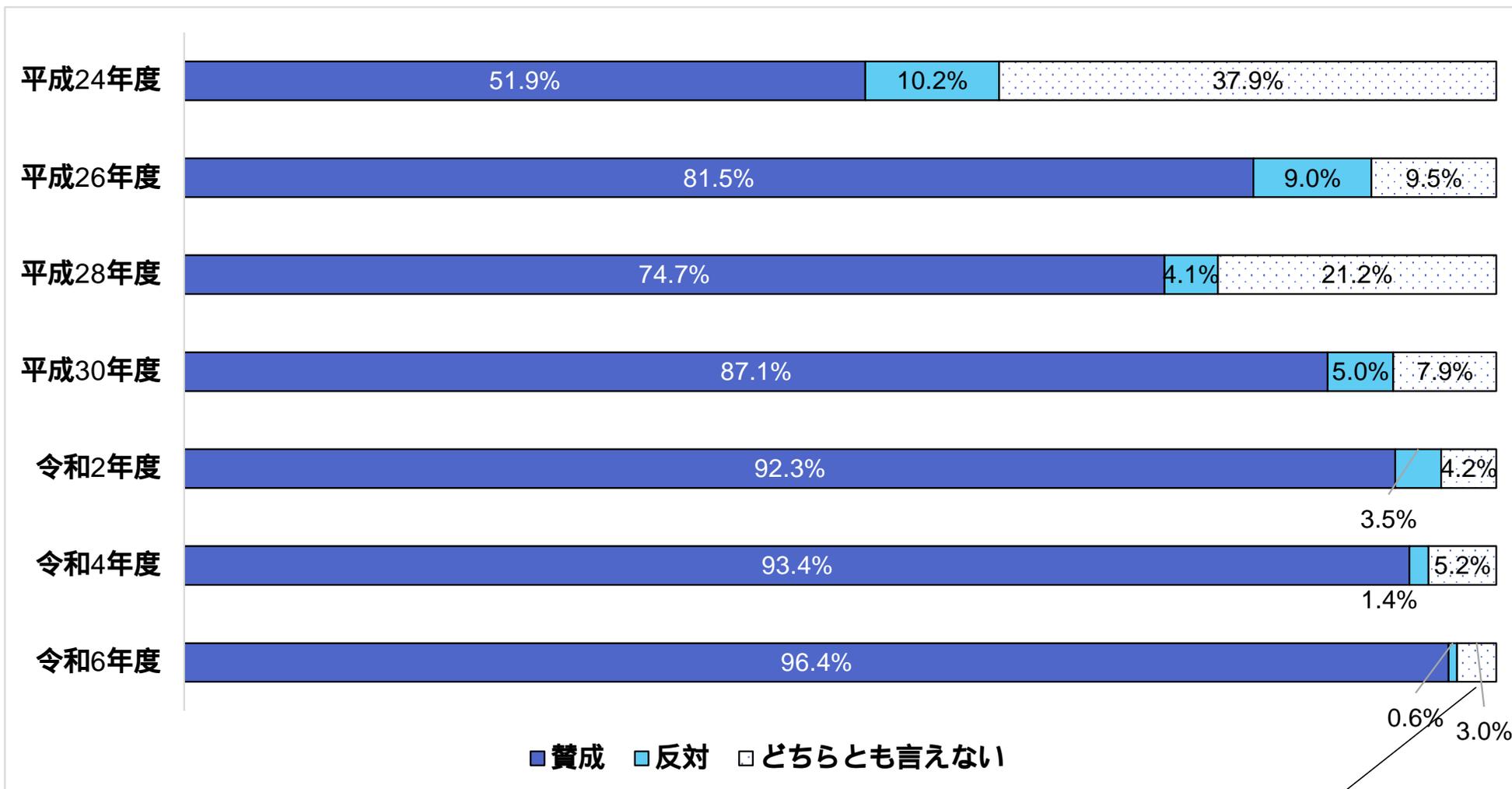


- 1. 普段から使い慣れている薬の方が良いから
- 2. 効果が同じであるか不安だから
- 3. 一部負担金があまり変わらないから
- 4. 医師の処方どおりの薬が良いから
- 5. 一度ジェネリック医薬品を使用したけど、再度、先発品に戻した
- 6. その他

(その他) ジェネリックに対する不信感  
副作用が出たことがあるから  
供給不安定だから

問13. 今後、一般名処方が普及していくことについてどのようにお考えですか。（単一選択式）

- R6年度は「賛成」が96.4%で、「反対」は0.6%であった。
- H24年度から「賛成」は44.5ポイント増加した。

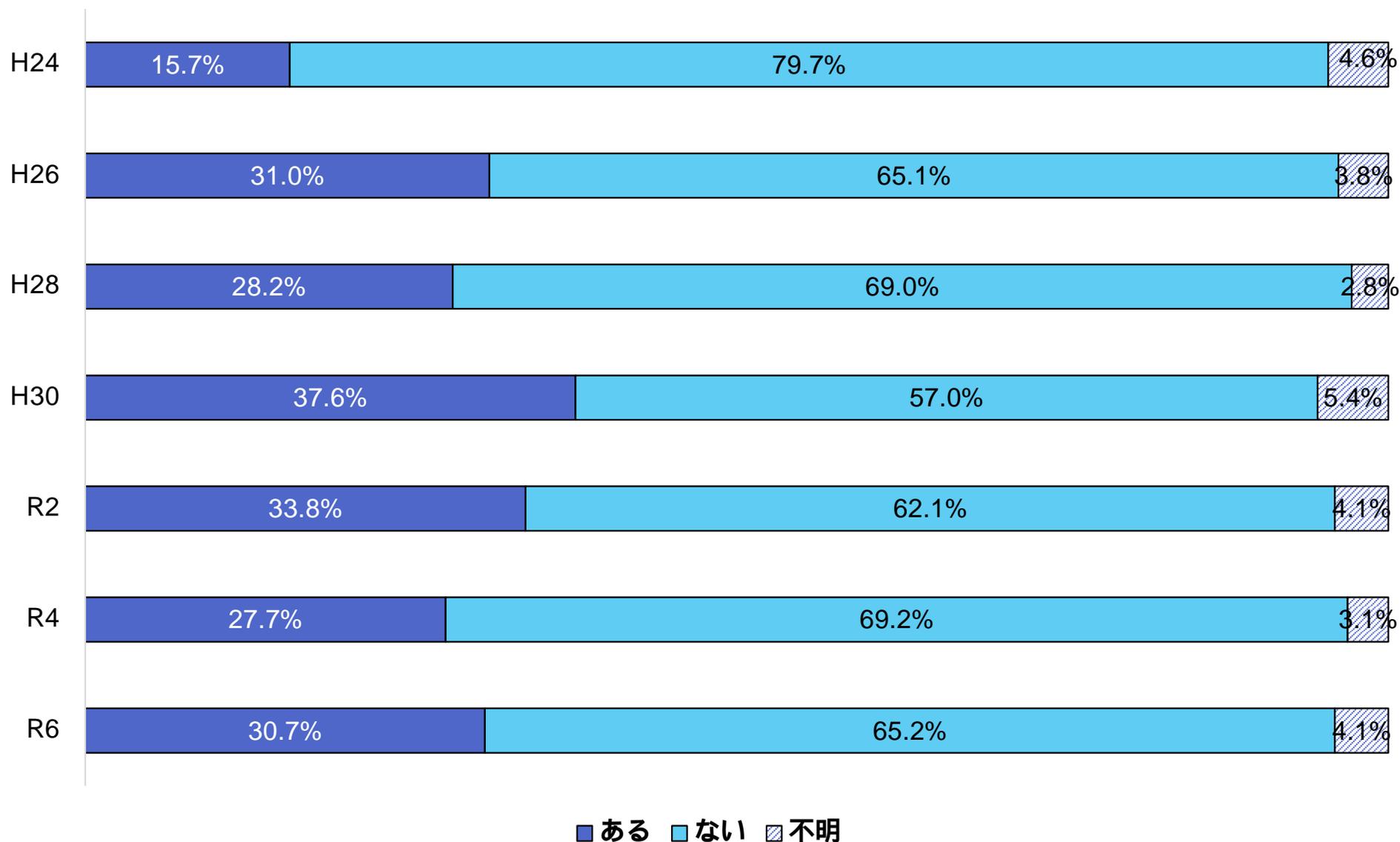


（どちらとも言えない理由）

- 一般名だと全て先発でという人が出てくるから
- 一般名処方調剤時、先発品を調剤希望なのにジェネリック薬を調剤してしまうミスが多発してしまう危険性

問14.これまでに、あなたの薬局でジェネリック医薬品への変更を患者様に勧めた際、問題になったことはありますか。(単一選択式)

- R6年度は「ある」が30.7%であった。
- H24年度から「ある」が15.0%増加したが、H26年度以降は大きな変化はなかった。



問15-(1).《問15で「1.ある」と回答した薬局》患者様とのトラブルのうち、代表的な事例について教えてください。(記入式)

- 患者様とのトラブルの内容について、「患者本人からの意見や訴え等があった」という回答が134件あり、「効果効能に関すること」が39件で最も多く、続いて「不信感・拒絶に関すること」、「副作用に関すること」がともに20件であった。

【患者本人からの意見や訴え等があった 115件】

□ 効果効能に関すること 39件

効果が感じられなかった・効果が異なるように感じるとの訴え、効果が思うようになかった。違和感が出た。効果が良くなかったので、戻してほしい等

□ 使用感等に関すること 10件

ODの場合味が異なる、外用薬の使用感が違うとの訴え等

□ ジェネリック医薬品に対する不信感・拒絶に関すること 18件

先発医薬品への強いこだわり、ジェネリック医薬品の説明拒否等(12件)、安い薬は不安・怪しいとの先入観あり(6件)

□ 副作用に関すること 20件

副作用(かゆみ、発疹等)が出たとの訴えがあった(20件)

□ 供給不安に関すること 7件

後発品に変更した後、供給不安のため先発品に戻すことになった、毎回同一メーカーが入手できない等

□ その他 21件

飲み慣れた薬がいい、主治医の処方されたものがいい、自分が希望する薬がなぜ受け取れないのか、自己負担が増えた等

問15-(2).《問15で「1.ある」と回答した薬局》患者様とのトラブルのうち、代表的な事例について教えてください。(記入式)

【情報提供等に関するトラブル 17件】

- ジェネリック医薬品やその制度(医療費削減、一般名処方等)に関する情報提供をしても患者の理解が得られない等 10件
- 薬局で勝手にジェネリック医薬品に変更したと勘違いされた 4件
- 他の薬局に行くと言われた 3件

【その他、ジェネリック医薬品への変更できなかった事例 2件】

- 主治医の方針等 2件  
主治医が先発医薬品しか信用していない方で、医師から直接薬局に電話あり。(1件)  
次回主治医と相談してから判断する。(1件)

問16. ジェネリック医薬品には、剤形のサイズや味などに工夫がされ、患者が服用しやすいものがあります。ジェネリック医薬品に切り替えて、患者様の服薬状況が良くなった、効果が良くなった等の事例があればお答えください。（自由記載）

- 使用感がよくなった、コンプライアンスが向上したといった事例が60件あり、特に「剤型が変わり飲みやすくなった」が34件で最も多く、続いて「味やにおいが良くなった」が12件であった。

### 使用感が良くなった、コンプライアンスが向上した 60件

- ・剤型が変わり飲みやすくなった  
(錠 OD錠14件、カプセル 錠12件、サイズが小さくなった8件) 34件
- ・ジェネリックにしかない規格や剤型 6件
- ・味やにおいが良くなった 12件
- ・外用剤等の使用感が良くなった 2件
- ・包装、容器等が使いやすくなった 2件
- ・一包化できるようになり、コンプライアンスが向上した 3件
- ・割線があり調節しやすくなった 1件

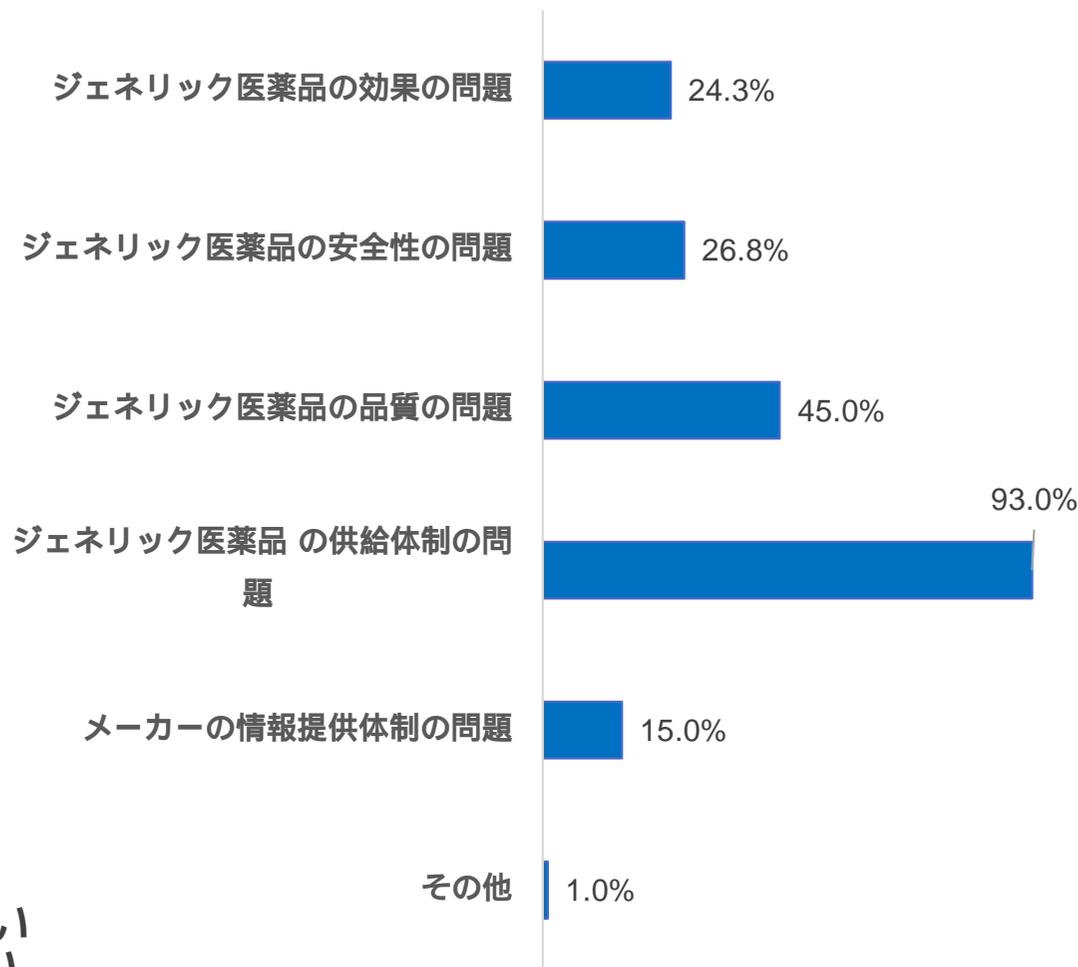
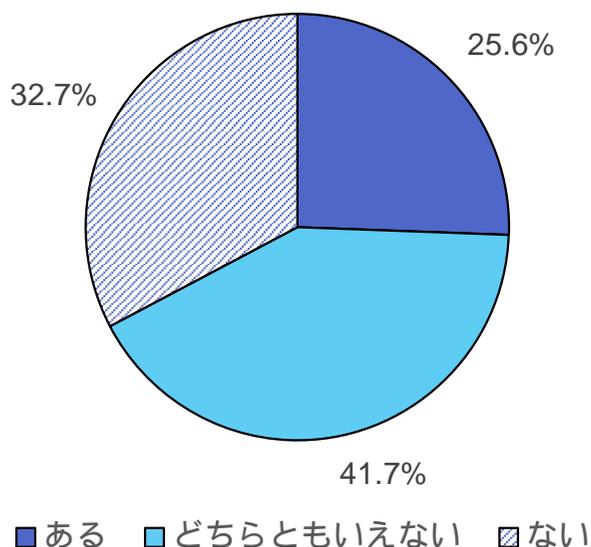
### 負担金が減った 5件

### その他 3件

- ・保管が室温で良くなった等 1件

問17. ジェネリック医薬品を使用することに関して、不安感はありますか？（単一選択式）

- 「ある」が25.6%、「どちらともいえない」が41.7%であった。
- 不安感を抱いている内容については、「ジェネリック医薬品の供給体制の問題」が93.0%で最も高く、続いて「ジェネリック医薬品の品質の問題」が45.0%であった。

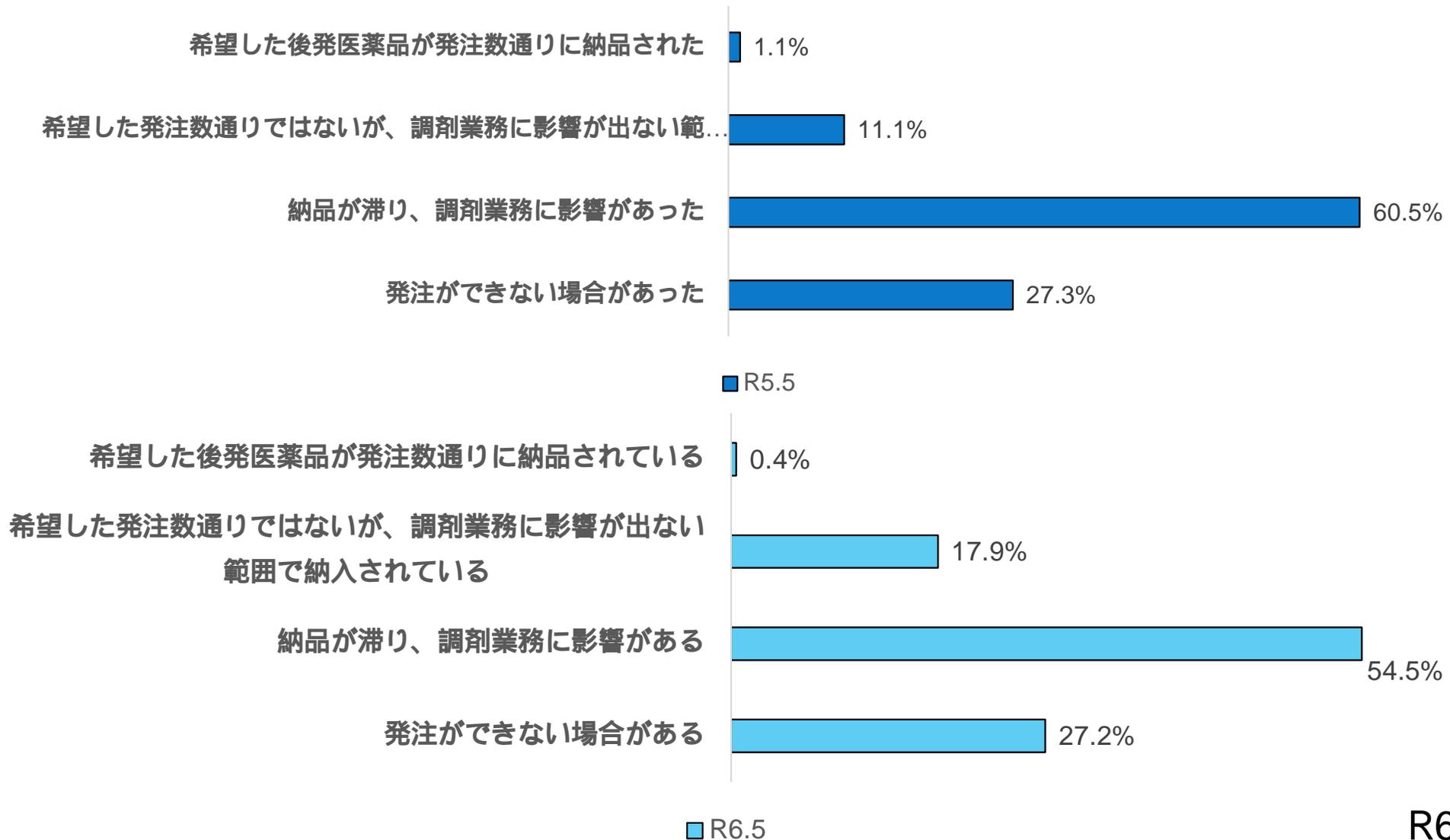


問18. 《問17で「1.ある」、「2.どちらともいえない」と回答した医療機関》不安感を抱いている内容についてお答えください。（複数選択式）

問19. 2020年以降、複数の医薬品製造メーカーが起こした不祥事案に端を発し、後発医薬品における製品供給体制が不安定になりました。あなたの薬局で採用している後発医薬品の「令和5年5月」及び「現在（令和6年5月）」の納入状況についてお答えください。（単一選択式）

薬局

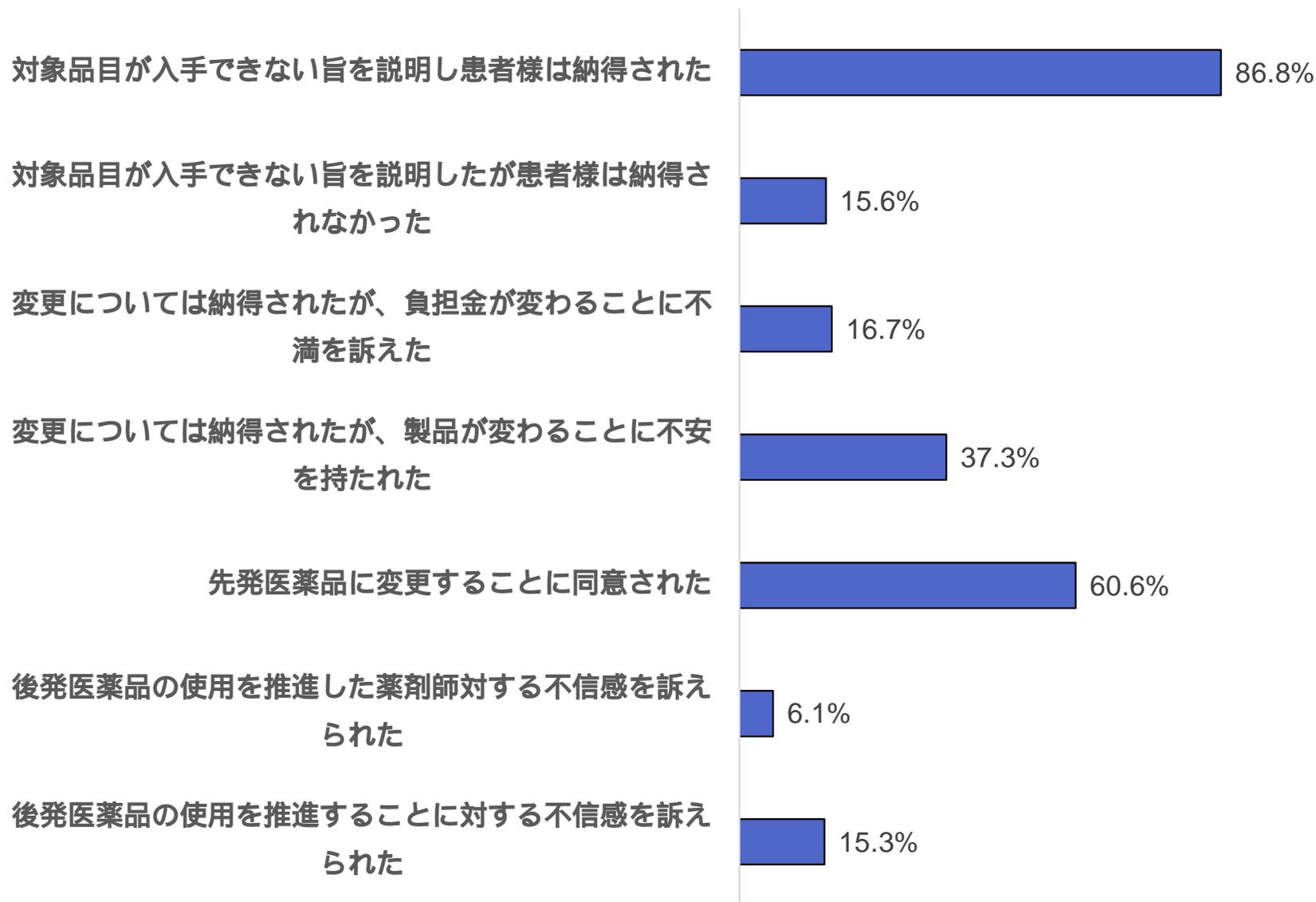
- 「令和5年5月」の納入状況では、「納品が滞り、調剤業務に影響があった」が60.5%で最も高く、続いて「発注できない場合があった」が27.3%であった。
- 「現在(令和6年5月)」の納入状況では、「納品が滞り、調剤業務に影響がある」が54.5%で最も高く、続いて「発注できない場合がある」が27.2%であった。



問20. 《問19で現在の状況において、「3. 納品が滞り、調剤業務に影響がある」、「4. 発注ができない場合ある」と回答した医療機関》医薬品の変更に対する患者様の反応をすべて選んでください（複数選択式）

薬局

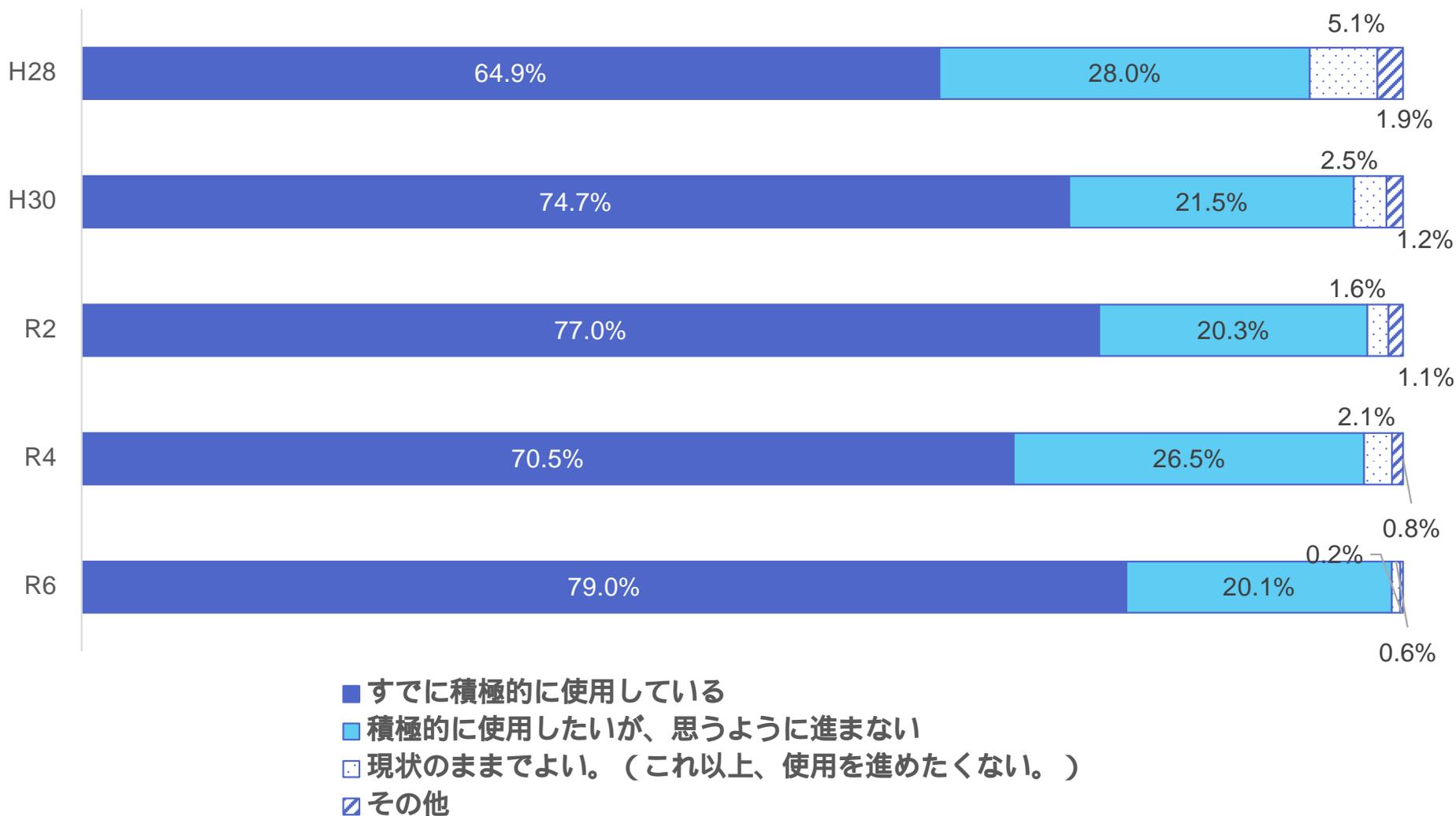
- R6年度は「対象品目が入手できない旨を説明し患者様は納得された」が86.8%で最も高く、続いて「先発医薬品に変更することに同意された」が60.6%であった。



R6

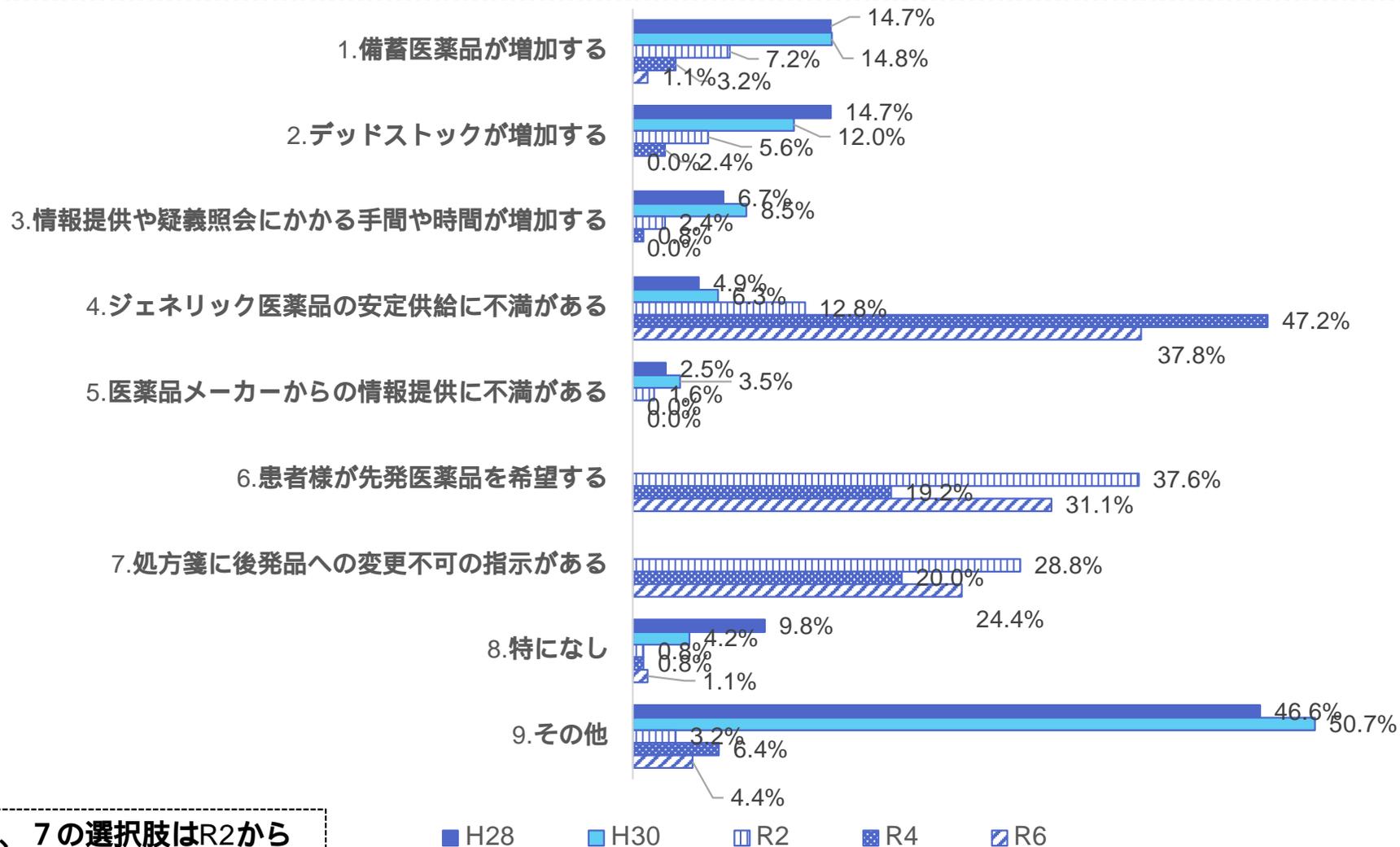
問21.あなたの薬局では、ジェネリック医薬品を積極的に使用していきたいと考えていますか。  
(単一選択式)

- R6年度は「すでに積極的に使用している」が79.0%で最も高く、続いて「積極的に使用したいが、思うように進まない」が20.1%であった。
- H28年度から「すでに積極的に使用している」が14.1ポイント増加し、「積極的に使用したいが、思うように進まない」が7.9ポイント減少した。



問22. 《問21で「2.積極的に使用したいが、思うように進まない。」と回答した薬局》ジェネリック医薬品の使用促進にあたって、思うように進まない最も大きな理由は何ですか。  
(単一選択式)

- R6年度は「ジェネリック医薬品の安定供給に不満がある」が37.8%で最も高かった。次いで、「患者さんが先発医薬品を希望する」31.1%、「処方箋に後発品への変更不可の指示がある」24.4%となっている。
- R4、R6年度とも「ジェネリック医薬品の安定供給に不満がある」が最も高い傾向であった。



6、7の選択肢はR2から追加した項目

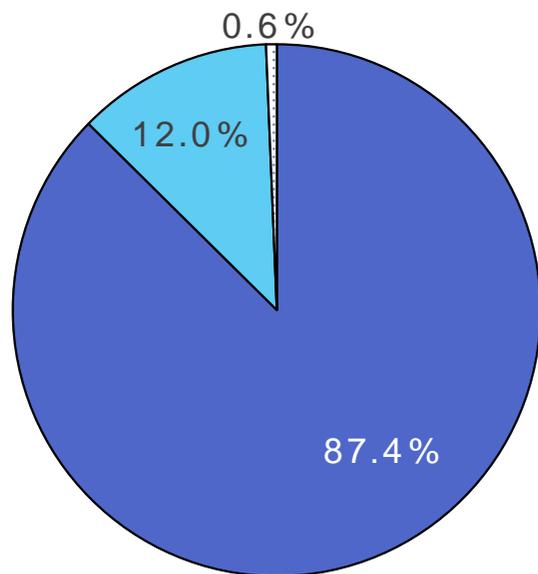
問23. バイオシミラー（バイオ後続品）という言葉を知っていますか。（単一選択式）

問24. あなたの薬局では、バイオシミラー（バイオ後続品）を採用していますか。

（単一選択式）

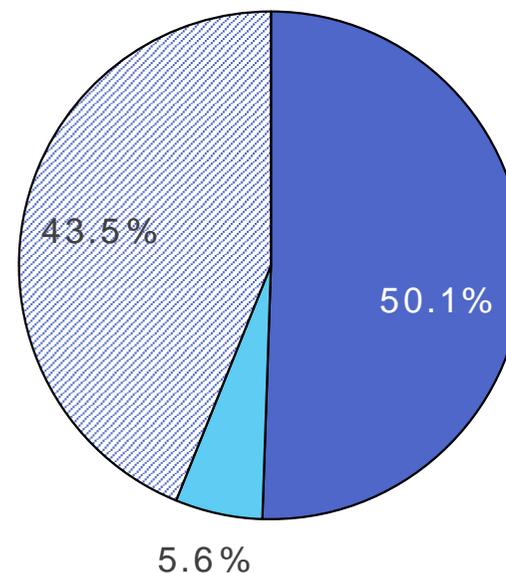
- 問23 「知っている」が87.4%であった。
- 問24 「採用している」が50.1%であった。

問23



- 1. 知っている
- 2. 知らない
- 無回答

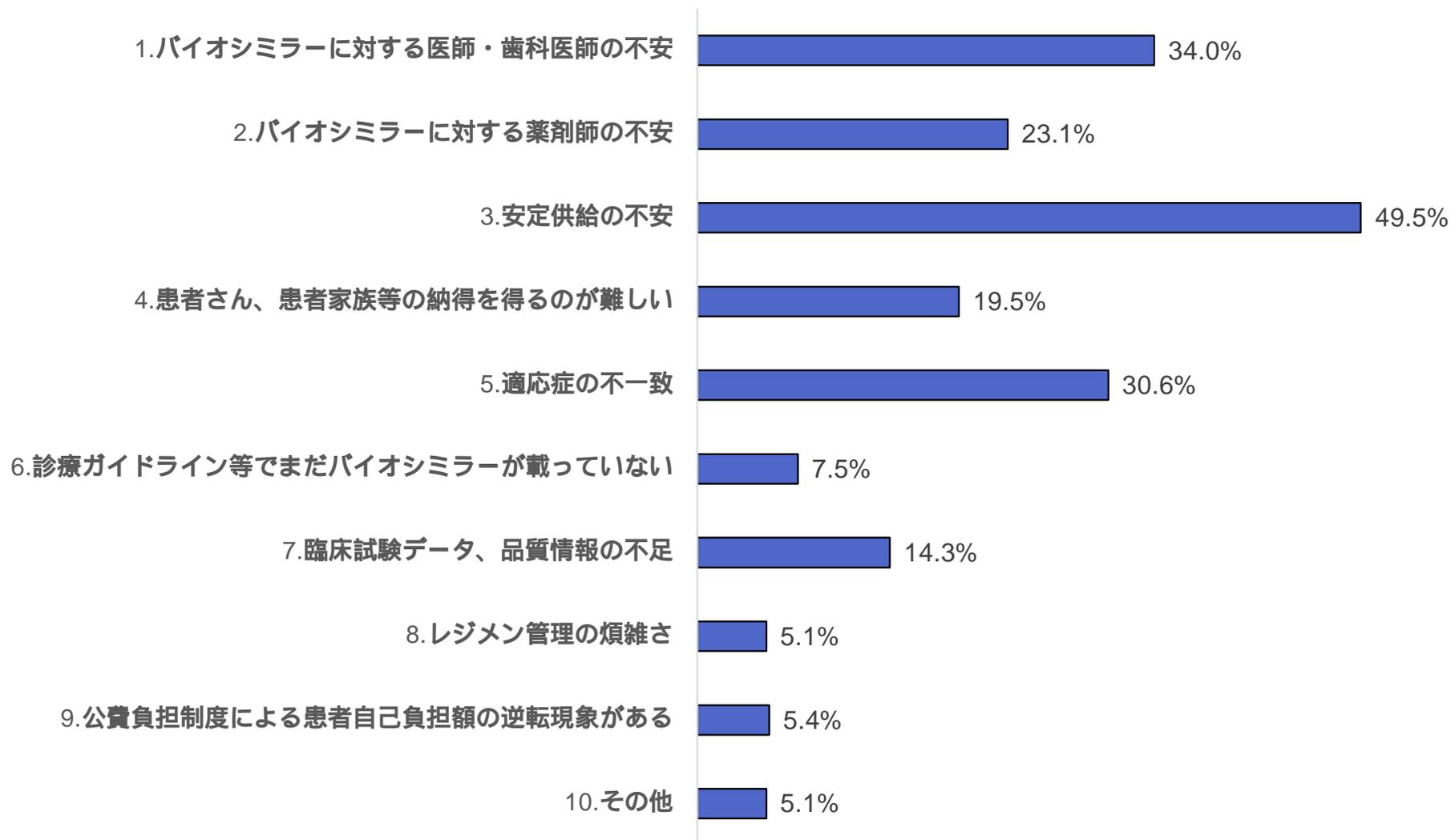
問24



- 1. 採用している
- 2. 採用を検討中
- 3. 採用していない

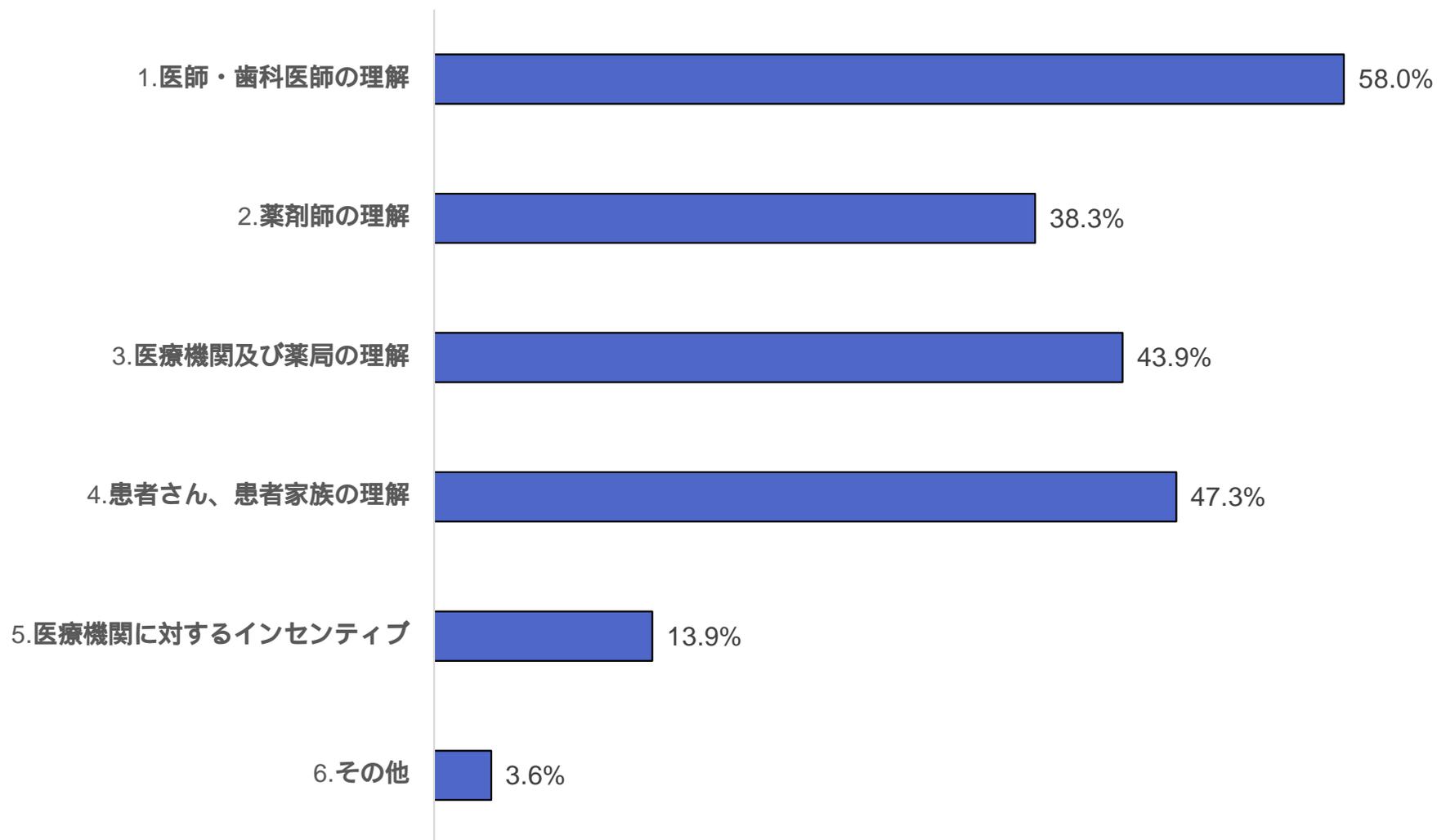
問25. バイオシミラー（バイオ後続品）の使用促進にあたり、どのような課題があると思いますか。（複数選択式）

- 「安定供給」の不安が49.5%で最も高かった。次いで、「バイオシミラーに対する医師・歯科医師の不安」が34.0%、「適応症の不一致」30.6%と続いた。



## 問26. バイオシミラー普及促進のために必要なことは何だと思えますか。（複数選択式）

- 「医師・歯科医師の理解」が58.0%で最も高かった。次いで、「患者さん、患者家族の理解」が47.3%であった。

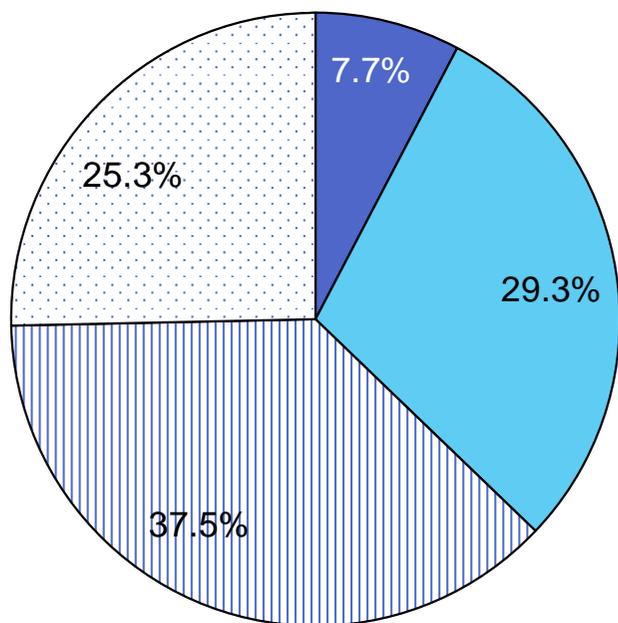


問27.地域フォーミュラリという言葉を知っていますか。(単一選択式)

問28.地域フォーミュラリがあると助かると思いませんか。(単一選択式)

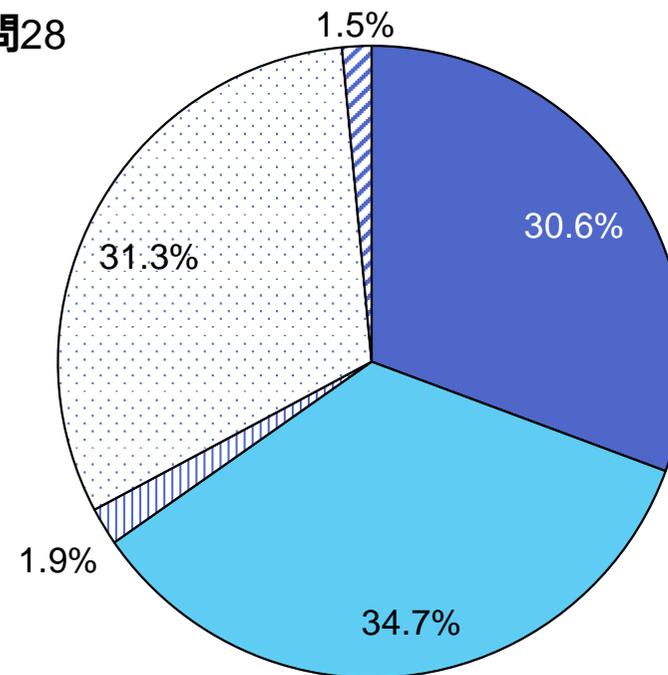
- 「聞いたことはあるがよくわからない」、「全く知らない、聞いたことがない」を合わせて半数以上(62.8%)となった。
- 「助かる」が30.6%で、「どちらともいえない」、「わからない」を合わせて66.0%であった。

問27



- 1.よく知っている
- 2.少し知っている
- 3.聞いたことはあるがよくわからない
- 4.まったく知らない、聞いたことがない

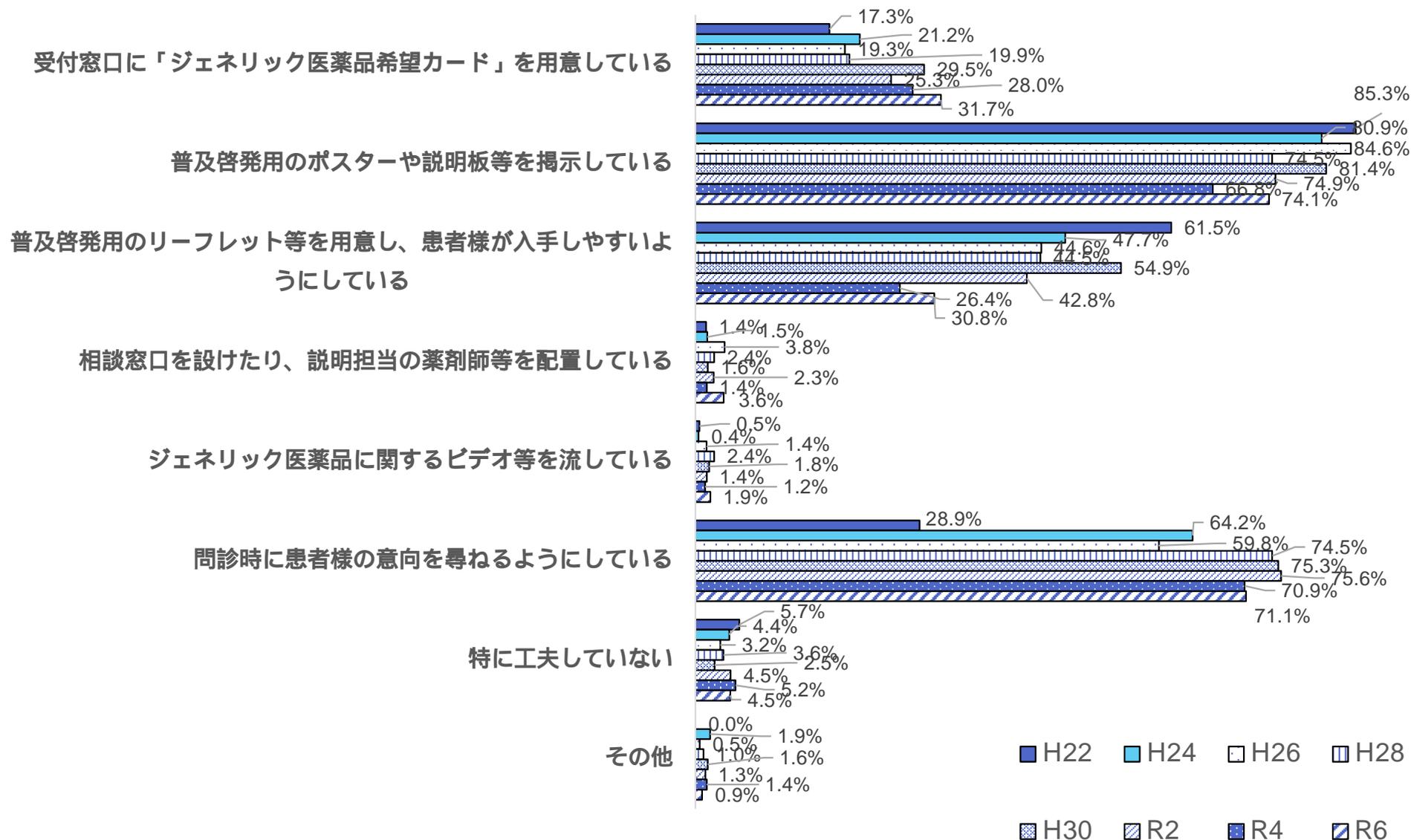
問28



- 1.助かる
- 2.どちらともいえない
- 3.必要ない
- 4.わからない
- 無回答

問29. あなたの薬局では、患者様がジェネリック医薬品を頼みやすくなるような工夫をされていますか。（複数選択式）

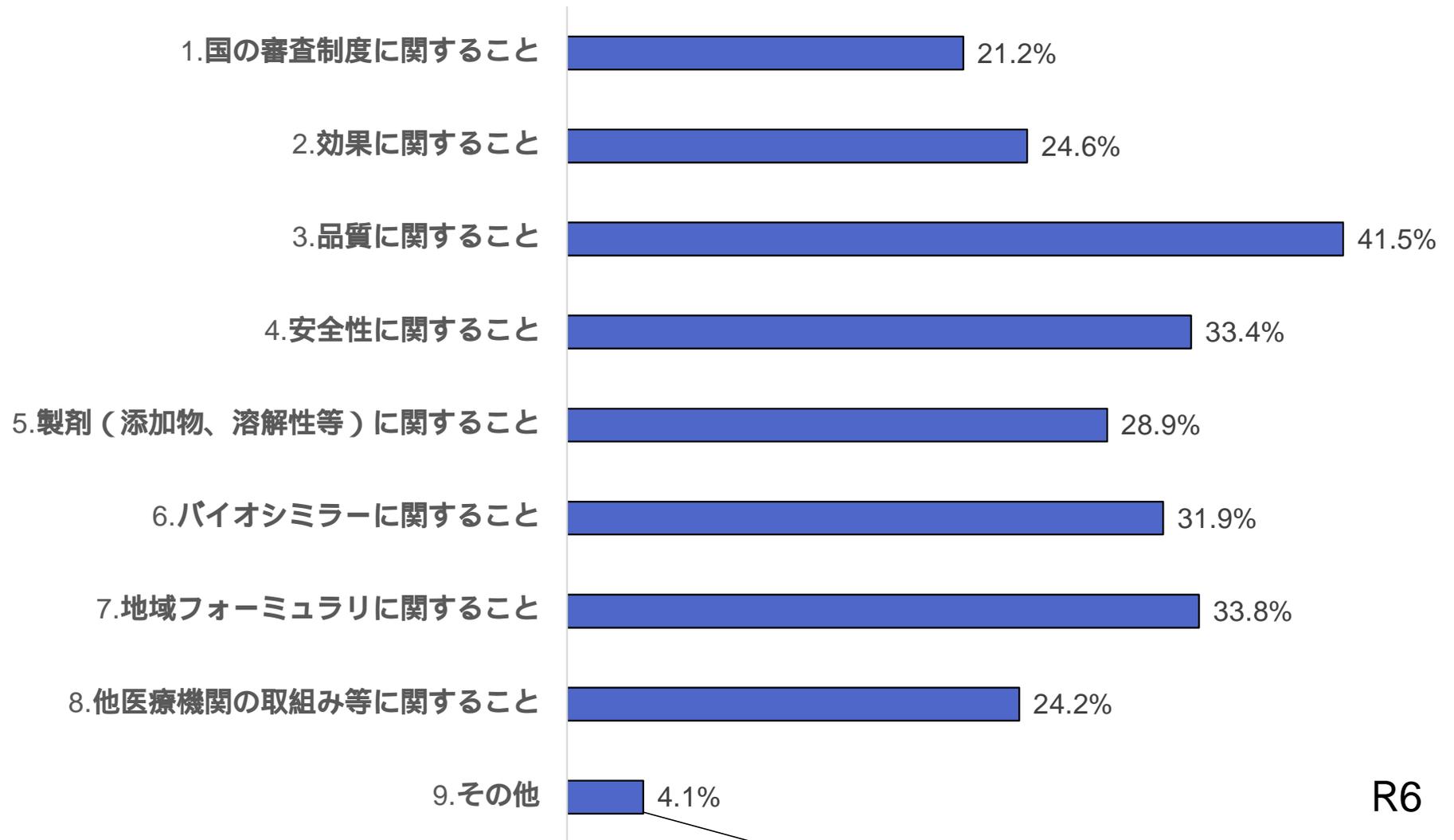
- R6年度は「普及啓発用のポスターや説明板等を掲示している」が74.1%で最も高く、続いて「問診時に患者様の意向を尋ねるようにしている」が71.1%であった。
- H22年度から「問診時に患者様の意向を尋ねるようにしている」が42.2ポイント増加した。



問30．本県では定期的（年1、2回程度）に有識者を招いて医療従事者向けのジェネリック医薬品に関する研修会（参加費無料）を開催しています。希望する研修の内容についてお答えください。（複数選択式）

薬局

- 「品質に関すること」が41.5%で最も高く、続いて「地域フォーミュラリ」、「安全性に関すること」であった。

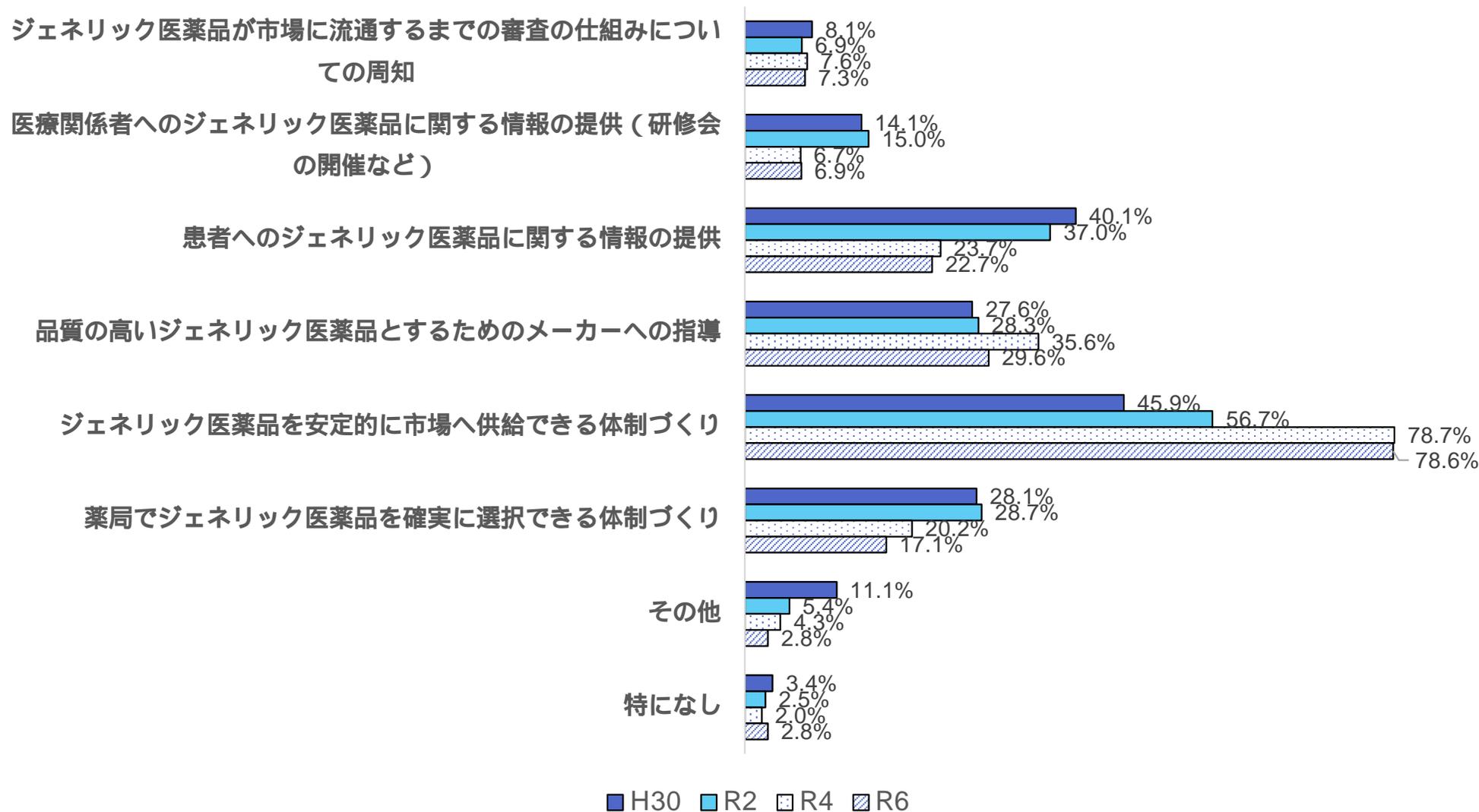


R6

安定供給に関すること 15件

問31. ジェネリック医薬品の利用に関して、行政（厚生労働省、長崎県福祉保健部薬務行政室）の施策に対し要望することがあれば、該当するものを2つ以内で選んでください。（2つ選択）

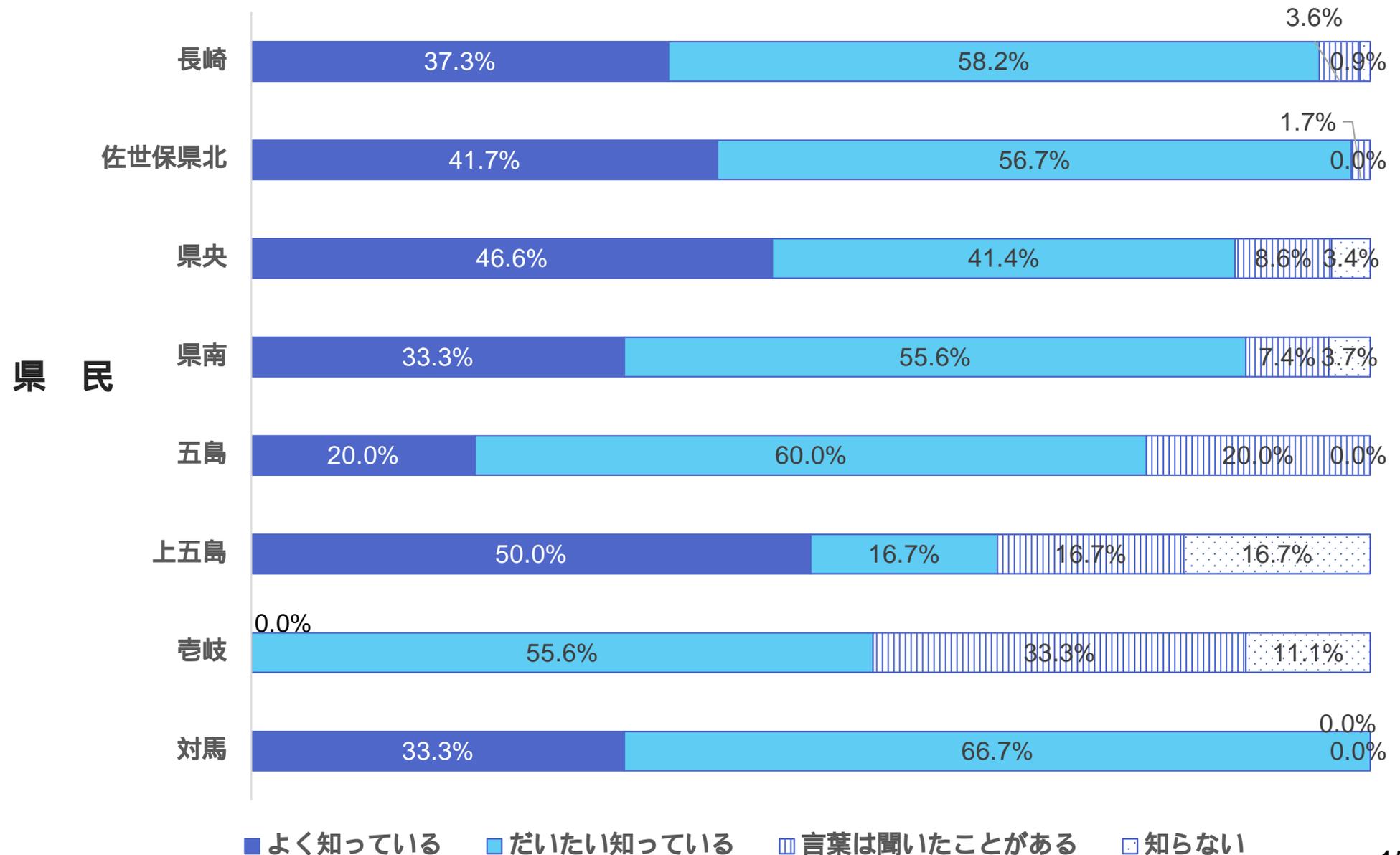
- R6年度は「ジェネリック医薬品を安定的に市場へ供給できる体制づくり」が78.6%で最も高く、続いて「品質の高いジェネリック医薬品とするためのメーカーへの指導」が29.6%であった。
- H30年度から「ジェネリック医薬品を安定的に市場へ供給できる体制づくり」が32.7ポイント増加した。



# 二次医療圏比較

【県民アンケート】問1.「ジェネリック医薬品」(後発医薬品)の  
ことについて  
ご存知ですか。(単一選択式)

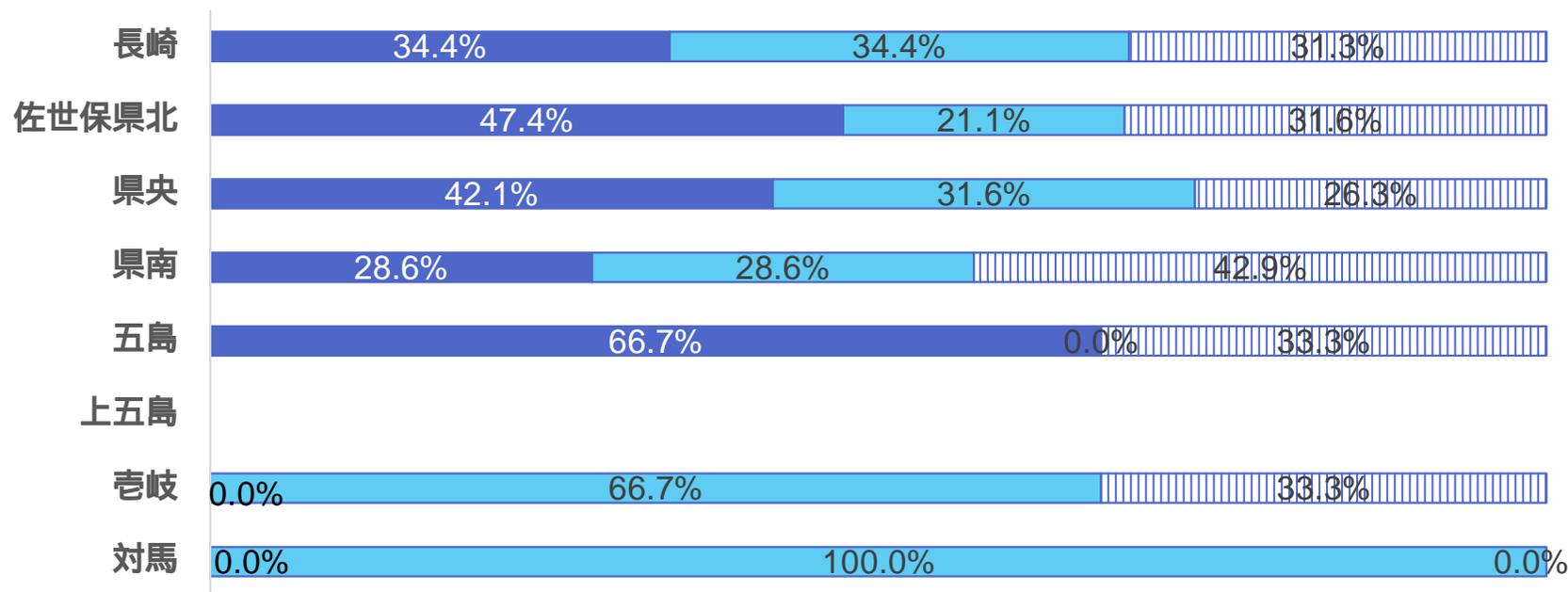
- 「よく知っている」と「だいたい知っている」の合計は、本土地区では佐世保県北地区が98.4%で最も高く、県央地区が88.0%で低かった。



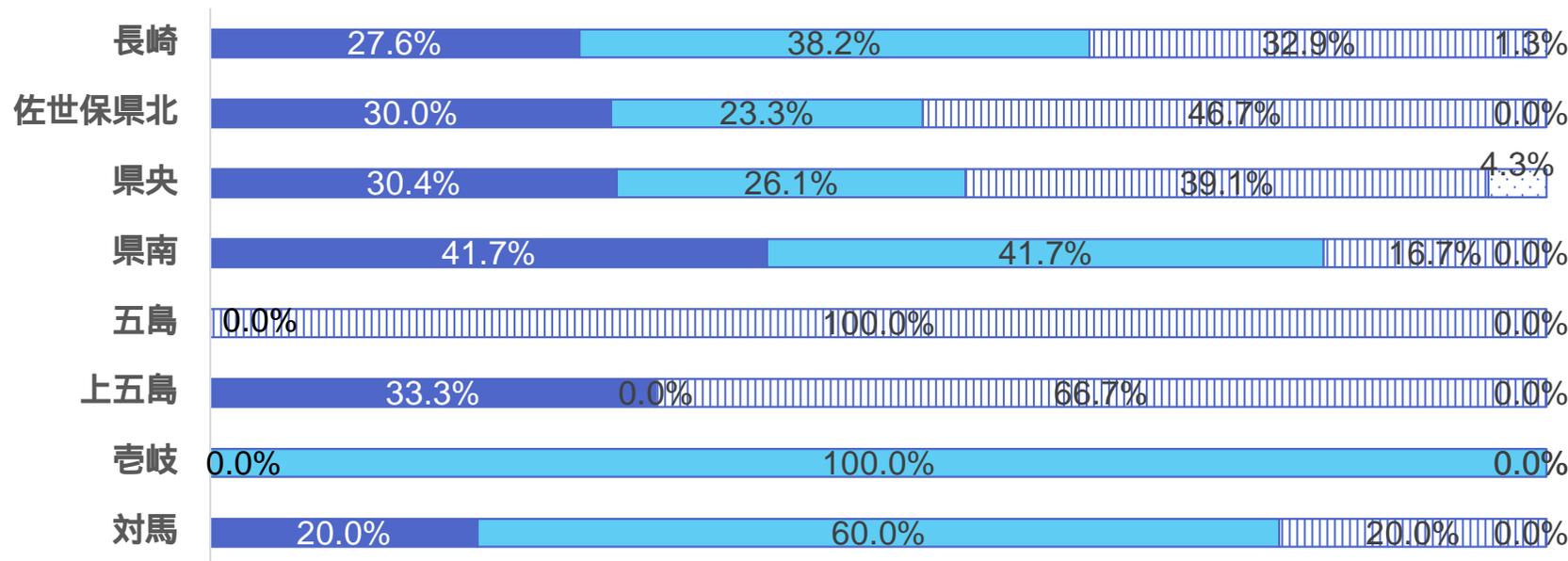
【医療機関、薬局アンケート】ジェネリック医薬品を使用することに関して、不安感  
 がありますか？（単一選択式）（その1）

医療圏比較

病院



診療所

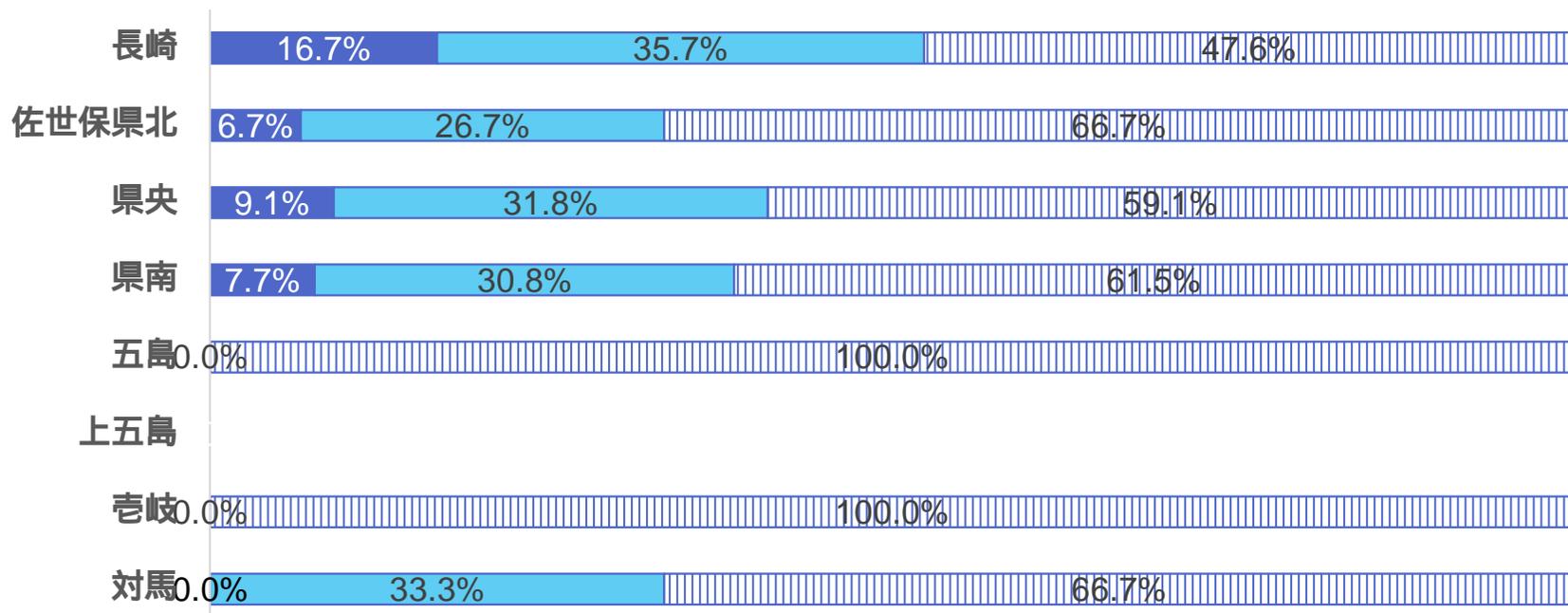


■ ある ■ どちらともいえない ■ ない ■ 未回答

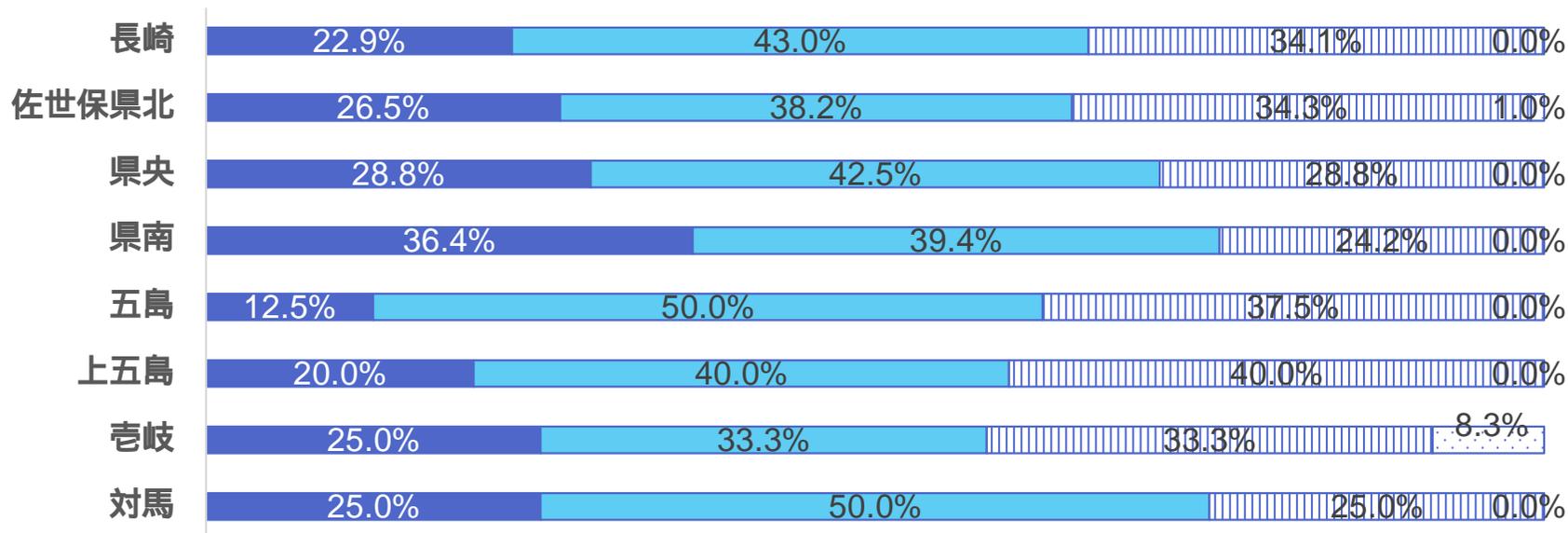
【医療機関、薬局アンケート】ジェネリック医薬品を使用することに関して、不安感  
 がありますか？（単一選択式）（その2）

医療圏比較

歯科診療所



薬局

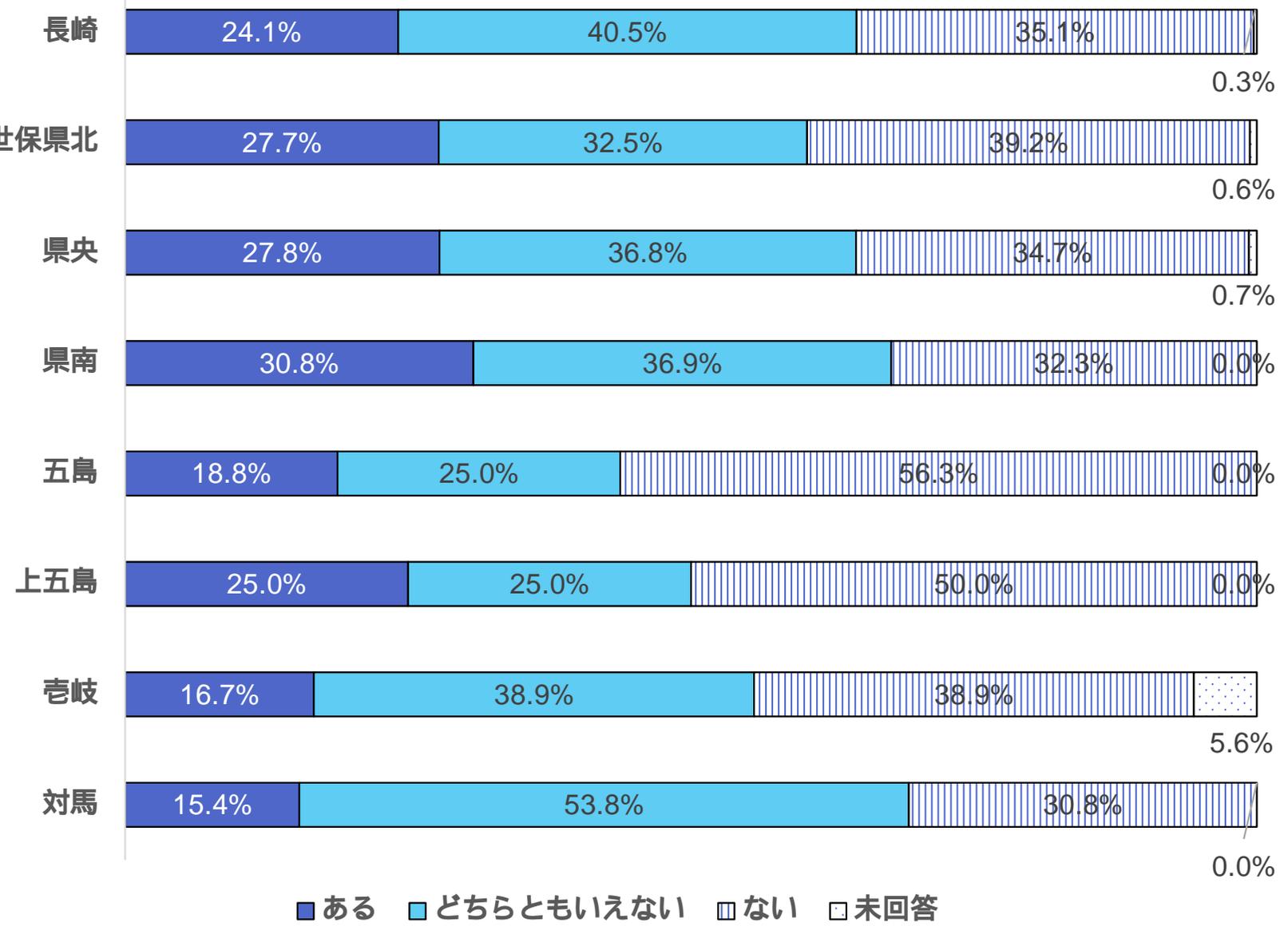


■ ある ■ どちらともいえない ■ 不安感がない ■ 未回答

【医療機関、薬局アンケート】ジェネリック医薬品を使用することに関して、不安感  
 がありますか？（単一選択式）（その3）

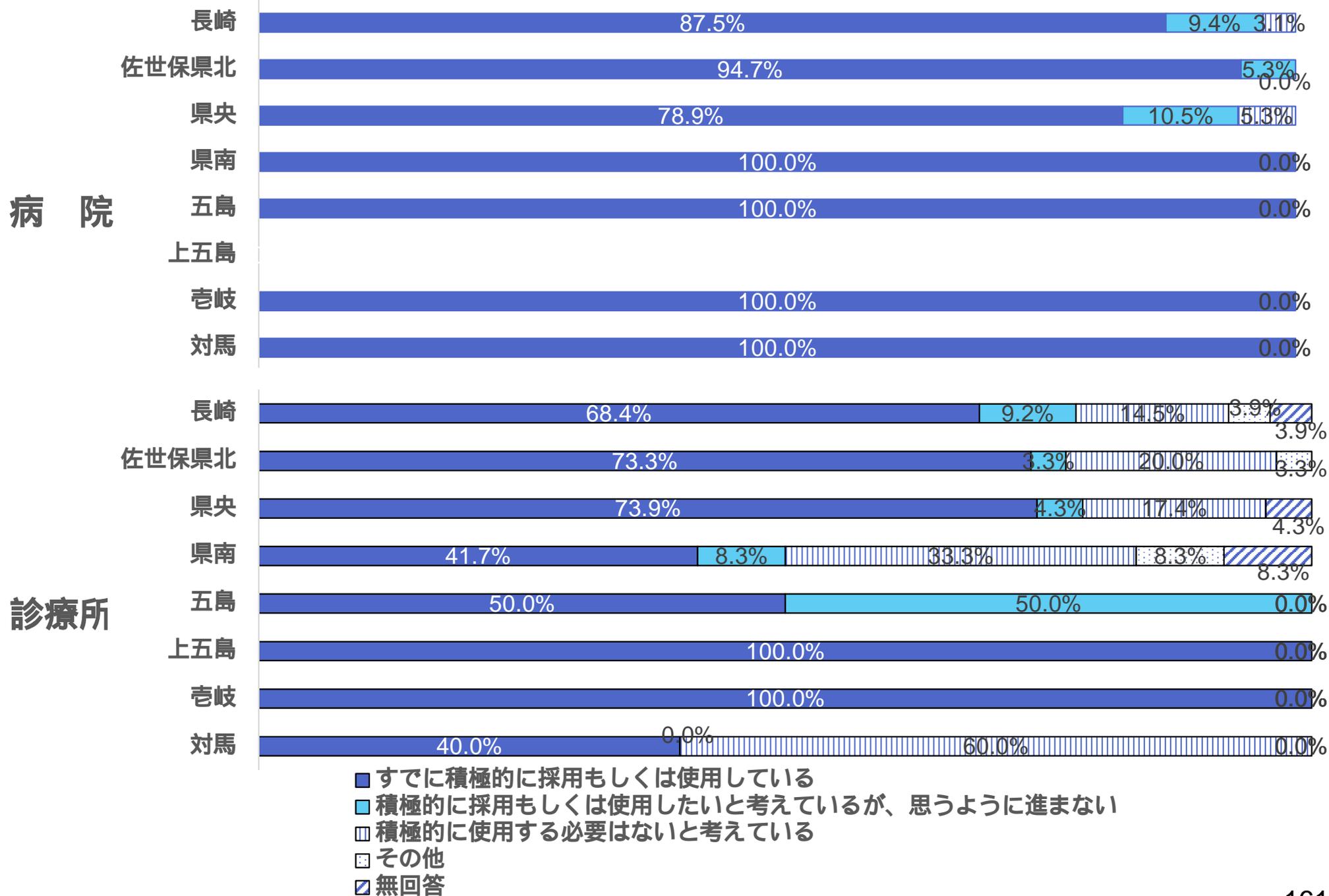
● 「ある」と回答した割合について、本土地区では県南地区が30.8%で最も高く、続いて県央地区が27.8%であった。

全体  
 （病院+診療所+  
 歯科診療所+薬局）



【医療機関、薬局アンケート】あなたの医療機関（薬局）では、ジェネリック医薬品を積極的に採用もしくは使用したいと思いませんか。（単一選択式）（その1）

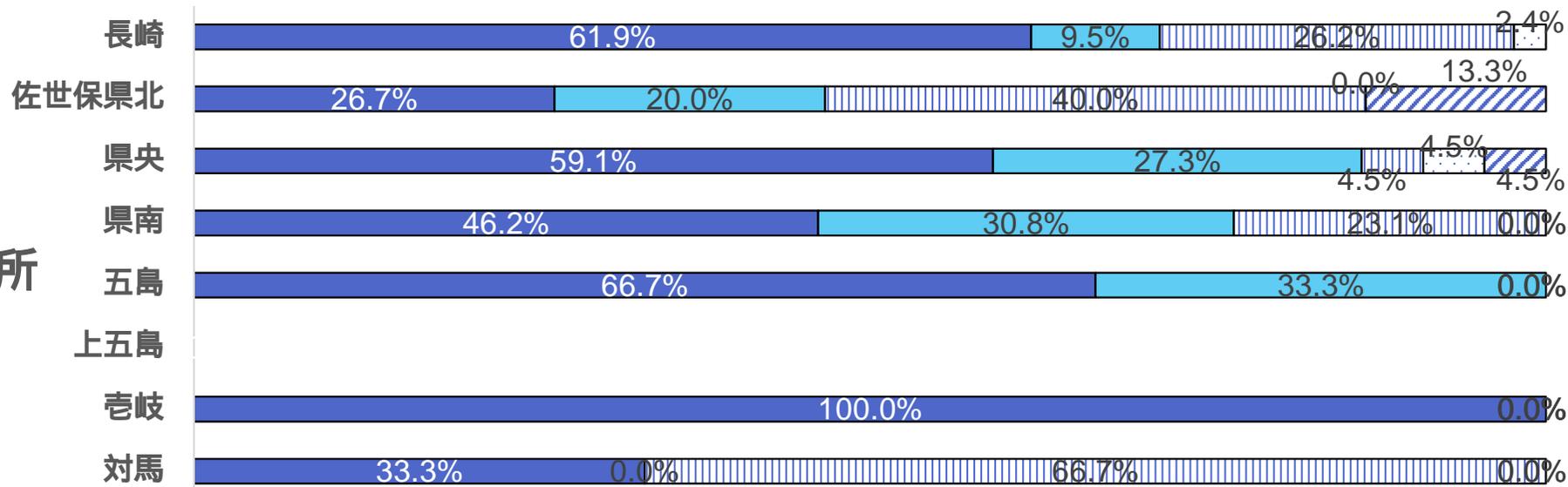
医療圏比較



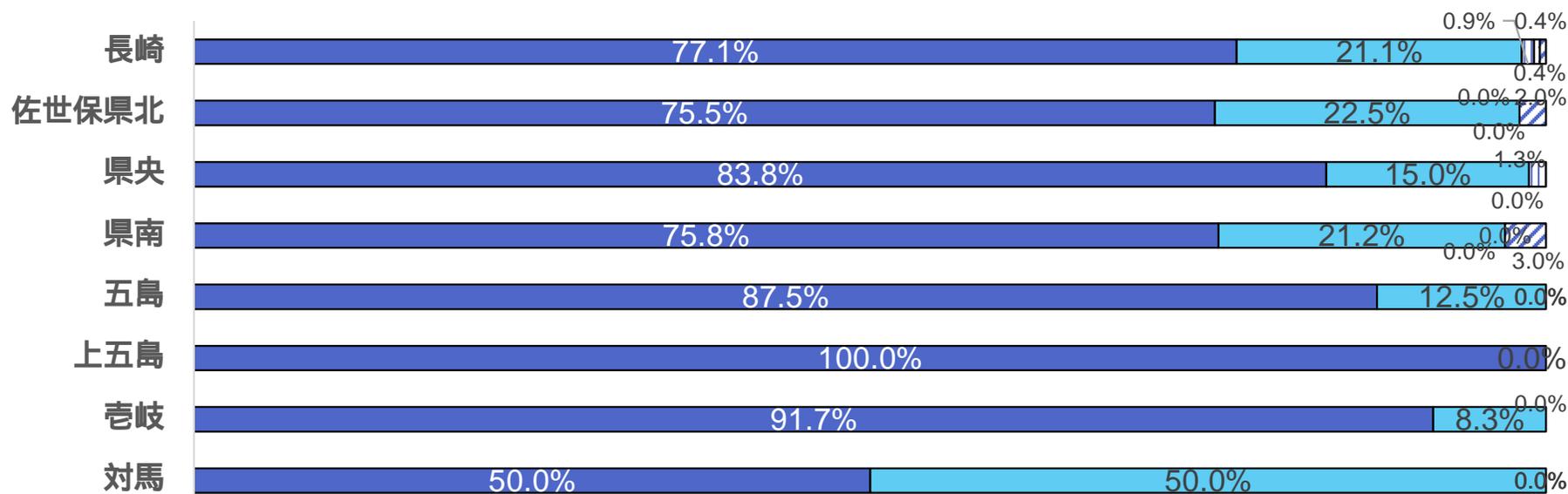
【医療機関、薬局アンケート】あなたの医療機関（薬局）では、ジェネリック医薬品を積極的に採用もしくは使用したいと思いますか。（単一選択式）（その2）

医療圏比較

歯科診療所



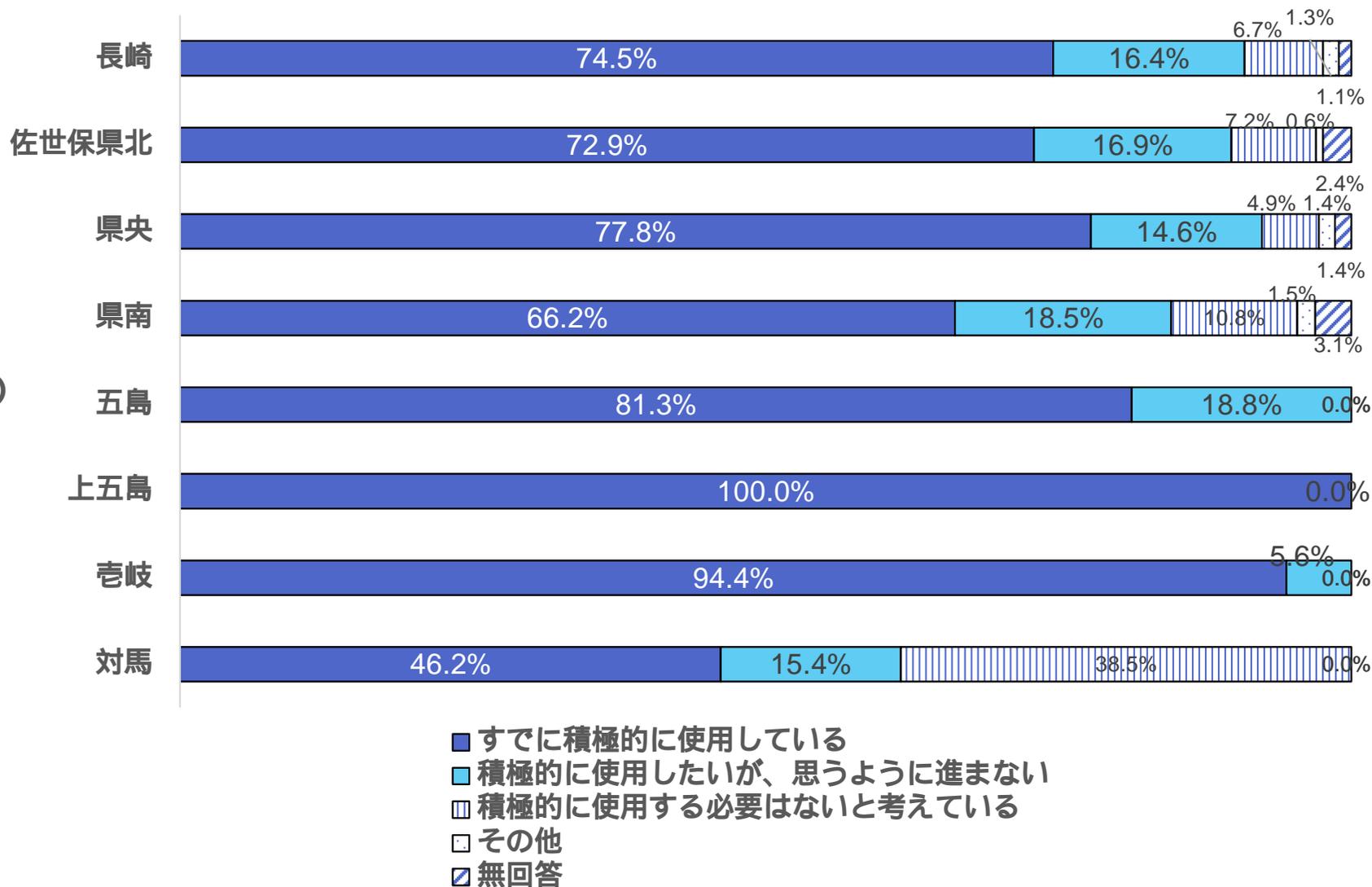
薬局



- すでに積極的に使用している
- 積極的に使用したいが、思うように進まない
- ▨積極的に使用する必要はないと考えている
- その他
- ▤無回答

- 「積極的に採用もしくは使用したいと考えているが、思うように進まない」と「積極的に使用する必要はないと考えている」と回答した割合の合計について、本土地区では県南地区が29.3%で最も高く、続いて佐世保県北地区が24.1%、長崎地区が23.1%であった。

全体  
（病院+診療所+  
歯科診療所+薬局）



# アンケート調査結果まとめ

- ジェネリック医薬品を「よく知っている」又は「だいたい知っている」と回答した県民の割合は全体の91.7%を占めている。(問1)
- 県民がジェネリック医薬品に知るきっかけとして、病院や診療所、薬局からの説明やテレビ・ラジオなどの割合が高く、本県ではラジオでの啓発事業を実施している。(問3)
- ジェネリック医薬品の知りたい内容としては、「安全性」、「副作用」、「効能・効果」の割合が高かった。(問4)・・・【課題1】
- ジェネリック医薬品を「すでに受けている」又は「受けない」と回答した割合は78.3%であった。(問9)
- 問9において交付を受けているジェネリック医薬品が変更されるなどの「影響があった」と回答した割合は14.6%であった。(問12)
- 問12において「影響があった」と回答した内容としては、「同一成分の別のメーカーのジェネリック医薬品に変更になった」が最も高かった。(問13)・・・【課題2】
- 問9においてジェネリック医薬品を「受けたくない」と回答した理由としては、ジェネリック医薬品の「品質に不安がある」と「副作用が心配」と回答した割合が高かった。(問14)・・・【課題3】
- 県民が医療機関や薬局でジェネリック医薬品に変更しなかった理由としては、「医師、薬剤師等から特に説明がなかった」と回答した割合が最も高かった。(問18)・・・【課題4】
- 行政の施策に対する要望については、「患者へのジェネリック医薬品に関する情報の提供」と回答した割合が最も高かった。(問23)・・・【課題5】

- 後発医薬品使用体制加算については、加算1、2を算定している施設の割合がR4から増加している。(問5)
- 外来後発医薬品使用体制加算については、加算1、2ともR4から横ばいであった。(問6)
- 院外処方せんの発行している医療機関、一般名処方を導入している医療機関の割合はともにH24から増加している。(問7、8)
- ジェネリック医薬品を使用することに不安を感じている医療機関が38.1%あり、その内容としては「ジェネリック医薬品の供給体制の問題」と回答した割合が最も高かった。(問11、12)・・・【課題6】
- ジェネリック医薬品を積極的に採用もしくは使用したいと考えているが、思うように進まない理由としてはその他で「供給不安定」と回答した割合が最も高かった。(問14)・・・【課題7】
- ジェネリック医薬品の採用品目割合は、R4と比較すると減少している。(問16)・・・【課題8】
- 採用している後発医薬品の納入状況は「令和5年5月」「現在(令和6年5月時点)」でどちらも「納品が滞り、調剤業務に影響があった」と回答した割合が高かった。(問17)・・・【課題9】

- 医療機関がジェネリック医薬品を選ぶ際に重視している事項は「安定供給の保障」と回答した割合が最も高かった。(問19)・・・【課題10】
- 医療機関がジェネリック医薬品を選ぶ際に、本県のHPの主要医療機関のジェネリック医薬品採用品目リスト( 1)及び国の「後発医薬品品質確保対策事業」検査結果報告書( 2)を参考にしているかという問に対し、「掲載していることを知らない」と回答した割合が高かった( 1:25.0%、2:25.0%)。(問20、21)・・・【課題11】
- 本県が定期的に行っている研修会の希望する内容について「地域フォーミュラに関すること」、「安全性に関すること」と回答した割合が最も高かった。(問36)・・・【課題12】
- 行政の施策に対する要望については、「ジェネリック医薬品を安定的に市場へ供給できる体制づくり」と回答した割合が最も高かった。(問37)・・・【課題13】

- 後発医薬品使用体制加算、外来後発医薬品使用体制加算ともに、加算1、加算2の算定している施設の割合がR4から減少している。(問5、6)・・・【課題14】
- 院外処方せんを発行している医療機関、一般名処方を導入している医療機関の割合はともにH24から増加している。(問7、8)
- ジェネリック医薬品を使用することに不安を感じている医療機関が29.3%あり、その内容としては「ジェネリック医薬品の供給体制の問題」及び「ジェネリック医薬品の品質の問題」と回答した割合が最も高かった。(問11、12)・・・【課題15】
- ジェネリック医薬品を積極的に採用もしくは使用したいと考えているが、思うように進まない理由としては、その他「先発品を強く希望する患者さんがいる」「患者さんがジェネリックを希望しないことが多い」と回答した割合が最も高かった。(問14)・・・【課題16】
- ジェネリック医薬品を積極的に使用する必要はないと思う理由として、ジェネリック医薬品の「安全性」、「品質」、「効果」と回答した割合が高かった。(問15)・・・【課題17】
- ジェネリック医薬品の採用品目割合はH20から増加しているが、R4年度と比較すると減少している。(問16)・・・【課題18】

- 採用している後発医薬品の納入状況について「令和5年5月」では「納品が滞り、調剤業務に影響があった」と回答した割合が高く、「現在（令和6年5月時点）」は「希望した発注数通りではないが、調剤業務に影響が出ない範囲で納入された」の割合が高かった。（問17）…【課題19】
- 医療機関がジェネリック医薬品を選ぶ際に重視している事項は「安定供給の保障」と回答した割合が最も高かった。（問19）…【課題20】
- 医療機関がジェネリック医薬品を選ぶ際に、本県のHPの主要医療機関のジェネリック医薬品採用品目リスト（ 1）及び国の「後発医薬品品質確保対策事業」検査結果報告書（ 2）を参考に行っているかという問に対し、「掲載していることを知らない」と回答した割合が高かった（ 1：42.8%、2：42.8%）。（問20、21）…【課題21】
- 本県が定期的に行っている研修会の希望する内容について「安全性に関すること」、「品質に関すること」と回答した割合が高かった。（問36）…【課題22】
- 行政の施策に対する要望については、「ジェネリック医薬品を安定的に市場へ供給できる体制づくり」「品質の高いジェネリック医薬品とするためのメーカーへの指導」と回答した割合が高かった。（問37）…【課題23】

- ジェネリック医薬品を使用することに不安を感じている医療機関が11.0%あり、その内容としては「ジェネリック医薬品の安全性の問題」と回答した割合が最も高かった。(問11)・・・【課題24】
- ジェネリック医薬品を積極的に採用もしくは使用したいと考えているが、思うように進まない理由としては「ジェネリック医薬品の採用方法がわからない」、その他「薬が手に入らない」と回答した割合が最も高かった。(問14)・・・【課題25】
- ジェネリック医薬品を積極的に使用する必要はないと思う理由として、ジェネリック医薬品の「安全性」、「効果」と回答した割合が高かった。(問15)・・・【課題26】
- ジェネリック医薬品の採用品目割合(全体)はR2から減少している。(問16)・・・【課題27】
- 採用している後発医薬品の納入状況について「令和5年5月」では、「発注できない場合があった」が最も多く、「現在(令和6年5月時点)」は「希望した発注数通りではないが、調剤業務に影響が出ない範囲で納入された」の割合が高かった。(問17)・・・【課題28】
- 医療機関がジェネリック医薬品を選ぶ際に重視している事項は、「適応症」、「安定性、生物学的同等性、添加物等のデータが揃っている」、「取引のある医薬品卸で取り扱いがあること」と回答した割合が高かった。(問19)・・・【課題29】

- 医療機関がジェネリック医薬品を選ぶ際に、本県のHP主要医療機関のジェネリック医薬品採用品目リスト( 1)及び国の「後発医薬品品質確保対策事業」検査結果報告書( 2)を参考にしているかという問に対し、「掲載していることを知らない」と回答した割合が高かった( 1:56.0%、2:50.0%)。(問20、21)・・・【課題30】
- 本県が定期的に行っている研修会の希望する内容について「安全性に関すること」、「効果に関すること」と回答した割合が高かった。(問36)・・・【課題31】
- 行政の施策に対する要望については、「品質の高いジェネリック医薬品とするためのメーカーへの指導」、「ジェネリック医薬品を安定的に市場へ供給できる体制づくり」と回答した割合が高かった。(問37)・・・【課題32】

- 後発医薬品調剤体制加算について、R4と比べて加算3を加算している施設の割合が増加している。(問2)
- ジェネリック医薬品の採用品目割合はH20から増加している。(問3)
- 薬局がジェネリック医薬品を選ぶ際に重視している事項は「安定供給の保障」と回答した割合が最も高かった。(問9)・・・【課題33】
- 薬局がジェネリック医薬品を選ぶ際に、本県のHPの主要医療機関のジェネリック医薬品採用品目リスト( 1)及び国の「後発医薬品品質確保対策事業」検査結果報告書( 2)を参考にしているかという問に対し、「掲載していることを知らない」と回答した割合が高かった( 1:26.7%、2:23.5%)。(問10、11)・・・【課題34】
- 薬局でジェネリック医薬品に変更されなかった患者様の理由として、「普段から使い慣れている薬の方が良いから」と回答した割合が最も高かった。(問12)・・・【課題35】
- ジェネリック医薬品に切り替えて、使用感が良くなった、コンプライアンスが向上したという事例が多くあった。(問16)

- 採用している後発医薬品の納入状況について「令和5年5月」、「現在(令和6年5月時点)」のどちらでも「納品が滞り、調剤業務に影響がある」と回答した割合が高かった。(問19)・・・【課題36】
- ジェネリック医薬品を積極的に採用もしくは使用したいと考えているが、思うように進まない理由としては「ジェネリック医薬品の安定供給に不満がある」と回答した割合が最も高かった。(問21、22)・・・【課題37】
- 本県が定期的開催している研修会の希望する内容について「品質に関すること」、「地域フォーミュラに関すること」と回答した割合が高かった。(問30)・・・【課題38】
- 行政の施策に対する要望については、「ジェネリック医薬品を安定的に市場へ供給できる体制づくり」と回答した割合が最も高かった。(問31)・・・【課題39】

- 県民がジェネリック医薬品について「よく知っている」又は「だいたい知っている」と回答した割合は、本土地区では85%を超えている。
- ジェネリック医薬品を使用することについて不安感があると回答した医療機関（病院、診療所、歯科診療所、薬局）の割合は、県南地区が最も高く、続いて県央地区、佐世保県北地区が高かった。  
【課題40】
- 「積極的に採用もしくは使用したいと考えているが、思うように進まない」と「積極的に使用する必要はないと考えている」と回答した医療機関（病院、診療所、歯科診療所、薬局）の割合は、本土地区では県南地区が最も高く、続いて佐世保県北地区、長崎地区が高かった。【課題41】

# 課題に対する対応（案）

---

## 県 民

### 【課題1、3、16、35】

- ・県民のジェネリック医薬品の知りたい内容として、回答割合が高かったものは、ジェネリック医薬品の「安全性」「効能・効果」「副作用」であった。
- ・ジェネリック医薬品を受けたくない理由として回答割合が高かったものは「品質」「副作用」であった。
- ・また、薬局においてジェネリックに変更されなかった患者さんの理由として、「普段から使い慣れている薬の方が良いから」との回答割合が高かった。
- ・さらに、診療所においては「先発品を強く希望する患者さんがいる」「患者さんがジェネリックを希望しないことが多い」との回答があった。
- ・以上のことから、ジェネリック医薬品の「品質」「安全性」「副作用」「効能・効果」について重点的に啓発活動を行う。

### 【課題2】

- ・交付を受けているジェネリック医薬品について影響があった内容として、「同一成分の別のメーカーのジェネリック医薬品に変更になった」とする回答割合が高く、安定供給の影響がみられるため、交付時の県民への医療機関、薬局の情報提供への協力を求めていく。

# 課題に対する対応（案）

---

## 行 政

### 【課題5】

- ・県民が行政の施策に対する要望について、「患者へのジェネリック医薬品に関する情報の提供」の回答割合が高かったことから、引き続き、県民を対象として啓発活動を実施していく。

### 【課題11、21、30、34】

- ・本県のHPの主要医療機関のジェネリック医薬品採用品目リスト及び国の「後発医薬品品質確保対策事業」検査結果報告書について、「掲載していることを知らない」の回答割合が高かったことから、令和7年度以降もHPで周知を図る必要がある。

### 【課題12、22、31、38】

- ・本県が定期的開催している研修会の希望する内容について「品質に関すること」、「安全性に関すること」、「効果に関すること」、「地域フォーミュラリに関すること」の回答割合が高かった。令和7年度以降の研修内容として検討する。

# 課題に対する対応（案）

---

## 医療機関、薬局

### 【課題4】

- ・県民が医療機関や薬局でジェネリック医薬品に変更しなかった理由として、「医師、薬剤師等から特に説明がなかった」の回答割合が高かったことから、引き続き、医療機関や薬局からの積極的な情報提供について協力を求めていく。

### 【課題16、25、41】

- ・ジェネリック医薬品を積極的に採用（使用）したいが思うように進まない理由として、診療所においては「先発品を強く希望する患者さんがいる」「患者さんがジェネリックを希望しないことが多い」との回答割合が高く、歯科診療所では「ジェネリック医薬品の採用方法がわからない」が高かった。これらについては、ジェネリック医薬品の使用率向上対策（医療機関等への訪問）の場を活用し、課題解決のための対策について協議を行っていく。
- ・「積極的に採用もしくは使用したいと考えているが、思うように進まない」と「積極的に使用する必要はないと考えている」の回答割合が高かった県南地区、佐世保県北地区、長崎地区を重点的に実施する。

### 【課題17、24、26】

- ・診療所や歯科診療所が、ジェネリック医薬品を使用することに不安を抱えている内容や積極的に使用する必要はないと思う理由として回答割合の高かった、ジェネリック医薬品の「安全性」「効果」「品質」の問題については、重点的に啓発活動を行う。

# 課題に対する対応（案）

## 医療機関、薬局

【課題6、7、8、9、10、13、14、15、18、19、20、23、27、28、29、32、33、36、37、39】

- ・病院、薬局において、令和6年5月時点でも、採用しているジェネリック医薬品の納入が滞り、調剤業務に影響があったと回答している。
- ・また、病院や診療所、薬局がジェネリック医薬品を使用することで不安に感じている内容として「ジェネリック医薬品の供給体制の問題」の回答割合が高く、ジェネリック医薬品を選ぶ際に重視している事項や行政への施策に対する要望等においても、ジェネリック医薬品の安定供給に関する要望が多くあった。
- ・病院、診療所、歯科診療所では、ジェネリック医薬品の採用品目割合がR4年度と比較すると減少しており、また診療所においては加算施設の割合も減少しており、供給不安定が影響していると考えられる。
- ・さらに、歯科診療所においては、ジェネリック医薬品を選ぶ際に重視している事項として「安定性、生物学的同等性、添加物等のデータが揃っている」の回答割合が高かった。
- ・これらのことについて、引き続き、厚生労働省と連携し製造販売業者に対し安定供給体制及びジェネリック医薬品に関する情報提供体制の構築を求めていく。

【課題23、32】

- ・行政の施策に対する要望について、診療所及び歯科診療所で回答割合が高かった「品質の高いジェネリック医薬品とするためのメーカーへの指導」については、引き続き、厚生労働省と連携し指導していく。

【課題40】

- ・ジェネリック医薬品を使用することについて不安感が「ある」と回答した割合が高かった県南地区、県央地区、佐世保県北地区については、医療従事者向けの啓発活動を強化する。